

塚田村東Ⅳ遺跡
塚田中原遺跡(Ⅰ区)
引間松葉遺跡(Ⅲ区)

一般県道足門前橋線バイパス(西毛広域幹線道路)
建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

2005

群馬県高崎土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

塚田村東Ⅳ遺跡
塚田中原遺跡(Ⅰ区)
引間松葉遺跡(Ⅲ区)

一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路）
建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

2005

群馬県高崎土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



環田村東N遺跡 奈良・平安時代面南部全景 南から



1. 塚田中原遺跡 0区16号溝跡出土 奈良三彩



2. 塚田中原遺跡 0区40号住居跡出土 緑釉陶器



3. 塚田中原遺跡 0区26号住居跡出土 鉄製錘



4. 引間松葉遺跡Ⅲ区17号土坑出土 饒益神寶

序

群馬県は、増大する交通量に対応するため、各地で道路の整備を進めています。その計画の中心として幹線道路整備があります。その一環として、前橋市から富岡市を結ぶ西毛広域幹線道路の建設が計画されました。この建設に伴う発掘調査は平成11年から5年かけて実施され、整理事業は平成12年より行われております。その調査報告書としては、当事業団調査報告書第323集『元総社西川・塚田中原遺跡』が既に刊行されており、本報告が2冊目となります。

本報告に掲載される塚田村東Ⅳ遺跡、塚田中原遺跡Ⅰ区、引間松葉遺跡Ⅲ区の発掘調査は、この西毛広域幹線道路建設や関連する事業の事前調査として平成15年4月から同年10月にかけて実施されたものです。

これら3遺跡周辺には、上野国分僧寺や尼寺、山王廃寺などの著名な古代寺院跡や、推定上野国府の跡等があり、古代群馬の中心地であったことが知られています。発掘調査では、古代の住居跡をはじめとして、中世や近世、近代に至るまでの様々な資料を得ることができました。これらの成果は、古代群馬の歴史を考える上ではもちろん、古代から現在に至る、この地域の様々な変遷をたどる上で、貴重な資料の一つになるでしょう。

最後になりますが、群馬県県土整備局高崎土木事務所・群馬県教育委員会文化課・群馬町教育委員会、そして地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜りましたことに、心から感謝の意を表します。また、調査と整理にあたった各関係者の労をねぎらい、序といたします。

平成17年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 小野宇三郎

例 言

1. 本書は、平成15年度に一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路）建設工事に伴い発掘調査し、平成16年度に一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路）建設工事に伴う整理委託契約に基づき実施した「塚田村東Ⅳ遺跡」、「塚田中原遺跡」、「引間松葉遺跡」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。塚田村東Ⅳ遺跡の名称は、群馬町教育委員会による村東地区の調査で、「塚田村東Ⅲ遺跡」まで設定されているため、今回の調査では、4番目である「塚田村東Ⅳ遺跡」の名称が設定された。なお、塚田中原遺跡はⅠ・Ⅱ・Ⅲ区に分かれるが、本報告では現道（足門前橋線）拡幅部であるⅠ区の報告を行う。また、引間松葉遺跡はⅠ・Ⅱ・Ⅲ区に分かれるが、本報告では現道（足門前橋線）拡幅部であるⅢ区の報告を行う。
2. 本書に所収の遺跡名と発掘調査地の所在地は、以下の通りである。

遺跡名 所在地

塚田村東Ⅳ遺跡	群馬県群馬郡群馬町大字塚田字村東60-1・2・3・4、148-4
塚田中原遺跡Ⅰ区	群馬県群馬郡群馬町大字塚田字中原218-1、218-4、223-2、228-2、229-4・5、232-1・4・5
	群馬県群馬郡群馬町大字引間字松葉31-1・2※
	字中原228-1、229-2、232-2・6・7、236-1・4は調査期間中の試掘により、残存状態が悪く遺構が検出できなかったため、本調査を実施していない。
引間松葉遺跡Ⅲ区	群馬県群馬郡群馬町大字引間字松葉33-1、33-6、34-3、34-4、48-1

※塚田中原遺跡Ⅰ区の18号遺跡は、塚田中原遺跡Ⅰ区と引間松葉遺跡Ⅲ区の境にあるが、現在では字引間に位置することを記しておく。

3. 発掘調査及び整理事業は、群馬県教育委員会が調整し、群馬県土木部（県土整備局）と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託契約を締結し、実施した。
4. 調査履行期間 平成15年4月1日～平成15年10月31日
5. 調査組織

事務担当

理事長	小野宇三郎	常務理事	住谷永市	事業局長	神保佑史
管理部長	萩原利通	調査研究部長	右島和夫		
総務課長	植原恒夫	調査研究部第1課長	中東耕志		
調査研究係長	國定 均	総務課係長	高橋房雄、竹内 宏		
総務課主幹	須田朋子、吉田有光				
総務課主任	阿久澤玄洋	総務課主事	田中賢一		
総務課補助員	今井もと子、内山佳子、若田 誠、佐藤美佐子、木間久美子、北原かおり、狩野真子、松下次男、吉田 茂				

調査担当 菊池 実（専門員）、石原良人（専門員、現 伊勢崎市立第三中学校教諭）
渡會未央、小林 正（調査研究員）

6. 整理履行期間 平成16年4月1日～平成17年3月31日

7. 整理組織

事務担当

理事長	小野宇三郎	常務理事	住谷永市	事業局長	神保佑史
管理部長	矢嶋俊夫	調査研究部長	右島和夫		
総務課長	丸岡道雄	資料整理課長	相京建史		
調査研究係長	國定 均	総務課係長	高橋房雄、竹内 宏		
総務課主幹	須田朋子、吉田有光				
総務課主任	佐藤聖行、阿久澤玄洋、栗原幸代				
総務課補助員	今井もと子、内山佳子、若田 誠、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、松下次男、吉田 茂				
整理担当	菊池 実、榑崎修一郎、小林 正				
整理補助員	高橋裕美、戸神晴美、光安文子、吉澤照恵、石岡富美代、土田三代子、大塚とし子、萩原鈴代、阿部幸恵、松岡陽子、立川千栄子、田中富子、千代谷和子、茂木範子、矢野純子、渡辺八千代、南雲繁子				

8. 本書作成担当

編 集	小林 正				
執筆分担	第1章1. 発掘調査に至る経緯	齋藤英敏（群馬県教育委員会文化課）			
	第5章2. 旧陸軍前橋飛行場に関わる遺構と遺物について			菊池 実	
付 編	1. 塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡0区出土人骨			榑崎修一郎	
	2. 塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡0区・引間松葉遺跡Ⅲ区出土獣骨			榑崎修一郎	
	その他			小林 正	
遺物観察	縄文土器：山口逸弘 灰釉・緑釉陶器：神谷佳明 陶磁器・瓦：大江正行 鉄滓：穴澤義功氏（たたら研究会） ガラス製品：菊池 実				
石材鑑定	飯島静男氏（群馬地質研究会）				
鉄器処理	関 邦一、土橋まり子、小村浩一				
トレース	技研測量設計株式会社				
遺構写真撮影	菊池 実、石原良人、渡會未央、小林 正				
遺物写真撮影	佐藤元彦				
機械実測	富沢スミ江、伊東博子、岸 弘子、廣津真希子				

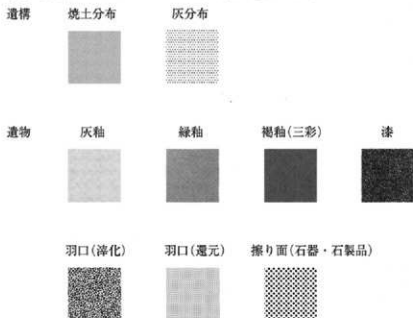
9. 本遺跡の記録図・記録写真・出土遺物は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が管理し、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。

10. 発掘調査及び本書作成にあたり、下記の関係機関・関係諸氏にご助言・ご指導・ご協力を得た。記して感謝の意を表したい。（敬称略）

新井重明、内田真澄、大塚京子、大塚美恵子、小川卓也、佐々木茂美、清水 豊、田辺芳昭、笛木広美、水谷貴之、村上章義、山下歳信、山田琴子、依田賢仁、若狭 徹、群馬県県土整備局、群馬町教育委員会、群馬県教育委員会文化課、地元関係者各位、財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団の諸氏

凡 例

1. 挿図縮尺は図版に記載した。概要は以下の通りである。ただし、他の縮尺を用いる場合もある。
遺構 住居跡1/60、井戸跡・土坑・ピット1/40、溝跡・畠跡1/100、付図（全体図）1/200
遺物 土器・瓦1/3、金属器1/2、石器1/3、石鏃・銭貨1/1
2. 本書における遺構図の北は、座標上の北である。座標系は、国家座標第Ⅸ系（旧測地系）である。
3. 遺構図版中にある+印とそれに記されるアルファベットと数字の組み合わせは、国家座標に基づいて、5 m毎に設定した方眼杭の名称である。そこで使われているアルファベットは国家座標のY値を、数字はX値を置き換えたものである。遺構の位置は、方眼杭の範囲で表している。
4. 遺構断面実測図及び等高線に記した数値はL = mで表示し、標高値を示す。
5. 遺構番号は調査時に設定したものをそのまま使用したため、欠番がある。塚田中原遺跡0区の遺構番号は、本線部分の調査（Ⅰ～Ⅲ区）に続けて設定したため、住居跡は25から、竪穴状遺構は2から、土坑は89から、ピットは103から、溝跡は8から始まっている。塚田村東Ⅳ遺跡・引間松葉遺跡Ⅲ区はすべて1から始まっている。
6. 住居跡の床面積は、1/20図上で、デジタルプランメーターにより住居跡の壁の内側を3回計測し、その平均値である。
7. 遺構の方位は、長軸の方位を記載した。住居跡で長軸が不明な場合は、残存状態の良い壁を選び、その方位を記載した。
8. 住居跡以外の遺構の計測では、1/20か1/40図上で計測を行った。畠跡のサク間はサク溝の中央同士の距離を測っている。
9. 本書で使用したスクリーントーンは、下記の通りである。



10. テフラの名称は次の略称で表した。

As-A・・・・浅間A降下軽石層；浅間山噴出、1783(天明3)年降下

As-B・・・浅間B降下軽石層：浅間山噴出、1108（天仁元）年降下

As-C・・・浅間C降下軽石層：浅間山噴出、4世紀初頭降下（3世紀に遡る可能性もある）

Hr-FA・・・榛名ニッ岳渋川テフラ（ニッ岳火山灰）：榛名山噴出、6世紀初頭降下

テフラの名称は、以下の文献を参考にして、表記した。

参考文献：石川正之助ほか編 1979『月刊 考古学ジャーナル』No157 特集・火山堆積物と遺跡1

群馬県史編さん委員会 1990『群馬県史』通史編1 原始古代1 群馬県

新井房夫編 1993『火山灰考古学』古今書院

かみつけの里博物館 1998『第二回特別展 人が動く・土器も動く』

11. 遺物番号は、原則として遺構ごとに登録した。しかし一部の土坑やピット、溝跡などでは、複数の遺構の遺物をまとめて番号付けした。遺物番号は、本文、挿図、観察表、写真図版と同一である。
12. 土器の実測図は原則として四分制法をとった。残存量が1/2以下の遺物は180°展開して図上復元とし、中心線は破線で示した。
13. 鉄滓については、穴澤義功氏による、磁石（強力磁石 TAJIMA PUP-M、標準磁石）と金属探知器（MR-50B [L型・特L型]）を使用した測定と肉眼観察による分類を行った。
 - (1) 磁着度
鉄関連遺物分類用の「標準磁石」を用いて、資料との反応の程度を数値化したものである。数値が大きいかほど、磁石との反応が強い。
 - (2) メタル度
金属探知器により金属の量を測定し、反応の度合いに応じて分類したものである。なし、錆化（△）、H（○）、M（◎）、L（●）、特L（☆）の順で金属量が多いことを示す。
14. 土器・瓦の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修、新版標準土色帖（1996年）によった。

目 次

口絵	
序	
例言	
凡例	
目次 (本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次)	
第1章 序章	
1 発掘調査に至る経緯 (齋藤英敏)	1
2 発掘調査の経過と方法	1
(1) 発掘調査の経過	1
(2) 調査区の設定	3
3 基本土層	3
4 遺跡の立地と歴史的環境	5
(1) 地理的環境	5
(2) 歴史的環境	7
第2章 塚田村東Ⅳ遺跡の調査	13
1 塚田村東Ⅳ遺跡の概要	15
2 塚田村東Ⅳ遺跡の遺構と遺物	15
3 塚田村東Ⅳ遺跡のまとめ	99
第3章 塚田中原遺跡Ⅰ区の調査	105
1 塚田中原遺跡Ⅰ区の概要	107
2 塚田中原遺跡Ⅰ区の遺構と遺物	107
3 塚田中原遺跡Ⅰ区のまとめ	189
第4章 引間松葉遺跡Ⅲ区の調査	193
1 引間松葉遺跡Ⅲ区の概要	195
2 引間松葉遺跡Ⅲ区の遺構と遺物	195
3 引間松葉遺跡Ⅲ区のまとめ	287
第5章 調査の成果	291
1 集落の変遷	293
2 旧陸軍前橋飛行場に関わる遺構と遺物について (菊池 実)	297
3 総括	299
付編 自然科学分析	301
1 塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡Ⅰ区出土人骨 (榑崎修一郎)	303
2 塚田村東Ⅳ遺跡・塚田中原遺跡Ⅰ区・引間松葉遺跡Ⅲ区出土獣骨 (榑崎修一郎)	320

挿図目次

第 1 図 遺跡位置図	・・・ 2	第 44 図 28・30・32・36・38・39号土坑	・・・ 55
第 2 図 調査区図	・・・ 4	第 45 図 37号土坑、出土遺物	・・・ 56
第 3 図 周辺地質図	・・・ 6	第 46 図 40・43・48号土坑	・・・ 57
第 4 図 周辺遺跡分布図	・・・ 9	第 47 図 46号土坑出土遺物	・・・ 57
		第 48 図 46・68～72号土坑	・・・ 58
塚田村東Ⅳ遺跡		第 49 図 73～83号土坑	・・・ 59
第 5 図 塚田村東Ⅳ遺跡位置図	・・・ 14	第 50 図 84号土坑	・・・ 60
第 6 図 縄文時代出土遺物	・・・ 15	第 51 図 84号土坑出土遺物	・・・ 61
第 7 図 18号畚跡	・・・ 16	第 52 図 92号土坑、出土遺物	・・・ 62
第 8 図 1号住居跡	・・・ 17	第 53 図 87・93～95号土坑、32・87号土坑出土遺物	・・・ 63
第 9 図 1号住居跡カマド、出土遺物 (1)	・・・ 18	第 54 図 6～17号ピット	・・・ 64
第 10 図 1号住居跡出土遺物 (2)	・・・ 19	第 55 図 21～35号ピット	・・・ 65
第 11 図 2号住居跡	・・・ 21	第 56 図 36～47・67～69号ピット	・・・ 66
第 12 図 2号住居跡出土遺物	・・・ 22	第 57 図 4・6号溝跡	・・・ 67
第 13 図 3号住居跡、出土遺物	・・・ 23	第 58 図 4・6号溝跡出土遺物 (1)	・・・ 68
第 14 図 4号住居跡	・・・ 24	第 59 図 4・6号溝跡出土遺物 (2)	・・・ 69
第 15 図 4号住居跡掘り方、出土遺物	・・・ 25	第 60 図 17号畚跡、出土遺物	・・・ 71
第 16 図 5号住居跡	・・・ 26	第 61 図 4～10号土坑	・・・ 72
第 17 図 5号住居跡出土遺物	・・・ 27	第 62 図 3号土坑 (1)	・・・ 73
第 18 図 6号住居跡	・・・ 27	第 63 図 3号土坑 (2)、出土遺物 (1)	・・・ 74
第 19 図 6号住居跡掘り方、出土遺物	・・・ 28	第 64 図 3号土坑出土遺物 (2)	・・・ 75
第 20 図 7号住居跡	・・・ 29	第 65 図 16・17号土坑	・・・ 76
第 21 図 8号住居跡	・・・ 30	第 66 図 12～15号土坑、14・15号土坑出土遺物	・・・ 75
第 22 図 8号住居跡カマド、出土遺物 (1)	・・・ 31	第 67 図 50～59・61・62・67号土坑	・・・ 77
第 23 図 8号住居跡出土遺物 (2)	・・・ 32	第 68 図 85・86号土坑	・・・ 78
第 24 図 9号住居跡	・・・ 34	第 69 図 1・2号ピット	・・・ 78
第 25 図 9号住居跡出土遺物	・・・ 35	第 70 図 3～5・52・54・57・58・60号ピット	・・・ 79
第 26 図 10号住居跡	・・・ 37	第 71 図 1・2号溝跡	・・・ 79
第 27 図 10号住居跡出土遺物	・・・ 38	第 72 図 3・5号溝跡	・・・ 80
第 28 図 11号住居跡	・・・ 38	第 73 図 2号畚跡	・・・ 80
第 29 図 11号住居跡掘り方、出土遺物	・・・ 39	第 74 図 1・5号畚跡	・・・ 81
第 30 図 12号住居跡	・・・ 40	第 75 図 3・4・6・7号畚跡	・・・ 82
第 31 図 12号住居跡掘り方、出土遺物	・・・ 41	第 76 図 8・10～14号畚跡	・・・ 83
第 32 図 13号住居跡	・・・ 42	第 77 図 16号畚跡、中世畚跡出土遺物	・・・ 84
第 33 図 13号住居跡掘り方、カマド、出土遺物 (1)	・・・ 43	第 78 図 2・20号土坑	・・・ 85
第 34 図 13号住居跡出土遺物 (2)	・・・ 44	第 79 図 19・31号土坑	・・・ 86
第 35 図 13号住居跡出土遺物 (3)	・・・ 45	第 80 図 45号土坑、2号土坑出土遺物	・・・ 87
第 36 図 13号住居跡出土遺物 (4)	・・・ 46	第 81 図 19号土坑出土遺物	・・・ 88
第 37 図 13号住居跡出土遺物 (5)	・・・ 47	第 82 図 20号土坑出土遺物 (1)	・・・ 88
第 38 図 14号住居跡	・・・ 49	第 83 図 20号土坑出土遺物 (2)	・・・ 89
第 39 図 14号住居跡出土遺物	・・・ 50	第 84 図 31号土坑出土遺物	・・・ 90
第 40 図 15号住居跡、出土遺物 (1)	・・・ 51	第 85 図 45号土坑出土遺物 (1)	・・・ 91
第 41 図 15号住居跡出土遺物 (2)	・・・ 52	第 86 図 45号土坑出土遺物 (2)	・・・ 92
第 42 図 1号竪穴状遺構、出土遺物	・・・ 53	第 87 図 11号土坑	・・・ 93
第 43 図 23～27号土坑	・・・ 54	第 88 図 49・60・63～66号土坑	・・・ 94

第89回	近世以降土坑出土遺物	・・・	95
第90回	48・51・53・55・56・59・61～65号ピット	・・・	96
第91回	15号竈跡、出土遺物	・・・	97
第92回	9号竈跡	・・・	98
第93回	遺構外出土遺物	・・・	98

塚田中原遺跡0区

第94回	塚田中原遺跡0区位置図	・・・	106
第95回	縄文時代出土遺物	・・・	107
第96回	25号住居跡	・・・	108
第97回	25号住居跡出土遺物	・・・	109
第98回	26号住居跡、出土遺物(1)	・・・	110
第99回	26号住居跡出土遺物(2)	・・・	111
第100回	26号住居跡出土遺物(3)	・・・	112
第101回	26号住居跡出土遺物(4)	・・・	113
第102回	27号住居跡	・・・	115
第103回	27号住居跡出土遺物	・・・	116
第104回	28号住居跡、出土遺物(1)	・・・	117
第105回	28号住居跡出土遺物(2)	・・・	118
第106回	29号住居跡、出土遺物	・・・	119
第107回	31号住居跡	・・・	120
第108回	31号住居跡カマド	・・・	121
第109回	31号住居跡出土遺物(1)	・・・	122
第110回	31号住居跡出土遺物(2)	・・・	123
第111回	32号住居跡	・・・	125
第112回	32号住居跡掘り方、カマド、出土遺物(1)	・・・	126
第113回	32号住居跡出土遺物(2)	・・・	127
第114回	32号住居跡出土遺物(3)	・・・	128
第115回	32号住居跡出土遺物(4)	・・・	129
第116回	32号住居跡出土遺物(5)	・・・	130
第117回	33号住居跡、出土遺物	・・・	132
第118回	34号住居跡	・・・	133
第119回	34号住居跡出土遺物	・・・	134
第120回	35号住居跡	・・・	134
第121回	36号住居跡、出土遺物(1)	・・・	135
第122回	36号住居跡出土遺物(2)	・・・	136
第123回	37号住居跡、出土遺物	・・・	137
第124回	38号住居跡	・・・	138
第125回	38号住居跡出土遺物(1)	・・・	139
第126回	38号住居跡出土遺物(2)	・・・	140
第127回	39号住居跡、出土遺物(1)	・・・	142
第128回	39号住居跡出土遺物(2)	・・・	143
第129回	39号住居跡出土遺物(3)	・・・	144
第130回	40号住居跡	・・・	145
第131回	40号住居跡カマド、出土遺物(1)	・・・	146
第132回	40号住居跡出土遺物(2)	・・・	147
第133回	40号住居跡出土遺物(3)	・・・	148
第134回	41号住居跡、出土遺物	・・・	150

第135回	42号住居跡、出土遺物	・・・	151
第136回	43号住居跡、出土遺物	・・・	152
第137回	44号住居跡	・・・	152
第138回	2号竈穴状遺構、出土遺物(1)	・・・	153
第139回	2号竈穴状遺構出土遺物(2)	・・・	154
第140回	89・90・92～94号土坑	・・・	155
第141回	91・95・96号土坑	・・・	156
第142回	97～100・102号土坑	・・・	157
第143回	90～92・95号土坑出土遺物	・・・	158
第144回	101号土坑、出土遺物	・・・	159
第145回	104号土坑、出土遺物	・・・	160
第146回	103・105・106号土坑	・・・	160
第147回	107～118号土坑	・・・	161
第148回	119～126・128～135号土坑	・・・	162
第149回	136～144号土坑	・・・	163
第150回	145号土坑、出土遺物	・・・	164
第151回	146・147・150号土坑	・・・	165
第152回	148・149・151～159号土坑	・・・	166
第153回	160～166・168・169号土坑	・・・	167
第154回	167号土坑、118～159号土坑出土遺物	・・・	168
第155回	103～110号ピット	・・・	169
第156回	111～128号ピット	・・・	170
第157回	129～135号ピット	・・・	171
第158回	156～161号ピット、ピット出土遺物	・・・	172
第159回	8号溝跡、出土遺物	・・・	173
第160回	10号溝跡	・・・	174
第161回	9号溝跡	・・・	175
第162回	9・10号溝跡出土遺物(1)	・・・	176
第163回	9・10号溝跡出土遺物(2)	・・・	177
第164回	11・12号溝跡	・・・	178
第165回	13～15号溝跡、13・14号溝跡出土遺物(1)	・・・	179
第166回	13・14号溝跡出土遺物(2)	・・・	180
第167回	16号溝跡、出土遺物	・・・	181
第168回	17号溝跡	・・・	182
第169回	18号溝跡、出土遺物	・・・	183
第170回	1号竈跡	・・・	184
第171回	2・3号竈跡	・・・	185
第172回	4～6号竈跡	・・・	186
第173回	遺構外出土遺物(1)	・・・	186
第174回	遺構外出土遺物(2)	・・・	187
第175回	遺構外出土遺物(3)	・・・	188

引間松葉遺跡Ⅲ区

第176回	引間松葉遺跡Ⅲ区位置図	・・・	194
第177回	縄文時代出土遺物	・・・	195
第178回	1号住居跡	・・・	196
第179回	1号住居跡出土遺物	・・・	197
第180回	2号住居跡、出土遺物	・・・	198

第181回	3号住居跡	・・・	199	第225回	24号住居跡、出土遺物	・・・	247
第182回	3号住居跡出土遺物	・・・	200	第226回	25号住居跡、出土遺物(1)	・・・	248
第183回	4号住居跡、出土遺物	・・・	201	第227回	25号住居跡出土遺物(2)	・・・	249
第184回	5号住居跡	・・・	201	第228回	26号住居跡	・・・	250
第185回	5号住居跡出土遺物	・・・	202	第229回	26号住居跡出土遺物	・・・	251
第186回	6号住居跡、出土遺物	・・・	204	第230回	27号住居跡	・・・	251
第187回	7号住居跡出土遺物(1)	・・・	205	第231回	27号住居跡出土遺物	・・・	252
第188回	7号住居跡、出土遺物(2)	・・・	206	第232回	各住居跡出土遺物	・・・	253
第189回	7号住居跡出土遺物(3)	・・・	207	第233回	1～10号土坑	・・・	255
第190回	8号住居跡	・・・	208	第234回	1・2・4・9・10号土坑出土遺物	・・・	256
第191回	8号住居跡出土遺物(1)	・・・	209	第235回	11～13号土坑	・・・	256
第192回	8号住居跡出土遺物(2)	・・・	210	第236回	14～16号土坑	・・・	257
第193回	9号住居跡	・・・	213	第237回	14・15号土坑出土遺物	・・・	258
第194回	9号住居跡出土遺物(1)	・・・	214	第238回	17・18・20・21号土坑、出土遺物	・・・	260
第195回	9号住居跡出土遺物(2)	・・・	215	第239回	19号土坑、出土遺物(1)	・・・	261
第196回	10号住居跡、出土遺物	・・・	217	第240回	19号土坑出土遺物(2)	・・・	262
第197回	11号住居跡	・・・	218	第241回	22～27号土坑、22～24号土坑出土遺物	・・・	263
第198回	11号住居跡出土遺物(1)	・・・	219	第242回	25号土坑出土遺物	・・・	264
第199回	11号住居跡出土遺物(2)	・・・	220	第243回	32～36号土坑	・・・	265
第200回	12号住居跡	・・・	222	第244回	37～40・42・53号土坑	・・・	266
第201回	12号住居跡出土遺物	・・・	223	第245回	41・44・47・49・51号土坑	・・・	267
第202回	13a・b号住居跡	・・・	224	第246回	54～58・60・61号土坑	・・・	268
第203回	13a・b号住居跡出土遺物	・・・	225	第247回	64～66・68号土坑	・・・	269
第204回	14号住居跡	・・・	226	第248回	32～66号土坑出土遺物	・・・	270
第205回	14号住居跡出土遺物(1)	・・・	227	第249回	70・71号土坑	・・・	272
第206回	14号住居跡出土遺物(2)	・・・	228	第250回	72～76・79号土坑	・・・	273
第207回	15号住居跡	・・・	229	第251回	78・86・90・92・95～97号土坑	・・・	274
第208回	15号住居跡掘り方、カマド、出土遺物(1)	・・・	230	第252回	99～104・106～109号土坑	・・・	275
第209回	15号住居跡出土遺物(2)	・・・	231	第253回	70～107号土坑・各土坑出土遺物(1)	・・・	276
第210回	16号住居跡	・・・	233	第254回	70～107号土坑・各土坑出土遺物(2)	・・・	277
第211回	16号住居跡出土遺物	・・・	234	第255回	70～107号土坑・各土坑出土遺物(3)	・・・	278
第212回	17号住居跡、出土遺物	・・・	235	第256回	1号井戸跡	・・・	280
第213回	18号住居跡	・・・	236	第257回	1～4号ピット、出土遺物	・・・	281
第214回	18号住居跡出土遺物	・・・	237	第258回	1・5号溝跡、出土遺物	・・・	282
第215回	19号住居跡、出土遺物(1)	・・・	238	第259回	2～4号溝跡	・・・	283
第216回	19号住居跡出土遺物(2)	・・・	239	第260回	2～4号溝跡出土遺物(1)	・・・	284
第217回	20号住居跡	・・・	239	第261回	2～4号溝跡出土遺物(2)	・・・	285
第218回	21号住居跡、出土遺物	・・・	240	第262回	遺構外出土遺物	・・・	286
第219回	22号住居跡	・・・	241	第263回	塚田村東百道跡の集落の変遷	・・・	285
第220回	22号住居跡掘り方	・・・	242	第264回	塚田中原道跡0区・引開松雲道跡Ⅲ区の集落の変遷	・・・	286
第221回	22号住居跡カマド、出土遺物(1)	・・・	243	第265回	田除軍前機飛行場と関連遺構位置図	・・・	288
第222回	22号住居跡出土遺物(2)	・・・	244	第266回	九四式軽迫撃砲発射(参考図)	・・・	288
第223回	23号住居跡	・・・	245				
第224回	23号住居跡出土遺物	・・・	246				

表目次

第1表 主な周辺遺跡一覧表	・・・10	第7表 塚田中原遺跡0区ビット計測表	・・・191
第2表 塚田村東IV遺跡土坑計測表	・・・100	第8表 塚田中原遺跡0区溝跡計測表	・・・192
第3表 塚田村東IV遺跡ビット計測表	・・・101	第9表 塚田中原遺跡0区島跡計測表	・・・192
第4表 塚田村東IV遺跡溝跡計測表	・・・102	第10表 引間松葉遺跡Ⅲ区土坑計測表	・・・288
第5表 塚田村東IV遺跡島跡計測表	・・・102	第11表 引間松葉遺跡Ⅲ区ビット計測表	・・・289
第6表 塚田中原遺跡0区土坑計測表	・・・190	第12表 引間松葉遺跡Ⅲ区溝跡計測表	・・・289

写真図版目次

口絵(表) 塚田村東IV遺跡奈良・平安時代西南部全景 南から	4. 15号住居跡調査風景 北から
口絵(裏) 1. 塚田中原遺跡0区16号溝跡出土 奈良三彩	5. 1号壑穴状溝跡(左)・46号土坑(右) 南から
2. 塚田中原遺跡0区40号住居跡出土 緑釉陶器	6. 2(中)・19(左)・20(右)土坑 北から
3. 塚田中原遺跡0区26号住居跡出土 鉄製鏃	7. 19号土坑人骨・遺物出土状況 東から
4. 引間松葉遺跡Ⅲ区17号土坑出土 鐵器神寶	8. 20号土坑人骨出土状況 西から
	9. 3号土坑燻土状況 北から
	10. 3号土坑人骨出土近景 北から
	11. 3号土坑人骨出土状況全景 北から
	12. 3号土坑全景 北から
	P.L. 5
	1. 4号土坑 北から
	2. 5号土坑 南から
	3. 6号土坑 西から
	4. 7号土坑 西から
	5. 8号土坑 南から
	6. 9号土坑 南から
	7. 10号土坑 南から
	8. 11号土坑 北から
	9. 12~14(奥~前)・15(左)号土坑
	10. 16号土坑 南から
	11. 17号土坑 北から
	12. 23号土坑 西から
	13. 24号土坑 南から
	14. 25号土坑 南から
	15. 26号土坑 南から
	16. 27号土坑 西から
	17. 28(左)・29(右)号土坑 南から
	18. 30号土坑 南から
	P.L. 6
	1. 31号土坑人骨出土状況 東から
	2. 31号土坑人骨出土状況 東から
	3. 31号土坑人骨出土状況 南から
	4. 31号土坑 東から
	5. 33号土坑 南から
	6. 34号土坑 南から
	7. 35号土坑 南から

塚田村東IV遺跡

P.L. 1

1. 古墳~平安面北部全景 北から
2. 中世面南部全景 南から
3. 1号住居跡全景 西から
4. 1号住居跡掘り方全景 西から
5. 2号住居跡カマド 西から
6. 2号住居跡カマド掘り方 東から

P.L. 2

1. 3号住居跡全景 北から
2. 3号住居跡掘り方全景 南から
3. 4号住居跡カマド 西から
4. 5号住居跡全景 西から
5. 5号住居跡掘り方全景 西から
6. 6号住居跡カマド 西から
7. 6号住居跡カマド掘り方 西から
8. 7号住居跡全景 西から

P.L. 3

1. 8号住居跡全景 南から
2. 8号住居跡掘り方全景 南から
3. 9・10(奥~左端)号住居跡全景 南から
4. 9号住居跡カマド 西から
5. 9・10(奥~左端)号住居跡掘り方全景 南から
6. 11号住居跡全景 西から
7. 11号住居跡跡跡 南から
8. 11号住居跡掘り方全景 西から

P.L. 4

1. 12(奥)・13(前)・14(右前)号住居跡全景 南から
2. 12(左)・13(右)・14(右奥)号住居跡掘り方全景 西から
3. 15号住居跡 北から

8. 36号土坑 南から
 9. 37号土坑 西から
 10. 38号土坑 南から
 11. 39号土坑 南から
 12. 40号土坑 東から
 13. 45号土坑遺物出土状況 東から
 14. 45号土坑 東から
 15. 48号土坑 南から
 16. 49号土坑 南から
 17. 50 (右)・51 (左) 号土坑 南から
 18. 52号土坑 南から
- P.L. 7
1. 53号土坑 南から
 2. 54号土坑 南から
 3. 55号土坑 西から
 4. 56号土坑 南から
 5. 57号土坑 南から
 6. 58号土坑 南から
 7. 59号土坑 南から
 8. 60号土坑 南から
 9. 61号土坑 北から
 10. 62号土坑 北から
 11. 63号土坑 南から
 12. 64 (左)・65 (右) 号土坑 北から
 13. 66号土坑 北から
 14. 67号土坑 北から
 15. 68 (右奥)・69 (左奥)・77 (左前) 号土坑 南から
 16. 72-74・76・78号土坑 南から
 17. 79号土坑 南から
 18. 80号土坑 南から
- P.L. 8
1. 82号土坑 南から
 2. 83号土坑 南から
 3. 84号土坑上面 北から
 4. 84号土坑中面 東から
 5. 84号土坑下面 西から
 6. 85号土坑人骨出土状況 東から
 7. 86号土坑人骨出土状況 東から
 8. 85 (右)・86 (左) 号土坑 西から
 9. 87号土坑 南から
 10. 93号土坑 南から
 11. 94号土坑 南から
 12. 95号土坑 南から
 13. 1号ピット 南から
 14. 2号ピット 南から
 15. 3 (右)・4 (左) 号ピット 南から
 16. 6号ピット 南から

17. 7号ピット 南から
 18. 8号ピット 南から
 19. 9 (前)・10 (奥) 号ピット 南から
 20. 11 (前)・15 (奥) 号ピット 南から
- P.L. 9
1. 12 (右)・13 (左) 号ピット 南から
 2. 14号ピット 南から
 3. 16号ピット 北から
 4. 17号ピット 北から
 5. 21 (左)・41 (右) 号ピット 南から
 6. 22 (左)・23 (右) 号ピット 南から
 7. 24号ピット 南から
 8. 25号ピット 南から
 9. 26号ピット 南から
 10. 27 (右)・28 (左) 号ピット 西から
 11. 29号ピット 南から
 12. 30号ピット 南から
 13. 31号ピット 南から
 14. 32 (左)・33 (右) 号ピット 南から
 15. 34号ピット 西から
 16. 35号ピット 西から
 17. 36号ピット 西から
 18. 37号ピット 南から
 19. 38号ピット 南から
 20. 39号ピット 南から
 21. 40号ピット 南から
 22. 42 (前)・69 (奥) 号ピット 南から
 23. 44号ピット 南から
 24. 45 (前)・46 (奥) 号ピット 南から
- P.L. 10
1. 47号ピット 南から
 2. 50・51・54 (奥から) 号ピット 南から
 3. 52号ピット 西から
 4. 55 (右)・56 (左)・57 (前) 号ピット 南から
 5. 59号ピット 南から
 6. 61号ピット 南から
 7. 62号ピット 南から
 8. 63号ピット 北から
 9. 64号ピット 北から
 10. 65号ピット 北から
 11. 67号ピット 南から
 12. 68 (左)・69 (右) 号ピット 南から
 13. 1号溝跡 西から
 14. 2号溝跡 北から
 15. 3号溝跡 北から
 16. 4号溝跡 南西から
- P.L. 11

1. 5号溝跡 北から
 2. 6号溝跡 北から
 3. 1号畝跡 北から
 4. 2号畝跡 西から
 5. 3号畝跡 北西から
 6. 3(奥)・4(前)号畝跡 北から
 7. 5(奥)・6(前)号畝跡 北から
 8. 7(奥)・8(前)号畝跡 南から
- P.L.12
1. 9(右横)・10(右縦)・11(左縦)号畝跡 南から
 2. 12号畝跡 南から
 3. 13号畝跡 南から
 4. 14号畝跡 北から
 5. 15号畝跡 北から
 6. 16号畝跡 北から
 7. 17号畝跡 南から
 8. 18号畝跡 南から
- P.L.13
- 縄文時代の遺物、1号住居跡出土遺物
- P.L.14
- 2～6号住居跡出土遺物
- P.L.15
- 6・8・9号住居跡出土遺物
- P.L.16
- 9～13号住居跡出土遺物
- P.L.17
- 13号住居跡出土遺物
- P.L.18
- 13号住居跡出土遺物
- P.L.19
- 13～15号住居跡出土遺物
- P.L.20
- 15号住居跡・1号型穴状遺構・奈良・平安時代の土坑出土遺物
- P.L.21
- 奈良・平安時代の土坑・溝跡・畝跡出土遺物
- P.L.22
- 中世の遺構出土遺物
- P.L.23
- 近世の遺構出土遺物
- P.L.24
- 近世の遺構出土遺物
- P.L.25
- 近世の遺構出土遺物
- P.L.26
- 近世の遺構・近世以降の遺構・遺構外出土遺物
- 塚田中原遺跡0区
- P.L.27

1. 0-1区東側全景 南東から
 2. 0-1区西側全景 西から
 3. 0-2区全景 東から
- P.L.28
1. 0-3区全景 西から
 2. 0-5区東側As-B混下全景 西から
 3. 0-5区西側全景 東から
 4. 0-5区東側全景 西から
 5. 0-6区全景 東から
- P.L.29
1. 25号住居跡全景 西から
 2. 25号住居跡掘り方全景 西から
 3. 26(中)・29(右)号住居跡全景 西から
 4. 26号住居跡遺物出土状況 西から
 5. 26(中)・29(右)号住居跡掘り方全景 西から
 6. 27号住居跡全景 西から
 7. 27号住居跡掘り方全景 西から
 8. 28号住居跡東側 西から
- P.L.30
1. 28号住居跡西側 西から
 2. 31(右奥)・33(左奥)・34(左前)・35(右前)号住居跡全景 西から
 3. 31・33・34・35・44(中やや左)号住居跡掘り方全景 西から
 4. 32号住居跡全景 西から
 5. 32号住居跡掘り方全景 西から
 6. 36(奥)・37(前)号住居跡全景 西から
 7. 36(奥)・37(前)号住居跡掘り方全景 西から
 8. 38(右)・42(左)・43(奥)号住居跡全景 西から
- P.L.31
1. 38(右)・42(左)・43(奥)号住居跡掘り方全景 西から
 2. 38号住居跡貯蔵穴 西から
 3. 39号住居跡全景 西から
 4. 39号住居跡遺物出土状況 西から
 5. 39号住居跡掘り方全景 西から
 6. 40・41号住居跡全景 西から
 7. 40号住居跡緑釉陶器(Na14)出土状況(奥) 西から
 8. 40・41号住居跡掘り方全景 西から
- P.L.32
1. 89(右)・90(左)号土坑 南から
 2. 91号土坑 東から
 3. 92号土坑 南から
 4. 93(左)・94(右)号土坑 西から
 5. 95(中)・96(中下)・97(右外)号土坑 西から
 6. 98(前)・99(奥)・100(右)号土坑 西から
 7. 101号土坑 南から
 8. 102号土坑 北から
 9. 103号土坑 西から
 10. 104号土坑 西から

11. 104号土坑人骨出土状況 北から
12. 105 (右)・106 (左) 号土坑 南から
13. 107 (奥)・108 (中)・109 (左) 号土坑 南から
14. 110号土坑 北から
15. 111号土坑 西から
16. 112号土坑 北から
17. 113号土坑 北から
18. 114号土坑 北から

P L. 33

1. 115号土坑 西から
2. 116号土坑 南から
3. 117号土坑 西から
4. 120号土坑 南から
5. 122号土坑 南から
6. 125号土坑 南から
7. 126号土坑 南から
8. 128号土坑 北から
9. 129 (右)・130 (左) 号土坑 西から
10. 131 (右)・132 (左) 号土坑 北から
11. 134号土坑 北から
12. 135 (右奥)・136 (前)・137 (左奥) 号土坑 西から
13. 右から138・139・140号土坑 西から
14. 143号土坑 西から
15. 144号土坑 北から
16. 145 (右)・146 (左) 号土坑 西から
17. 147号土坑 東から
18. 148号土坑 東から

P L. 34

1. 149号土坑 北から
2. 150号土坑 西から
3. 151号土坑 南から
4. 152 (右)・164 (左) 号土坑 南から
5. 153号土坑 南から
6. 154号土坑 東南から
7. 155 (左)・156 (右) 号土坑 南から
8. 157 (前)・158 (奥) 号土坑 北東から
9. 159号土坑 東から
10. 160 (中)・161 (奥)・162 (前) 号土坑 南から
11. 163号土坑 西から
12. 165号土坑 東から
13. 163号ビット 東から
14. 104号ビット 東から
15. 105号ビット 東から
16. 106 (右)・107 (左) 号ビット 東から
17. 108号ビット 東から
18. 109号ビット 東から
19. 110号ビット 東から
20. 111号ビット 南から

P L. 35

1. 112 (右)・113 (左) 号ビット 南から
2. 前から114・115・116号ビット 西から
3. 117号ビット 北から
4. 118号ビット 西から
5. 119号ビット 北から
6. 120号ビット 北から
7. 121 (左)・122 (奥)・125 (右) 号ビット 北から
8. 126 (左前)・127 (右奥) 号ビット 西から
9. 128号ビット 北から
10. 129 (左)・130 (右) 号ビット 北から
11. 132号ビット 北から
12. 133 (左)・134 (右) 号ビット 西から
13. 135 (奥)・136 (前) 号ビット 北から
14. 137 (左)・138 (右) 号ビット 西から
15. 139号ビット 西から
16. 140号ビット 西から
17. 142 (前)・143 (奥) 号ビット 南から
18. 144 (前)・145 (右)・146 (左) 号ビット 南から
19. 147 (前)・148 (奥) 号ビット 南から
20. 150 (左)・151 (右) 号ビット 西から
21. 152号ビット 北から
22. 153 (前)・154 (奥) 号ビット 北から
23. 155号ビット 北から
24. 156号ビット 東から

P L. 36

1. 9号溝跡 東から
2. 9 (右)・10 (左) 号溝跡 東から
3. 11号溝跡 東から
4. 12号溝跡 南から
5. 13号溝跡 北から
6. 14号溝跡 南から
7. 15号溝跡 東から
8. 16号溝跡奈良三彩 (No. 7) 出土状況 南から

P L. 37

1. 17号溝跡 北から
2. 18号溝跡 南から
3. 18号溝跡 北から
4. 1号晶跡 西から
5. 5号晶跡 西から
6. 6号晶跡 東から
7. 0-1区西側調査風景 西から
8. 25号住居跡調査風景 西から

P L. 38

縄文時代の遺物・25・26号住居跡出土遺物

P L. 39

26号住居跡出土遺物

P L. 40

26～28号住居跡出土遺物

P.L.41

28・29・31号住居跡出土遺物

P.L.42

31・32号住居跡出土遺物

P.L.43

32号住居跡出土遺物

P.L.44

32号住居跡出土遺物

P.L.45

32～34・36～38号住居跡出土遺物

P.L.46

38・39号住居跡出土遺物

P.L.47

39・40号住居跡出土遺物

P.L.48

40・41号住居跡出土遺物

P.L.49

40～43号住居跡・2号竪穴状遺構出土遺物

P.L.50

土坑出土の遺物

P.L.51

土坑・ビット・漆跡出土遺物

P.L.52

溝跡出土遺物

P.L.53

溝跡・遺構外出土遺物

引間松葉遺跡Ⅲ区

P.L.54

1. Ⅲ-1区全景 西から

2. Ⅲ-2区東側全景 西から

3. Ⅲ-2区西側全景 西から

4. Ⅲ-3区全景 西から

P.L.55

1. 1号住居跡全景 西から

2. 2号住居跡全景 西から

3. 2号住居跡掘り方全景 西から

4. 3・4・10・11号住居跡全景 西から

5. 3・4・10・11号住居跡掘り方全景 西から

6. 5・6・7号住居跡全景 東から

7. 8・9・17号住居跡全景 西から

8. 12・13a b・16号住居跡全景 西から

P.L.56

1. 14号住居跡全景 西から

2. 14号住居跡掘り方全景 西から

3. 15号住居跡全景 西から

4. 15号住居跡掘り方全景 西から

5. 18 (中)・19 (右)・20 (左) 号住居跡全景 西から

6. 21号住居跡全景 西から

7. 22 (前)・23 (中)・24 (中右) 号住居跡全景 西から

8. 23号住居跡カマド出土遺物 西から

P.L.57

1. 25号住居跡全景 西から

2. 26号住居跡全景 西から

3. 26号住居跡掘り方全景 西から

4. 27号住居跡全景 西から

5. 1 (中)・2 (左) 号土坑 東から

6. 3 (奥)・5 (前) 号土坑 西から

7. 4号土坑 南から

8. 6 (左)・7 (右) 号土坑 西から

9. 8号土坑 北から

10. 9 (中)・10 (左) 号土坑 北から

11. 11号土坑 西から

12. 12号土坑 西から

13. 13号土坑 南から

P.L.58

1. 14 (左)・15 (中)・16 (右奥) 号土坑 西から

2. 18号土坑 北から

3. 19 (左)・21 (右) 号土坑 西から

4. 19 (中)・60 (前) 号土坑 南から

5. 19号土坑遺物出土状況 西から

6. 20 (右)・26 (中)・27 (左) 号土坑 南から

7. 22 (前)・23 (左奥) 号土坑 西から

8. 24号土坑 西から

9. 24 (前)・25 (右奥) 号土坑 南から

10. 32号土坑 北から

11. 33号土坑 北から

12. 34号土坑 南から

13. 37 (奥)・38 (前) 号土坑 北から

14. 39号土坑 北から

15. 40 (右奥)・41 (前) 号土坑 南から

16. 43 (中)・44 (前) 号土坑 北から

17. 45 (奥)・47 (前) 号土坑 南から

18. 46号土坑 南から

P.L.59

1. 48号土坑 南から

2. 49号土坑 南から

3. 51号土坑 西から

4. 54 (左奥)・55 (前)・56 (右奥) 号土坑 北から

5. 57 (左)・58 (右) 号土坑 西から

6. 61号土坑 北から

7. 64号土坑 西から

8. 65号土坑 西から

9. 71・72・90・96号土坑 北から

10. 78 (右)・79 (左) 号土坑 東から

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 11. 92号土坑 東から | P L . 66 |
| 12. 95号土坑 北から | 9～11号住居跡出土遺物 |
| 13. 100号土坑 西から | P L . 67 |
| 14. 101号土坑 西から | 11～13号住居跡出土遺物 |
| 15. 106号土坑 西から | P L . 68 |
| 16. 107号土坑 西から | 13・14号住居跡出土遺物 |
| 17. 108号土坑 西から | P L . 69 |
| 18. 109号土坑 西から | 14～16号住居跡出土遺物 |
| P L . 60 | P L . 70 |
| 1. 1号溝跡北部全景 南から | 16～19号住居跡出土遺物 |
| 2. 1号溝跡南部全景 北から | P L . 71 |
| 3. 2～4号溝跡全景 南から | 21～23・25号住居跡出土遺物 |
| 4. 5号溝跡全景 北から | P L . 72 |
| 5. 出土迫撃砲砲弾 | 24～27号住居跡・各住居跡出土遺物 |
| 6. 出土迫撃砲砲弾調査状況 | P L . 73 |
| 7. 出土迫撃砲砲弾処理状況 | 27号住居跡・各住居跡・土坑出土遺物 |
| 8. 出土したものと同形の九四式軽迫撃砲砲弾 | P L . 74 |
| P L . 61 | 土坑出土遺物 |
| 縄文時代の遺物。1～5号住居跡出土遺物 | P L . 75 |
| P L . 62 | 土坑出土遺物 |
| 3・5～7号住居跡出土遺物 | P L . 76 |
| P L . 63 | 土坑出土遺物 |
| 6～8号住居跡出土遺物 | P L . 77 |
| P L . 64 | 土坑・ビット・溝跡出土遺物 |
| 8号住居跡出土遺物 | P L . 78 |
| P L . 65 | 溝跡・遺構外出土遺物 |
| 8・9号住居跡出土遺物 | |

第1章 序章

1. 発掘調査に至る経緯

事業地は、群馬町大字棟高・引間・塚田地内にある。一般県道足門前橋線は、前橋・高崎県央地域の一部であるとともに、前橋市と群馬町を連絡する幹線道路である。本事業地である群馬町は、前橋・高崎のベッドタウンとして人口増加が著しく、路線も朝夕の交通渋滞が慢性化しているため、一般県道足門前橋線（西毛広域幹線道路）国分寺工区として、バイパスを整備することとなった。

高崎土木事務所からの依頼により、県教育委員会文化財保護課が、平成11年度及び平成13年度に、工事前の試掘調査を実施した。その結果、堅穴住居跡・溝跡などの遺構、及び土師器・須恵器などの遺物が確認され、遺構密度に濃淡の差はあるが、ほぼ全域から遺構・遺物が確認されたため、全面調査が必要となった。この試掘結果を受けて、高崎土木事務所と文化財保護課（平成14年度から文化課）とで発掘調査についての調整を行い、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、平成12～15年度まで行われ、奈良・平安時代の堅穴住居跡をはじめ、多くの遺構・遺物が調査された。また、平成15年10月から整理作業を実施している。（齋藤英敏）

2. 発掘調査の経過と方法

(1) 発掘調査の経過

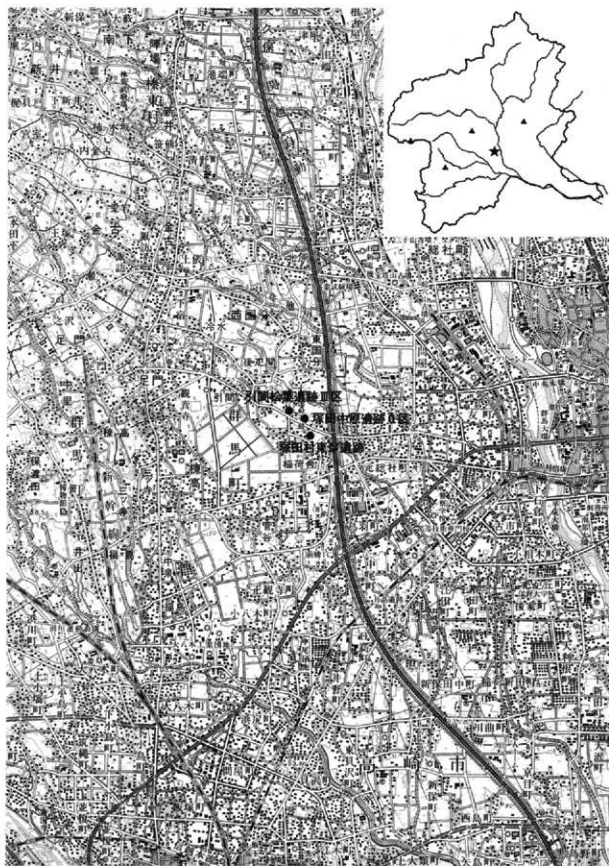
塚田村東IV遺跡・塚田中原遺跡0区は、群馬郡群馬町大字塚田に、引間松葉遺跡Ⅲ区は、同町大字引間に所在する。発掘調査は、一般県道足門前橋線バイパス（西毛広域幹線道路）建設に伴う事前調査として、平成15年4月14日に開始した。これらの遺跡は一連のものであり、群馬町では周辺を国府南部遺跡群として調査を行っている。

塚田中原遺跡0区と引間松葉遺跡Ⅲ区は、現県道足門前橋線の拡幅工事に伴う発掘調査であるが、調査前の試掘で、削平等によって遺構の存在が確認できなかった地点については、調査対象地より除外された。また、塚田村東IV遺跡は町道105号線の建設に伴う調査である。

調査日誌抄録

平成15年

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 04/11 | 高崎土木事務所・文化課との打ち合わせ |
| 04/14 | 塚田村東IV遺跡の試掘調査 |
| 04/21 | 塚田村東IV遺跡（南側）の重機による表土掘削開始 |
| 05/29 | 塚田村東IV遺跡（北側）の重機による表土掘削開始 |
| 06/24 | 塚田中原遺跡0区を高崎土木事務所、文化課立会の元、試掘調査 |
| 06/26 | 塚田中原遺跡0-1区の重機による表土掘削開始 |
| 07/03 | 塚田村東IV遺跡の調査終了 |
| 07/11 | 塚田中原遺跡0-1区の調査終了 |
| 07/12 | 塚田中原遺跡0-2区の重機による表土掘削開始 |
| 07/17 | 塚田中原遺跡0-3区の重機による表土掘削開始 |
| 07/22 | 塚田中原遺跡0-4区の重機による表土掘削開始 |
| | 塚田中原遺跡0-2区の調査終了 |
| 07/24 | 引間松葉遺跡Ⅲ-2区の重機による表土掘削開始 |
| | 塚田中原遺跡0-4区の調査終了 |
| 08/06 | 塚田中原遺跡0-3区の調査終了 |
| 08/08 | 塚田中原遺跡0-2区の調査終了 |
| 08/18 | 塚田中原遺跡0-5区の重機による表土掘削開始 |
| 08/19 | 引間松葉遺跡Ⅲ-1区の重機による表土掘削開始 |
| 09/19 | 引間松葉遺跡Ⅲ-1・2区の調査終了 |



第1図 遺跡位置図 (国土地理院1:50,000「前橋」・「高崎」使用)

2. 発掘調査の経過と方法

- 10/01 引間松葉遺跡Ⅲ-2区の埋め戻し作業中に、旧日本軍の迫撃砲砲弾が出土
引間松葉遺跡Ⅲ-3区の重機による表土掘削開始
- 10/02 塚田中原遺跡0-5区の調査終了
- 10/06 塚田中原遺跡0-6区の重機による表土掘削開始
- 10/10 引間松葉遺跡Ⅲ-3区の調査終了
- 10/24 塚田中原遺跡0-6区の調査終了
- 10/29 器材、プレハブ等の撤去

(2) 調査区の設定

塚田中原遺跡0区や引間松葉遺跡Ⅲ区は、現道の拡幅工事に伴う調査であり、人家前の道路沿いのため、細長く、小区画に分割して設定することとなった。これは、現有道路や水道管、人家への出入り口などを残す必要があったためである。なお、塚田村東Ⅳ遺跡は一部が離れて存在するだけであったため、調査に際しては、調査区の設定は行っていない。

塚田中原遺跡は、既に本線部分の調査においてⅠ区～Ⅲ区までが設定されていたため、0区とし、現有道路等によって0-1区、0-2区、0-3区、0-4区、0-5区、0-6区と細分して設定した。

引間松葉遺跡も、既に本線部分の調査においてⅠ区とⅡ区が設定されていたため、現道拡幅部をⅢ区とし、現有道路によってⅢ-1区、Ⅲ-2区、Ⅲ-3区と細分して設定した。

3. 基本土層

塚田村東Ⅳ遺跡、塚田中原遺跡0区、引間松葉遺跡Ⅲ区は共に、榛名山東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地の先端近くに立地する。榛名山の影響を大きく受けているのはもちろん、浅間山噴出物の堆積も見られる土層である。層序は3遺跡ではほぼ共通であるが、塚田村東Ⅳ遺跡では、削平が少なかったためか、遺存状態がもっとも良い。

最上層は現耕作土で、圃場整備などで動かされている(Ⅰ)。その下には、As-Bが混じる粘質土があり、塚田村東Ⅳ遺跡の近世以降の面はこの層上で確認している(Ⅱ)。次にAs-Bが多く混じる層があり(Ⅲ)、その下のAs-Cがわずかに混じる暗褐色の層上で中世面を確認している(Ⅳ)。次にHr-FAとAs-Cを含む黒褐色ないし暗褐色の層があり、この層上で奈良・平安・古墳時代の面を確認している(Ⅴ)。最後のV層は3遺跡とも確認できる。しかし、塚田中原遺跡0区では、Ⅳ層は一部のみしか確認できず、引間松葉遺跡Ⅲ区では、Ⅴ層より上は残っていなかった。V層の下は、As-Cを含まない二次堆積のローム層が存在する(Ⅵ)。V層までが失われていた、塚田中原遺跡0-1区では、この面で遺構を確認している。

また、塚田村東Ⅳ遺跡では、遺跡中部でAs-B層(Ⅴ)と、その直下で暗褐色の耕作土(Ⅵ)を確認することができた。

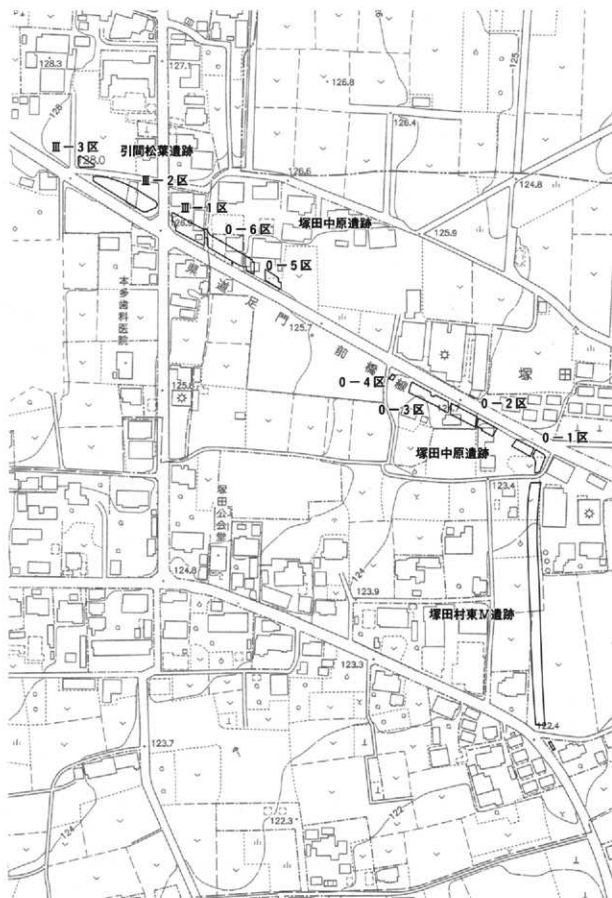
Ⅰ	Ⅰ層：暗褐色土。表土であり、
Ⅱ	現耕作土。As-A含。細かい砂粒からなる。締まり弱
Ⅲ	・粘性なし
Ⅳ	
	Ⅱ層：暗褐色土。粘質土でAs-B
Ⅴ	含。締まり・粘性中 近現代・近世面
Ⅵ	
	Ⅲ層：暗灰褐色土。As-B多含。締まり弱・粘性なし
Ⅶ	
	Ⅳ層：暗褐色土。粘質土でAs-C少含。締まり・粘性中

V層：As-Bの層

Ⅵ層：暗褐色土。As-B直下の畚の耕作土。締まり・粘性弱

Ⅶ層：黒褐色・暗褐色土。粘質土でAs-C含。締まり・粘性中 奈良・平安・古墳時代面

Ⅷ層：暗灰褐色土。粘質土で二次堆積ローム層。締まり中。粘性強。



第2図 調査区域図 (群馬都市計画区域図より作成) 1/2,500

4. 遺跡の地理的・歴史的環境

(1) 地理的環境

遺跡の立地

塚田村東Ⅳ遺跡は群馬郡群馬町大字塚田字村東に所在し、塚田中原遺跡Ⅰ区は、同町大字塚田字中原に、引間松葉遺跡Ⅲ区は同町大字引間字松葉に所在する。

本3遺跡が所在する大字塚田や引間は、前橋市の中心部から約4km西に位置する。塚田中原遺跡Ⅰ区と引間松葉遺跡Ⅲ区が隣接する一般県道前橋足門線は、南東から北西に通る。また、300～500m東には関越自動車道が南北に通る。本3遺跡の北には、染谷川を挟んで国史跡上野国分僧寺跡がある。遺跡地からは榛名山や赤城山、妙義山の上毛三山などを見渡せる。本3遺跡の標高は122～125mである。

地理的環境

本遺跡地は、榛名山の東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地の東端部近くにあり、傾斜は緩く前橋台地へと移り変わっていく場所に立地する。本3遺跡でも、もっとも北西に位置する引間松葉遺跡Ⅲ区の標高が一番高く、塚田村東Ⅳ遺跡の南端が最も低いが、その差は少なく、平坦に近い。

相馬ヶ原扇状地は、榛名山南東麓の水沢と白川との間に広がる。その分布は、標高600m付近を扇頂として、標高110m付近にまで達している。これは行政区域でいえば、北は渋川市南部からはじまり、北群馬郡榑東村、吉岡町、群馬郡箕郷町北東部、そして群馬町にまで至る。扇状地を構成する堆積物は、層厚40m以上の相馬ヶ原扇状地礫層からなるとされ(森山 1971)、これは榛名山の活動に伴う噴出物及び山体崩壊によると考えられている。

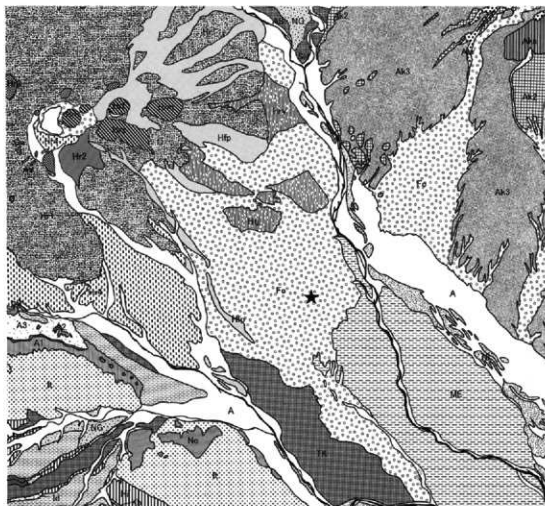
榛名山は那須火山帯の最南端にあたる第四期複合成層火山で、海拔1449m(榑ヶ岳)ある。現在では基底の直径約22kmに達する円形の大規模火山であるが、その形成は5期に分類される(大島 1986)。第1期は主成層火山体の形成期、第2期は主成層火

山体の爆発的崩壊・再構築期、第3期は鉋噴火期、第四期は火砕流噴出・カルデラ形成期、第5期は溶岩円頂丘期となっている。特に相馬ヶ原扇状地に関わりあるものとして、第4期の火砕流噴出による堆積物と山体崩壊に伴う堆積物があり、第5期では、陣馬岩層なだれによる堆積と、その上の総社砂層(早田 1990)が挙げられる。これらによる相馬ヶ原扇状地の形成は、約1.7万年前に始まり、縄文時代前期の約5千年前まで続いた。陣馬岩層なだれによる堆積の上層には、浅間板鼻黄色軽石が堆積しており、その年代から約1.4万年前には、扇状地の大部分が形成されていたことになる。一方、新しい堆積物である総社砂層は、前橋台地から相馬ヶ原扇状地にかけて広く分布し、浅間総社軽石層より上位に位置することから、約1万年前以降に始まったと考えられている。そして、その上位には縄文時代前期以降の遺跡が分布している。そのことから、総社砂層の堆積が終了した年代は、まだ確実ではないが、約5千年前と考えられている。

本3遺跡に隣接する元総社西川・塚田中原遺跡では、総社砂層の上位からAs-Knらしきテフラ、As-C、Hr-FA、As-B、As-Aが検出されている。

参考文献

- 大島 治 1986 「榛名山」『日本の地質』3関東地方 共立出版
 鬼形芳夫 2001 「原始古代の群馬町」『群馬町誌』通史編上 群馬町史編纂委員会
 群馬県地質図作成委員会 1999 『群馬県10万分の1地質図解説書』内外地図株式会社
 早田 勉 1990 『群馬県の自然と風土』『群馬県史』通史編1 原始古代1 群馬県史編さん委員会
 森山昭雄 1971 「榛名山東・南麓の地形—とくに軽石流の地形について—」『地理学報告』36・37合併号
 矢口裕之・新井雅之 1996 「Ⅱ-2. 地理的環境」『元総社寺田遺跡Ⅲ《本編》—一般河川牛池川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集—』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



第3図 周辺地質図 (群馬県10万分の1地質図 1999 より作成) 1/200,000

(2) 歴史的環境

地理的環境において触れたように、本3遺跡地は、相馬ヶ原扇状地上に立地している。その扇状地の堆積が終了し、安定したのが約5千年前とされる。そのため、周辺で遺跡が見られるようになるのは縄文時代前期後半以降であり、それ以前の遺跡は確認できていない。

ここでは時代毎に略述し、周辺の土地利用の変遷を概観したい。

縄文時代

縄文時代前期後半から、遺跡が見られるようになる。しかし前期では、遺構を伴う遺跡は限られている。上野国分僧寺・尼寺中間地域では諸磯C式期の竪穴住居跡が1軒あるのみである。集落なども含めて、遺跡の増加が見られるのは、中期の加曾利E式期である。上野国分僧寺・尼寺中間地域で竪穴住居や土坑が多数確認されているほか、北原遺跡、産業道路東遺跡などで遺構が確認されている。後期になると遺跡はやや減少するようである。産業道路西遺跡で遺構が確認されているほか、上野国分僧寺・尼寺中間地域・西国分Ⅱ遺跡・諏訪西遺跡などで遺物が出土している。晩期では、鳥羽遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域で遺構と遺物が確認されている。

本3遺跡や元総社西川・塚田中原遺跡などでも前期から後期に属する遺物が出土しているが、遺構は確認できていない。

弥生時代

当該期の遺構や遺物の数は少ない。前期末に属する遺物が西三社免遺跡で出土している。中期では、上野国分僧寺・尼寺中間地域や北原遺跡で遺物が出土している。遺構が確認できるようになるのは、後期以降である。上野国分僧寺・尼寺中間地域や下東西遺跡で、集落が確認されている。本3遺跡では、弥生時代に属する遺物や遺構は検出されていないが、元総社西川遺跡では弥生時代末から古墳時代初頭に

かけてに位置付けられる土坑や竪穴住居跡が確認されている。

古墳時代

古墳時代になると周辺地域における遺跡の数が増加してくる。本3遺跡の北東には、遠見山古墳、王山古墳、総社二子山古墳、愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳などからなる総社古墳群があり、やや離れた南西には井出二子山古墳、八幡塚古墳、薬師塚古墳などからなる保渡田古墳群がある。しかし、本遺跡地近辺には大型の古墳はなく、集落が広がっている。弥生時代後期から集落が営まれている上野国分僧寺・尼寺中間地域では、断絶はあるが、前期から集落が確認されている。他に鳥羽遺跡、西三社免遺跡、小池遺跡、元総社西川遺跡、塚田中原遺跡、稲荷塚東遺跡などでも竪穴住居跡など前期の集落が確認できている。

中期になると、三ツ寺遺跡周辺で遺跡の密度が急速に高まる。しかし、本3遺跡周辺では、そのような極端な変化はない。鳥羽遺跡、西三社免遺跡、小池遺跡、後正間遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、稲荷塚東遺跡などで中期の集落が営まれている。また、北谷遺跡では、三ツ寺I遺跡にあるような豪族居館が確認された。

後期も引き続き各所で集落が営まれている。本3遺跡地において、継続的に土地利用がなされるようになるのが、この時期からである。鳥羽遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、後正間遺跡、小池遺跡、西国分遺跡、諏訪西遺跡、冷水村東遺跡、元総社西川遺跡などで集落など遺構が確認できる。また、元総社西川・塚田中原遺跡では、Hr-FA下の畠跡が確認されている。今回の調査でも塚田村東IV遺跡や塚田中原遺跡0区において、同様の畠跡が検出できしており、この周辺に後期の畠が広がっていたことがわかる。また、引間松葉遺跡Ⅲ区では、6～7世紀代の竪穴住居跡が1軒検出できた。遺跡地は後期集落の中心からは外れているが、この時期から本格的な開発が始まったのだろう。

奈良・平安時代

周辺では古墳時代に引き続き、集落などの遺跡が増加するようになる。

特に前橋市元総社町に置かれたと考えられる国府や群馬町から前橋市にかけての地域に置かれた国分僧寺・尼寺により、このあたりは上野国の中心地として栄えるようになっていく。前橋市西部から群馬町東部にかけての地域で、官衙や寺院と何らかの関係を持つ集落が濃い密度で分布している。上野国分僧寺・尼寺中間地域や鳥羽遺跡、国分境遺跡、北原遺跡などを代表として、周辺はほぼ集落で埋め尽くされているといっても過言ではない。本3遺跡や近隣の元総社西川・塚田中原遺跡でもこの時代が遺跡の中心である。しかし、これらの集落は11世紀までで、それ以降は不明瞭となっていく。堅穴住居が造られなくなることや、土器類の減少がその原因である。西国分I遺跡や本報告の塚田村東IV遺跡のようにAs-Bが良好に残存しているところでは、水田や畠跡が検出されており、少なくとも、12世紀初頭に於いても生活が営まれていたことは確認できる。

中世

鎌倉時代に属する遺構や遺物は明らかではない。しかし、時代は下るが室町時代でも土坑墓や大溝など遺構が確認できることから、古代に引き続き土地利用が続けられていたことが推測できる。国分境III遺跡、西国分六ヶ割遺跡、元総社西川・塚田中原遺跡などで、中世に属する遺構や遺物が確認されている。古代から続く重要地域であったためか、城跡も多い。15世紀に上野国守護代長尾氏が、国衙内に蒼海城を築くが、その他にも金尾城跡など、周辺にはいくつかの城跡が確認されている。上野国衙に関する遺構がきちんと確認できないのは、蒼海城を築いたことによる破壊が、その理由として考えられている。

その後、16世紀に入るとしだいに長野氏が勢力を伸ばすようになる。上野国分僧寺・尼寺中間地域や鳥羽遺跡では、長尾・長野両氏に関する遺構が確認

されている。しかし、この時代になると、北条、武田、上杉といった有力戦国大名が上野国を奪い合うようになる。長野氏は武田信玄によって滅ぼされ、その後、武田氏は織田信長によって滅ぼされるなど、戦国時代の上野国は政治的に不安定な状態が続いた。

本3遺跡では、戦国時代の様相を表すような資料は出土していない。しかしながら、土坑墓や溝跡など、時期の特定は困難であるが、中世に属すると考えられる遺構が多数検出されている。

近世以降

徳川家康が北条氏滅亡後に関東に入ると安定した状態となった。江戸幕府が開かれると、譜代大名や旗本領などとなり、天狗岩用水の開削や、新田開発が行われた。

この時代も文献資料はあっても、遺跡は多くない。上野国分僧寺・尼寺中間地域では寺院跡と推定される溝・土坑墓が、元総社西川遺跡では大溝が、小池遺跡では土坑墓が確認されるなどしている。本報告の塚田村東IV遺跡でも、畠跡や土坑墓が検出されるなど、郊外の土地利用の一端が伺える。

昭和になると、大字棟高に飛行場が建設される。詳細は該当報告書において触れられる予定であるが、本報告の塚田村東IV遺跡においても関連する遺構が検出されている。

参考文献

- 『群馬県史』通史編1 原古代1 1990 群馬県史編さん委員会
- 『群馬町誌』通史編上 2001 群馬町史編纂委員会
- 『前橋市史』1・2 1971・1973 前橋市史編さん委員会 1971
- 笠澤泰史 2001『元総社西川遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



第4図 周辺遺跡分布図(国土地理院1:25,000「前橋」使用)

表1 主な周辺道跡一覧表

No.	道跡名	主な時代	主な文献
1	塚田村東百道跡	古墳～近現代	本報告
2	塚田中原道跡0区	古墳～中世	本報告
3	引開松葉道跡群区	古墳～近現代	本報告
4	塚田中原道跡	平安～近現代	次報告
5	引開松葉道跡Ⅰ・Ⅱ区、塚田の場道跡	平安～中・近世	次報告
6	引開六石道跡	奈良・平安～中・近世	次報告
7	棟高止久保道跡	弥生～近現代	次報告
8	東久保道跡	古墳～近現代	次報告
9	塚田中原道跡	古墳～近世	『固有南部道跡群Ⅰ・Ⅱ』群馬町教育委員会 2000
10	引開松葉・塚田の場道跡	古墳～近世	『固有南部道跡群Ⅰ・Ⅱ』群馬町教育委員会 2000
11	塚田村東道跡	平安	『塚田村東道跡調査概報』群馬町教育委員会 1986
12	塚田村東百道跡	奈良・平安	『固有南部道跡群Ⅳ』群馬町教育委員会 2002
13	元総社西川・塚田中原道跡	古墳～中世	『元総社西川・塚田中原道跡』泉隈文事業団 2003
14	元総社西川道跡	古墳～中世	『元総社西川道跡』泉隈文事業団 2001
15	上野国分寺参道道跡	古墳～平安	『上野国分寺参道道跡』前橋市埋文調査団 1997
16	引開字石堂	縄文	『群馬町誌』資料編1 群馬町誌編纂委員会 1998
17	上野国分寺	奈良～	『史跡上野国分寺跡発掘調査報告書』群馬県教育委員会 1980ほか
18	上野国分寺二寺中間地域	奈良・平安	『上野国分寺跡・上野国分寺二寺中間地域』群馬町教育委員会、県教委 1993
19	引開字花園、三社免	縄文	『群馬町誌』資料編1 群馬町誌編纂委員会 1998
20	引開字花園	縄文	『群馬町誌』資料編1 群馬町誌編纂委員会 1998
21	後正間字屋敷跡・引開字古屋敷	縄文	『群馬町誌』資料編1 群馬町誌編纂委員会 1998
22	後正間道跡	古墳～平安	『後正間道跡(Ⅰ)～(Ⅲ)』群馬町教育委員会 1986～1988
23	引開古屋敷Ⅱ道跡	平安	『町内道跡Ⅴ』群馬町教育委員会 2003
24	西国分字薬師廻り・東国分字元屋敷	縄文	県古帳2502
25	国分境Ⅲ道跡	古墳～平安・中世	『国分境Ⅲ道跡』群馬町教育委員会 1993
26	西国分Ⅰ道跡	縄文・弥生・古墳～中世	『西国分Ⅰ道跡』群馬町教育委員会 1989
27	西国分Ⅱ道跡	縄文・弥生・古墳～中世	『西国分Ⅱ道跡』群馬町教育委員会 1990
28	北谷道跡	古墳	『平成13年度調査道跡発表会』泉隈文事業団 2001
29	引開城址	中世	『群馬町誌』資料編1 群馬町誌編纂委員会 1998
30	冷水村東Ⅱ道跡・北谷道跡	古墳	『町内道跡Ⅳ』群馬町教育委員会 2001
31	西国分六ッ割道跡	古墳後～中世	『西国分六ッ割道跡』群馬町教育委員会 1997
32	北原字下屋敷・ボツタイ	縄文・古墳	『群馬町誌』資料編1 群馬町誌編纂委員会 1998
33	西国分字内原	縄文	『群馬町誌』資料編1 群馬町誌編纂委員会 1998
34	熊野谷道跡	縄文・平安	『熊野谷道跡』前橋市埋文文化財発掘調査団 1989
35	柳原道跡	奈良・平安	『清里南部道跡群Ⅲ』前橋市教育委員会 1981
36	松ノ木道跡	平安・近世	『清里南部道跡群Ⅳ』前橋市教育委員会 1981
37	下東清水上道跡	縄文～中・近世	『下東清水上道跡』群馬町教育委員会 1998
38	青髪子磐跡	中世	山崎 一『群馬県古城址の研究』上巻 群馬県文化事業振興会 1971
39	中嶋道跡	奈良・平安・中世	『中嶋道跡発掘調査概報』前橋市教育委員会 1980
40	薬師前道跡	縄文・奈良～近世	『高田道跡群・西大塚道跡・清里南部道跡群』前橋市教育委員会 1980
41	冷水字牛池道跡	縄文	『群馬町誌』資料編1 群馬町誌編纂委員会 1998
42	冷水村東道跡	古墳～中世	『冷水村東道跡・西国分新田道跡・金古十三町道跡』泉隈文事業団 1998
43	北夜保窪古墳	古墳後	『群馬県道跡古帳』(西毛編) 群馬県教育委員会 1972
44	源路西道跡	古墳～平安・近世	『諏訪西道跡』群馬町教育委員会 1995
45	棟高北夜保窪b号古墳	古墳	『町内道跡Ⅰ』群馬町教育委員会 1993 『町内道跡Ⅱ』群馬町教育委員会 2000
46	棟高北夜保窪c号古墳	古墳	『町内道跡Ⅰ』群馬町教育委員会 1993
47	棟高南夜保窪Ⅱ道跡	古墳～平安	『町内道跡Ⅴ』群馬町教育委員会 2003

4. 遺跡の地理的・歴史的環境

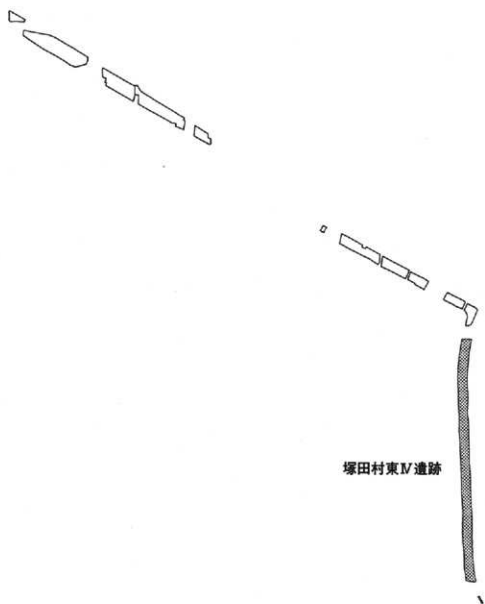
48	小池遺跡	古墳～平安・近世	〔小池遺跡〕群馬町教育委員会 1992
49	榑高辻ノ内Ⅱ遺跡	古墳	〔町内遺跡Ⅱ〕群馬町教育委員会 2001
50	榑高辻ノ内Ⅲ遺跡	古墳～平安	〔町内遺跡Ⅲ〕群馬町教育委員会 2003
51	榑高平石遺跡	古墳	〔町内遺跡Ⅰ〕群馬町教育委員会 1994
52	榑高南八幡街道遺跡	古墳～平安か	〔町内遺跡Ⅳ〕群馬町教育委員会 2000
53	榑高南八幡街道Ⅱ遺跡	古墳～平安か	〔町内遺跡Ⅴ〕群馬町教育委員会 2000
54	榑高台東金尾城遺跡	平安	〔町内遺跡Ⅵ〕群馬町教育委員会 2000
55	榑高字村北	縄文	〔群馬町誌〕資料編1 群馬町誌編纂委員会 1998
56	塚田村前Ⅱ遺跡	縄文・奈良・平安・中・近世	〔国府南部遺跡群Ⅴ〕群馬町教育委員会 2003
57	塚田村前遺跡	縄文・奈良・平安・中・近世	〔国府南部遺跡群Ⅴ〕群馬町教育委員会 2003 〔国府南部遺跡群Ⅳ〕群馬町教育委員会 2002
58	塚田村東Ⅱ・榑高台村北遺跡	縄文・奈良・平安・中・近世	〔国府南部遺跡群Ⅴ〕群馬町教育委員会 2001
59	榑高台村南遺跡	縄文・奈良・平安・中・近世	〔国府南部遺跡群Ⅴ〕群馬町教育委員会 2001
60	西三社免遺跡	古墳中～平安	〔西三社免遺跡〕群馬町教育委員会 1990
61	三ツ寺字南八幡街道	縄文	〔群馬県遺跡台帳〕(西毛編)群馬県教育委員会 1972
62	榑高字東弥三郎街道	縄文	〔群馬町誌〕資料編1 群馬町誌編纂委員会 1998
63	菅谷城跡	中世	山崎 一「群馬県古城址の研究」下巻 群馬県文化事業振興会 1972 〔群馬町誌〕資料編1 群馬町誌編纂委員会 1998
64	中泉中筋遺跡	古代	〔中泉中筋遺跡〕群馬町埋文調査報告 第60集町内遺跡Ⅹ
65	小八木志志Ⅰ戸	縄文・古墳～平安	〔小八木志志Ⅰ戸遺跡群1～4〕群馬県文書集団 1999～2002
66	兼定東山道	奈良・平安	〔兼定東山道〕群馬町教育委員会 1986
67	金尾城(中尾城)	中世	〔前橋市史〕1 前橋市教育委員会 1971
68	菅谷遺跡	弥生・平安	〔菅谷遺跡発掘調査報告〕群馬町教育委員会 1980
69	正観寺遺跡群	弥生	〔正観寺遺跡群1～Ⅳ〕高崎市教育委員会 1979～1982
70	福島口Ⅴ遺跡	弥生～古墳後	〔町内遺跡Ⅹ〕群馬町教育委員会 2001
71	菅谷石塚遺跡	古墳	〔小八木志志Ⅰ戸遺跡群1・2〕群馬県文書集団 1999・2001 〔菅谷石塚遺跡〕群馬県文書集団 2003
72	正観寺西原	古代	〔小八木志志Ⅰ戸遺跡群1・2〕群馬県文書集団 1999・2001
73	諏口遺跡	弥生～古墳	〔諏口遺跡Ⅲ〕群馬町教育委員会 1985
74	下東西遺跡	縄文前～中世	〔下東西遺跡〕群馬県文書集団 1987
75	北原遺跡	縄文中・弥生古墳後～平安	〔北原遺跡〕群馬町教育委員会 1986
76	国分境遺跡	古墳後～平安	〔国分境遺跡〕群馬県文書集団 1990
77	上野国分僧寺・尼寺中間地域	縄文中～中・近世	〔上野国分僧寺・尼寺中間地域1～8〕群馬県文書集団 1987～1992
78	鳥羽遺跡	古墳～中近世	〔鳥羽遺跡〕群馬県文書集団 1986・1988・1990・1992
79	清原南部遺跡群(下東西遺跡)	古墳・奈良・平安	〔清原南部遺跡群Ⅲ〕前橋市教育委員会 1986
80	高井橋ノ木遺跡	縄文～中世	〔高井橋ノ木遺跡〕大友町西通線遺跡調査会 1999
81	柿木遺跡	縄文～中・近世	〔柿木遺跡〕前橋市教育委員会 1984
82	榑高山古墳	古墳	〔榑高山古墳〕前橋市教育委員会 1988
83	龜社二子山古墳	古墳後	〔群馬総社古墳群〕観光資源保護財団 1977
84	大小路山古墳	古墳	〔柿木遺跡〕前橋市教育委員会 1984
85	愛宕山古墳	古墳	〔群馬総社古墳群〕観光資源保護財団 1977
86	遠見山古墳	古墳	〔平成6年度市内遺跡発掘調査報告書〕前橋市教育委員会 1995
87	龜社城跡	近世	山崎 一「群馬県古城址の研究」上巻 群馬県文化事業振興会 1971
88	宝塔山古墳	古墳後	〔群馬県史〕資料編3 群馬県教育委員会 1981
89	蛇穴山古墳	古墳中	〔群馬総社古墳群〕観光資源保護財団 1977
90	北原一町畑遺跡	奈良・平安	〔町内遺跡Ⅷ〕群馬町教育委員会 2001
91	国分境Ⅳ遺跡	古墳～平安	〔国分境Ⅳ遺跡〕群馬町教育委員会 1988
92	国分境Ⅱ遺跡	古墳・奈良	〔国分境Ⅱ遺跡〕前橋市教育委員会 1992

第1章 序章

93	大屋敷遺跡群	縄文中・古墳前～中世	『大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅳ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1993～1996
94	大友屋敷Ⅱ遺跡	縄文・古墳～中・近世	『大友屋敷Ⅱ遺跡』前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1987
95	山王塚寺	白鳳～平安	『山王塚寺跡発掘調査概報Ⅰ～Ⅷ』前橋市教育委員会 1975～1982
96	東国分高井道東Ⅱ遺跡	古墳	『町内遺跡Ⅻ』群馬町教育委員会 2001
97	上野国分尼寺跡北辺遺跡	奈良・平安	『上野国分尼寺跡北辺遺跡』群馬町教育委員会 2002
98	昌泰寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	奈良・平安	『昌泰寺廻向Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988
99	村東遺跡	古墳～平安	『村東遺跡』前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988
100	産業道路東遺跡	縄文前～中	『前橋市史』前橋市教育委員会 1971
101	稲荷塚道東遺跡	古墳～中世	『稲荷塚道東遺跡』県埋文事業団 2003
102	産業道路西遺跡	縄文前～中	『前橋市史』前橋市教育委員会 1971
103	上野国分尼寺	奈良・平安	『上野国分尼寺跡調査報告書』群馬県教育委員会 1969、1970
104	元総社小見遺跡	縄文・古墳～平安	『元総社小見遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001
105	元総社小見Ⅱ遺跡	縄文・古墳～中世	『元総社小見Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003
106	元総社小見内Ⅲ遺跡	弥生・古墳～近世	『元総社小見内Ⅲ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002
107	総社甲稲荷塚大道西遺跡、総社甲稲荷塚大道西Ⅱ・Ⅲ遺跡	古墳～平安	『総社甲稲荷塚大道西遺跡、総社開泉明神北Ⅱ遺跡、総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002 『総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡、総社開泉明神北Ⅲ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003
108	元総社草作Ⅴ遺跡	古墳～中世	『元総社小見Ⅲ遺跡、元総社草作Ⅴ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003
109	元総社小見Ⅲ遺跡	縄文・古墳～中世	『元総社小見Ⅲ遺跡、元総社草作Ⅴ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003
110	総社開泉明神北遺跡、総社開泉明神北Ⅱ・Ⅲ遺跡	古墳・平安～中世	『総社開泉明神北遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000 『総社甲稲荷塚大道西遺跡、総社開泉明神北Ⅱ遺跡、総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2002 『総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡、総社開泉明神北Ⅲ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2003
111	開泉橋遺跡	奈良・平安	『開泉橋遺跡』前橋市教育委員会 1983
112	元総社宅地遺跡	古墳～平安	『元総社宅地遺跡、上野国分尼寺跡確認調査Ⅱ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2001
113	開泉橋南遺跡	古墳～奈良・平安	『開泉橋南遺跡』前橋市教育委員会 1986
114	屋敷遺跡	古墳～中・近世	『屋敷遺跡』前橋市教育委員会 1987
115	草作遺跡	縄文～中・近世	『草作遺跡』前橋市埋蔵文化財調査団 1985
116	塚越Ⅱ遺跡	奈良・平安	『塚越Ⅱ遺跡』前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財調査団 1988
117	塚越遺跡	奈良・平安	『塚越遺跡』山武考古学研究所 1988
118	上野国府市定域	奈良～	『開泉橋南遺跡』前橋市教育委員会 1983
119	蒼海城遺跡	中世	山崎 一『群馬県古城址の研究』上巻 群馬県文化事業振興会 1971
120	元総社小学校校庭遺跡	奈良・平安	『前橋市史』第1巻 前橋市教育委員会 1971
121	弥勒遺跡	古墳～奈良・平安	『弥勒遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1990
122	象谷川古墳	古墳	
123	元総社寺田遺跡	縄文～中・近世	『元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ』県埋文事業団 1983・1994・1996
124	寺田遺跡	奈良・平安	『寺田遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1987
125	早道遺跡	奈良～中世	『平成6年度 市内遺跡発掘調査報告書』前橋市教育委員会 1996
126	中尾遺跡	古墳～中世	『中尾遺跡』県埋文事業団 1983・1984
127	吹屋遺跡	縄文～中世	『元島名B・吹屋遺跡』県埋文事業団 1982
128	日高遺跡	弥生～平安	『日高遺跡』県埋文事業団 1982 ほか

第2章 塚田村東Ⅳ遺跡の調査





第5図 塚田村東Ⅳ遺跡位置図

P13の写真

塚田村東Ⅳ遺跡北半部 古墳・奈良・平安時代の面

1. 塚田村東IV遺跡の概要

塚田村東IV遺跡では、縄文時代の遺物から、近代以降の遺構に至るまで、様々な時代の資料を検出することができた。

縄文時代では、遺構は確認できていない。遺物が少量出土しただけであった。

古墳時代では、Hr-FA下の畠が検出された。しかし、遺物は出土せず、集落域からはやらずれていたようである。

奈良・平安時代は、周辺地同様に資料が最も多い時期である。住居跡15軒を中心として、多数の遺構や遺物が検出された。時期は8世紀前半から9世紀後半に至るまでみられる。本遺跡では8世紀前半が

多く、9世紀末以降の住居跡が検出されていない。9世紀の住居跡からは、瓦が出土しているものの、灰釉陶器は小破片が出土したのみであった。

中世の遺構は、As-B混土層の下で検出された。遺物はほとんどなく、詳しい時期などは明らかにできなかったが、畠や土坑墓などが検出されている。

近世も中世と同様に、土坑墓が検出されている。17世紀の土坑墓からは、陶器や銭貨といった副葬品のほか、人骨も出土した。

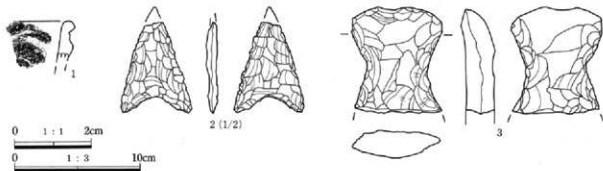
近代以降では、旧陸軍前橋飛行場関連の土坑として、飛行場防衛のための機関銃座が検出された。

2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物

(1) 縄文時代の遺物 (第6図、遺物PL.13)

本遺跡では、縄文時代に属する遺構は確認できていない。縄文土器片や石器が少量出土している。石鏃(No2)は3号ビット覆土からの出土であるが、この柱穴状の遺構はAs-Bを含む覆土であり、縄文

時代の遺構とは考えられない。何らかの流れ込みと判断される。その他の遺物は、As-Cを含む層の上などで出土している。



第6図 縄文時代出土遺物

縄文時代 遺物観察表

種別番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)		胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
			長さ	幅			
第6図1 PL.13	縄文土器 深鉢	確認面 口破片	口 底 厚	- - 1.2	胎 砂粒多 焼 燻化偏 厚 良好 色 明褐	横穴隆帯と弧状隆帯 一本 縞子の比線が傾斜する	中期中葉
種別番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		石材	特徴	
第6図2 PL.13	石器 石鏃	3ビット覆土 先端部欠損	(2.4)	1.9 0.3			
第6図3 PL.13	石器 打製石斧	確認面 刃部欠損	(8.3)	7.1	縞粒輝石安山岩	バチ形であろうか、両側から挟りが加えられる。 表面には全体に加工が入り、裏面の一部に自然面を残す	

(2) 古墳時代の遺構

本遺跡では、古墳時代に属すると考えられる遺構に竈跡が挙げられる。確認できた面はAs-Cを含む層上である。遺物は出土していないものの、サクにはHr-FAが堆積しており、古墳時代の遺構と判断した。

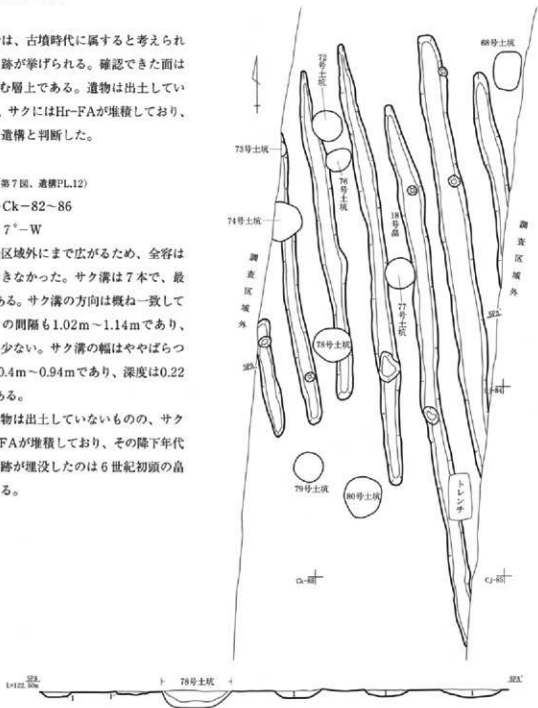
18号竈跡 (第7図、遺構PL.12)

位置：Cj-Ck-82~86

方位：N-7°-W

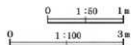
概要：調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。サク溝は7本で、最長5.5mである。サク溝の方向は概ね一致しており、サクの間隔も1.02m~1.14mであり、ばらつきは少ない。サク溝の幅はややばらつきがあり、0.4m~0.94mであり、深度は0.22~0.4mである。

その他：遺物は出土していないものの、サク溝にはHr-FAが堆積しており、その降下年代から、本竈跡が埋没したのは6世紀初頭の竈と判断される。



18号竈跡

1. 暗褐色土 Hr-FAブロック主体、綁まりやや強・粘性弱



第7図 18号竈跡

(3) 奈良・平安時代の遺構と遺物

I 竪穴住居

1号住居跡 (第8~10図、遺構PL.1、遺物PL.13)

位置: Ci~Cj-111~113

長軸方位: N-7°-E

規模・形状: 3.53m×2.76mの隅丸長方形を呈する。

床面積は8.56㎡で、壁の高さは0.3mである。

カマド: 東壁中央よりやや南側に構築されていた。

燃焼部の幅は0.7m、張り出しは壁から0.84mであった。袖の構築材には瓦が使われていた。

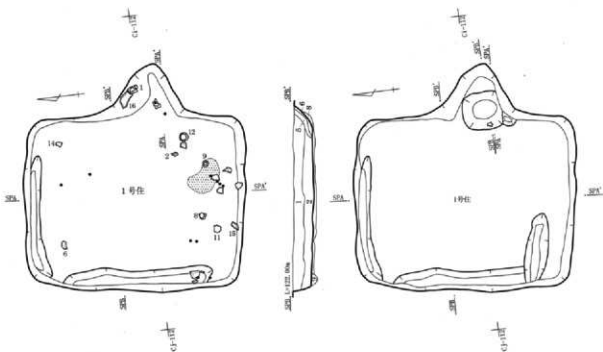
内部施設: 北東、北西及び南西角を除く北壁、西壁

下に壁溝が巡る。貯蔵穴などは検出できなかった。

床面: 平坦で、固く締まっていた。南東部やや中央よりから灰が薄く層状に検出された。

出土遺物: 須恵器坏 (No 6)、須恵器皿 (No 11) は床面直上より出土した。土師器壺 (No 1)、平瓦 (No 16) はカマド北側の袖からの出土であった。

その他: 出土遺物の傾向より、本住居跡の時期は9世紀第3四半期と判断される。



1号住居跡

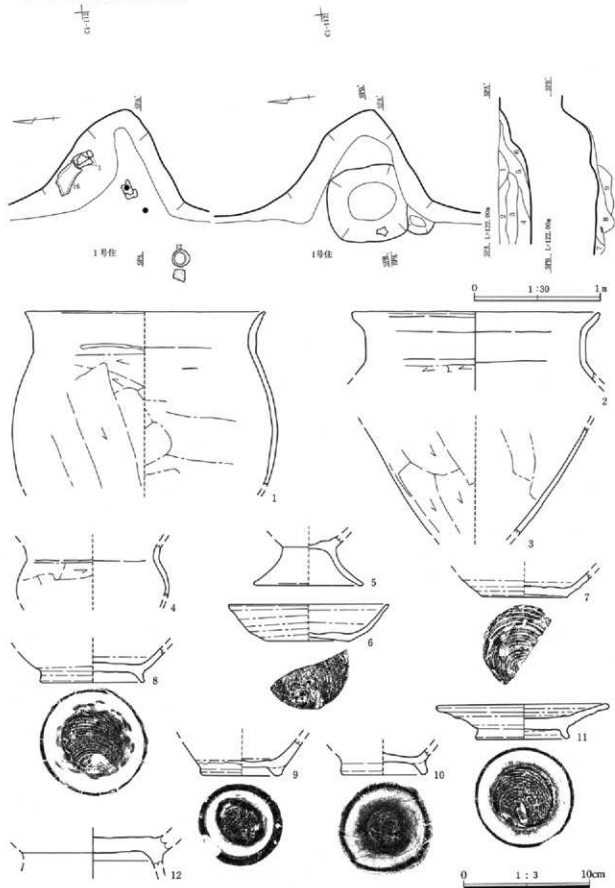
1. 暗褐色土 As-C多、ローム粒・小礫・焼土粒・炭化物少含
2. 暗褐色土 As-C・ローム粒・小礫・焼土粒・炭化物少含
3. 暗褐色土 As-C・白褐粘質土ブロックやや多、焼土粒少含
4. 暗褐色土 As-C少、白褐粘質土ブロック多含
5. 黒褐色土 As-Cやや多含、締まり弱
6. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含、締まり弱
7. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・白褐粘質土ブロックやや多含
8. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、床土、締まり強
9. 暗褐色土 ロームブロック少含、締まり弱

カマド

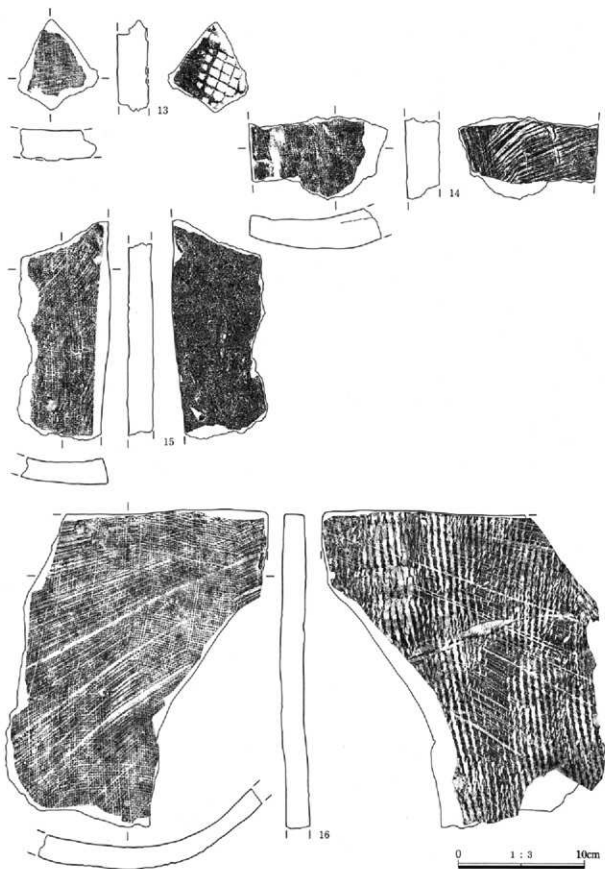
1. 暗褐色土 ロームブロック・As-C・焼土粒少含
2. 暗褐色土 ローム粒・As-C・焼土粒少含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C・灰少含
4. 暗褐色土 ローム粒・As-C少、灰やや多含
5. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒・灰少含
6. 暗褐色土 ロームブロック・灰やや多含、焼土粒少含
7. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少含
8. 暗褐色土 灰・焼土粒少、ローム粒やや多含、締まり弱
9. 暗褐色土 ロームブロックやや多含

0 1:60 1m

第8図 1号住居跡



第9図 1号住居跡カマド、出土遺物(1)



第10図 1号住居跡出土遺物(2)

第2章 塚田村東N遺跡の調査

1号住居跡 観察表

採回番号	種類	出土位置	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
図版番号	器種	残存状態							
第9図1 PL_13	土師器 罌	カマド 口～体上半 1/5	口 (19.0) 底 - 高 (14.2)	胎 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナゲ、体部上半ヘラ削り 内面：口縁部横ナゲ、体部上半ナゲ				
第9図2 PL_13	土師器 罌	覆土 口1/8	口 (19.6) 底 - 高 (5.6)	胎 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 明赤黒	外面：口縁部横ナゲ、体部ヘラ削り 内面：口縁部横ナゲ				
第9図3 PL_13	土師器 罌	覆土 体下半	口 - 底 - 高 (8.5)	胎 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 黒黒	外面：口縁部横ナゲ、体部上半ヘラ削り 内面：ナゲ				
第9図4 PL_13	土師器 小型罌	覆土 口～体1/8	口 - 底 - 高 (4.3)	胎 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナゲ、体部ヘラ削り 内面：ナゲ				
第9図5 PL_13	土師器 台付き罌	覆土 胴部1/4	口 - 底 (8.7) 高 (4.9)	胎 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 灰黒	外面：ナゲ 内面：ナゲ				
第9図6 PL_13	須恵器 坏	床直上 口～底1/3	口 (12.6) 底 (6.7) 高 (2.9)	胎 細砂粒少 白色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形（右回転） 底部：回転糸切り				
第9図7 PL_13	須恵器 坏	覆土 体～底1/3	口 - 底 (6.8) 高 (2.0)	胎 φ2mmの小礫 白色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形（右回転） 底部：回転糸切り				
第9図8 PL_13	須恵器 埴	覆土 体～底 底 部はほぼ完	口 - 底 8.2 高 (2.9)	胎 φ3mmの小礫 白色・黒色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形（右回転） 底部：回転糸切り後付け高台				
第9図9 PL_13	須恵器 埴	覆土 体～底 底 部はほぼ完	口 - 底 6.4 高 (3.0)	胎 φ3mmの小礫 黒色鉱物 焼 還元 やや軟 色 灰黄	輪軸整形（右回転） 底部：回転糸切り後付け高台				
第9図10 PL_13	須恵器 埴	覆土 体～底 底 部はほぼ完	口 - 底 6.8 高 (2.1)	胎 砂粒少 白色鉱物 焼 還元焰 良好 色 浅黄	輪軸整形（右回転） 底部：回転糸切り後付け高台				
第9図11 PL_13	須恵器 皿	床直上 口～底5/6	口 13.6 底 7.4 高 2.7	胎 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰白	輪軸整形（右回転） 底部：回転糸切り後付け高台				
第9図12 PL_13	須恵器 罌	覆土 底部はほぼ完 高台破損	口 - 底 - 高 (2.6)	胎 緻密 焼 還元焰 良好 色 浅黄	輪軸整形				
採回番号	瓦種	出土位置	胎土・焼成・色調	製作法・輪軸・一枚作り可能性	粘土数（割取表・裏・接合）	布目痕（合目・捺消）・瓦乾燥時圧痕	輪軸使用・印き技法・型式名称	個面面取	備考
図版番号	残存状態								
第10図13 PL_13	平瓦	覆土 小破片	胎 並 焼 並 色 並 灰	製 不明 輪 一	裏 表 裏 接 × ×	合 合 捺 × 乾 ×	輪 × 型 格子	-	笠懸窯 8世紀中～後葉
第10図14 PL_13	平瓦	覆土 破片	胎 並 焼 並 色 灰黄	製 2枚型寄木 輪 一	裏 表 裏 接 × ×	合 合 捺 △ 乾 ×	輪 × 型 平行	3	吉井窯 8世紀後葉
第10図15 PL_13	平瓦	覆土 破片	胎 硬 焼 並 色 にぶい馬	製 輪 輪 一 なし あり	裏 表 裏 接 × ×	合 合 捺 × 乾 ×	輪 × 型 素文	2	笠懸窯 8世紀中～後葉
第10図16 PL_13	平瓦	カマド 破片	胎 並 焼 並 色 灰白	製 輪 輪 一 なし あり	裏 表 裏 接 × ×	合 合 捺 × 乾 ×	輪 × 型 縄印	1	秋岡窯 9世紀前葉

2号住居跡 (第11・12図、遺構PL.1、遺物PL.14)

位置：Cj-Ck-112-113

長軸方位：不明

規模・形状：本住居跡の大半が調査区域外であり、カマドのみの検出のため不明である。

カマド：東向きのカマドの一部のみが検出された。

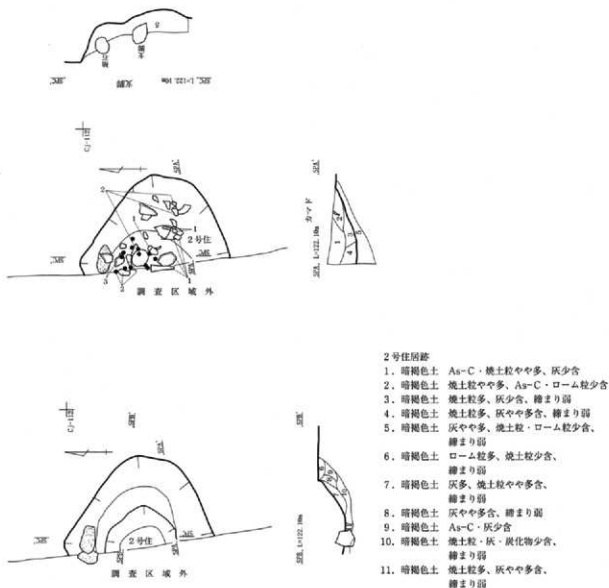
燃焼部の幅は検出した所で0.73m、張り出しは0.67mであった。袖の構築材には礫が使われていた。中

央には支脚として使われていた礫が検出された。

内部施設：不明

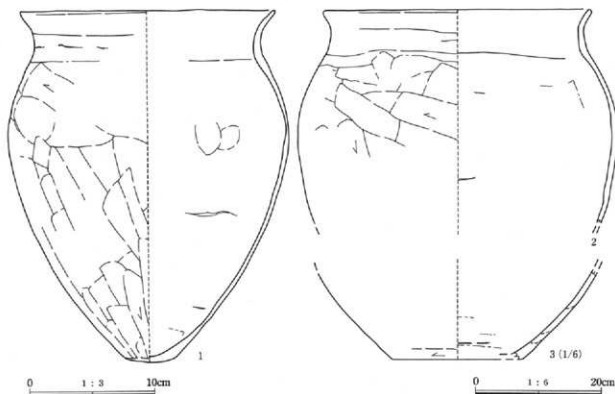
出土遺物：須恵器甕 (No 3) はカマド袖より、土師器甕 (No 1、2) はカマド袖から火床にかけて出土した。

その他：出土した土師器甕より、本住居跡の時期は9世紀前半と判断される。



第11図 2号住居跡

0 1:30 1m



第12図 2号住居跡出土遺物

2号住居跡 遺物観形表

標記番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第12図1 PL.14	土師器 甕	カマド 口〜底1/3	口 (21.2) 底 (4.0) 高 27.6	胎 砂粒やや多 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：口縁部横ナデ、体部ナデ	
第12図2 PL.14	土師器 甕	カマド 口〜体上半 1/3	口 (21.2) 底 - 高 (16.7)	胎 粗砂粒やや多 焼 酸化焰 良好 色 にぶい橙	外面：口縁部横ナデ、体部上半ヘラ削り 内面：口縁部横ナデ、体部上半ナデ	
第12図3 PL.14	須恵器 甕	カマド 体下半〜底 1/8	口 - 底 (20.5) 高 (14.0)	胎 φ3mmの小礫 焼 還元焰 良好 色 橙	外面：体部下端ヘラ削り 内面：横ナデ	

3号住居跡 (第13図、遺構PL.2、遺物PL.14)

位置：Cj〜Ck-110〜112

東壁方位：N-8°-E

規模・形状：本住居跡西部は調査区域外であり、全容は伺えない。南北3.7m×東西検出部で1.45mで、隅丸形状であろう。床面積は検出部で3.3㎡、壁の高さは0.32mである。

カマド：東壁中央よりやや南側に構築されていた。燃焼部の幅は0.85m、張り出しは壁から0.49mであった。南側の袖は不明瞭で、落ち込みとなっていた。内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：カマドの北西部がやや落ち込んでいた。床の締まりはやや固かった。

出土遺物：須恵器甕 (No.4) は床面直上より出土した。土師器甕 (No.1、2、3) は掘り方土より出土した。鉄鍬 (No.6) は覆土からの出土であった。その他：掘り方が深く、何らかの遺構が存在した可能性が考えられたが、確証が得られなかった。出土した土師器甕、須恵器甕から、本住居跡の時期は8世紀後葉と判断される。

2. 塚田村東N遺跡の遺構と遺物

3号住居跡

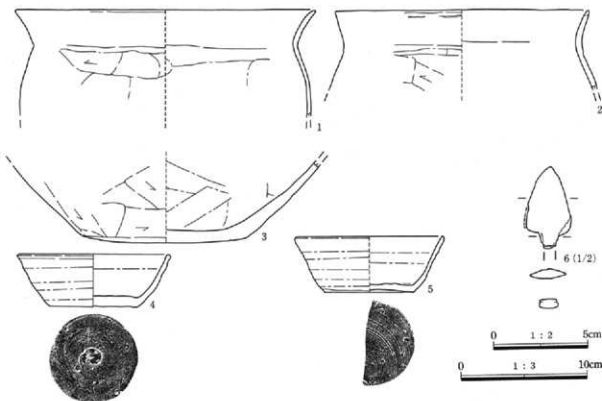
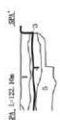
1. 暗褐色土 As-C多、焼土粒・炭化物・ロームブロック少含
2. 暗褐色土 As-C少含、締まり弱
3. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒・灰少含
4. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒・白濁粘質土ブロック少含、床土、締まりやや強
5. 暗褐色土 ローム粒・白濁粘質土ブロックやや多含
6. 暗褐色土 灰やや多、ローム粒少含、締まり弱

カマド

1. 暗褐色土 As-C多、焼土粒・ローム粒少含
2. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒・ローム粒少含
3. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
4. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・炭化物少含
5. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒・ローム粒少含
6. 暗褐色土 As-C・焼土粒・ローム粒少含
7. 暗褐色土 ローム粒やや多、焼土粒少含、締まり弱
8. 暗褐色土 ローム粒少含、締まり弱
9. 暗灰褐色土 ローム粒多、灰やや多含、締まり弱
10. 暗褐色土 ロームブロック多含
11. 暗褐色土 ロームブロック・炭化物やや多含



0 1:60 1m



第13図 3号住居跡、出土遺物

第2章 塚田村東Ⅳ遺跡の調査

3号住居跡 遺物観察表

神田番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
			口	底			
第13図1 PL.14	土師器 壺	掘り方 口～体上半 1/8	口	(23.7)	胎 砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘ ラ削り 内面：口縁部横ナデ、 体部横ナデ	
			底	(8.5)			
第13図2 PL.14	土師器 壺	掘り方 口～体上半 1/8	口	(19.6)	胎 砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 灰白～赤褐色	外面：口縁部横ナデ、体部ヘ ラ削り 内面：口縁部横ナデ	
			底	(5.6)			
第13図3 PL.14	土師器 壺	掘り方 体下半～底 2/5	口	(7.2)	胎 ϕ 3mmの小礫 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 灰白	外面：ヘラ削り 内面：ヘラ ナデ	
			底	(13.1)			
第13図4 PL.14	須恵器 坏	床直上 口～底2/3	口	12.1	胎 緻密 焼 還元焰 良好 色 灰	甕輪整形（右回転） 底部： 回転ヘラ切り後、部分的にナ デ調整	
			底	7.0			
第13図5 PL.14	須恵器 坏	覆土 口～底1/3	口	(11.8)	胎 粗砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰白	甕輪成形（右回転） 底部： 回転系切り	
			底	(7.0)			
神田番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			特徴	
第13図6 PL.14	鉄製品 鉄鏝	覆土 基部欠損	長さ (4.4)	幅 (2.3)	厚さ 0.5	重量 (g) 9	有茎の鉄鏝

4号住居跡 (第14・15図、遺構PL.2、遺物PL.14)

位置：Cj～Ck-107～108

長軸方位：不明

規模・形状：本住居跡の大半が調査区域外であり、カマドのみの検出のため不明である。

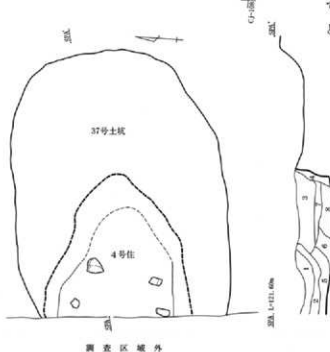
カマド：土壇の下から東向きカマドの一部のみが検出された。燃焼部の幅は検出した所で0.69m、張り出しは0.8mであった。袖の構架材には礫が使われていた。焼土塊や灰などはあまり残っていない。

内部施設：不明

出土遺物：火床からその下にかけて、土師器坏 (No 1)、土師器壺 (No 3)、須恵器埴 (No 5)、鉄滓 (No 6、7)、葱掘石 (No 8) が出土した。

重複遺構：本住居跡の全全体で37号土壇と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

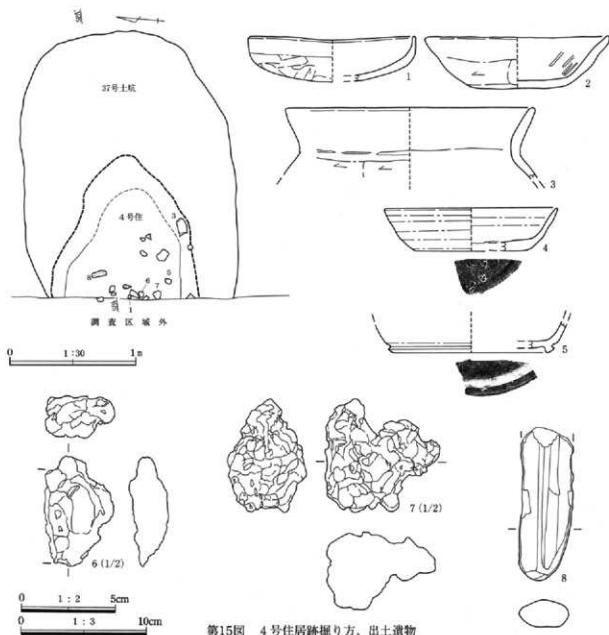
その他：カマドのみの検出であり、全容は明らかにできなかった。出土した遺物の様相から8世紀前葉と判断される。



4号住居跡カマド

1. 暗褐色土 焼土粒・灰やや多、ローム粒少含、締まり弱
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含
3. 暗褐色土 ロームブロック・As-C少含
4. 暗褐色土 ロームブロック多含
5. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒少含
6. 暗褐色土 焼土粒少含、締まり弱
7. 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・灰化物少含
8. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含

第14図 4号住居跡



第15図 4号住居跡掘り方、出土遺物

4号住居跡 遺物観察表

棟図番号 図取番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第15図1 PL_14	土師器 坏	カマド □～底3/8	口 (13.4) 底 - 高 (3.3)	胎 粗砂粒やや多 焼 酸化焰 良好 色 におい煙	口唇部内湾 外面：口縁部～ 体部上半横ナデ、体部下半 ヘラ割り 内面：ナデ	
第15図2 PL_14	土師器 坏	カマド覆土 □～底1/3	口 (14.6) 底 - 高 4.0	胎 砂粒少 小窪 焼 酸化焰 良好 色 におい煙	外面：口縁部横ナデ、体部～ 底部ヘラ割り 内面：ナデの 後、体部放射状暗文	
第15図3 PL_14	土師器 甕	カマド □～体上半 1/6	口 (19.0) 底 - 高 (5.6)	胎 砂粒少 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部上 半ヘラ割り 内面：横ナデ	
第15図4 PL_14	須恵器 坏	カマド覆土 □～底1/8	口 (13.5) 底 (8.4) 高 3.4	胎 細砂粒少 焼 還元焰 良好 色 灰	罐罐整形(右回転) 底部： 回転ヘラ切り後ナデ調整	
第15図5 PL_14	須恵器 坏	カマド 体～底1/8	口 - 底 (13.0) 高 (2.4)	胎 緻密 黒色紅物 焼 還元焰 良好 色 灰	罐罐整形(右回転) 底部： 回転ヘラ切り後ナデ調整し、 付け高台	

採回番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			重量 (g)	特徴
			長さ	幅	厚さ		
第15図6 PL. 14	鉄滓 輪形鍛冶滓	カマド 欠損あり	5.8	(3.6)	2.0	47	輪形鍛冶滓 (細小、含鉄) 鍛錬鍛冶滓、磁着度3・メタル度(△)
第15図7 ——	鉄滓 輪形鍛冶滓	カマド ほぼ完	6.0	6.1	4.1	102	輪形鍛冶滓 (小) 精錬、または鍛錬鍛冶滓、磁着度3・メタル度(△)
採回番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			石材	特徴
			長さ	幅	厚さ		
第15図8 PL. 14	石製品 磨石	カマド ほぼ完	12.0	3.9	2.1	雲母石英片岩	先端部に敲打痕

5号住居跡 (第16・17図、遺構PL.2、遺物PL.14)

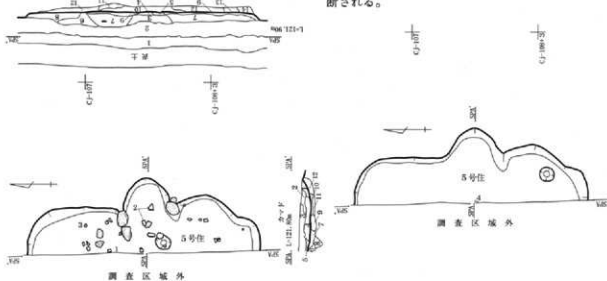
位置：Cj~Ck-106~108

東壁軸方位：N-5°30'-W

規模・形状：本住居跡西部は調査区域外であり、全容は何えない。南北3.72m×東西の検出部0.8mで隅丸方形であろう。ただし、南東角は形が崩れている。床面積は検出部で2.31㎡、壁の高さは0.14mである。カマド：ほぼ東壁中央に構築されていた。燃焼部の

幅は0.8m、張り出しは壁から0.7mであった。袖の構築材には砂岩が使われていた。

内部施設：燃滓や貯蔵穴などは検出できなかった。床面：平坦であるが、締まりはあまり強くない。出土遺物：土師器甕 (No2) は床面直上から出土した。須恵器杯 (No4) は掘り方土からの出土である。その他：出土した土師器杯、甕から8世紀中葉と判断される。



5号住居跡

1. 暗灰褐色土 As-B多、As-C少含、締まり弱
2. 暗褐色土 As-Cやや多、As-B少含
3. 暗灰褐色土 焼土粒・As-C少含、締まりやや強
4. 暗灰褐色土 焼土粒・灰少含
5. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒やや多含
6. 暗褐色土 炭化物多、As-Cやや多、焼土粒少含
7. 暗褐色土 As-Cやや多、炭化物・焼土粒少含
8. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含
9. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含
10. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
11. 暗褐色土 φ2~3mmの小礫やや多、As-C少含、締まり弱
12. 暗褐色土 As-Cやや多、炭化物・焼土粒少含
13. 暗褐色土 As-C・ロームブロックやや多含
14. 暗褐色土 As-Cやや多含

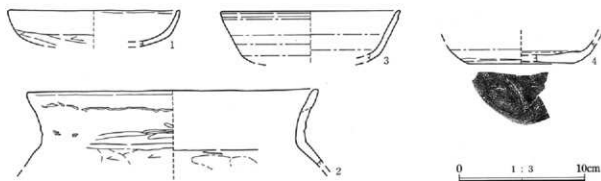
カマド

1. 暗灰褐色土 黄褐ブロック少含、締まり強
2. 暗灰褐色土 焼土粒・As-Cやや多含、締まり強
3. 暗灰褐色土 焼土粒・As-Cやや多含、黄褐粒少含、締まり強
4. 暗灰褐色土 焼土粒・灰ブロック少含、締まり弱
5. 暗灰褐色土 焼土粒・灰少含
6. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
7. 暗褐色土 灰やや多含、焼土粒・As-C少含
8. 暗褐色土 焼土粒少含
9. 暗褐色土 焼土粒・As-C少含
10. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒・炭化物少含
11. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
12. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒極少含、締まり弱

0 1:60 1m

第16図 5号住居跡

2. 塚田村東N遺跡の遺構と遺物



第17図 5号住居跡、出土遺物

5号住居跡 遺物観察表

採回番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第17図1 PL.14	土師器 環	覆土 口~底1/5	口 成 (13.6) - 高 (2.9)	胎 細砂粒少 白色・黒色臍物 焼 酸化焰 良好 色 におい赤褐	口唇部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部~底部へラ削り 内面：ナデ	
第17図2 PL.14	土師器 甕	床直上 口~体上半 1/5	口 (23.0) 底 - 高 (6.2)	胎 砂粒やや多 白色・黒色臍物 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデでへラ痕あり、体部上半へラ削り 内面：へラナデ	
第17図3 PL.14	須恵器 環	覆土 口~体1/8	口 (14.2) 底 - 高 (4.1)	胎 細砂粒少 白色臍物 焼 還元焰 良好 色 黄灰	輪轆整形 (右回転) 外面：体部下半回転へラ削り	
第17図4 PL.14	須恵器 環	掘り方 体下半~底 1/5	口 - 底 (8.2) 高 (1.8)	胎 細砂粒少 白色臍物 焼 還元焰 やや不良 色 灰	輪轆整形 (右回転) 外面：回転へラ削り 底部：へラ切り後ナデ調整	

6号住居跡 (第18・19図、遺構PL.2、遺物PL.14・15)

位置：Cj~Ck-110~111

長軸方位：不明

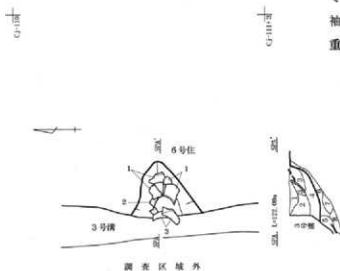
規模・形状：本住居跡は3号溝跡に切られ、さらに大半は調査区域外にあると考えられる。カマドのみの検出のため規模などは不明である。

カマド：東向きカマドの一部のみが検出された。燃焼部の幅は検出した所で0.57m、張り出しは0.42mであった。

内部施設：不明

出土遺物：カマドの掘り込みの全体に遺物が広がっていた。土師器甕 (No1~4) はいずれもカマドの袖から火床にかけて出土した。

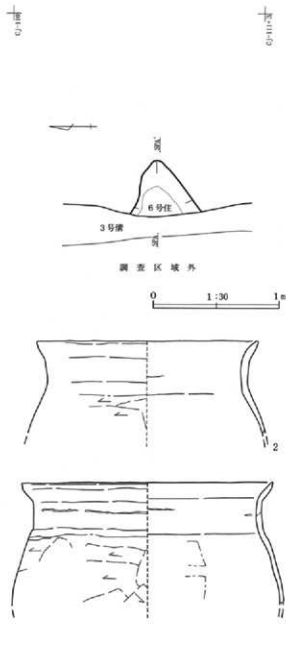
重複遺構：カマド西部で3号溝跡と重複し、新旧関



第18図 6号住居跡

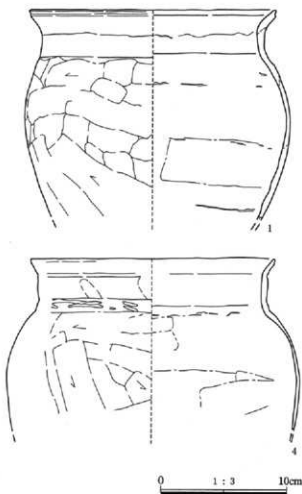
6号住居跡カマド

1. 暗灰褐色土 焼土粒少含、締まり・粘性弱
2. 暗灰褐色土 質褐ブロック多含、締まり・粘性弱
3. 暗灰褐色土 焼土粒少含、締まり弱
4. 暗褐色土 焼土粒・黄褐粒やや多含、締まり・粘性弱
5. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒やや多含、締まり弱
6. 暗褐色土 焼土粒少、灰や多含
7. 暗褐色土 ロームブロックやや多、灰少含
8. 暗褐色土 ロームブロック多含



係は遺構の平面確認時と堀土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他：カマドのみの検出であり、全容は明らかにできなかった。出土した遺物の様相から9世紀第3四半期と判断される。



第19図 6号住居跡掘り方、出土遺物

6号住居跡 遺物観察表

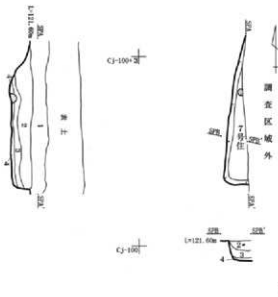
検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状況	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第19図1 PL.15	土師器 壺	カマド 口～体1/2	口 (19.6) 底 - 高 (16.5)	胎 細砂粒少 焼 酸化焰 良好 色 しぶい橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：ヘラナデ	
第19図2 PL.14	土師器 壺	カマド 口～体上半 1/6	口 (17.4) 底 - 高 (7.5)	胎 砂粒少 焼 酸化焰 良好 色 しぶい橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：ヘラナデ	
第19図3 PL.14	土師器 壺	カマド 口～体上半 1/3	口 (20.0) 底 - 高 (9.7)	胎 細砂粒少 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：ヘラナデ	
第19図4 PL.15	土師器 壺	カマド 口～体1/8	口 (19.2) 底 - 高 (13.5)	胎 細砂粒少 焼 酸化焰 良好 色 白色・黒色灰物 しぶい橙	外面：口縁部横ナデ・指頭圧痕・ヘラ削、体部ヘラ削り 内面：ヘラナデ	

7号住居跡 (第20図、遺構PL.2)

位置：Cj-Ck-99-100

西壁軸方位：N-9°-E

規模・形状：本住居跡東部は調査区域外であり、西壁と南壁の一部が確認できたに過ぎない。南北の検出部2.37m×東西の検出部0.46mで隅丸方形であろう。床面積は検出部で0.33㎡、壁の高さは0.36mである。



カマド：検出されていない。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：西壁下の検出部北よりがやや落ち込む。床は固く締まっていた。

出土遺物：土師器の破片が少量出土したのみであり、図示できるものはなかった。

その他：遺物が少なく、時期は明らかにできなかったが、古墳～平安時代に属すると考えられる。

7号住居跡

1. 暗褐色土 As-B・As-Cやや多含
2. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロック多・As-C少含
3. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロックやや多含
4. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロック多含、床土、締まり強

第20図 7号住居跡

8号住居跡 (第21～23図、遺構PL.3、遺物PL.15)

位置：Ci-Ck-100-102

長軸方位：N-25°-W

規模・形状：本住居跡の北西角は調査区域外であり、検出できなかった。4.24m×3.28mの隅丸長方形を呈する。床面積は検出部で11.02㎡であり、壁の高さは0.41mである。

カマド：東壁の南側に構築されていた。燃焼部の幅は0.72m、煙道部の先端まで含めて張り出しは、壁から0.97mであった。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

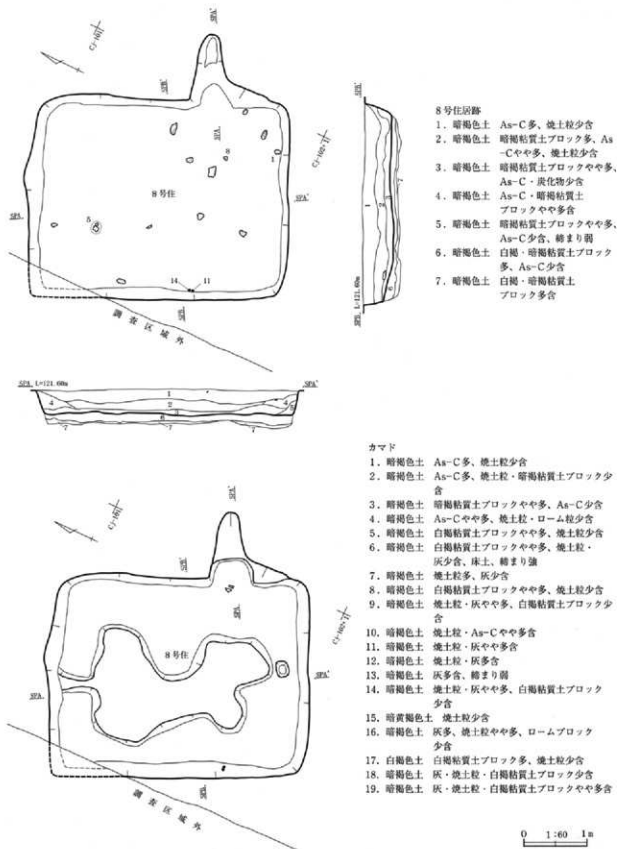
床面：西壁中央付近がやや高まっている。床は固く

締まっていた。

出土遺物：土師器坏 (No1) は床面直上より出土した。土師器甕 (No3) はカマド火床直下から、鉄澤 (No11, 14) は掘り方土からの出土であった。

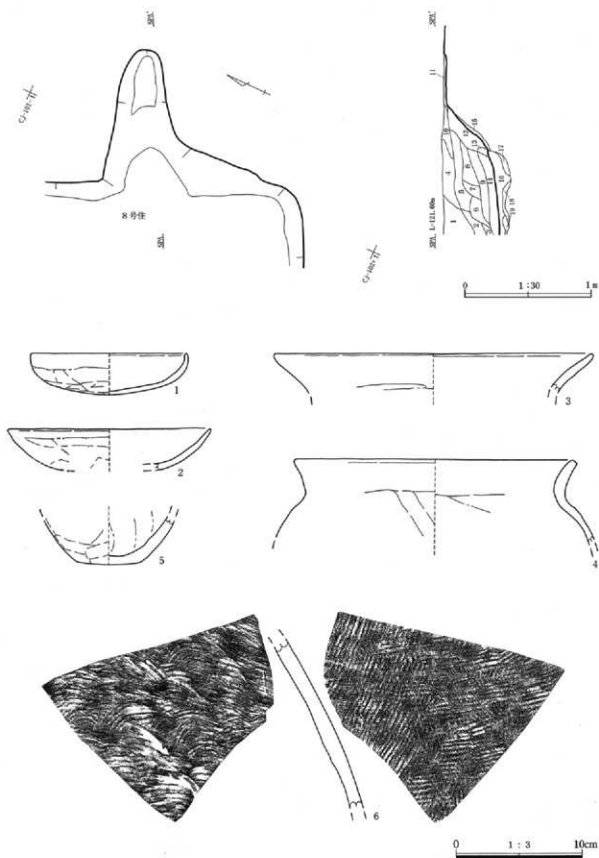
重複遺構：カマド北側で48号土坑と47号ピットに重複し新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。

その他：羽口や鉄澤が出土するなど、本住居跡は鉄生産との何らかの関連があったことを示している。出土している土師器坏や土師器甕より、本住居跡の時期は8世紀中葉と判断される。



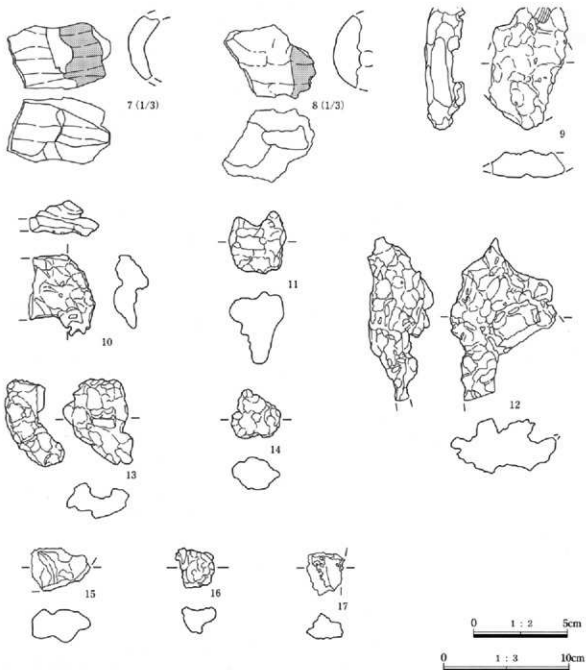
第21図 8号住居跡

2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物



第22図 8号住居跡カマド、出土遺物(1)

第2章 塚田村東N遺跡の調査



第23図 8号住居跡出土遺物(2)

8号住居跡 遺物観察表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第22図1 PL.15	土師器 坏	床直上	口 (12.4) 底 - 高 3.2	胎 細砂粒やや多 焼 酸化焰 良好 色 にぶい緑	口唇部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部ヘラ削り 内面：ナデ	
第22図2 PL.15	土師器 坏	覆土	口 (16.0) 底 - 高 (3.3)	胎 砂粒やや多 白色・黒色疵物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい緑	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：横ナデ	
第22図3 PL.15	土師器 甕	カマド	口 (25.0) 底 - 高 (3.1)	胎 細砂粒少 白色・黒色疵物 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：横ナデ	

2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物

第22図4 PL.15	土師器 甕	覆土 口一休上半 1/8	口 底 高	(22.2) - (6.7)	胎 焼 色	雑砂粒少 酸化塩 良好 橙	白色・黒色鉱物	外面：口縁部横ナデ、体部へ ラ削り 内面：ヘラナデ	
第22図5 PL.15	土師器 甕	覆土 体下半一底 2/3	口 底 高	- 5.0 (3.7)	胎 焼 色	雑砂粒やや多 酸化塩 良好 にぶい腹	白色鉱物	外面：ヘラ削り 内面：ヘラ ナデ	
第22図6 PL.15	須恵器 甕	覆土 体破片	口 底 高	- - -	胎 焼 色	雑質 還元塩 良好 灰白		外面：平行叩き目 内面：青 海紋文	
第23図7 PL.15	羽口	覆土 体破片	長 外径 内径	(8.0) (6.2) (3.6)	胎 焼 色	雑砂粒やや多 酸化塩 良好 明黄褐色	白色鉱物	外面：ナデ 内面：一段段 差がつく、粗い作り	
第23図8 PL.15	羽口	覆土 体破片	長 外径 内径	(7.3) (5.8) (1.5)	胎 焼 色	雑砂粒少 酸化塩 良好 淡黄	白色鉱物	外面：ナデ	
検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 保存状態	計測値 (cm)				特徴		
			長さ	幅	厚さ	重量 (g)			
第23図9 PL.15	鉄洋 陶形鍔治洋	覆土 欠損あり	6.7	(3.9)	1.4	24	陶形鍔治洋 (極小) 鍛錬鍔治洋、磁着度2・メタル 度(Δ)		
第23図10 PL.15	鉄洋 陶形鍔治洋	覆土 欠損あり	(4.3)	(3.4)	1.8	22	陶形鍔治洋 (極小) 鍛錬鍔治洋、磁着度2・メタル 度(Δ)		
第23図11	鉄洋 粘土質溶解物	覆土 欠損あり	5.8	(3.6)	2.0	47	鍔治洋の粘土質溶解物 (工具痕付き) 磁着度0・メ タル度なし		
第23図12 PL.15	鉄洋 陶形鍔治洋	覆土 欠損あり	(8.6)	(5.6)	3.3	93	陶形鍔治洋 (小、工具痕付き) 精錬、または鍛錬鍔 治洋、磁着度2・メタル度(Δ)		
第23図13 PL.15	鉄洋 陶形鍔治洋	覆土 ほぼ完	4.5	3.4	2.1	34	陶形鍔治洋 (極小) 鍛錬鍔治洋、工具痕付か、磁着 度2・メタル度(Δ)		
第23図14	鉄洋 粘土質溶解物	覆土 ほぼ完	2.6	2.5	1.6	5	鍔治洋の粘土質溶解物 磁着度0・メタル度なし		
第23図15 PL.15	鉄洋 粘土質溶解物	覆土 欠損あり	(3.1)	(2.2)	1.7	5	鍔治洋の粘土質溶解物か 磁着度0・メタル度なし		
第23図16 PL.15	鉄洋 陶形鍔治洋	覆土 欠損あり	2.1	2.0	1.3	4	陶形鍔治洋 (極小) 鍛錬鍔治洋、磁着度2・メタル 度(Δ)		
第23図17 PL.15	鉄洋 陶形鍔治洋	覆土 欠損あり	(2.0)	(2.3)	1.3	3	陶形鍔治洋 鍛錬鍔治洋、磁着度1・メタル度(Δ)		

9号住居跡 (第24・25図、遺構PL.3、遺物PL.15・16)

位置：Ci-Ck-104-105

長軸方位：N-8°-W

規模・形状：4.63m×3.07mの隅丸長方形を呈する。

床面積は12.12㎡で、壁の高さは0.53mである。

カマド：東壁中央より南側に構築されていた。燃焼

部の幅は0.5m、張り出しは壁から0.84mであった。

内部施設：東壁南部や南壁東部を除く壁下に壁溝が

巡る。貯蔵穴らしき土坑がカマド南袖下付近にある。

0.54m×0.42mで、深さは0.26mである。特に遺物

は出土していない。ピットは検出できなかった。また、

掘り方段階で、住居跡のほぼ中央に土坑状の落

ち込みが、南東角で小型の土坑が確認できている。

これらは本住居跡に伴うかどうかは明らかでなく、

10号住居跡との関連も考えられる。

床面：ほぼ平坦だが、北壁よりが若干低い。床はや

やく固く締まっていた。

出土遺物：須恵器長頸壺 (No12)は床面直上からの

出土である。土師器坏 (No1)は床面直上から掘り

方にかけて出土した。土師器坏 (No2)は掘り方土

からの出土であった。また、覆土からの出土である

土師器甕 (No4)や須恵器蓋 (No9)は8世紀後半

以降の遺物と判断され、本住居跡堆積時に何らかの

形で流れ込んだものと考えられる。

重複遺構：本住居跡の東壁と南壁東部を除く大半で

10号住居跡と重複する。新旧関係は遺構の平面確認

時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断

される。また、北壁の東よりで33号土坑と重複する。

平面と断面の状況から本住居跡が古いと判断される。

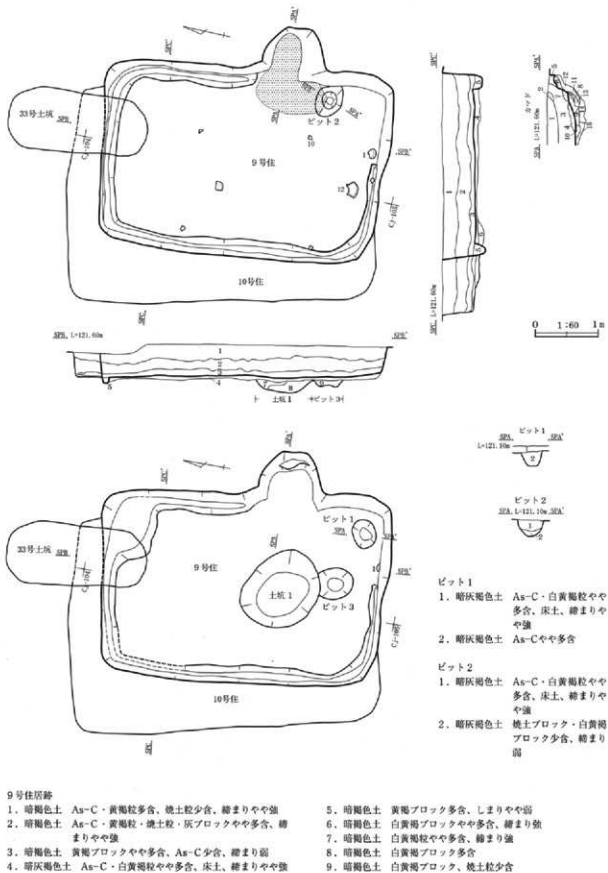
その他：8号住居跡ほどの量はないが、羽口や鉄洋

が出土するなど、本住居跡も鉄生産との何らかの関

連があったことを示している。出土している土師器

坏や土師器甕より、本住居跡の時期は8世紀前半と

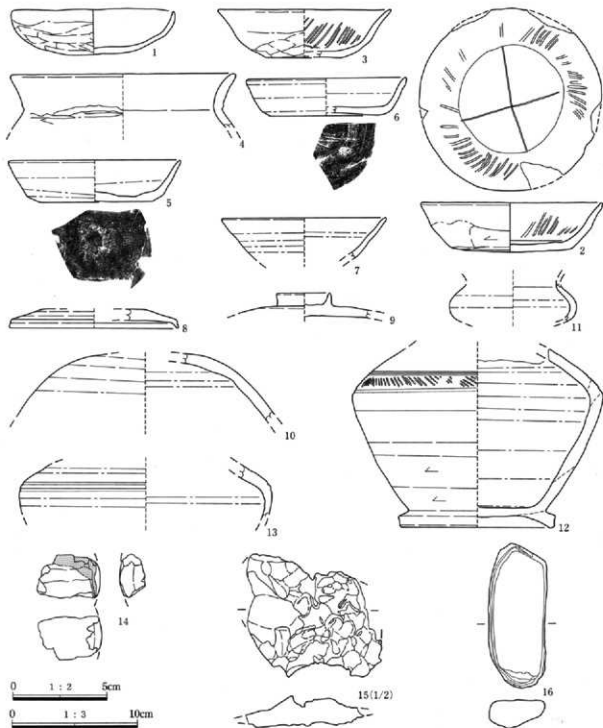
判断される。



2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物

カマド

- | | | | |
|---------|--------------------|-----------|------------------------|
| 1. 暗褐色土 | As-C・焼土粒やや多含、粘性弱 | 8. 暗灰褐色土 | 焼土粒やや多含、締まり・粘性弱 |
| 2. 暗褐色土 | 焼土粒やや多、As-C少含、粘性弱 | 9. 暗灰褐色土 | 焼土粒・黄褐ブロックやや多含、締まり・粘性弱 |
| 3. 暗褐色土 | As-C・焼土粒やや多含、粘性弱 | 10. 暗灰褐色土 | 焼土ブロックやや多含、粘性弱 |
| 4. 暗褐色土 | 焼土ブロック・灰多含 | 11. 暗灰褐色土 | 焼土ブロック多含、粘性弱 |
| 5. 暗褐色土 | 焼土粒・焼土ブロックやや多含、粘性弱 | 12. 暗褐色土 | 焼土粒やや多含、黄褐粒少含 |
| 6. 暗褐色土 | 焼土粒多含 | 13. 暗灰褐色土 | 灰・焼土粒多含 |
| 7. 暗褐色土 | 焼土ブロック多含、締まり弱 | 14. 暗褐色土 | 黄褐粒多、焼土粒やや多含、粘性弱 |
| | | 15. 暗褐色土 | 黄褐ブロック・焼土粒多含、粘性弱 |



第25図 9号住居跡出土遺物

第2章 塚田村東N遺跡の調査

9号住居跡 遺物観察表

採回番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
第25図1 PL_15	土師器 環	床直上・掘り方 ほぼ完	口 12.9 底 - 高 3.5	胎 砂粒やや多 焼 酸化焰 良好 色 にぶい橙	胎 砂粒やや多 黒色・白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい橙	口唇部内湾 外面：口縁部横ナデ、体部～底部へう削り 内面：横ナデ		
第25図2 PL_15	土師器 環	掘り方覆土 ほぼ完	口 14.4 底 9.6 高 8.9	胎 φ3mmの小礫 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 橙	胎 φ3mmの小礫 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部～底部へう削り 内面：ナデの後、体部放射状増文、底部「十」字状の刻み		
第25図3 PL_15	土師器 環	覆土 ほぼ完	口 (13.7) 底 (6.0) 高 2.8	胎 砂粒やや多 白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 明赤褐	胎 砂粒やや多 白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 明赤褐	外面：口縁部横ナデ、体部～底部へう削り 内面：ナデの後、体部放射状増文・底部螺旋状増文		
第25図4 PL_15	土師器 壺	覆土 口～体上半 1/6	口 (17.8) 底 - 高 (4.3)	胎 細砂粒やや多 白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい赤褐	胎 細砂粒やや多 白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい赤褐	外面：口縁部横ナデ、体部へう削り 内面：横ナデ		
第25図5 PL_15	須恵器 環	覆土 ほぼ完	口 (13.6) 底 (9.2) 高 (3.3)	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形 (右回転) 底部：回転へう削り後ナデ調整		
第25図6 PL_15	須恵器 環	覆土 ほぼ完	口 (12.6) 底 (8.6) 高 3.0	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 やや不良 色 灰	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 やや不良 色 灰	輪軸整形 (右回転) 底部：回転へう削り後ナデ調整		
第25図7 PL_16	須恵器 埴	覆土 口～体1/4	口 (13.0) 底 - 高 3.3	胎 細砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	胎 細砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形 (右回転) 外面：自然軸付着		
第25図8 PL_16	須恵器 壺	覆土 口～天井 1/8	口 (13.4) 底 - 高 (1.5)	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形 (右回転) 外面：天井部上半回転へう削り		
第25図9 PL_16	須恵器 壺	覆土 口～天井 横2/3	口 - 底 4.4 高 (2.0)	胎 φ2mmの小礫 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	胎 φ2mmの小礫 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形 (右回転) 外面：天井部回転へう削り		
第25図10 PL_16	須恵器 壺	覆土 体1/6	口 - 底 - 高 (5.6)	胎 砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	胎 砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形 (右回転) 外面：天井部上半回転へう削り		
第25図11 PL_16	須恵器 小壺	覆土 体1/8	口 - 底 - 高 (3.3)	胎 細砂粒少 黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	胎 細砂粒少 黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形		
第25図12 PL_16	須恵器 長頸壺	床直上 体～底1/2	口 - 底 (12.2) 高 (14.1)	胎 φ3mm小礫 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	胎 φ3mm小礫 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形 (右回転) 体部：下半へう削り 底部：回転へう削り後、付け高台		
第25図13 PL_16	須恵器 壺	覆土 体1/6	口 - 底 - 高 (4.4)	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形		
第25図14 PL_16	羽口	覆土 先端～体破 片	長 (5.0) 外径 (8.4) 内径 -	胎 砂粒少 白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい黄橙	胎 砂粒少 白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい黄橙	外面：ナデ	先端部付着は還元化している	
採回番号	種類	出土位置	計測値 (cm)			特徴		
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	特徴	
第25図15 PL_16	鉄滓 輪形鍛冶滓	覆土 欠損あり	(6.7)	(6.1)	1.6	75	輪形鍛冶滓 (極小) 鍛錬鍛冶滓、磁着度2・メタル層 (Δ)	
採回番号	種類	出土位置	計測値 (cm)			石材	特徴	
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ			
第25図16 PL_16	石製品 磨礫石か	覆土 ほぼ完	11.3	4.4	2.4	雲母石英片岩	先端部に敲打痕	

10号住居跡 (第26・27図、遺構PL.3、遺物PL.16)

位置：Ci～Ck-104～105

長軸方位：N-13°-W

規模・形状：本住居跡は西壁付近と北壁付近を除く大半が重なっている9号住居跡に切られていた。検出部での計測で、4.90m×3.47mの隅丸長方形を呈すると推測される。床面積は不明で、壁の高さは0.5mである。

カマド：検出されていない。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：平坦で、やや固く締まっていた。

出土遺物：図示した遺物はすべて覆土からの出土であった。

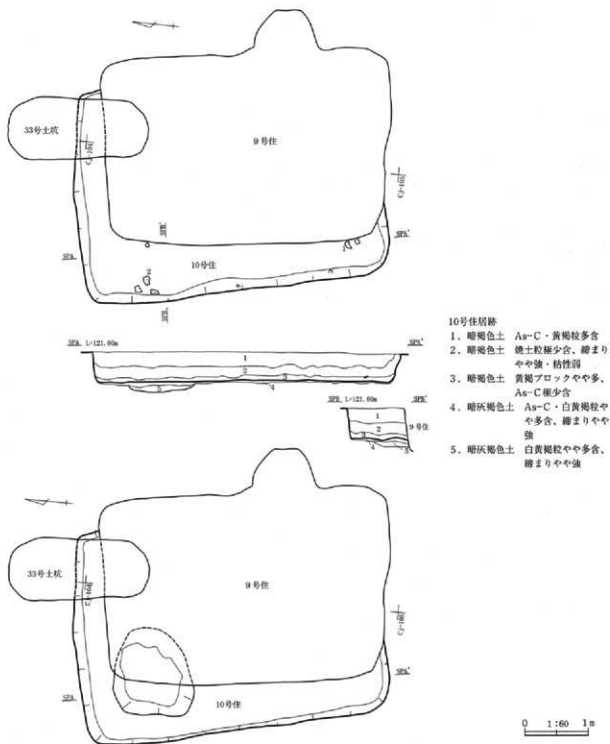
重複遺構：本住居跡より少しだけ東南にずれて重なるように9号住居跡が重複し、新旧関係は遺構の平

2. 塚田村東N遺跡の遺構と遺物

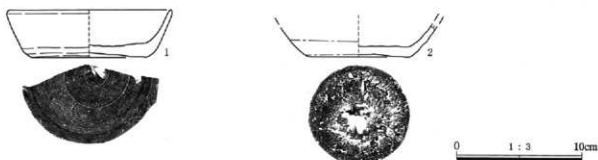
面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、北壁東端で33号土坑とも重複し、

近いことから、建て替えなどが行われた可能性がある。出土している須恵器環と重複関係より、本住居跡の時期は8世紀前葉と判断される。

その他：出土遺物の時期や場所は9号住居跡と極め



第26図 10号住居跡



第27図 10号住居跡出土遺物

10号住居跡 遺物観察表

探図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・柱法等の特徴	備考
第27図 1 PL.16	須恵器 坏	覆土 口~底1/3	口 (13.1) 底 (9.1) 高 3.7	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 白色 灰色	横紐整形 (右回転) 底部: 回転ヘラ切り後、回転ヘラ調 整	
第27図 2 PL.16	須恵器 坏	覆土 体~底 底完 軸1/4	口 - 底 8.0 高 (2.6)	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 白色 良好 灰色	横紐整形 (右回転) 底部: 回転ヘラ切り後、部分的にヘ ラナデ調整	内面底部はス レ、転用痕か

11号住居跡 (第28・29図、遺構PL.3、遺物PL.16)

位置: Cj~Cl-84~86

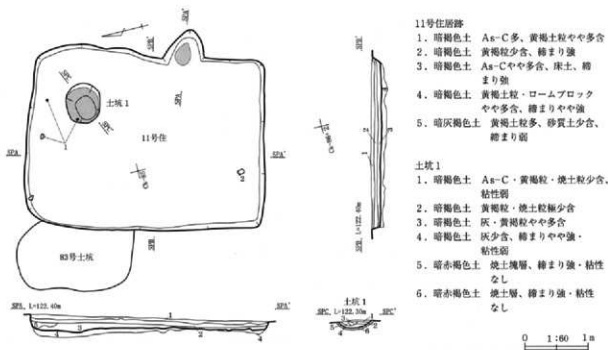
長軸方位: N-14°-E

規模・形状: 3.85m×2.92mの隅丸長方形を呈する。

床面積は9.75m²で、壁の高さは0.28mである。

カマド: 燃焼部の幅は0.53mで、張り出しは壁から0.51mであった。

内部施設: 本住居跡北東部のほぼ中央で焼土が円形状に広がっていた。0.61m×0.59mで、焼土の分布は南西部と中央がやや落ち込んでいた。断面で見ると、鉄滓状のものを多く含む固い層が焼土塊層の上に広がっていた。鉄生産と関連した炉の一種と考えられる。壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。



第28図 11号住居跡

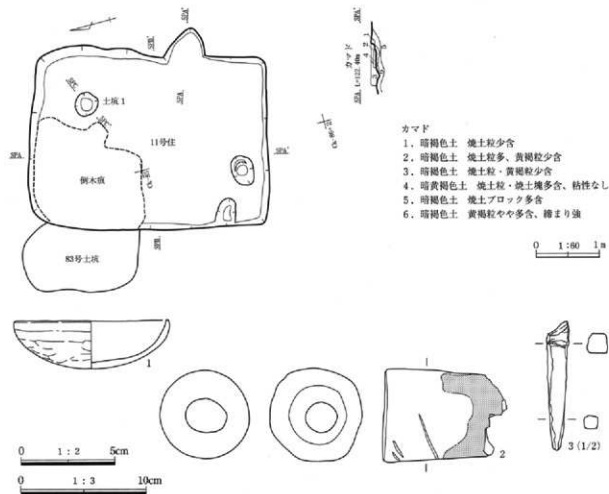
2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物

床面：ほぼ平坦だが、北から南にかけて緩やかに傾斜していた。床は固く締っていた。

出土遺物：土師器坏（No 1）は床上3cm以内の床に近いところから出土した。羽口（No 2）は床面直上の出土である。覆土からの出土であるが、鉄釘（No 3）も出土している。鉄製品で図示したのは1点だけだが、他にも鉄製品の破片が数点出土している。重複遺構：本住居跡の西壁北よりで83号土坑と重複

し、新旧関係は遺構の平面確認時と堀土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。また、北西部では床下から倒木痕を検出した。

その他：出土した土師器坏より、本住居跡の時期は8世紀前葉と判断される。本住居跡からは、炉跡や羽口、鉄製品を伴っており、鉄生産との関係が深い住居跡である。



第29図 11号住居跡掘り方、出土遺物

11号住居跡 遺物観察表

調査番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調			器形・技法等の特徴	備考
第29図 1 PL. 16	土師器 坏	床上1~3cm	口 12.2 底 - 高 3.8	胎 砂粒少 焼 酸化偏 色 橙	白色灰物 良好	口唇部やや内湾 外面：口縁部横ナデ、体部~底部へラ削り 内面：横ナデ		
第29図 2 PL. 16	羽口	床直上	長 (9.6) 外径 7.3 内径 3.3	胎 粗砂粒やや多 焼 酸化偏 色 明褐色	白色灰物 良好	外面：先端部付近に、へラ軌状の沈線が入る	体部の一部は還元化している	
第29図 3 PL. 16	鉄製品 釘	覆土 断面欠損	長さ 6.9	幅 1.2	厚さ 1.1	重量 (g) 18	頭部折り曲げの角釘	

12号住居跡 (第30・31図、遺構PL.4、遺物PL.16)

位置：Ci-CI-92~93

北壁軸方位：N-89°-E

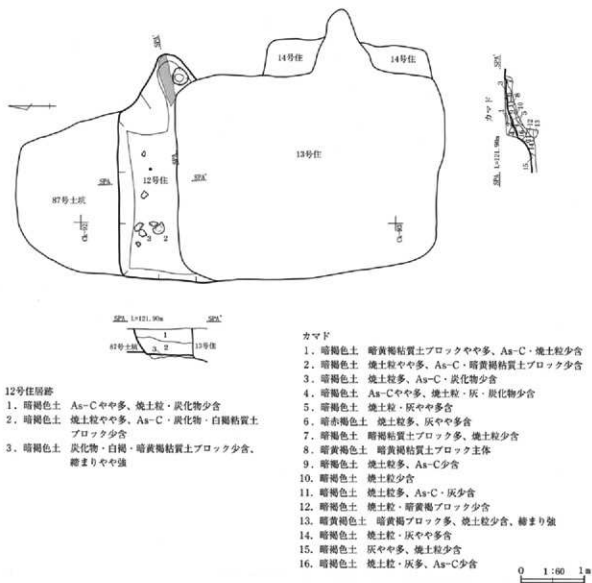
規模・形状：本住居跡は南側を中心として多くが13号住居跡によって切られている。検出部で東西2.75m×南北0.93mあり、隅丸方形を呈すると考えられる。床面積は不明であり、壁の高さは0.54mである。カマド：東壁に構築されていた。燃焼部の一部と南側の袖は13号住居跡によって切られていた。燃焼部の幅は不明で、張り出しは壁から0.64mであった。内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。床面：一部しか残存していないが、平坦で、やや固

く締まっていた。

出土遺物：土師器杯 (No 2) は床面直上からの出土である。

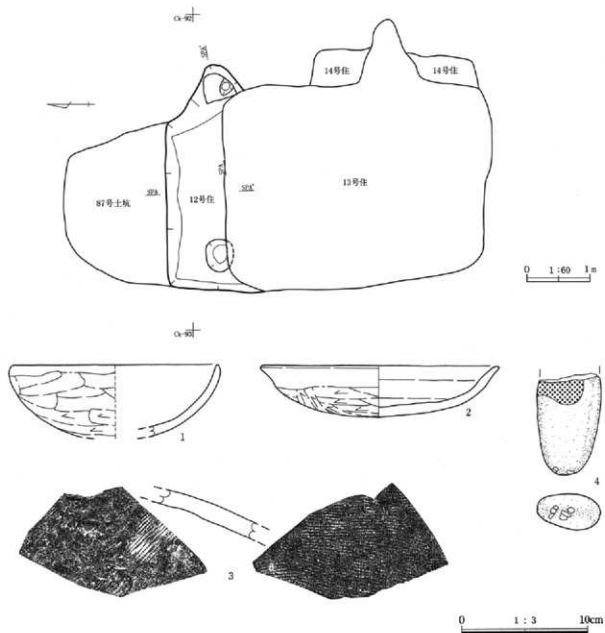
重複遺構：本住居跡の南側で13号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、北壁では87号土坑と重複するが、平面と断面の状況から本住居跡が新しいと判断される。

その他：出土している土師器杯より、本住居跡の時期は8世紀前葉と判断される。



第30図 12号住居跡

2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物



第31図 12号住居跡掘り方、出土遺物

12号住居跡 遺物観察表

埴田番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)		胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
			口 底 高	計測値(cm)			
第31図1 PL.16	土師器 坏	覆土 口~底2/5	口 底 高	(16.7) - (5.7)	胎 砂粒やや多 焼 酸化焰 色 良好 靑	外面：口縁部横ナデ、体部へ ラ削り 内面：ナデ	
第31図2 PL.16	土師器 坏	床面上 口~底3/4	口 底 高	18.9 - 4.1	胎 砂粒少 焼 酸化焰 色 良好 靑	口唇部外反 外面：口縁部横 ナデ、体部~底部へラ削り 内面：ナデ	
第31図3 PL.16	須恵器 壺	覆土 体破片	口 底 高	- - -	胎 細砂粒少 焼 還元焰 色 良好 灰	外面：唇子状叩き目 内面： 差行当て具	
埴田番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)		石材	特徴	
第31図4 PL.16	石製品 磨礪石か	覆土 欠損あり	長さ	(8.0)			

13号住居跡 (第32~37図、遺構PL.4、遺物PL.16~19)

位置：Cj-CI-92~94

長軸方位：N-2°-W

規模・形状：4.32m×3.25mの隅丸長方形を呈する。

床面積は11.46㎡で、壁の高さは0.52mである。

カマド：東壁中央よりやや南側に構築されていた。燃焼部の幅は0.83m、煙道部も含めて、張り出しは壁から1.13mであった。袖の構築材には縄や瓦が使われていた。

内部施設：北西、南西角を除く西壁下に壁溝が巡る。貯蔵穴が南壁下やや東よりあり、1.26m×0.96mで、深度0.15mであった。また、南東角、北壁下やや西より、カマドの北西にそれぞれ土坑状の落ち込みが検出されている。ピットは検出できなかった。

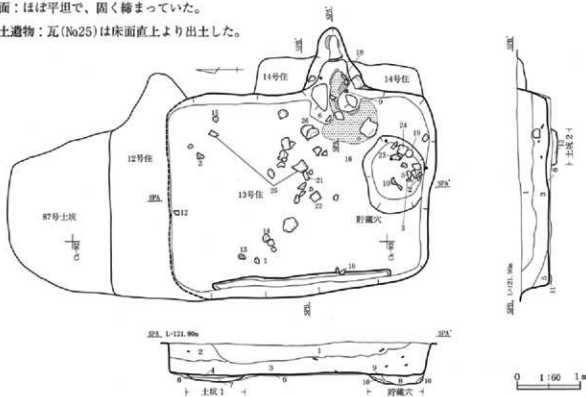
床面：ほぼ平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：瓦(No25)は床面直上より出土した。

瓦(No21)は床から掘り方土にかけての出土であった。土師器甕(No2)は床面直上と貯蔵穴から出土した。カマドからは土師器甕(No4、6)、須恵器坏(No9、12)、須恵器皿(No18)が出土した。貯蔵穴からは土師器甕(No3)、須恵器坏(No10)、須恵器皿(No19)、瓦(No23、24)が出土した。また、須恵器坏(No17)と鉄釘(No28)は土坑1から、須恵器坏(No11)は土坑2の出土である。

重複遺構：本住居跡の北側で12号住居跡と、南部で14号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。

その他：出土遺物の傾向より、本住居跡の時期は9世紀第3四半期と判断される。



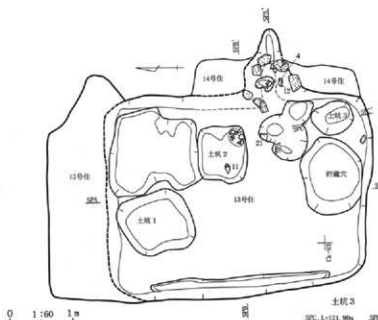
13号住居跡

1. 暗褐色土 As-C やや多、焼土粒・白濁粘質土ブロック少含
2. 暗褐色土 As-C・焼土粒・炭化物少含
3. 暗褐色土 As-C・焼土粒・炭化物・白濁粘質土ブロック少含
4. 暗灰褐色土 暗濁粘質土ブロック少含
5. 暗褐色土 焼土粒・炭化物・白濁粘質土ブロック少含
6. 暗褐色土 白濁・暗黄濁粘質土ブロックやや多、焼土粒・炭化物少含、床土、締まり強

7. 暗褐色土 白濁・暗黄濁粘質土ブロックやや多含、締まり強
8. 暗褐色土 焼土粒・炭化物・灰やや多、暗濁粘質土ブロック少含
9. 暗褐色土 焼土粒・灰・暗濁粘質土ブロック少含
10. 暗褐色土 暗濁粘質土ブロックやや多含
11. 暗褐色土 白濁・暗黄濁粘質土ブロックやや多含
12. 暗褐色土 灰多、焼土粒・暗濁粘質土ブロック少含、締まり弱

第32図 13号住居跡

2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物

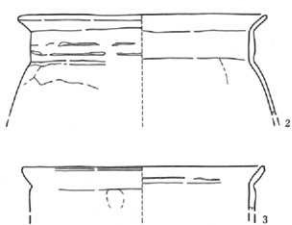
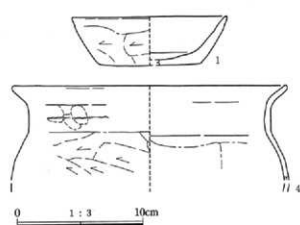
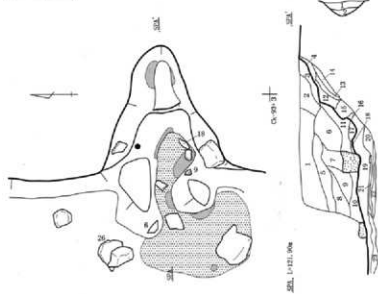


カマド

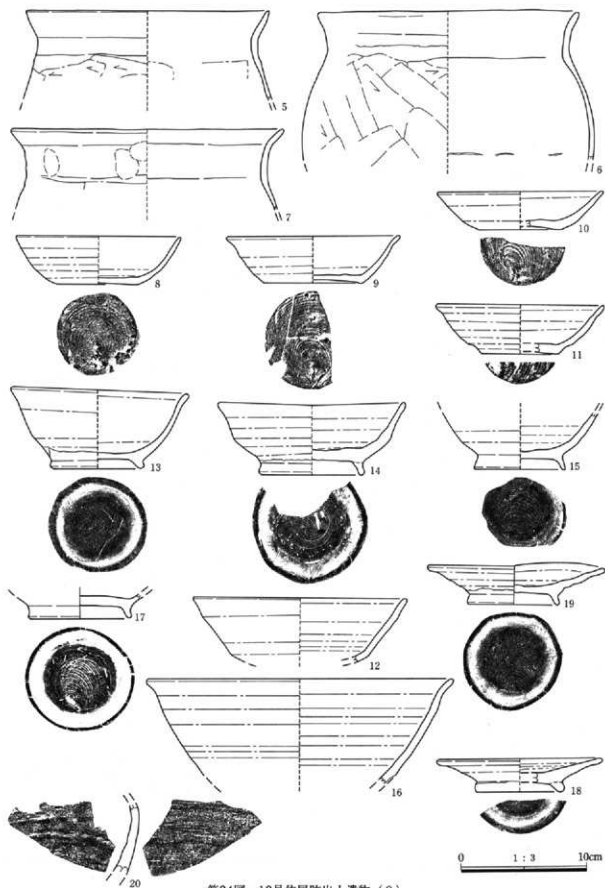
1. 暗褐色土 As-C ややや多、焼土粒・炭化物少含
2. 暗褐色土 焼土粒・As-C・暗褐色粘質土ブロック少含
3. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロックやや多含
4. 暗褐色土 焼土粒多含、締まり強、粘性弱
5. 暗褐色土 As-C・焼土粒やや多、炭化物少含
6. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロックやや多、As-C・焼土粒・炭化物少含、締まり弱
7. 暗褐色土 As-C・焼土粒・暗褐色粘質土ブロック少含
8. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロックやや多、As-C・焼土粒少含
9. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含
10. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロックやや多、焼土粒少含、締まり弱
11. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロックやや多含
12. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロックやや多、焼土粒少含
13. 暗褐色土 焼土粒多
14. 暗褐色土 焼土粒少含、締まり弱
15. 暗褐色土 焼土粒やや多含、締まり強
16. 暗褐色土 灰やや多含、締まり弱・粘性弱
17. 暗褐色土 焼土・炭化物多含、締まり強・粘性弱
18. 暗褐色土 焼土・炭化物多含、粘性弱
19. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロックやや多、焼土粒少含
20. 暗褐色土 灰多・焼土粒やや多含、締まり強・粘性弱
21. 暗褐色土 焼土粒やや多、灰・炭化物少含
22. 暗褐色土 灰多、焼土粒・炭化物少含
23. 暗褐色土 灰・焼土粒多含

土坑3

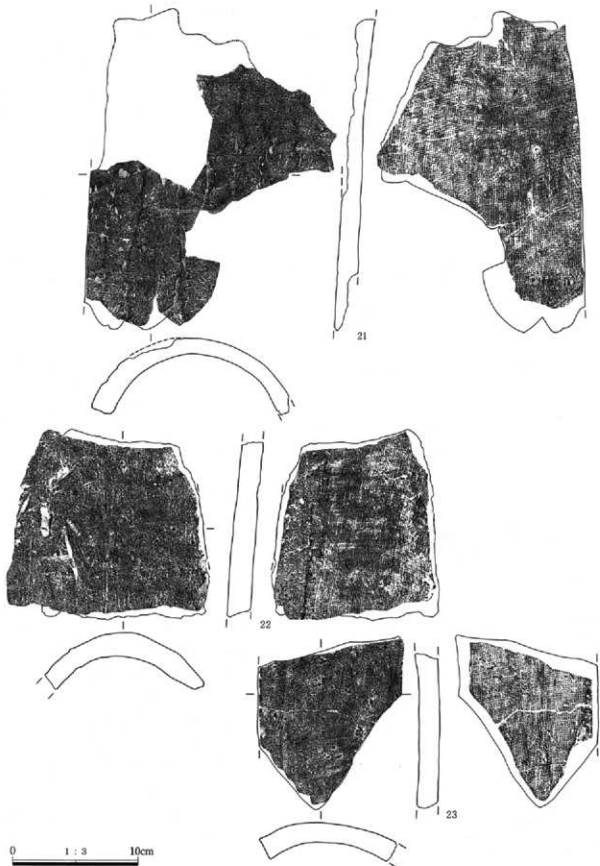
1. 暗褐色土 焼土粒・炭化物・暗褐色粘質土ブロック少含
2. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロックやや多、焼土粒少含



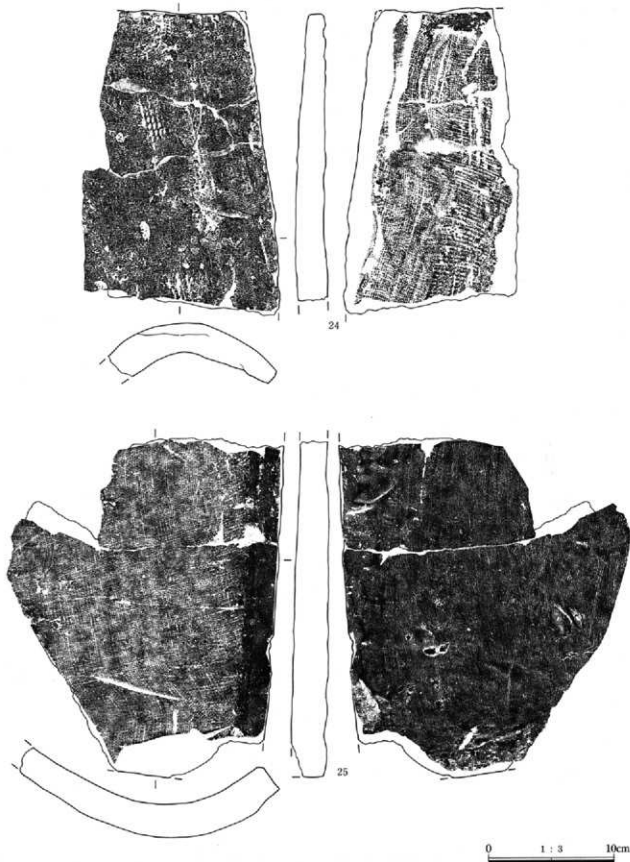
第33図 13号住居跡掘り方、カマド出土遺物(1)



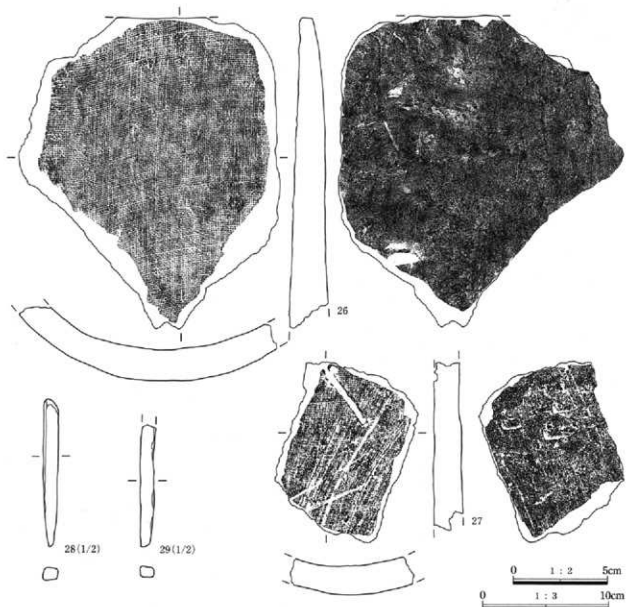
第34図 13号住居跡出土遺物(2)



第35図 13号住居跡出土遺物(3)



第36図 13号住居跡出土遺物(4)



第37図 13号住居跡出土遺物(5)

13号住居跡 遺物観察表

神居番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第33図1 PL 16	土師器 坏	覆土 口～底2/5	口 (12.2) 底 (8.0) 高 3.8	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 靑	外面：口縁部横ナデ、体部へラ削り 内面：ナデ	
第33図2 PL 16	土師器 甕	床直上・貯蔵穴 口～体2/3	口 19.6 底 - 高 (7.7)	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 靑い濁	外面：口縁部横ナデ、頸部にへラ削り残る、体部へラ削り 内面：横ナデ	
第33図3 PL 16	土師器 甕	貯蔵穴 口～体2/3	口 (19.2) 底 - 高 (3.6)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 明靑	外面：口縁部横ナデ、頸部に指頭状圧痕 内面：横ナデ	
第33図4 PL 17	土師器 甕	カマド 口～体2/3	口 (21.7) 底 - 高 (7.5)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色・赤色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 明靑	外面：口縁部横ナデ、頸部に指頭状圧痕、体部へラ削り 内面：横ナデ	
第34図5 PL 17	土師器 甕	貯蔵穴 口～体上2/5	口 (19.2) 底 - 高 (6.9)	胎 砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 靑	外面：口縁部横ナデ、体部へラ削り 内面：横ナデ	

第2章 塚田村東Ⅳ遺跡の調査

第34図6	土師器 甕	カマド	口 (20.8) 底 - 高 (11.5)	胎 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 明褐色	外面：口縁部横ナデ、体部へう削り 内面：横ナデ				
PL.17									
第34図7	土師器 甕	カマド覆土	口 (21.6) 底 - 高 (6.4)	胎 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 内面にぶい地	外面：口縁部横ナデ、胴部に指面圧痕残る、体部へう削り 内面：横ナデ				
PL.17									
第34図8	須恵器 坏	覆土	口 (13.1) 口～底 底 6.5 5/6 他1/3 高 3.8	胎 細砂粒少 黒色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰	横輪整形 (右回転) 底部：回転糸切り				
PL.17									
第34図9	須恵器 坏	カマド	口 (13.7) 底 (7.4) 口～底1/3 高 7.8	胎 細砂粒少 白色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい黄褐色	横輪整形 (右回転) 底部：回転糸切り				
PL.17									
第34図10	須恵器 坏	貯蔵穴	口 (13.2) 底 7.8 口～底1/3 高 3.8	胎 φ4mm小礫 細砂粒少 白色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰黄	横輪整形 (右回転) 底部：回転糸切り				
PL.17									
第34図11	須恵器 坏	土坑2	口 (13.2) 底 (6.2) 口～底3/7 高 3.9	胎 φ2mm小礫 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 酸化焰 良好 色 灰白	横輪整形 (右回転) 底部：回転糸切り				
PL.17									
第34図12	須恵器 坏	カマド	口 (16.8) 底 - 口～体1/6 高 (5.1)	胎 φ2mm小礫 砂粒少 白色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰白	横輪整形				
PL.17									
第34図13	須恵器 甕	覆土	口 14.2 口～底 底 7.5 完 他1/2 高 6.5	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 還元焰 やや軟 色 灰黄	横輪整形 (右回転) 底部：回転糸切り後、付け高台				
PL.17									
第34図14	須恵器 甕	覆土	口 (14.8) 底 8.3 口～底1/3 高 5.7	胎 φ3mm小礫 砂粒少 白色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰	横輪整形 (右回転) 底部：回転糸切り後、付け高台				
PL.17									
第34図15	須恵器 甕	覆土	口 - 口～底 底 7.2 ほぼ完 他1/8 高 (4.4)	胎 砂粒少 白色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰黄褐色	横輪整形 (右回転) 底部：回転糸切り後、付け高台				
PL.17									
第34図16	須恵器 甕	覆土	口 (24.2) 底 - 口～体1/6 高 (8.7)	胎 細砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰	横輪整形 口縁部が外反する				
PL.17									
第34図17	須恵器 甕	土坑1 覆土	口 - 底 8.2 底ほぼ完 高 (1.9)	胎 φ2mm小礫 砂粒やや多 白・黒色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰	横輪整形 (右回転) 底部：回転へう切り後、付け高台				
PL.17									
第34図18	須恵器 甕	カマド	口 (13.0) 底 (7.1) 口～底1/4 高 2.6	胎 細砂粒少 黒色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰	横輪整形 (右回転) 底部：回転糸切り後、付け高台				
PL.17									
第34図19	須恵器 甕	貯蔵穴	口 14.0 底 7.3 口～底5/6 高 3.1	胎 細砂粒少 黒色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰白	横輪整形 (右回転) 底部：回転糸切り後、付け高台				
PL.17									
第34図20	須恵器 壺	覆土	口 - 底 - 作破片 高 -	胎 粗砂粒やや多 白色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰	横輪整形 (右回転)				
PL.17									
神田番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・輪痕・ 一枚作り可能性	粘土板 (副 取表・裏・ 接合)	布目痕 (合目 ・擦消)・瓦 乾燥時圧痕	縦輪使用・ 叩き技法・ 型式名称	側面 図取	備考
第35図21	丸瓦	床直上・ 掘り方	胎 焼 並 色 並 黄灰 黄	製 不明 輪 一	表 裏 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	横 × 叩 × 型 タテ削	2	吉井宮 8世紀後半～9世紀初
PL.17		破片							
第35図22	丸瓦	覆土	胎 焼 並 色 並 黄灰 黄	製 2枚 輪 一	表 裏 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	横 ○ 叩 回転後 型 タテ削	2	笠懸宮 8世紀後半～9世紀初
PL.18		破片							
第35図23	丸瓦	貯蔵穴	胎 焼 並 色 並 黄灰 黄	製 輪 なし 輪 一 あり	表 裏 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	横 × 叩 × 型 タテ削	2	笠懸宮 8世紀後半
PL.19		破片							
第36図24	丸瓦	貯蔵穴	胎 焼 並 色 並 黄灰 黄	製 輪 △ 輪 一	表 裏 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	横 ○ 叩 横溝 型	2	非陶土質 8世紀後半
PL.18		破片							
第36図25	平瓦	床直上	胎 焼 軟 色 並 黄灰 黄	製 輪 △ 輪 一 あり	表 裏 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	横 × 叩 × 型 タテ削	2	笠懸宮・非陶土質 8世紀後半～9世紀初
PL.18		破片							
第37図26	平瓦	覆土	胎 焼 軟 色 並 黄灰 黄	製 輪 なし 輪 一 あり	表 裏 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	横 × 叩 × 型 タテ削	-	笠懸宮 8世紀後半～9世紀初
PL.19		破片							
第37図27	平瓦	土坑1 覆土	胎 焼 密 色 灰白	製 輪 なし 輪 一 あり	表 裏 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	横 × 叩 素文 型	-	吉井宮 8世紀後半～9世紀初
PL.18		破片							

押込番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			特徴	
			長さ	幅	厚さ		
第37図28 PL.19	鉄製品 棒状品	土坑1 覆土 欠損あり	(7.8)	0.8	0.7	8	側部が欠損した角釘か
第37図29 PL.19	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	(6.5)	0.7	0.6	5	側部と先端部が欠損した角釘か

14号住居跡 (第38・39図、遺構PL.4、遺物PL.19)

位置：Cj～Ck-92～94

東壁軸方位：N-3°-E

規模・形状：本住居跡は東側を除いた大半が13号住居跡によって切られている。検出部で南北2.7m×東西0.6mあり、隅丸方形を呈すると考えられる。床面積は不明であり、壁の高さは0.14mである。

カマド：検出されていない。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

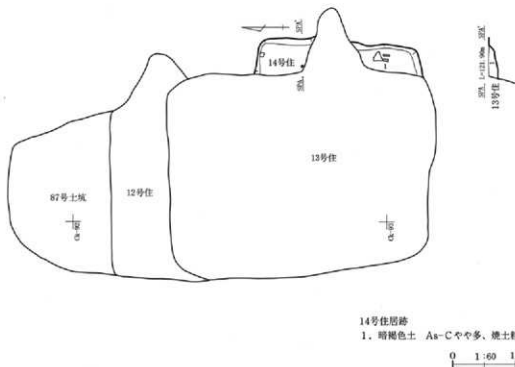
床面：一部しか残存していないが、平坦でやや固く

締まっていた。

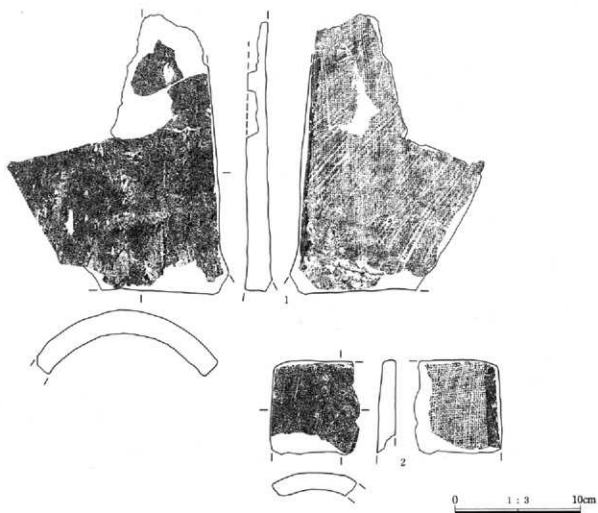
出土遺物：瓦 (No.1) は床面直上からの出土である。

重複遺構：本住居跡は東側の一部を除いた大半が13号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他：図示できた遺物は瓦だけであり、時期の特定は困難である。重複関係より、9世紀第3四半期以前と考えられ、土器の破片資料より、9世紀前葉から中葉としておきたい。



第38図 14号住居跡



第39図 14号住居跡出土遺物

14号住居跡 遺物観察表

神田番号	瓦種	出土位置	胎土・焼成・色調	製作法・桶痕・一枚作り可能性	粘土板(洞取表・裏・接合)	布目織(合目・捺酒)・瓦乾燥時圧痕	轆轤使用・印字技法・型式名称	個部面取	備考	
第39図1		床直上 残存状態	胎 桃 色	並 差 灰ナリ	製 —	2枚型寄木 桶 —	表 × 裏 ○ 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	轆 × 印 型 タテ摺	笠懸室 8世紀中～後葉
PL.19		踏男 部 破片						3		
第39図2		覆土	胎 桃 色	並 差 灰黄	製 桶 —	2枚 —	表 × 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	轆 ○ 印 型 圓転撫	笠懸室 8世紀中～後葉
PL.19		丸瓦 有段 小破片						2		

15号住居跡 (第40・41図、遺構PL.4、遺物PL.19・20)

位置：Cg-Ch-116~117

北壁軸方位：N-34°-W

規模・形状：大半は調査区域外であり、本住居跡は北壁の一部と、そこから南東に向かった部分が細長く検出できただけである。検出部で南北2.2m×東西0.87mあるが、形状・面積は不明である。壁の高さは0.3mである。

カマド：検出されていない。

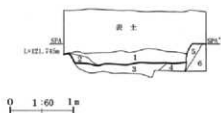
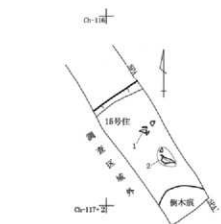
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：平坦で、床は固く締まっていた。

出土遺物：土師器坏 (No 1) と土師器甕 (No 2) は床面直上より出土した。土師器甕 (No 3) と須恵器壺 (No 6)、須恵器甕 (No 9) は掘り方土からの出土であった。

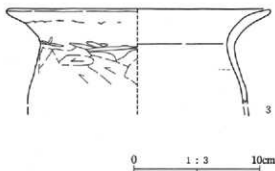
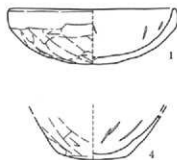
重複遺構：遺構との重複はないが、検出部南端で本住居跡より新しい倒木痕が存在する。

その他：出土している土師器須恵器の様相より、本住居跡の時期は8世紀前葉と判断される。

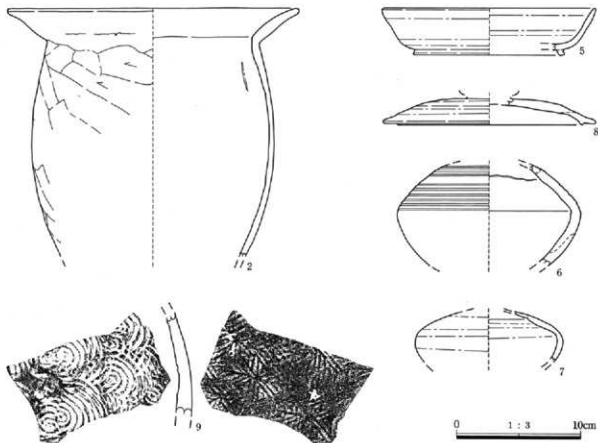


15号住居跡

1. 暗灰褐色土 As-C・ローム粒少含、締まり・粘性弱
2. 暗灰褐色土 As-Cやや多含、1層より黒い、締まり・粘性弱
3. 暗灰褐色土 As-C・ロームブロック少、焼土粒・炭化物極少含、床土、締まり強
4. 暗白褐色土 白濁粘質土ブロックやや多含、粘性やや強
5. 暗白褐色土 白濁粘質土ブロックやや多含、締まり弱
6. 黒褐色土 As-Cやや多含、締まり弱



第40図 15号住居跡、出土遺物 (1)



第41図 15号住居跡出土遺物(2)

15号住居跡 遺物観察表

標図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第40図1 PL_19	土師器 坏	床直上 口~底3/7	口 (13.3) 底 - 高 4.3	胎 砂粒少 白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面:口縁部横ナデ、体部~ 底部へラ削り 内面:へラナ デ、へラ痕残る	
第41図2 PL_19	土師器 甕	床直上 口~体1/4	口 (23.1) 底 - 高 (19.7)	胎 細砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面:口縁部横ナデ、体部へ ラ削り 内面:横へラナデ、 へラ痕残る	
第40図3 PL_19	土師器 甕	掘り方 口~体上3/7	口 (20.8) 底 - 高 (7.4)	胎 φ2mm小礫 砂粒少 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面:口縁部横ナデ、体部 へラ削り 内面:横へラナデ	
第40図4 PL_19	土師器 甕	覆土 体下~底2/5	口 - 底 (5.0) 高 (3.4)	胎 細砂粒少 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい橙	外面:体部~底へラ削り 内 面:へラナデ、へラ痕残る	
第41図5 PL_20	須恵器 高台付坏	覆土 口~底1/5	口 (17.0) 底 (12.0) 高 3.7	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰白	輪轆整形 外面:口唇部・底 部に自然輪 内面:口縁~体 部に自然輪	
第41図6 PL_20	須恵器 壺	掘り方 体3~7	口 - 底 - 高 (8.1)	胎 細砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪轆整形 内面:粘土帯痕残 る	
第41図7 PL_20	須恵器 壺	覆土 体1~3	口 - 底 - 高 (4.0)	胎 粗砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪轆整形	
第41図8 PL_20	須恵器 壺	覆土 口~底1/3	口 (16.8) 横 - 高 (2.2)	胎 細砂粒少 黒色・白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪轆整形(右回転) 外面天 井部上半回転へラ削り	
第41図9 PL_20	須恵器 甕	掘り方 体破片	口 - 底 - 高 -	胎 砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰白	外面:格子状叩き目 内面: 青海波文	

II 竪穴状遺構

1号竪穴状遺構 (第42図、遺構PL.4、遺物PL.20)

位置: Ci~Cj-102~104

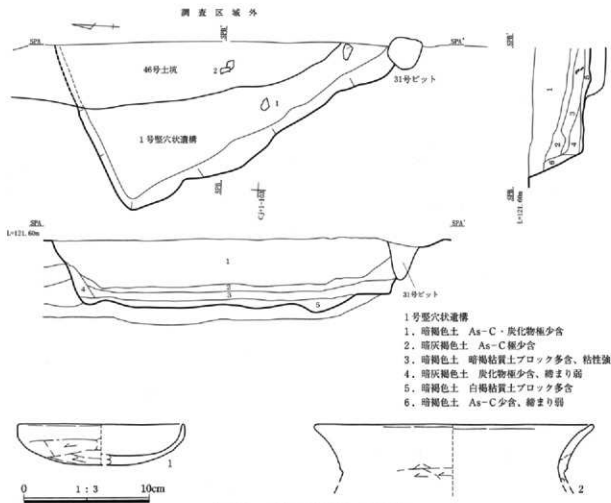
長軸方位: N-34°-W

概要: 調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。形状は方形を呈すると考えられ、竪穴状居跡の可能性もある。

出土遺物: 土師器坏 (No1) は、底面付近で出土した。

重複遺構: 本竪穴状遺構は東側で46号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本遺構が新しいと判断される。また、南端で31号ピットと重複するが、平面と断面の状況から本遺構が古いと判断される。

その他: 出土した土師器坏より、本遺構の時期は8世紀中葉と判断される。



第42図 1号竪穴状遺構、出土遺物

1号竪穴状遺構 遺物観察表

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第42図1 PL.20	土師器 坏	底面 口~底1/5	口 (13.2) 底 - 高 3.3	胎 砂粒やや多 焼 酸化焰 色 良好 橙	外面: 口縁部横ナデ、体部~ 底部へラ削り 内面: ナデ	
第42図2 PL.20	土師器 甕	底面 口~体上1/8	口 (22.0) 底 - 高 (4.6)	胎 砂粒やや多 焼 酸化焰 色 良好 橙	外面: 口縁部横ナデ、体部へ ラ削り 内面: 横ナデ	

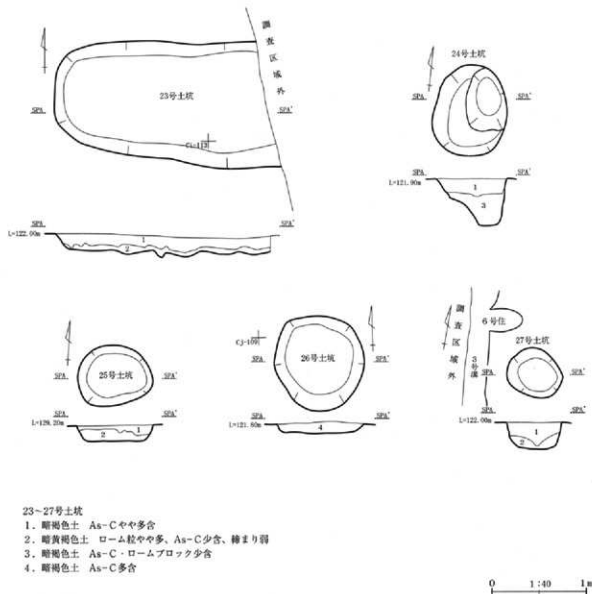
Ⅲ 土坑

本遺跡で検出された土坑の中で、奈良・平安時代に属すると考えられるものは41基である。これらの土坑の時期判別は、奈良・平安時代の住居跡と同じ確認面であることや、覆土、遺物などによる。

各土坑の大きさや形状は様々で、遺物出土量も異なる。不定型なものを除くと、円形を呈する土坑が最も多く、次に隅丸長方形となっている。遺物は土師器や須恵器が主体で、時期は8世紀～10世紀の中

に収まるものがほとんどであると判断される。遺物出土量が多い土坑を除いて、時期の判断は行っていないが、ここで紹介する土坑の時期は基本的に8～10世紀に属すると考えられる。

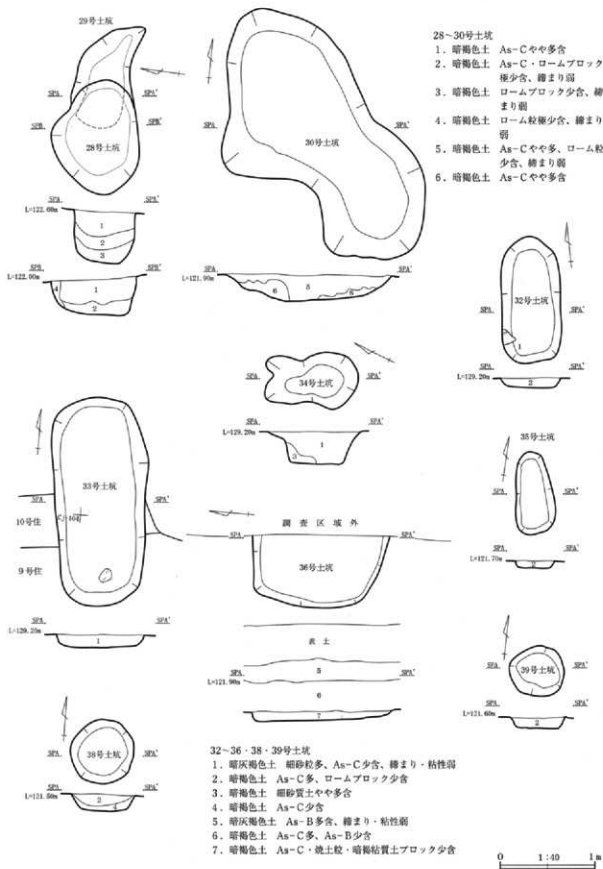
土坑の中で、焼土面の存在や遺物の出土が多いなど、特徴のある37号・46号・84号・92号土坑については記述する。その他の土坑についての詳細は、計測表を参照されたい。



- 23～27号土坑
1. 暗褐色土 As-Cやや多含
 2. 暗黄褐色土 ローム粒やや多、As-C少含、練まり弱
 3. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含
 4. 暗褐色土 As-C多含

第43図 23～27号土坑

2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物



第44図 28~30・32~36・38・39号土坑

37号土坑 (第45図、遺構PL.6、遺物PL.20)

位置: Cj~Ck-107~108

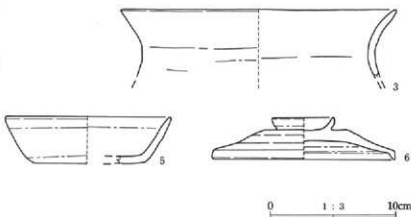
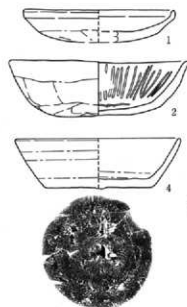
長軸方位: N-78°-E

概要: 調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。掘り込みは浅く、形状は隅丸長方形を呈すると考えらる。4号住居跡の上に掘り込まれているため、出土遺物には、その住居跡のものが含まれている可能性がある。重複遺構: 本土坑の西側で4号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本土坑が新しいと判断される。



37号土坑

1. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック少含
2. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含
3. 暗褐色土 As-C・焼土粒・白陶結質土ブロック少含
4. 暗褐色土 As-Cやや多、ローム粒少含、總まり弱



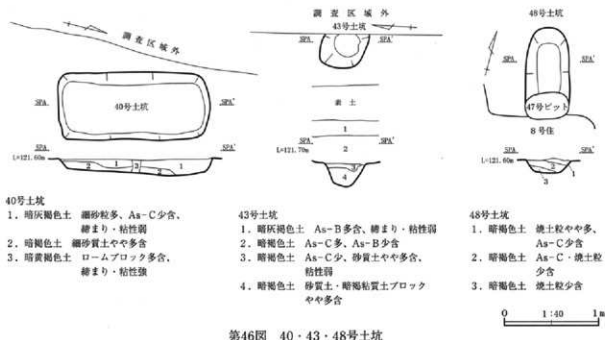
第45図 37号土坑、出土遺物

37号土坑 遺物観察表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第45図1 PL.20	土師器 坏	覆土 口~底1/5	口 (120) 底 - 高 (26)	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 におい煙	口縁部直立 外面:口縁部横ナテ、体部~底部へラ削り 内面:ナテ	
第45図2 PL.20	土師器 坏	覆土 ほぼ完	口 14.1 底 - 高 4.2	胎 φ3mmの小礫 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 橙	外面:口縁部~底部へラ削り 内面:ナテの後、体部放射状暗文、底部繩状刻文	内面底部の残存は不良
第45図3 PL.20	土師器 壺	覆土 口~体上1/4	口 (21.7) 底 - 高 (5.4)	胎 細砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 橙	外面:口縁部横へラナテ、体部へラ削り 内面:横ナテ	
第45図4 PL.20	須恵器 坏	覆土 口~底 底 ほぼ完 壺1/2	口 (13.1) 底 8.5 高 4.0	胎 細砂粒やや多 赤色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰白	壺輪盤形(右回転) 底部:回転へラ切り	
第45図5 PL.20	須恵器 坏	覆土 口~底1/6	口 13.1 底 9.0 高 3.7	胎 φ4mm小礫 細砂粒少 黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	壺輪盤形(右回転) 底部:回転へラ切り後ナテ調整	
第45図6 PL.20	須恵器 蓋	底面 横~口1/2	口 14.5 底 5.0 高 3.4	胎 φ4mm小礫 細砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	壺輪盤形(右回転) 口縁部面取りにより、断面三角形 外面:天井部上半回転へラ削り	

2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物

その他：出土遺物と重複遺構より、本土坑の時期は8世紀後半以降と判断される。



第46図 40・43・48号土坑

46号土坑 (第47・48図、遺構PL.4、遺物PL.20)

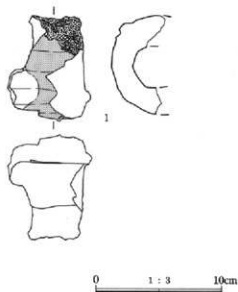
位置：Ci~Cj-102~104

長軸方位：不明

概要：調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにならなかった。掘り込みは深く、検出部で見える限りは、楕円形状を呈する。規模はかなりの大型となる可能性が高い。

重複遺構：本土坑の南西部で1号竅穴状遺構と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本土坑が古いと判断される。

その他：出土遺物と重複遺構より、本土坑の時期は8世紀前半と判断される。

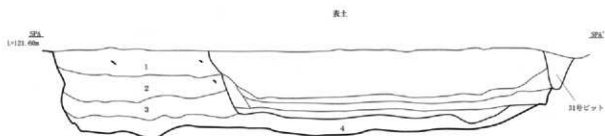
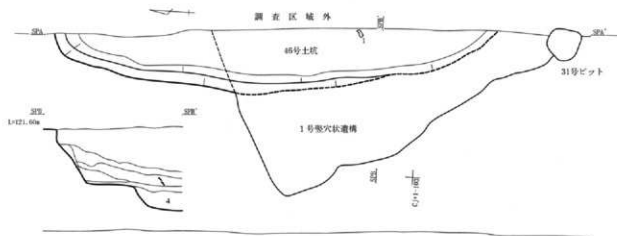


第47図 46号土坑出土遺物

46号土坑 遺物観察表

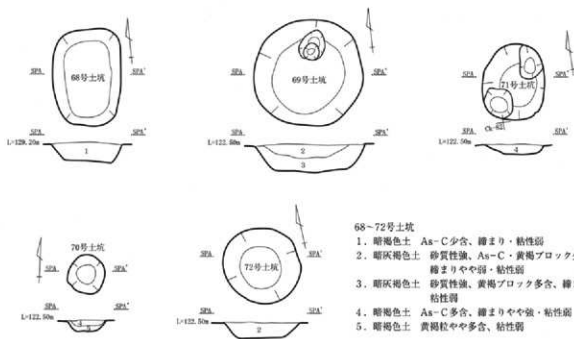
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置		計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
		種別	残存状態				
第47図1	羽口	覆土		長 (6.6) 外径 7.7 内径 (3.3)	胎 粗砂粒やや多 焼 糖化焙 良好 色 橙	外面：ヘラ刷り	外面：一部は還元化、浄化している
PL.20		体破片					

第2章 塚田村東IV遺跡の調査



46号土坑

1. 暗褐色土 As-C多、焼土粒極少含、締まりやや強・粘性弱
2. 暗褐色土 As-C多、黄褐粒少含、粘性弱
3. 暗褐色土 As-C・白濁ブロック少、黄褐粒極少含、粘性弱
4. 暗褐色土 白濁ブロック多含、締まり弱



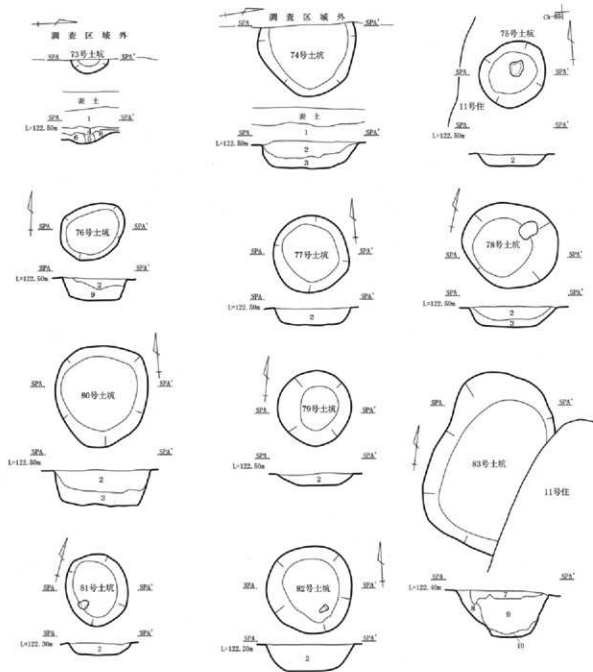
68-72号土坑

1. 暗褐色土 As-C少含、締まり・粘性弱
2. 暗灰褐色土 砂質性強、As-C・黄褐ブロック少含、締まりやや弱・粘性弱
3. 暗灰褐色土 砂質性強、黄褐ブロック多含、締まり・粘性弱
4. 暗褐色土 As-C多含、締まりやや強・粘性弱
5. 暗褐色土 黄褐粒やや多含、粘性弱



第48図 46・68-72号土坑

2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物



73～83号土坑

1. 暗灰褐色土 As-B多、黄褐粒やや多含、締まり・粘性弱
2. 暗灰褐色土 砂質性强、As-C・黄褐ブロック少含、締まり・粘性弱
3. 暗灰褐色土 砂質性强、黄褐ブロック多含、締まり・粘性弱
4. 暗灰褐色土 黄褐ブロック多含、締まり・粘性弱
5. 黒褐色土 As-C多含、締まり・粘性弱
6. 暗褐色土 黄褐粒少含、締まり弱
7. 暗褐色土 As-C・暗黄褐砂質ブロック多含、粘性弱
8. 暗黄褐色土 As-C粒少含、締まり・粘性強
9. 暗黄褐色土 暗褐ブロックやや多含、締まり・粘性弱
10. 暗褐色土 暗褐ブロック少含、締まりやや強・粘性弱

0 1:40 1m

第49図 73～83号土坑

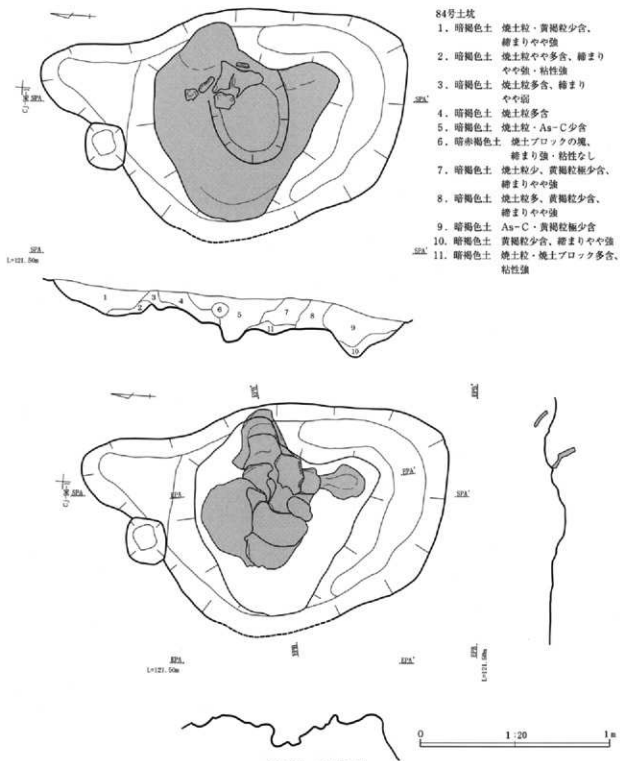
84号土坑 (第50・51区、遺構PL.8、遺物PL.20)

位置：Ci~Ck-96~97

長軸方位：N-2°-E

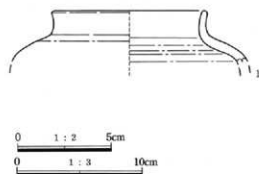
概要：本土坑は6号溝跡の北岸に造られていた。楕

円形を呈する形状で、北側に突起状の張り出しと、その張り出しの西側付け根に、浅いピット状の落ち込みがある。掘り込みは南北両端と中央がやや深く



2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物

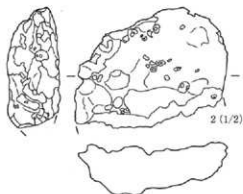
なっていた。土坑の中央には焼土面が形成されており、その中心部はやや落ち込んでいた。その焼土面を取り除くと、極めて固い、鉄滓状のものを伴う焼土塊が現れた。この焼土塊の形状は不整形で、一部は地山までくい込んでいた。焼土塊は東側に張り出しのようなものがあり、横穴状に形成されていた。本土坑で何らかの作業が行われていたとすれば、ここが作業口となっていた可能性がある。しかし、鉄滓の出土は少なく、鉄生産との関連は明らかでない。
出土遺物：少量の土師器と須恵器、鉄滓が出土した。



図示しえたのは、須恵器短頸壺 (No 1) と鉄滓 (No 2) だけである。

重複遺構：本土坑は6号溝跡の北岸で検出された。新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本土坑の埋没は古いと判断される。しかし、6号溝跡の開前時期は明らかでなく、6号溝跡に伴っていた時期がある可能性がある。

その他：出土した須恵器より、本土坑の時期は8世紀代と判断される。



第51図 84号土坑出土遺物

84号土坑 遺物観察表

検出番号	種別	出土位置	計測値 (cm)		粘土・焼成・色調		器形・技法等の特徴	備考	
図版番号	器種	残存状態	口	底	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	
第51図1	須恵器 短頸壺	覆土	口 (122)	底 -	粘土 砂粒少 白色鉱物	焼 還元焰 良好	輪軸整形	外面：一部自然軸 付着	
PL.20		口～体1/6	高 (42)		色 濁灰				
検出番号	種別	出土位置	計測値 (cm)				特徴		
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ	重量 (g)			
第51図2	鉄滓	覆土	(6.4)	8.0	2.6	183	碗形鍛冶滓 (中) 精緻鍛冶滓、磁着度4・メタル度 (△)		
PL.20	碗形鍛冶滓	欠損あり							

92号土坑 (第52図、遺物PL.20)

位置：Ck-CI-86-87

概要：本土坑は調査区域外にまで広がるため、全容は明らかでない。小型で形状は円形を呈すると考えられ、掘り込みは極めて浅い。上面は何らかの削平を受けていると考えられ、残存部には焼土粒が密に確認できた。本土坑は基部の焼土が残存しているのみであるが、多くの鉄滓が出土していることから、鉄生産と関連のある遺構と判断できる。また、本土坑の北東近くには、やはり鉄生産との関連があった

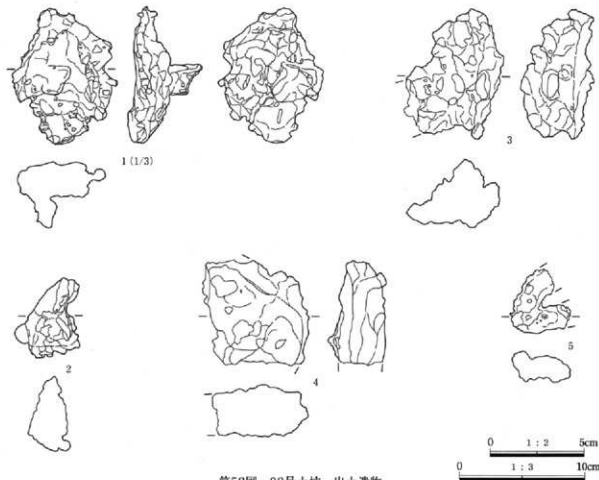
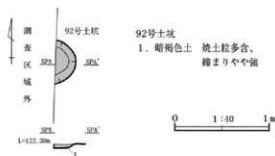
と考えられる11号住居跡が存在し、何らかの関係があったと考えられる。しかし、屋外での小鍛冶の存在は考えにくく、本土坑内に焼土塊が形成されていた様相が無いことから、鉄の生産そのものが行われた場ではなく、廃棄の場であった可能性も考えられるだろう。

出土遺物：鉄滓が覆土に混じって多く出土した。鉄滓の大きさや形状は様々である。

その他：土器類の出土が無く、時期判定を行うのは

第2章 塚田村東N遺跡の調査

困難である。ただし、覆土の線相から、奈良・平安時代に属するのは明らかである。さらに鉄滓が出土していることから、本遺跡において鉄関連資料が出土している時期を踏まえると8世紀前半に位置付けられる可能性が高いだろう。

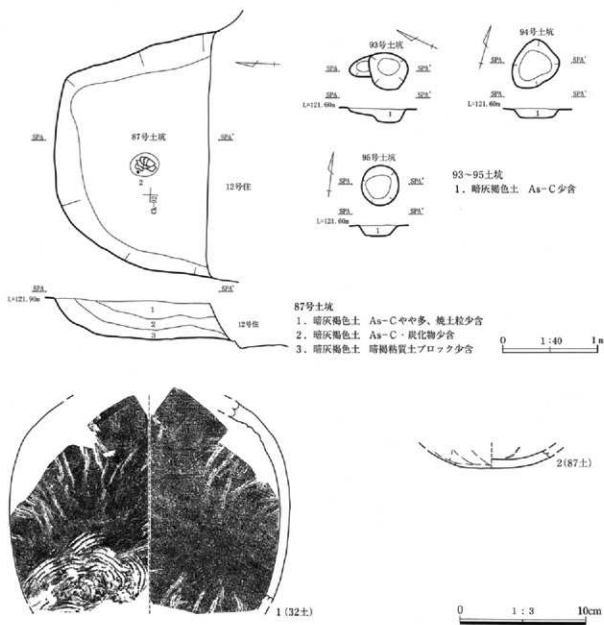


第52図 92号土坑、出土遺物

92号土坑 遺物観察表

採回番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)				特徴
			長さ	幅	厚さ	重量 (g)	
第52図 1 PL_20	鉄滓 碗形鍛冶滓	覆土 ほぼ完	8.3	10.5	5.9	204	碗形鍛冶滓 (小) 精錬又は鍛錬鍛冶滓、磁着度3・メタル度 (△)
第52図 2 —	鉄滓 粘土質溶解物	覆土 欠損あり	4.0	3.3	2.0	26	鍛冶滓の粘土質溶解物 磁着度0・メタル度なし
第52図 3 PL_20	鉄滓 碗形鍛冶滓	覆土 欠損あり	(6.8)	(5.3)	3.6	100	碗形鍛冶滓 (極小) 精錬又は鍛錬鍛冶滓、磁着度3・メタル度 (△)
第52図 4 PL_20	鉄滓 碗形鍛冶滓	覆土 欠損あり	(5.5)	(5.7)	2.7	119	碗形鍛冶滓 (中) 含鉄 精錬鍛冶滓、磁着度6・メタル度H (○)
第52図 5 —	鉄滓 粘土質溶解物	覆土 欠損あり	(3.1)	(3.5)	1.4	9	鍛冶滓の粘土質溶解物 磁着度1・メタル度なし

2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物



第53図 87・93~95号土坑、32・87号土坑出土遺物

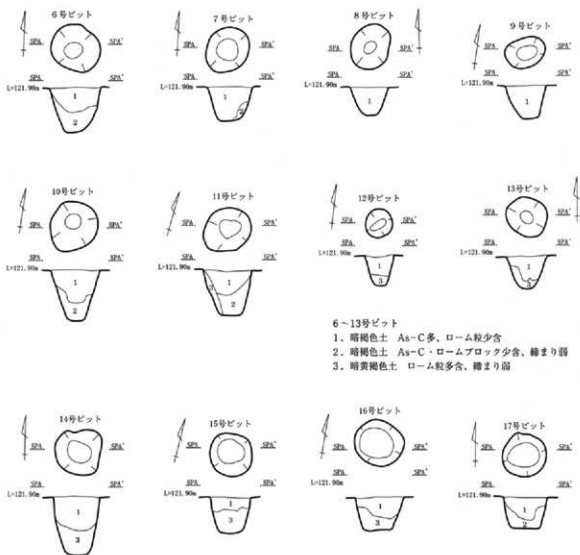
32・87号土坑 遺物観察表

調査番号	種別	出土位置	計測値(cm)		胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
			口径	高さ			
第53図1	須臾器	32号土坑底面	口 -	成 -	胎 ϕ 2mm小粒 砂粒少 白色炭物	内面：青褐色文	
PL.21	甕	体1/4	高 (15.9)	成 焼 還元焰 良好	色 灰		
第53図2	土師器	87号土坑底面	口 -	成 -	胎 細砂粒やや多 黒色・白色炭物	外面：ヘラ削り 内面：ヘラナデ、ヘラ痕残る	
PL.21	甕	底1/3	高 (1.5)	成 焼 酸化焰 良好	色 にふい煙		

IV ビット (第54~56図、遺構PL.8~10)

本遺跡で検出されたビットの中で、奈良・平安時代に属すると考えられるものは42基である。これらのビットの時期判別は、土坑と同様に確認面と覆土、遺物などからである。ここでは、土坑状の掘り込みの中で、大きさが小さいものや掘り込みが深めのも

のをビットとして扱う。しかし、ビットのなかで、掘立柱建物や構列といった遺構に伴うものは確認できず、その性格を明らかにすることはできていない。詳細は計測表を参照されたい。



6~13号ビット

1. 暗褐色土 As-C多、ローム粒少含
2. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含、織まり弱
3. 暗黄褐色土 ローム粒多含、織まり弱

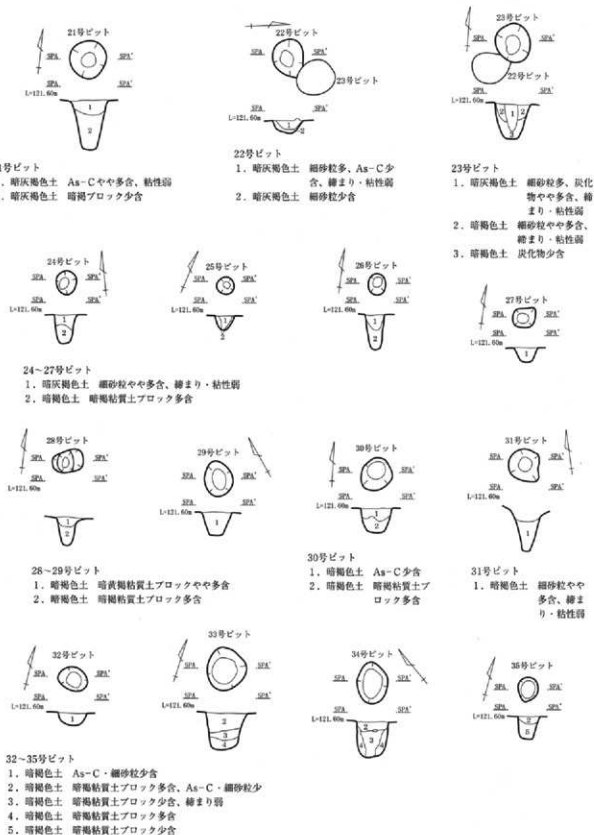
14~17号ビット

1. 暗褐色土 As-C多、ローム粒少含
2. 暗黄褐色土 ローム粒多含、織まり弱
3. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少含



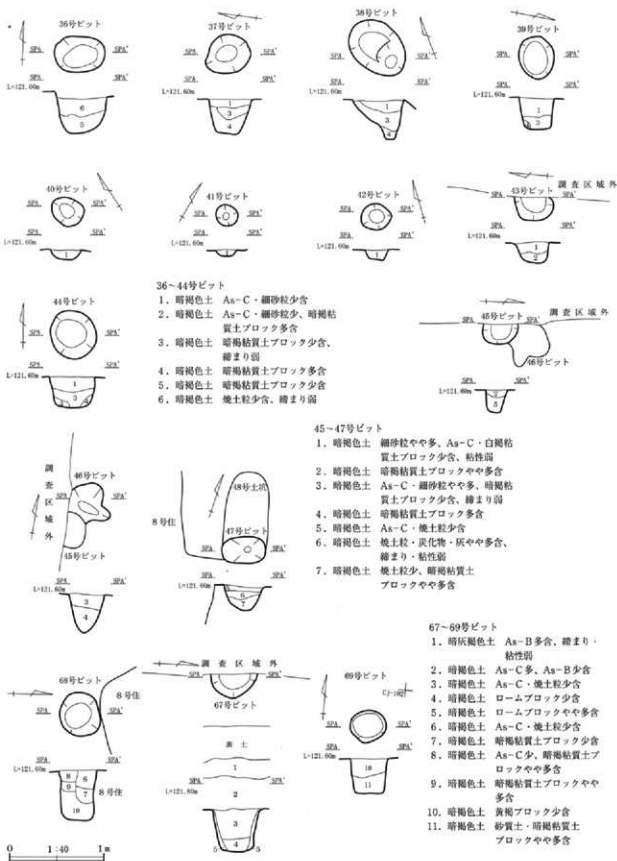
第54図 6~17号ビット

2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物



第55図 21~35号ピット

第2章 塚田村東Ⅳ遺跡の調査



第56図 36~47・67~69号ピット

V 溝跡

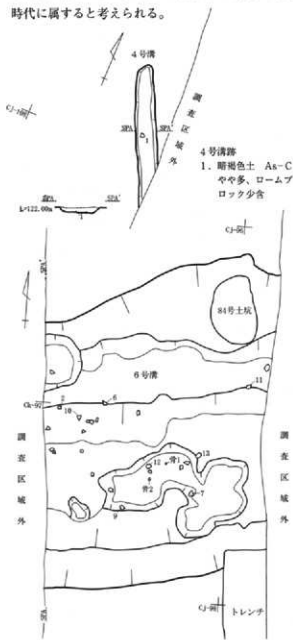
4号溝跡 (第57・58図、遺構PL.10、遺物PL.21)

位置: Ci~Cj-107~109

方位: N-18°-W

概要: 調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。規模は小さく上幅0.16~0.23m、下幅0.1~0.16mで、深度0.06mを測る。

その他: 土器などの遺物は出土していないため、時期判別は困難である。覆土と確認面から奈良・平安時代に属すると考えられる。

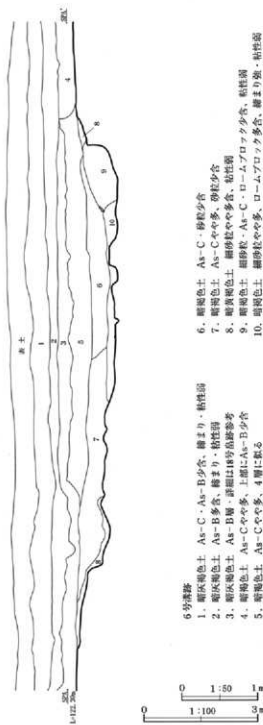


6号溝跡 (第57~59図、遺構PL.11、遺物PL.21)

位置: Ci~C1-96~98

方位: N-73°-E

概要: 調査区域外にまで広がるため、全容は明らか



6号溝跡

1. 暗褐色土 As-C・As-B少食、繭まり・粘性强
2. 暗褐色土 As-B多食、繭まり・粘性强
3. 暗褐色土 As-B層、詳細は埋守島跡参考
4. 暗褐色土 As-Cやや多、上部にAs-B少食
5. 暗褐色土 As-Cやや多、4層に属する

6. 暗褐色土 As-C・砂粒少食

7. 暗褐色土 As-Cやや多、砂粒少食
8. 暗褐色土 細砂粒やや多食、粘性强
9. 暗褐色土 細砂粒・As-C・ロームブロック少食、粘性强
10. 暗褐色土 細砂粒やや多、ロームブロック多食、繭まり強・粘性强

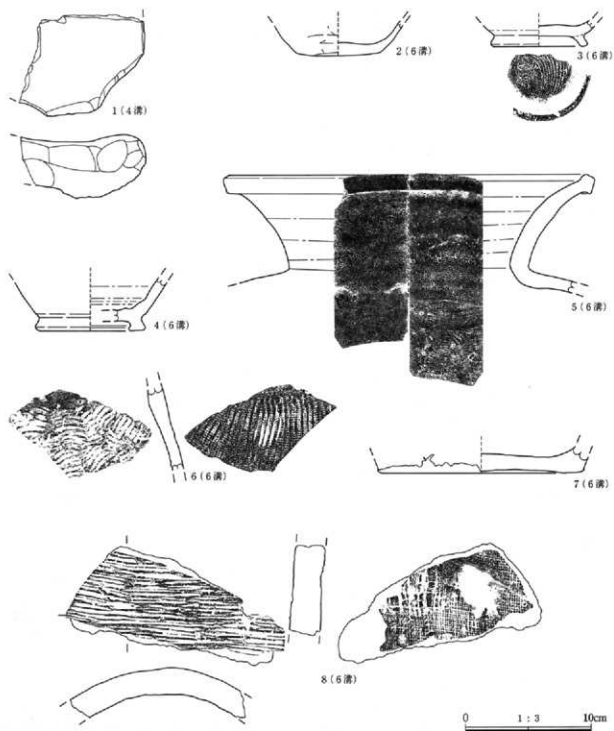
第57図 4・6号溝跡

第2章 塚田村東IV遺跡の調査

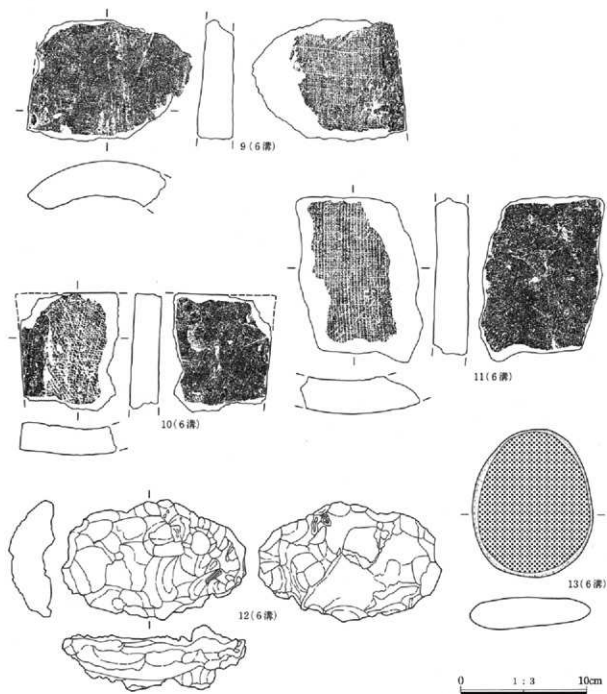
にできなかった。本遺跡の中央を南北に分断するように、東西に走向している。深くはないものの規模は大きく、上幅2.84~3.36m、下幅0.46~0.18mで、深度0.66mを測る。

その他：土器類や瓦などの遺物が出土しているが、

8~9世紀代であり、時期幅がある。これらの遺物は流れ込みによるものと考えられ、時期を特定することは困難である。覆土から平安時代には埋没していたと考えられる。また、鉄滓(No12)は84号土坑からの流れ込みの可能性が考えられる。



第58図 4・6号溝跡出土遺物(1)



第59図 4・6号溝跡出土遺物(2)

4・6号溝跡 遺物観察表

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調		器形・技法等の特徴	備考
				胎	焼成・色調		
第58図2 PL. 21	土師器 壺	6溝覆土 体下~底 底1/2 他1/8	口 底 6.5 高 (2.8)	胎 粗砂粒やや多 焼 酸化極 良好 色 灰黄緑	黒色・白色臍物	外面：ヘラ削り 内面：ナデ	
第58図3 PL. 21	須恵器 埴	6溝覆土 体下~底1/3	口 底 (7.6) 高 (2.0)	胎 粗砂粒やや多 焼 還元極 良好 色 灰白	白色・黒色臍物	輪轆整形(右回転) 底部： 回転糸切り後、付け高台	

第2章 塚田村東IV遺跡の調査

第58図4	須恵器 長頸壺	6溝覆土	口 底	- (8.7)	胎 焼	粗砂粒少 還元焰 良好	白色臍物 良好	輪轆整形 底部：切り離し技 法不明、付け高台						
PL.21		体下～底1/3	高	(4.3)	色	灰褐色								
第58図5	須恵器 壺	6溝覆土	口	(28.4)	胎 焼	粗砂粒少 還元焰 良好	白色臍物	輪轆整形 内外面自然積 内面：青海波文						
PL.21		口～頸1/6	底 高	(9.4)	色	黄灰								
第58図6	須恵器 壺	6溝覆土	口	-	胎 焼	粗砂粒少 還元焰 良好	白色臍物	外面：格子状叩き目 内面： 青海波文						
PL.21		体破片	底	-	色	灰								
第58図7	須恵器 壺	6溝底面	口	(16.0)	胎 焼	粗砂粒少 還元焰 良好	白色臍物	輪轆整形	内面底部に漆 状の黒色物付着					
PL.21		底1/3	底 高	(2.7)	色	にぶい黄褐色								
種目番号	出土位置	胎土・焼成・ 色調	製作法・輪轆・ 一枚作り可能性	粘土板(割 取衣・裏・ 接合)	布目痕(合目 ・捺消)・瓦 乾燥時圧痕	輪轆使用・ 叩き技法・ 形式名称	個部 面取	備考						
図版番号	瓦種	残存状態												
第58図8	丸瓦	6溝覆土 小破片	胎 焼 色	軟 並 橙	製 輪 一	不明	表 裏 接	× × ×	合 拵 乾	× × ×	輪 叩 型	△ 平行	-	観音山宮 8世紀後葉
PL.21														
第58図9	丸瓦	6溝底面 破片	胎 焼 色	並 並 灰	製 輪 一	2枚	表 裏 接	× × ×	合 拵 乾	× × ×	輪 叩 型	○ 横線	3	笠懸宮 8世紀後葉
PL.21														
第58図10	平瓦	6溝底面 破片	胎 焼 色	締 密 灰	製 輪 一	なし	表 裏 接	○ × ×	合 拵 乾	× × ×	輪 叩 型	× 素文	2	笠懸宮 8世紀後葉
PL.21														
第58図11	平瓦	6溝底面 破片	胎 焼 色	並 並 赤褐色	製 輪 一	なし	表 裏 接	○ × ×	合 拵 乾	× × ×	輪 叩 型	× 素文	-	吉井宮 9世紀前葉
PL.21														
種目番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			特徴								
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ	重量 (g)								
第58図12	鉄滓 輪形鍛冶滓	6溝底面 ほぼ定	144	94	50	571	輪形鍛冶滓(中)含鉄 精錬鍛冶滓か、磁着度5・メ タル度H(○) 鋼吹きの可能性あり							
PL.21														
種目番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			石材		特徴						
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ									
第58図1	石製品 砥石か	4溝底面 欠損あり	(7.4)	(9.9)	5.0	二ッ岳石		ほぼ全面が使用面						
PL.21														
第58図13	石製品 石籠状	6溝底面 完形	11.7	9.5	2.6	変玄武岩		平ら面は掘られている						
PL.21														

VI 畠跡

17号畠跡 (第60図、遺構PL.12、遺物PL.21)

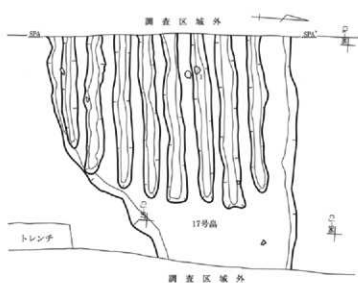
位置：Cj～Ck-96～98

方位：N-7°-W

概要：調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。周囲の地形が若干落ち込んでいるところで検出した。畠の上を純層のAs-Bのユニットが、覆っていたため、残存状態は良好であった。サク溝は8本で、最長4.52mである。サク溝の方向はほぼ一致しており、サクの間隔も0.56m～0.86mであり、ばらつきは少ない。サク溝の幅は0.22m～0.4mであり、深度は0.03～0.18mである。植物遺存体や根の痕跡は確認できていない。また、畠とサクの

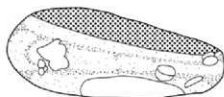
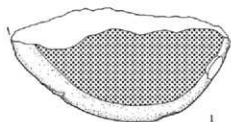
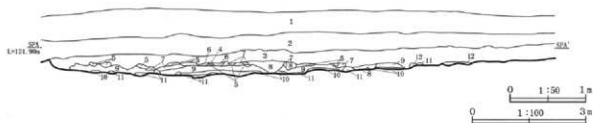
起伏はあまり強くない。これは、As-B降下直前には培土等の作業が行われていなかった可能性がある。その他：時期の判別できるような遺物は出土していない。土師器や須恵器の破片が少量出土しているものの、これらは本島より下面で確認できる奈良・平安時代の遺構に属するものであろう。サク溝や本島があった落ち込み全体に、As-Bが堆積しており、その降下年代から、本島跡が埋没したのは1108年と判断される。

2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物



17号高跡

1. 暗褐色土 表土
2. 暗灰褐色土 白色軽石・As-B少含、締まり・粘性弱
3. 暗灰褐色土 As-B多含、締まり・粘性弱
4. 暗青灰褐色土 As-B同様の火山噴火物か、細粒主体、粘性なし
5. 暗桃褐色土 As-B灰、締まり強・粘性なし
6. 暗灰褐色土 3層に似るがよりAs-Bの量多、締まり・粘性弱
7. 暗青灰褐色土 黒味強のAs-B層、締まり・粘性弱
8. 暗灰褐色土 7層に似た黒色のAs-B多含、締まり・粘性弱
9. 暗白褐色土 白褐色のAs-Bを中心とした軽石層、締まり弱・粘性なし
10. 暗青灰色土 暗青灰色の軽石中心とした層、暗灰色の灰多含、締まり・粘性なし
11. 暗褐色土 高跡の耕作土の一部か、As-Bなし、As-C極少含、締まり弱
12. 暗褐色土 やや黒めのAs-B多含混土層、後に動かされた土か、締まり・粘性弱



0 1:3 10cm

第60図 17号高跡、出土遺物

17号高跡 遺物観察表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			石材	特徴
			長さ	幅	厚さ		
第60図1 PL.21	石製品 石皿状	底面 欠損あり	(9.0)	(17.2)	7.0	粗粒輝石安山岩	平坦面は掘られている

(4) 中世の遺構と遺物

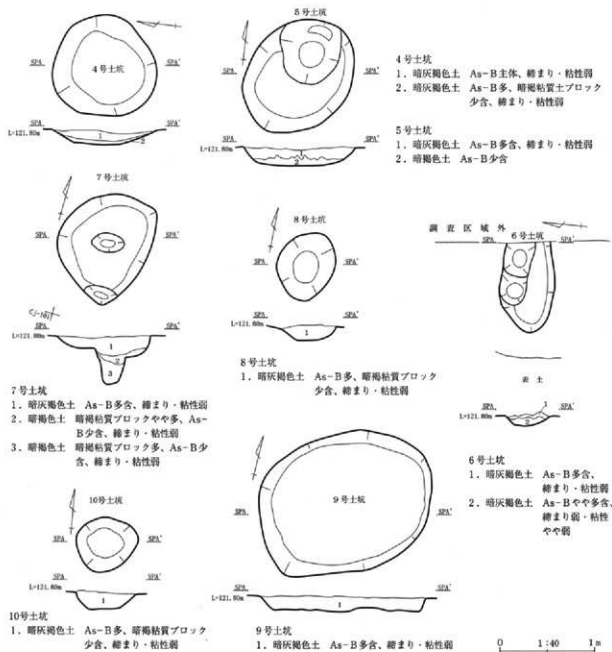
本遺跡では、As-B 混土层に覆われた遺構が検出されており、それらを中世の遺構として掲載する。

As-B の純層に覆われた17号品よりも上層に位置する。本遺跡の中央部にはなく、北部と南部で検出した。

I 土坑

中世に属する土坑は29基である。ここでは、墓坑、もしくはそれに類する土坑と考えられる3・85・86

号土坑について記載する。他の土坑については計測表を参照されたい。



第60図 4～10号土坑

3号土坑 (第62~64図、遺構PL.4、遺物PL.22)

位置：Ci-Ck-105~106

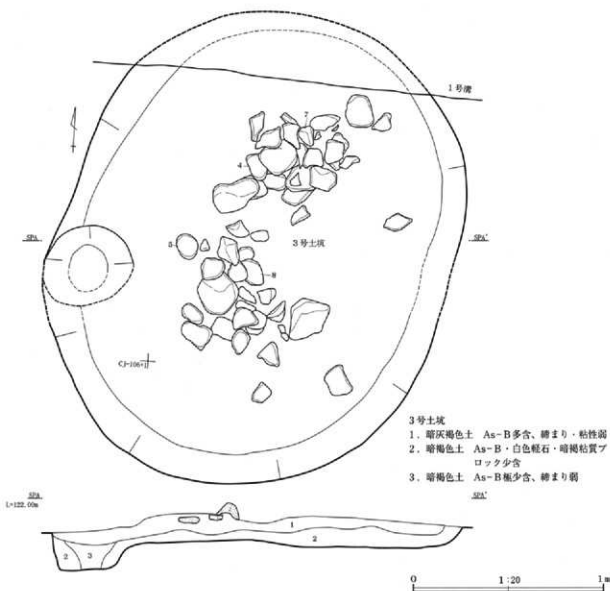
長軸方位：N-17°-E

概要：形状は楕円形を呈する。掘り込みは浅いが、規模はやや大きい。西端中央よりやや南寄りにピット状の落ち込みが掘られている。覆土上層には多量の礫が入られ、その下から、骨片が出土した。上層の礫は本土坑中央の南よりと北よりの2箇所に多く分布し、下層の骨片は中央南よりに分布する。骨片は形が捉えられる大きさのものもあるが、小破片が散らばっている状態であった。

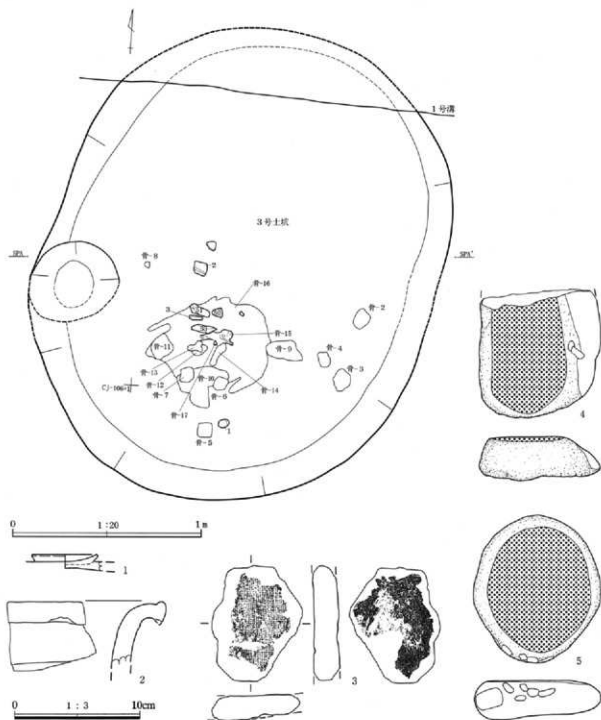
出土遺物：すべて覆土からの出土である。須恵器蓋(No1)や瓦(No3)は奈良・平安時代面の遺物が入り込んだのであろう。焼締陶器甕(No2)は常滑焼で第Ⅲ期に属する。

重複遺構：本土坑の北側で1号溝跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本土坑が新しいと判断される。

その他：出土した常滑焼より、本土坑の時期は13世紀後半以降と判断される。また、焼骨が多く出土することから、火葬跡との関連が考えられる。



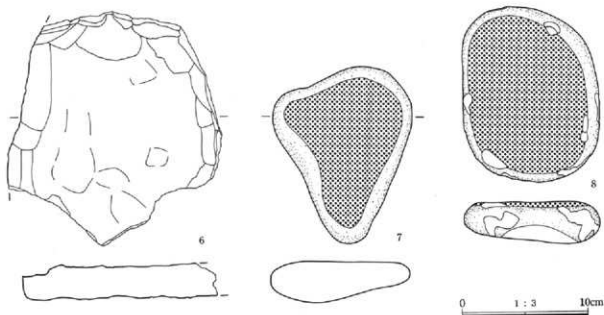
第62図 3号土坑(1)



第63図 3号土坑(2)、出土遺物(1)

3号土坑 遺物観察表

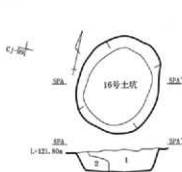
採回番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第63図1 PL.22	須置器 蓋	覆土 横は未完	口 横 5.2 高 (1.1)	胎 細砂粒少 黒色・白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	横軸盤形	
第63図2 PL.22	焼締陶器 甕	覆土 口破片	口 横 - 底 - 高 -	胎 砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰白	内外面ナデ	常滑産第Ⅱ期



第64図 3号土坑出土遺物(2)

3号土坑 遺物観察表

標記番号 図版番号	瓦種 残存状態	出土位置		胎土・焼成・ 色調	製作法・桶直・ 一枚作り可能性	粘土板(調 取表・裏・ 接合)	布目直(合目 ・擦消)・瓦 乾燥跡残痕	輪轆使用・ 叩き技法・ 型式名称	側部 面取	備考
		覆土 小破片	硬 粗 色 塊状							
第63図3 PL.22	平瓦	覆土 小破片	硬 粗 色 塊状	製 桶 一	製 桶 一	表 裏 接	合 擦 乾	織 押 型 素文	-	笠懸型 8世紀中～後葉
標記番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			石材	特徴			
			長さ	幅	厚さ					
第63図4 PL.22	石製品 石皿状	底面 欠損あり	(10.2)	9.4	3.5	変質安山岩	平皿面は推られている			
第63図5 PL.22	石製品 石皿状	底面 ほぼ完	10.7	10.0	3.1	石英閃緑岩	平皿面は推られている、側面に敲打痕			
第64図6 PL.22	石製品 板碑少	覆土 破片	(18.4)	(17.0)	2.7	緑色片岩	板状になっている			
第64図7 PL.22	石製品 石皿状	底面 完形	13.9	11.1	3.4	変質安山岩	平皿面は推られている			
第64図8 PL.22	石製品 石皿状	底面 完形	13.9	10.7	3.3	石英閃緑岩	平皿面は推られている			



16号土坑

1. 暗灰褐色土 As-B少含、締まり・粘性弱
2. 暗褐色土 As-B多含、粘性弱



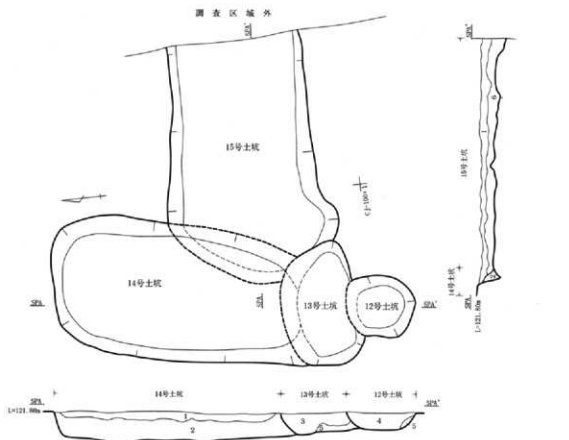
17号土坑

1. 暗灰褐色土 As-B・暗褐色ブロック少含、締まり弱

0 1:40 1m

第65図 16・17号土坑

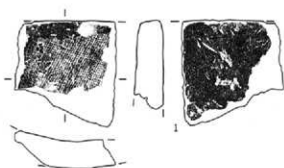
第2章 塚田村東N遺跡の調査



12～15号土坑

1. 暗灰褐色土 As-B多含、粘性弱
2. 暗灰褐色土 As-B多、暗褐色ブロックやや多含、締まり弱
3. 暗灰褐色土 As-B多含、粘性弱
4. 暗灰褐色土 As-B多含、締まり・粘性弱
5. 暗褐色土 As-C少含、締まりやや強
6. 暗褐色土 As-B多、暗褐色ブロックやや多含、締まり弱

0 1:40 1m



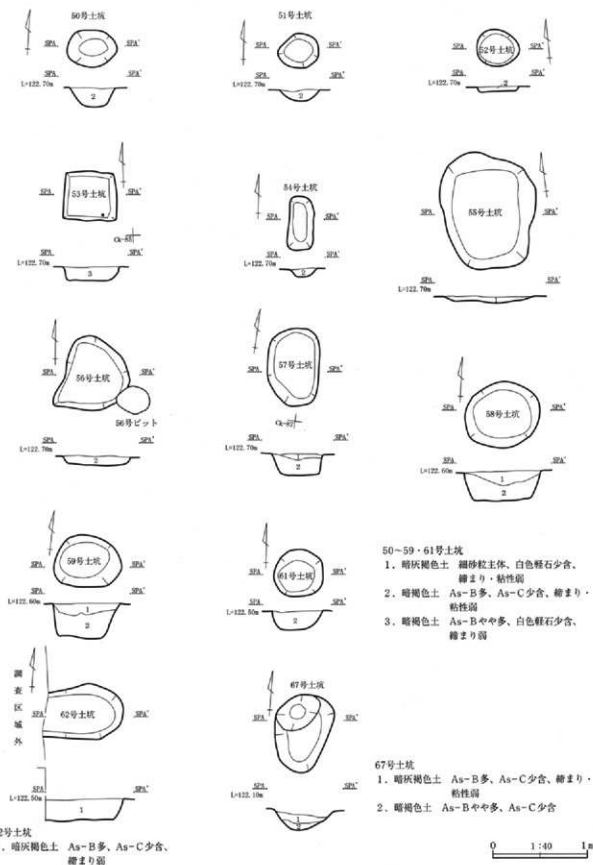
0 1:3 10cm

第66図 12～15号土坑、14・15号土坑出土遺物

14・15号土坑 遺物観察表

検出番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・補綴・ 一枚作り可能性	粘土板(割 取表・裏・ 接合)	布目痕(合目 ・擦消)・瓦 乾燥時圧痕	轆轤使用・ 印き技法・ 型式名称	個部 図取	備考
第66図1	平瓦	胎土	胎土 色調	製 法 一	表 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	轆 × 印 × 型 ×		古井淵 9世紀前～中葉
Pl. 22	小破片	胎土 破片 色調	胎土 破片 色調	製 法 一	表 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	轆 × 印 × 型 ×		

2. 塚田村東N遺跡の遺構と遺物



62号土坑

1. 暗灰褐色土 As-B多、As-C少含、
粘り弱

第67図 50-59・61・62・67号土坑

85号土坑 (第68図、遺構PL.8)

位置：Cj-Ck-91~92

長軸方位：N-0°

概要：形状は隅丸方形を呈する。削平を受けており、浅く残存しているにすぎない。残存状態は悪いものの人骨が出土しており、頭骨の位置は北側にある。副葬品は出土していない。

その他：As-B混土層に覆われており、中世に属するであろう。すぐ北に同様の土坑である86号土坑が存在する。

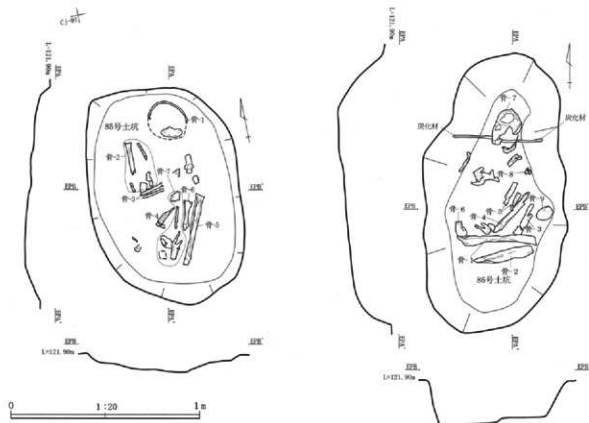
86号土坑 (第68図、遺構PL.8)

位置：Cj-Ck-91~92

長軸方位：N-6°-E

概要：形状は崩れた形の隅丸方形を呈する。85号土坑と同様に、削平を受けており、浅く残存しているにすぎない。残存状態は悪いものの人骨が出土しており、頭骨の位置は北側にある。副葬品は出土していない。

その他：As-B混土層に覆われており、中世に属し、85号土坑と時期は近いであろう。

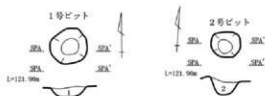
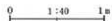


第68図 85・86号土坑

II ビット (第69・70図、遺構PL.8・10)

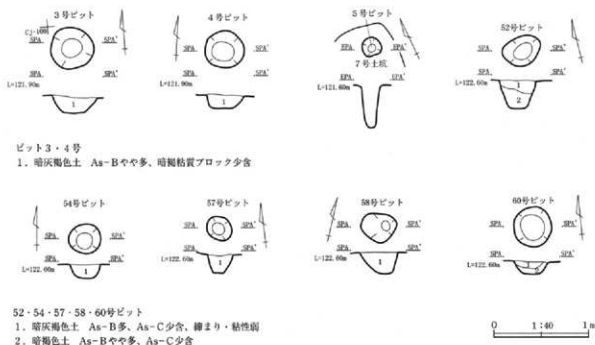
10基検出した。詳細は計測表を参照されたい。

- 1・2号ビット
 1. 暗灰褐色土 As-Bやや多、暗褐色粘質ブロック少含
 2. 暗灰褐色土 As-B多含、細まり・粘性弱



第69図 1・2号ビット

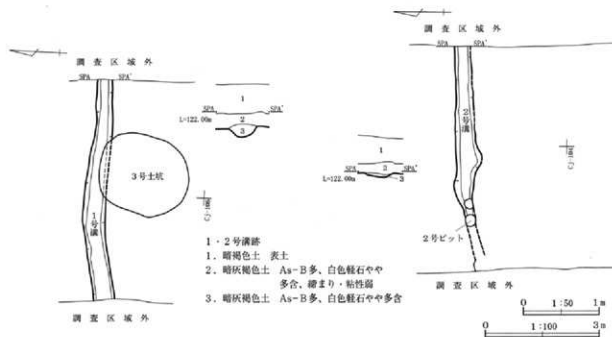
2. 塚田村東N遺跡の遺構と遺物



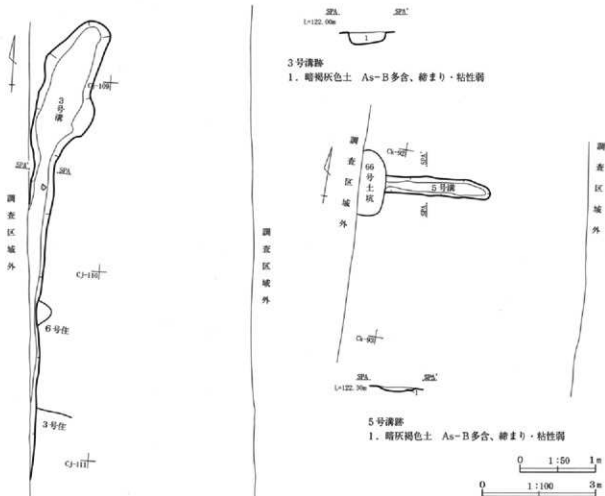
第70図 3・5・52・54・57・58・60号ピット

III 溝跡 (第71・72図、遺構PL.10・11)

4条検出した。いずれも規模は小さく、浅いものばかりである。詳細は計測表を参照されたい。



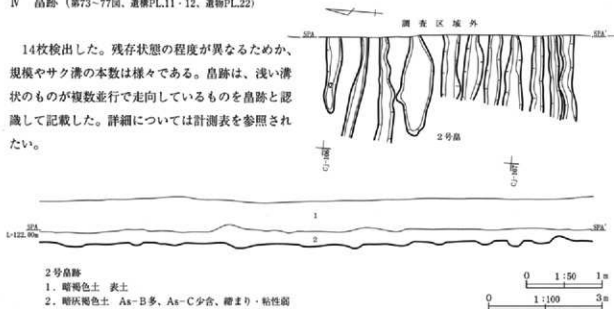
第71図 1・2号溝跡



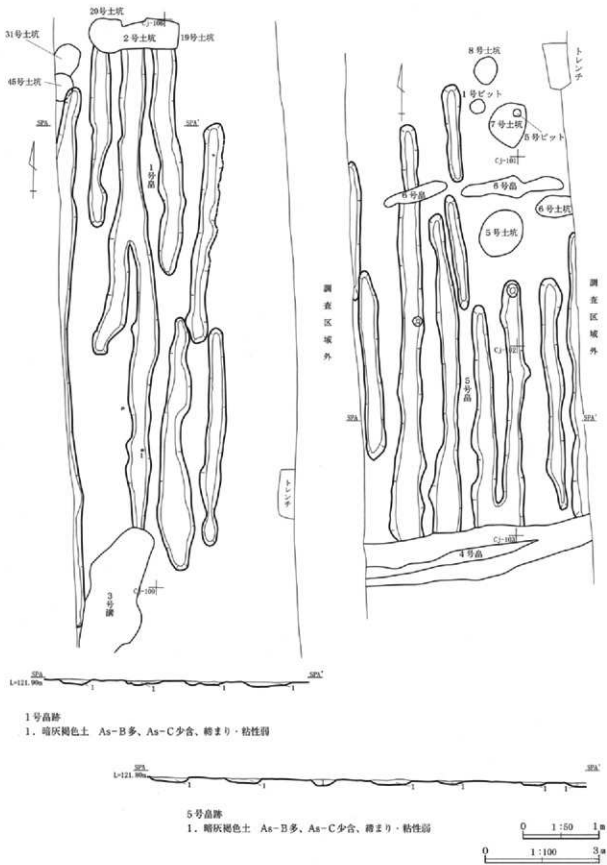
第72図 3・5号溝跡

IV 畠跡 (第73~77図、遺構PL.11・12、遺物PL.22)

14枚検出した。残存状態の程度が異なるためか、規模やサク溝の本数は様々である。畠跡は、浅い溝状のものが複数並行で走向しているものを畠跡と認識して記載した。詳細については計測表を参照されたい。

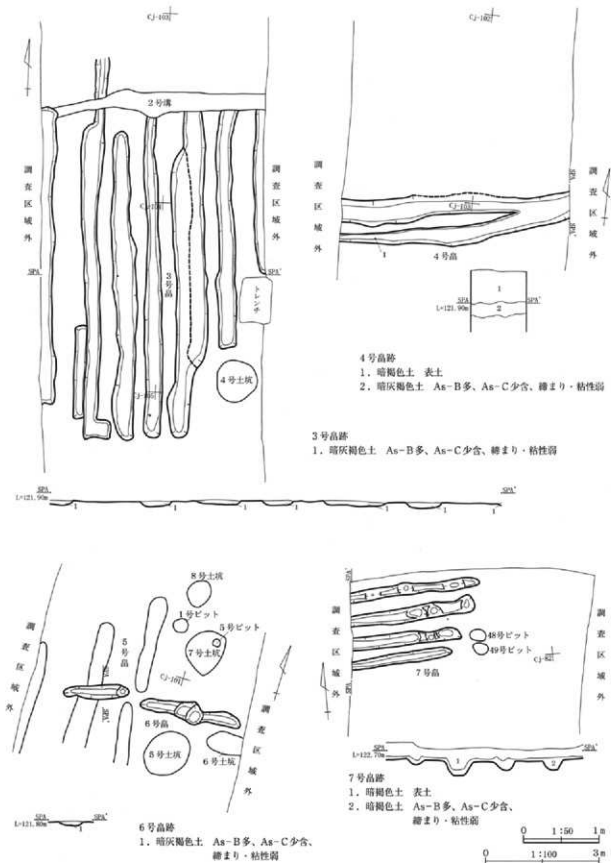


第73図 2号畠跡

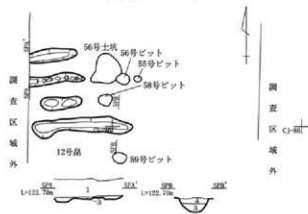
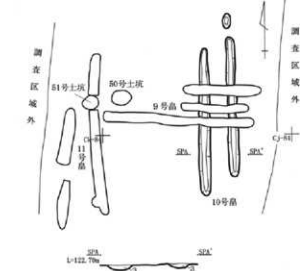
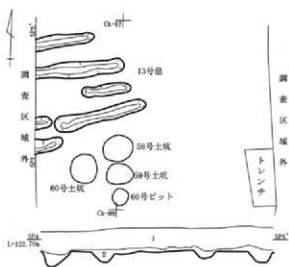
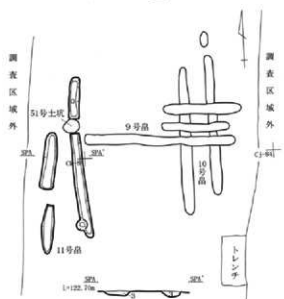
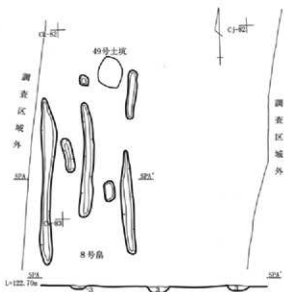


第74図 1・5号高跡

第2章 塚田村東IV遺跡の調査

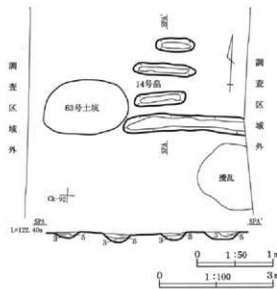


2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物

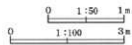


8・10～14号品跡

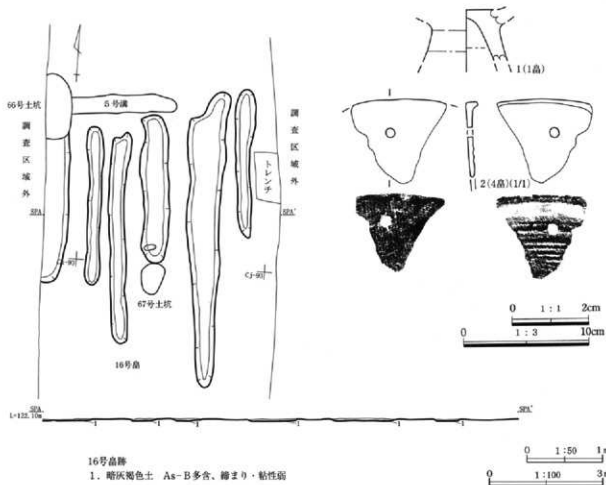
1. 暗褐色土 表土
2. 暗褐色土 As-B多, As-C少含, 締まり・粘性弱
3. 暗褐色土 As-Bやや多, As-C少含, 締まり・粘性弱
4. 暗灰褐色土 砂粒主体, 締まり弱・粘性なし
5. 暗灰褐色土 As-B多, As-Cやや多含, 締まり・粘性弱



第76図 8・10～14号品跡



第2章 塚田村東IV遺跡の調査



第77図 16号冢跡、中世冢出土遺物

1・4号冢跡 遺物観察表

検出番号	種類	出土位置	計測値(cm)		胎土・焼成・色調			器形・技法等の特徴	備考
			口	底	胎	底	色		
第77図1 Pl. 22	須恵器 高坏	1号底面 脚上げば完	-	(4.1)	胎 砂粒やや多 底 還元焰 色 灰	白色・黒色疵物 良好	轆轤整形	8世紀	
検出番号	種類	出土位置	計測値 (cm)				特徴		
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ	重量 (g)			
第77図2 Pl. 22	銅製品 不明銅製品	4号覆土 欠損あり	(2.1)	(1.4)	0.15	2	φ2.5mmの小孔が開く 内外面盤で覆り込みが入る		

(5) 近世

近世に属する遺構は土坑で、5基検出した。掘り込みは深くしっかりとしているのが特徴である。2

2号土坑 (第78・80図、遺構P.L.4、遺物P.L.23)

位置：Cj~Ck-106~107

長軸方位：N-86°-W

概要：他の土坑との重複により、形状や規模は明らかにできなかった。長方形を呈すると考えられる。掘り込みはしっかりとしており、墓坑である19・20号土坑と同じ場所に位置することから、墓坑である可能性が高いと考えられる。

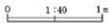
重複遺構：東側で19号土坑と、西側で20号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、19号土坑よりは新しく、20号土坑よりは古いと判断される。

**20号土坑**

1. 暗褐色土 白色軽石、白濁ロームブロック多含
2. 暗褐色土 白色軽石少含、粘性弱
3. 暗褐色土 白色軽石・白濁ロームブロック・暗褐色粘質土ブロック多含
4. 暗褐色土 白濁ロームブロック・暗褐色粘質土ブロック少含
5. 暗褐色土 白濁ロームブロックやや多、暗褐色粘質土ブロック少含
6. 暗褐色土 白濁ロームブロック・暗褐色粘質土ブロック多含
7. 暗褐色土 白濁ロームブロック・暗褐色粘質土ブロック多、白色軽石少含

2号土坑

1. 暗褐色土 白色軽石、白濁ロームブロック・暗褐色粘質土ブロック多含
2. 暗褐色土 白濁ロームブロックやや多、暗褐色粘質土ブロック少含



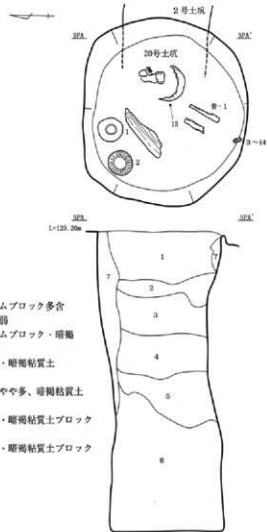
号土坑以外からは、人骨や副葬品が出土しているの、土坑墓であると判断できる。

20号土坑 (第78・82・83図、遺構P.L.4、遺物P.L.23・24)

位置：Cj~Ck-106~107

長軸方位：N-83°-W

概要：楕円形を呈する。かなり深く掘り込まれた墓坑である。残存状態は悪いが、人骨が出土している。出土遺物：副葬品として、陶器皿 (No 1、2) や銭貨が重なって12枚 (No 3~14) 出土している。



第78図 2・20号土坑

第2章 塚田村東IV遺跡の調査

重複遺構：東側で2号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から本土坑が新しいと判断される。

その他：出土した副葬品より、17世紀に属すると判断される。

19号土坑 (第79・81図、遺構PL.4、遺物PL.23)

位置：Cj~Ck-105~107

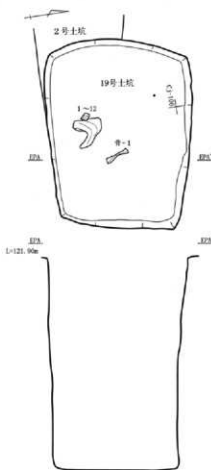
長軸方位：N-83°-W

概要：長方形に近い台形を呈する。かなり深く掘り込まれた墓坑である。残存状態は悪いが、人骨が出土している。

出土遺物：副葬品として、銭貨が12枚 (No 1~12) 重なって出土している。

重複遺構：西側で2号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から本土坑が古いと判断される。

その他：出土した銭貨と重複遺構より、本土坑の時期は17世紀と判断される。



31号土坑 (第79・84図、遺構PL.6、遺物PL.24・25)

位置：Cj~Ck-106~107

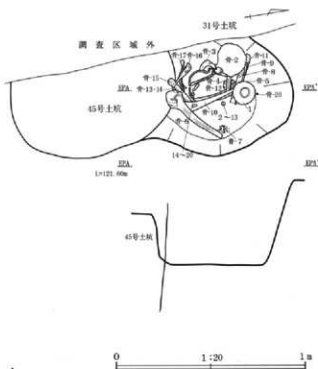
長軸方位：N-9°-E

概要：調査区域外にまで広がることと、重複遺構により全容は明らかでない。楕円形を呈すると考えられる。掘り込みはしっかりとした墓坑である。残存状態の良い人骨が出土している。

出土遺物：副葬品として、陶器皿 (No 1) や銭貨が19枚 (No 2~20)、2箇所、重なって出土している。

重複遺構：南側で45号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から本土坑が古いと判断される。

その他：出土した副葬品と重複遺構より、本土坑の時期は17世紀と判断される。



第79図 19・31号土坑

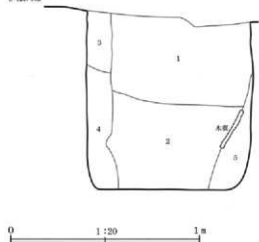
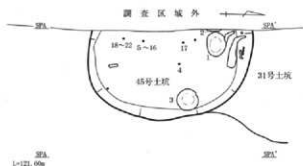
45号土坑 (第80・85・86図、遺構PL.6、遺物PL.25・26)

位置：Cj-Ck-106-107

長軸方位：N-0°

概要：調査区域外にまで広がるため全容は明らかでない。楕円形を呈すると考えられる。掘り込みは深く、しっかりとした墓坑である。人骨は出土していないが、桶と思われる板状木製品の痕跡と副葬品が出土している。

出土遺物：副葬品として、陶器皿が3枚 (No1~3) や銭貨が19枚 (No4~22)、4箇所 で重なって出土



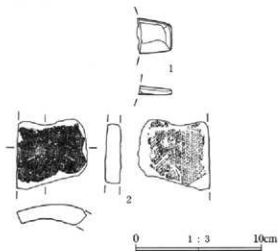
している。また、赤色漆塗膜も出土したが、膜のみの残存であり、図示できなかった。装飾品であった可能性が考えられる。

重複遺構：北側で31号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と堀土断面の状況から本土坑が新しいと判断される。

その他：出土した副葬品より、本土坑の時期は17世紀と判断される。

45号土坑

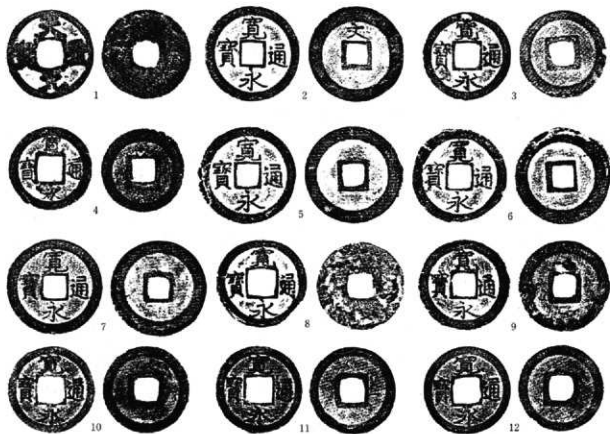
1. 暗灰褐色土 細砂粒やや多、As-C少含、粘性弱
2. 暗灰褐色土 細砂粒やや多、As-C・暗褐粘質土ブロック少含、締まり・粘性弱
3. 暗灰褐色土 暗褐粘質土ブロックやや多含、締まり弱
4. 暗灰褐色土 暗褐・白褐粘質土ブロックやや多含、締まり弱
5. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロック多含



第80図 45号土坑、2号土坑出土遺物

2号土坑 遺物観察表

排図番号	種別	出土位置	計測値 (cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
第80図1	須臾器 双耳耳	残存状態	長 2.7 幅 (2.7) 厚 0.6	胎 細砂粒少 焼 還元窑 色 灰	白色胎物 良好	ヘラ削り 奈良・平安時代			
排図番号	瓦種	出土位置	胎土・焼成・色調	製作法・桶直・一枚作り可能性	粘土板 (割取表・裏・接合)	春日直 (合目・捺滑)・瓦乾燥時圧痕	輪轆使用・叩き技法・型式名称	細部面取	備考
第80図2	覆土	胎 硬 焼 密 色 灰黄	製 不明 桶 一	表 × 裏 ○ 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	輪 × 叩 × 型 ×	観音山窯	8世紀後半~9世紀初	
PL.23	丸瓦	小破片						1	

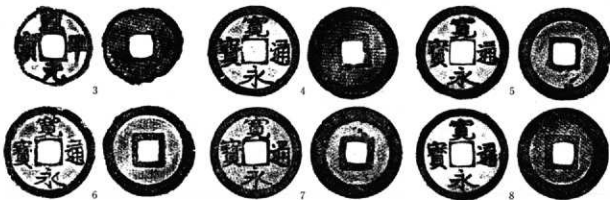


第81図 19号土坑出土遺物

0 1:1 2cm

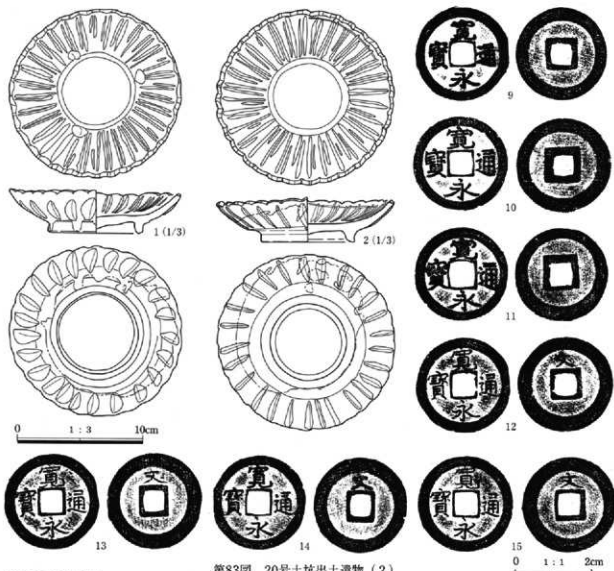
19号土坑 遺物観察表

種別番号 図版番号	出土位置 残存状態	種類	発行年	備考	種別番号 図版番号	出土位置 残存状態	種類	発行年	備考
第81図1 PL.23	底面 ほぼ完	天聖元寶	1023		第81図7 PL.23	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1714	丸屋銭
第81図2 PL.23	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文	第81図8 PL.23	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1716	狭江銭, 織幡付着
第81図3 PL.23	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1708	四ッ宝銭 (広永)	第81図9 PL.23	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1726	京都七條銭
第81図4 PL.23	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1708	四ッ宝銭 (座寛)	第81図10 PL.23	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1739	白目中字
第81図5 PL.23	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1714	丸屋銭	第81図11 PL.23	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1739	白目中字
第81図6 PL.23	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1714	丸屋銭	第81図12 PL.23	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1739	白目中字



第82図 20号土坑出土遺物 (1)

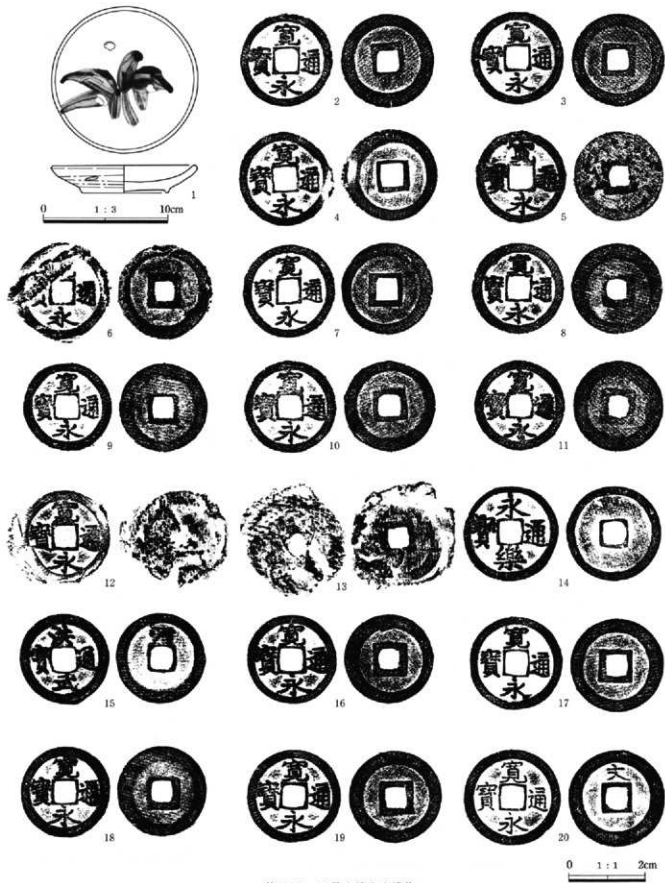
0 1:1 2cm



第83図 20号土坑出土遺物(2)

20号土坑 遺物観察表

博覧番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		胎土・焼成・色調		器形・技法等の特徴		備考
第83図1 PL. 23	陶器 皿	底面 ほぼ完	口 底 高	13.5 7.4 3.4	胎 焼 色	細砂粒少 還元焰 淡黄	黒色疵物 良好	轆轤整形 紅色の灰輪 内面 目取3箇所	美濃焼 17世紀
第83図2 PL. 23	陶器 皿	底面 完	口 底 高	14.2 7.4 3.5	胎 焼 色	細砂粒少 還元焰 淡黄	黒色疵物 良好	轆轤整形 紅色の灰輪だが、 緑斑あり	美濃焼 17世紀
博覧番号 図版番号	出土位置 残存状態	種類	発行年	備考	博覧番号 図版番号	出土位置 残存状態	種類	発行年	備考
第82図3 PL. 23	底面 ほぼ完	扁平元寶	1234		第83図10 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1656	香谷銭
第82図4 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1636	芝銭	第83図11 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1656	鳥越銭
第82図5 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	水戸銭	第83図12 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文
第82図6 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	仙台銭	第83図13 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文
第82図7 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	吉田銭	第83図14 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文
第82図8 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	松木銭	第83図15 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文
第83図9 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	岡山銭					

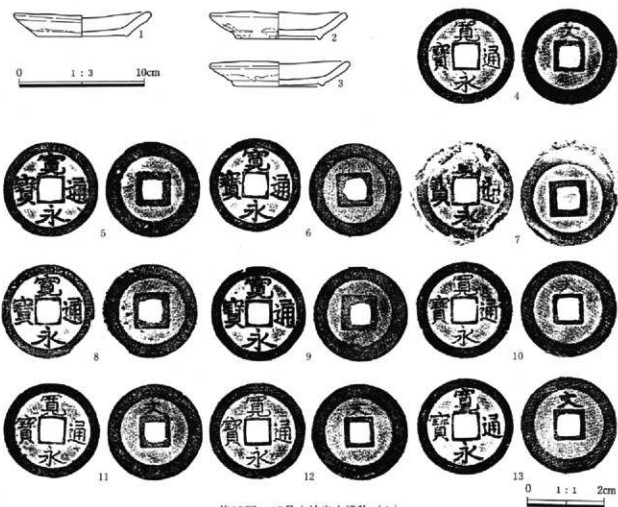


第84図 31号土坑出土遺物

2. 塚田村東IV遺跡の遺構と遺物

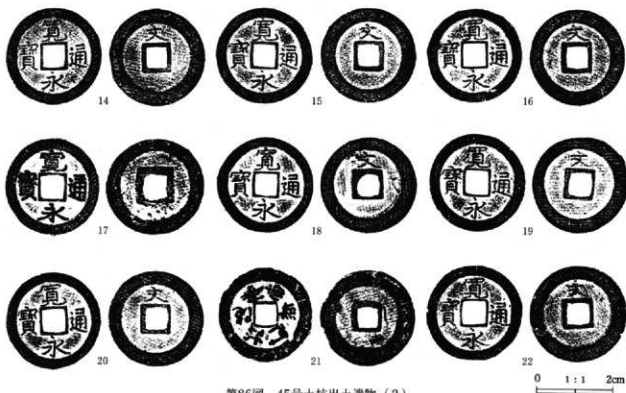
31号土坑 遺物観察表

探出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		胎土・焼成・色調		器形・技法等の特徴		備考
第84図1 PL. 24	陶器 皿	底面 ほぼ完	口 底 高	11.6 6.4 2.1	胎 地 色	細砂較少 黒色鉱物 濃元極 淡黄 良好	縦椭圆形 長石輪 外面：底面 目直1箇所 内面：目直3箇所、 鉄輪で鉄輪(後の葉)	美濃焼 17世紀初頭	
探出番号 図版番号	出土位置 残存状態	種類	発行年	備考	探出番号 図版番号	出土位置 残存状態	種類	発行年	備考
第84図2 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	松本銭	第84図12 PL. 25	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	岡山銭、横継付着
第84図3 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	松本銭	第84図13 PL. 25	底面 完形	不明	-	横継付着
第84図4 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	松本銭	第84図14 PL. 25	底面 完形	永樂通寶	1408	
第84図5 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	松本銭	第84図15 PL. 25	底面 完形	洪武通寶 (管治カ)	1580~	細銭
第84図6 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	松本銭	第84図16 PL. 25	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	吉田銭
第84図7 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	岡山銭	第84図17 PL. 25	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	松本銭
第84図8 PL. 24	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	岡山銭	第84図18 PL. 25	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	高田銭
第84図9 PL. 25	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	岡山銭	第84図19 PL. 25	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1656	香谷銭
第84図10 PL. 25	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	岡山銭	第84図20 PL. 25	底面 完形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文
第84図11 PL. 25	底面 完形	寛永通寶 (古寛永銭)	1637	岡山銭、横継付着					



第85図 45号土坑出土遺物(1)

第2章 塚田村東IV遺跡の調査



第86図 45号土坑出土遺物(2)

45号土坑 遺物観察表

挿図番号 図版番号	種類 残存状態	出土位置		計測値 (cm)			胎土・地成・色調			器形・技法等の特徴			備考
		底面	残存状態	口	底	高	胎	焼	色	横軸形	長石軸	内面：目	
第85図1 PL. 25	陶器 皿	底面	ほぼ完	10.9	7.0	2.0	胎 細砂粒少 焼 還元焰 色 淡黄	黒色灰物 良好	横軸形 縦3箇所	長石軸	内面：目	美濃焼 17世紀前葉	
第85図2 PL. 25	陶器 皿	底面	ほぼ完	10.9	6.7	2.1	胎 細砂粒少 焼 還元焰 色 淡黄	黒色灰物 良好	横軸形 縦3箇所	長石軸	内面：目	美濃焼 17世紀前葉	
第85図3 PL. 25	陶器 皿	底面	ほぼ完	11.1	7.1	1.9	胎 細砂粒少 焼 還元焰 色 淡黄	黒色灰物 良好	横軸形	長石軸		美濃焼 17世紀前葉	
挿図番号 図版番号	出土位置 残存状態	種類	発行年	備考	挿図番号 図版番号	出土位置 残存状態	種類	発行年	備考				
第85図4 PL. 25	底面 空形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文	第86図14 PL. 26	底面 空形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文				
第85図5 PL. 25	底面 空形	寛永通寶 (古寛永銭)	1636	芝銭	第86図15 PL. 26	底面 空形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文				
第85図6 PL. 25	底面 空形	寛永通寶 (古寛永銭)	1636	芝銭	第86図16 PL. 26	底面 空形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	退点文				
第85図7 PL. 25	底面 空形	寛永通寶 (古寛永銭)	1653	建仁寺銭、編織付着	第86図17 PL. 26	底面 空形	寛永通寶 (古寛永銭)	1653	建仁寺銭				
第85図8 PL. 25	底面 空形	寛永通寶 (古寛永銭)	1656	香符銭	第86図18 PL. 26	底面 空形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文				
第85図9 PL. 25	底面 空形	寛永通寶 (古寛永銭)	1656	香符銭	第86図19 PL. 26	底面 空形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文				
第85図10 PL. 25	底面 空形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文	第86図20 PL. 26	底面 空形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文				
第85図11 PL. 26	底面 空形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文	第86図21 PL. 26	底面 空形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文				
第85図12 PL. 26	底面 空形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文	第86図22 PL. 26	底面 ほぼ空形	念仏銭 (小型)	-	-				
第85図13 PL. 26	底面 空形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文									

(6) 近世以降

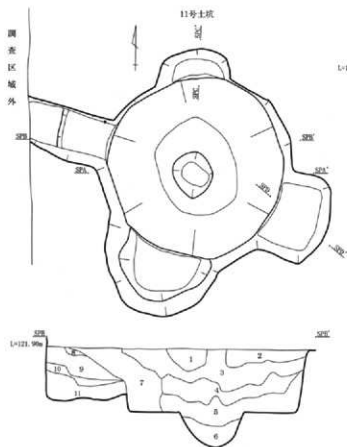
表土直下の遺構である。近世と確定されなかった遺構の中で、覆土や出土遺物より近世以降と考えら

れるものを掲載した。これらの遺構は本遺跡の中央から北側で検出された。

I 土坑

旧陸軍前橋飛行場関連遺構である11号土坑以外は、用途不明である。規模や形態も様々であるが、農作

業等に関係したものかもしれない。詳細は計測表を参照されたい。



11号土坑

A-A'

1. 暗灰褐色土 軽石少含、粘性弱
2. 暗灰褐色土 暗褐・白褐ブロック多含、粘性弱
3. 暗灰褐色土 軽石・暗褐ブロック少含、粘性弱
4. 暗灰褐色土 暗褐・白褐ブロック少含、締まり弱
5. 暗灰褐色土 暗褐・白褐ブロック少含、粘性弱
6. 暗灰褐色土 暗褐ブロック多、白褐ブロック少含
7. 暗灰褐色土 暗褐ブロック多含

B-B'

1. 暗灰褐色土 軽石少、白褐ブロック極少含、締まりやや強・粘性弱
2. 暗灰褐色土 軽石少、白褐・暗褐ブロック極少含、締まりやや強・粘性弱
3. 暗灰褐色土 白褐・暗褐ブロック多含、粘性弱
4. 暗灰褐色土 白褐・暗褐ブロック少含、粘性弱
5. 暗灰褐色土 暗褐ブロック多、白褐ブロック少含
6. 暗灰褐色土 暗褐ブロックやや多含、締まり弱
7. 暗灰褐色土 軽石・暗褐・白褐ブロック極少含、粘性弱
8. 暗灰褐色土 白褐ブロック極多含、粘性弱
9. 暗褐色土 暗褐ブロックやや多含、粘性弱
10. 暗灰褐色土 軽石極少含
11. 暗灰褐色土 軽石極少含、締まりやや強・粘性強



C-C'・D-D'

1. 暗灰褐色土 白色軽石やや多、暗褐粘質土少含
2. 暗灰褐色土 暗褐粘質土・白褐ロームブロック多含

0 1:40 1m

第87図 11号土坑

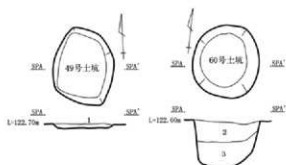
11号土坑 (第87・89図、遺構PL.5、遺物PL.26)

位置：Cj～Ck-96～98

概要：大型の円形状の掘り込みを中心として、南北と東南東・西北西に張り出しを持つ。西南西の張り出しは調査区域外にまで延びている。中心の円形の掘り込みは直径約2mで、その中央部は、深度1.76mに達する。地元の方のお話によると、かつてここには機関銃座が置かれており、その構造は中心に丸太を置いて、その上に機関銃を設置したという。機

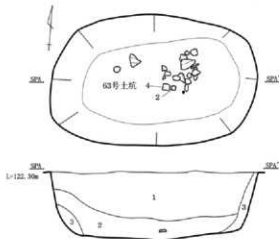
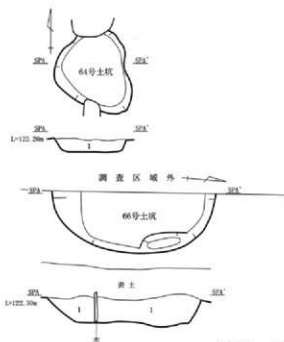
関銃は取り外し可能で、旋回できるように据えられていたという。

遺物：流れ込みなどによる土師器・須恵器などの他はほとんどない。金属製の美容器 (No 2) は終戦後の遺物で、埋め戻し時の流れ込みの可能性がある。その他：本土坑は、地元の方のお話によると、第二次大戦中に掘られ、終戦後埋められたという。



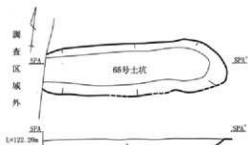
49・60号土坑

1. 暗灰褐色土 細砂粒主体、白色軽石少含、締まり・粘性弱
2. 暗灰褐色土 細砂粒主体、締まり・粘性弱
3. 暗灰褐色土 細砂粒多、暗灰褐粘質土ブロック少含、締まり・粘性弱



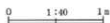
63号土坑

1. 暗灰褐色土 砂粒多、白色軽石少含、締まり・粘性弱
2. 暗灰褐色土 砂粒主体、締まり・粘性弱
3. 暗灰褐色土 暗灰褐粘質土ブロック多、砂粒やや多含、粘性弱



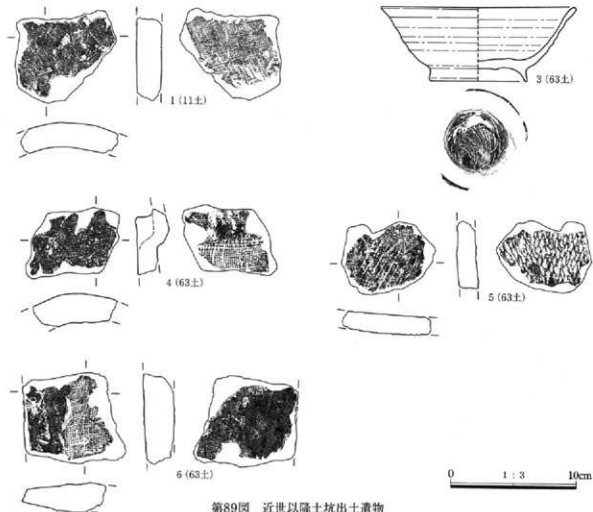
64～66号土坑

1. 暗灰褐色土 砂粒やや多、細砂粒・白色軽石少含、締まり・粘性弱



第88図 49・60・63～66号土坑

2. 塚田村東N遺跡の遺構と遺物



第89図 近世以降土坑出土遺物

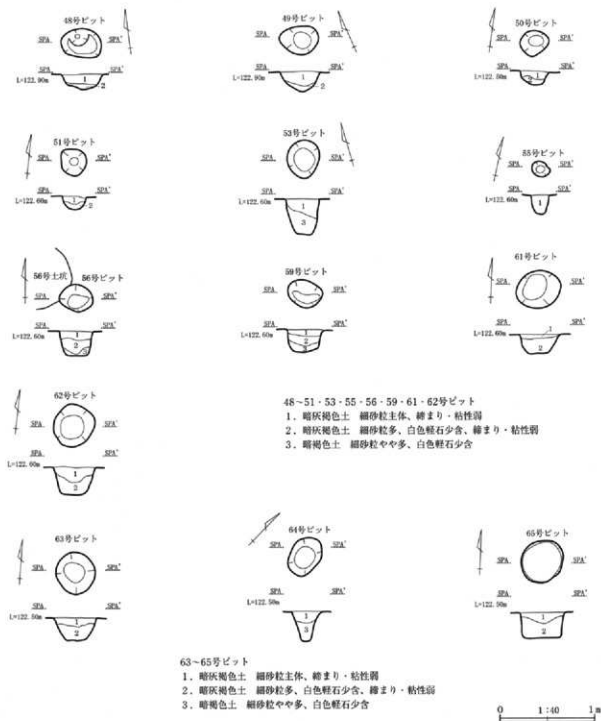
近世以降土坑 遺物観察表

縛目番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		胎土・焼成・色調		器形・技法等の特徴		備考
			径	厚	胎土	焼成	器形	技法	
(11土2)	ブリキ 薬入れ	11土坑覆土	4.6	0.9	-	-	上面：品名・社名・住所記載 裏面：用法記載		第一商品株式会社「メンターム」
PL. 26		完形							
第89図 3	須恵器 埴	63土坑覆土 口～底	15.5	7.8	胎土 砂粒少 焼成 還元焰 色 灰白	白色灰物 やや軟	轆轤整形 (右回転) 口縁部 弱く外反 底部：回転糸切り 後、付付台		9世紀後半
PL. 26		ほぼ完形1/3	5.9						
縛目番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・轆轤・ 一枚作り可能性	粘土板 (調 取表・裏・ 接合)	布目痕 (合目・ 横消)・瓦 乾燥時圧痕	轆轤使用・ 叩き技法・ 型式名称	個部 面取	備考
第89図 1	丸瓦	11土坑 覆土	胎土 並 焼成 並 色 灰白	製法 並 轆轤 なし 一 あり	表 × 裏 ×	合 × 横 ×	轆轤 × 叩き ×	-	秋間窯 8世紀後半～9 世紀前半
PL. 26	小破片								
第89図 4	丸瓦 有段	63土坑 底面	胎土 並 焼成 軟 色 浅黄	製法 2枚 轆轤 一	表 × 裏 ×	合 × 横 ×	轆轤 ○ 叩き ×	-	芝懸窯 8世紀中葉
PL. 26	小破片								
第89図 5	平瓦	63土坑 覆土	胎土 硬 焼成 密 色 灰	製法 不明 轆轤 不明	表 ○ 裏 ×	合 ○ 横 ×	轆轤 × 叩き ×	-	中之条窯小秋山窯 8 世紀前半
PL. 26	小破片								
第89図 6	平瓦	63土坑 覆土	胎土 並 焼成 並 色 灰白	製法 不明 轆轤 不明	表 × 裏 ×	合 × 横 ×	轆轤 × 叩き ×	3	芝懸窯小秋山窯 8世紀 後半～9世紀前半
PL. 26	小破片								

II ビット (第90図、遺構P.L.10)

土坑との分類基準が曖昧な点もあるが、柱穴状の小型の掘り込みをビットとして掲載する。これらのビットも覆土より近世以降と判断しているが、性格

等は不明である。建物や橋としての配列は確認できていない。土坑と同様に農作業等に伴う掘り込みである可能性が考えられる。



第90図 48~51・53・55・56・59・61~65号ビット

III 畝跡

覆土より、近世以降と考えられるものを掲載した。
ただし、時期などについては、明らかでない。

15号畝跡 (第91図、遺構P.L.12)

位置：Cj-CI-92~97

方位：N-2°-W

概要：調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。途中で途切れているところもあるが、サク溝は10本で、最長23.4mである。サク溝の方向はほぼ一致している。サクの間隔は0.22m~1.4mであり、サク溝の幅は0.2m~0.32m、深度は0.04~0.12mである。

9号畝跡 (第92図、遺構P.L.12)

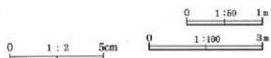
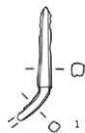
位置：Cj-Ck-83~84

方位：N-90°

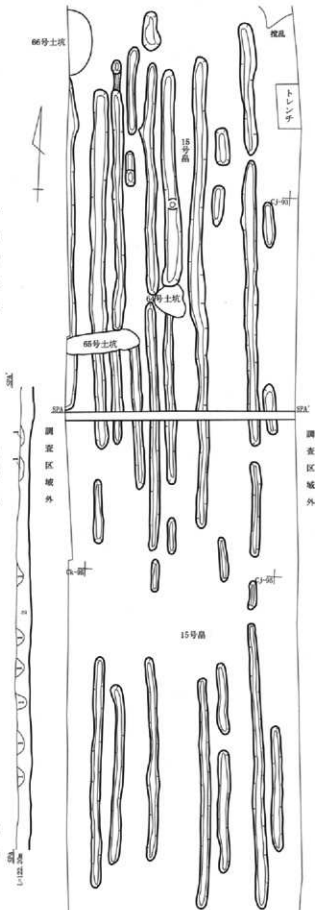
概要：検出されたサク溝は3本で、最長1.6mである。サク溝の方向はほぼ一致している。サクの間隔は0.38m~0.5mであり、サク溝の幅は0.2m~0.3m、深度は0.04~0.06mである。

15号畝跡

1. 暗褐色土 細砂粒やや多・白色軽石少含、締まり・粘性弱
2. 暗灰褐色土 細砂粒やや多、白色軽石少含、締まり・粘性弱



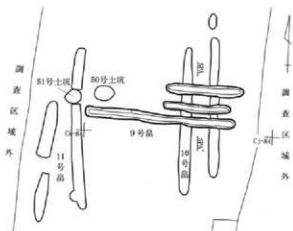
第91図 15号畝、出土遺物



第2章 塚田村東IV遺跡の調査

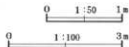
15号畝跡 遺物観察表

採回番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)				特徴
			長さ	幅	厚さ	重量 (g)	
第91図 1	鉄製品 鉄鏝	覆土 ほぼ完	(6.1)	0.7	0.6	6	基部が折れ曲がっている 断面形正方形の基部に、四角錐状の先端部が付く



9号畝跡

1. 暗褐色土・砂粒・白色軽石少含、締まり・粘性弱



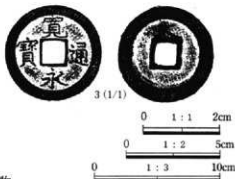
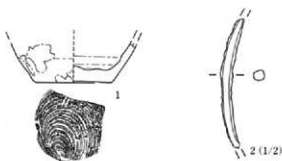
第92図 9号畝跡

(7) 遺構外出土の遺物 (第93図、遺物P L.26)

ここでは、遺構確認作業中に出土した遺物をいくつか掲載する。

陶器 (No 1) は瀬戸焼で、耳壺の可能性はある。

時期は16～17世紀と考えられる。その他、棒状鉄製品 (No 2) や銭貨 (No 3) がある。



第93図 遺構外出土遺物

遺構外 遺物観察表

採回番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)				胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
			口 底	高	長さ	幅			
第93図 1 PL. 26	陶器 耳壺か	確認面 体下～底1/3	- (6.0)	(3.3)			胎 磁密 焼 還元焰 色 灰黄	輪縁整形 (右回転) 黒陶輪 底部：回転糸切り	瀬戸焼 16～ 17世紀
採回番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)				特徴		
第93図 2	鉄製品 棒状品	確認面 欠損あり	(6.9)	0.6	0.6	6			
採回番号 図版番号	出土位置 残存状態	種類	発行年	備考					
第93図 3 PL. 26	確認面 空形	寛永通寶 (新寛永銭)	1668	正字文					

3. 塚田村東Ⅳ遺跡のまとめ

塚田村東Ⅳ遺跡の調査では、縄文時代から近現代に至るまでの幅広い資料が得られた。調査区域の全体ですべての時代が確認できたわけではなく、また断続的でもあるが、この地域における歴史の変遷を知る上で、重要な資料であることには変わりないであろう。

縄文時代では、中期に属する土器片と打製石斧、石鏃が出土した。遺構は確認できず、遺物の量も少ないことから、本遺跡では縄文時代の土地利用は極めて希薄であったといえよう。

弥生時代から古墳時代中期までの遺構や遺物は確認できず、古墳時代後期に至ってようやく、Hr-FA直下の畠跡が確認できた。今回の調査では、検出できていないものの、近くの元総社西川遺跡などでは古墳時代の集落が確認されていることから、本遺跡の近くには居住域もあったのだろう。

奈良・平安時代は、本遺跡でもっとも資料が多い。もっとも古い時期に属する住居跡は8世紀初頭の15号住居跡で、新しい時期に属するのは9世紀後葉の6・14号住居跡である。本遺跡の調査では、住居跡が検出される時期幅が短い。周辺では10世紀代に属する住居跡もみられる。8世紀前葉から中葉に属する4・8・9・11号住居跡では、羽口や鉄滓といった鉄生産関連遺物の出土が特徴的である。やはり鉄生産関連遺物が出土した84・92号土坑は時期を特定できていないが、前述の住居跡と何らかの関連を持っていた可能性もあろう。8世紀前半の地方支配制度整備期の需要にんでいたのだろうか。

8世紀後半から9世紀前半の時期は住居跡が少ない。本遺跡の南部で3軒検出したのみである。住居跡のごく一部しか検出していないため、不明点が多いが、カマドに瓦を使用していないようである。

9世紀第3四半期以降でも住居軒数は増加したとはいえない。しかし、カマドに瓦を用いることが確認できる。礫との併用もあるが、この時期からは、

国分僧寺などから瓦を持ち込むようになる。

9世紀末以降の住居跡は検出されていない。そのためか、本遺跡の遺物には、灰釉陶器や羽釜の量が少ない。

平安時代末期の遺構として、As-B直下の畠を検出した。これは、本遺跡の中央部付近で、地形がやや落ち込んでいたため、As-Bの堆積が残され、今回の検出に繋がったのだろう。他では検出できなかったが、本遺跡に広く畠が存在していたことは、想像に難くない。

中世は、As-Bが多く入った層直下による認識であり、具体的な時期などについては不明瞭である。遺物の少なさも一因であろう。この時期の遺構は、As-B混土層が残存している、本遺跡南半部を中心として検出された。畠跡と土坑墓が主な検出遺構であるが、その中で、人骨が出土した85・86号土坑は貴重な資料であろう。上面が残存しておらず、副葬品などの遺物が出土しなかったことは悔やまれる。また、3号土坑は火葬場としての機能があったと考えられ、時期は特定できないが、中世の火葬遺構として貴重な例となった。

近世は、土坑墓の存在が目につく。20・31・45号土坑は、副葬された皿や銭貨の時期から17世紀後半であると考えられる。20・31号土坑からは人骨も出土し、重要な資料となった。隣接した場所で、条件はほぼ同じと考えられるが、45号土坑から人骨が出土しなかったのは不思議なことである。19号土坑からは陶磁器が出土せず、時期が特定できない。副葬された銭貨から18世紀以降と判断される。ここでも、江戸時代前期では銭貨と皿を副葬するという傾向が確認できた。

近代以降では、機関銃座である土坑が特徴である。基本的にはこの時代も畠が広がっていたと考えられるが、近くに飛行場が作られたことから、その一部を潰して作られたようである。

第2章 塚田村東IV遺跡の調査

第2表 塚田村東IV遺跡土坑計測表

番号	位置	形状	長軸方位	長さ×短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
2	Cj-Ck-106-107	隅丸長方形か	N-86°-W	-×45	90	土師器、須恵器、瓦	近世、土坑墓
3	Cl-Ck-105-106	楕円形	N-17°-E	(222)×204	20	土師器、須恵器、瓦、陶器、石製品	中世
4	Cl-Cj-104-105	ほぼ円形	-	113×110	15	土師器、須恵器、瓦	中世
5	Cl-Cj-101-102	楕円形	N-35°-E	132×108	20	土師器、須恵器	中世
6	Cl-Cj-101-102	楕円形	N-80°-E	(94)×55	12	須恵器	中世
7	Cl-Cj-100-101	楕円形	N-0°	116×98	52	土師器、須恵器、陶磁器	中世
8	Cj-Ck-100-101	楕円形	N-23°-E	72×97	12	土師器	中世
9	Cj-Ck-100-101	楕円形	N-60°-E	185×146	17	土師器、須恵器	中世
10	Cl-Cj-100-101	楕円形	N-43°-E	63×56	18	-	中世
11	Cj-Ck-96-98	突出のある円形	-	335×202	176	土師器、須恵器、瓦、陶磁器	近現代、機銃座
12	Cj-Ck-99-100	楕円形	N-6°-E	(70)×63	18	-	中世
13	Cj-Ck-99-100	隅丸長方形	N-88°-E	128×(75)	24	須恵器	中世
14	Cj-Ck-99-100	隅丸長方形	N-16°-E	(250)×144	32	土師器、須恵器、瓦	中世
15	Cl-Ck-99-100	隅丸長方形	N-87°-W	(220)×143	24	土師器、須恵器、瓦	中世
16	Cl-Cj-98-100	楕円形	N-16°-E	105×87	25	土師器、須恵器	中世
17	Cl-Cj-98-99	楕円形か	N-3°-W	58×(55)	35	土師器、須恵器	中世
19	Cl-Ck-105-107	長方形	N-7°-E	100×65	112	須恵器、銭貨	近世、土坑墓
20	Cj-Ck-106-107	楕円形	N-83°-W	98×86	165	土師器、須恵器、瓦、陶器、銭貨	近世、土坑墓
23	Ch-Cj-112-114	隅丸長方形か	N-85°-W	(228)×124	25	-	古代
24	Cl-Cj-110-111	楕円形	N-88°-W	97×78	50	土師器	古代
25	Cl-Cj-109-110	楕円形	N-87°-E	80×63	17	-	古代
26	Cl-Cj-108-110	ほぼ円形	-	102×95	10	-	古代
27	Cj-Ck-110-111	楕円形	N-65°-W	58×50	29	-	古代
28	Ch-Ck-110-111	楕円形	N-76°-E	118×90	57	土師器、須恵器	古代
29	Ch-Ck-110-111	不定形	N-74°-W	60×43	42	-	古代
30	Cl-Cj-110-111	不定形	N-39°-W	152×110	28	-	古代
31	Cj-Ck-106-107	楕円形か	N-9°-E	(62)×(55)	45	陶器、銭貨	近世、土坑墓
32	Cl-Cj-105-107	隅丸長方形	N-4°-E	132×62	10	土師器、須恵器	古代
33	Cl-Ck-103-105	隅丸長方形	N-5°-E	222×96	14	土師器、須恵器	古代
34	Cj-Ck-103-104	不定形	N-23°-W	92×45	34	土師器	古代
35	Cl-Cj-108-109	隅丸長方形	N-15°-W	88×38	7	-	古代
36	Cl-Cj-107-108	隅丸長方形か	N-5°-W	148×(79)	10	土師器、須恵器	古代
37	Cj-Ck-107-108	隅丸長方形か	N-78°-E	(210)×145	15	土師器、須恵器	古代
38	Cl-Cj-102-103	ほぼ円形	-	68×67	20	-	古代
39	Cl-Cj-102-103	楕円形	N-47°-W	55×55	10	土師器、須恵器	古代
40	Cj-Ck-102-103	隅丸長方形	N-15°-W	162×71	16	土師器、須恵器	古代
43	Cl-Cj-101-102	楕円形か	N-4°-W	46×36	25	-	古代
45	Cj-Ck-106-107	楕円形か	N-0°	88×(45)	95	陶器、銭貨、土師器、須恵器、瓦	近世、土坑墓
46	Cl-Cj-102-104	楕円形か	N-3°-W	474×(65)	91	土師器、羽口	古代
48	Cl-Ck-101-102	隅丸長方形	N-14°-W	91×48	14	土師器、灰輪陶器	古代
49	Cj-Ck-82-83	楕円形	N-12°-E	76×64	6	土師器、須恵器	近世以降
50	Cj-Ck-83-84	楕円形	N-86°-E	51×41	21	-	中世
51	Cl-Cj-83-84	楕円形	N-20°-E	40×39	13	土師器、須恵器	中世
52	Cj-Cj-84-85	楕円形	N-60°-W	44×38	5	土師器	中世
53	Cl-Cj-84-85	長方形	N-90°	58×54	15	土師器、須恵器	中世
54	Cl-Cj-85-86	隅丸長方形	N-0°	56×28	7	-	中世
55	Cj-Ck-85-86	隅丸長方形	N-0°	125×100	7	土師器、須恵器	中世
56	Cj-Cj-85-86	不定形	N-15°-E	77×70	10	土師器	中世

3. 塚田村原Ⅳ遺跡のまとめ

番号	位置	形状	長軸方位	長径×短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
57	Cj-Ci-86-87	楕円形	N-9°-W	81×57	23	土師器、須恵器	中世
58	Cj-Ci-87-88	楕円形	N-86°-E	81×69	30	土師器	中世
59	Cj-Ci-87-88	楕円形	N-86°-E	70×55	38	須恵器	中世
60	Ck-Ci-87-88	楕円形	N-4°-W	78×70	51	須恵器	近世以降
61	Ck-Ci-88-89	円形	N-88°-E	54×50	21		中世
62	Ck-Ci-88-89	半楕円形	N-81°-E	84×46	25		中世
63	Cj-Ci-89-90	隅丸長方形	N-4°-W	217×138	73	土師器、須恵器、灰輪 陶器、瓦、陶磁器	近世以降
64	Cj-Ck-93-94	楕円形	N-35°-W	93×56	15	土師器、須恵器	近世以降
65	Cj-Ci-93-94	長楕円形	N-71°-E	(191)×50	15	土師器、須恵器	近世以降
66	Ck-Ci-92-93	楕円形小	N-4°-W	175×(65)	20	土師器、須恵器	近世以降
67	Ci-Ck-93-94	楕円形	N-9°-E	84×57	22		中世
68	Ci-Ck-82-83	隅丸長方形	N-4°-E	102×72	19	土師器	古代
69	Cj-Ck-82-83	ほぼ円形	-	115×113	28		古代
70	Cj-Ck-81-82	ほぼ円形	-	31×30	11		古代
71	Cj-Ci-81-82	楕円形	N-18°-E	80×64	10		古代
72	Cj-Ck-82-83	ほぼ円形	-	86×78	15		古代
73	Ck-Ci-82-83	楕円形小	N-0°	40×(14)	17		古代
74	Ck-Ci-82-83	楕円形小	N-8°-E	100×(77)	16	土師器、須恵器	古代
75	Ck-Ci-85-86	楕円形	N-50°-E	74×65	15		古代
76	Cj-Ck-82-83	楕円形	N-60°-E	71×56	25		古代
77	Cj-Ck-83-84	ほぼ円形	-	84×79	18	土師器、須恵器	古代
78	Cj-Ck-83-84	楕円形	N-86°-E	104×90	21	土師器、須恵器	古代
79	Cj-Ci-84-85	ほぼ円形	-	77×76	12	土師器	古代
80	Cj-Ck-84-85	楕円形	N-2°-E	110×100	37	土師器	古代
81	Cj-Ck-85-86	楕円形	N-40°-W	78×67	13	土師器、須恵器	古代
82	Ci-Ci-85-86	ほぼ円形	-	92×92	30	土師器、須恵器	古代
83	Ck-Ci-84-85	隅丸長方形小	N-8°-E	186×(100)	49		古代
84	Ci-Ck-96-97	不定形	N-2°-E	193×124	41	土師器、須恵器、鉄滓	古代
85	Cj-Ci-91-92	隅丸長方形	N-0°	115×80	25		中世、土坑墓
86	Cj-Ck-91-92	隅丸長方形	N-6°-E	148×74	24	土師器、須恵器	中世、土坑墓
87	Cj-Ci-91-93	隅丸長方形小	N-3°-W	266×(165)	45	土師器、須恵器	古代
92	Ck-Ci-86-87	円形小	-	46×22	4	鉄滓	古代
93	Ci-Cj-103-104	不定形	N-24°-W	62×20	14	須恵器	古代
94	Cj-Ck-102-103	楕円形	N-25°-E	53×40	10	土師器	古代
95	Cj-Ck-102-103	ほぼ円形	-	42×42	10		古代

第3表 塚田村東Ⅳ遺跡ピット計測表

番号	位置	形状	長軸方位	長径×短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
1	Cj-Ck-100-101	ほぼ円形	-	40×38	10	土師器、須恵器	中世
2	Cj-Ck-103-104	楕円形	N-86°-E	30×26	20	土師器、須恵器	中世
3	Ci-Cj-99-101	ほぼ円形	-	44×46	16	土師器	中世
4	Ci-Ck-99-100	ほぼ円形	-	44×38	14	須恵器	中世
5	Ci-Cj-100-101	楕円形	N-65°-W	22×20	44		中世
6	Ci-Cj-109-110	楕円形	N-52°-W	52×46	48	土師器、須恵器	古代
7	Ci-Cj-109-110	楕円形	N-37°-E	54×44	36		古代
8	Ci-Cj-109-110	楕円形	N-27°-E	50×40	30		古代
9	Ci-Cj-109-110	楕円形	N-55°-E	42×30	34	土師器、須恵器	古代
10	Ci-Cj-109-110	楕円形	N-21°-E	56×50	54		古代
11	Ci-Cj-109-110	楕円形	N-35°-E	52×45	50	土師器	古代
12	Ci-Cj-109-110	楕円形	N-83°-E	32×28	32		古代
13	Ci-Cj-109-110	楕円形	N-50°-W	46×40	34		古代
14	Ci-Cj-109-110	隅丸長方形	N-88°-E	48×46	62		古代
15	Ci-Cj-109-110	楕円形	N-40°-W	48×44	34		古代

第2章 塚田村東IV遺跡の調査

番号	位置	形状	長軸方位	長径×短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
16	Ci-Cj-108-110	楕円形	N-64°-W	52×48	36		古代
17	Ci-Cj-108-110	ほぼ円形	-	48×48	34	土師器	古代
21	Ci-Cj-102-103	ほぼ円形	-	40×40	52		古代
22	Ci-Cj-102-103	楕円形	N-79°-E	(42)×30	14		古代
23	Ci-Ck-101-103	楕円形	N-30°-W	40×36	36		古代
24	Ci-Cj-100-101	楕円形	N-5°-E	24×22	32		古代
25	Ci-Cj-100-101	ほぼ円形	-	18×18	14		古代
26	Ci-Cj-100-101	楕円形	N-16°-W	22×18	36		古代
27	Ci-Cj-99-100	隅丸長方形	N-82°-E	25×20	15		古代
28	Ci-Cj-99-100	隅丸長方形	N-83°-E	34×22	30	須恵器	古代
29	Cj-Ck-99-100	楕円形	N-23°-E	36×30	25		古代
30	Cj-Ck-99-100	楕円形	N-15°-W	36×32	24		古代
31	Ci-Cj-103-104	楕円形	N-19°-E	36×30	46	土師器、須恵器	古代
32	Ci-Cj-103-104	楕円形	N-73°-W	32×24	12	須恵器	古代
33	Ci-Cj-103-104	楕円形	N-30°-W	45×44	40	土師器、須恵器	古代
34	Cj-Ck-98-99	楕円形	N-36°-E	44×32	38		古代
35	Cj-Ck-98-99	楕円形	N-16°-W	28×20	25		古代
36	Ci-Cj-99-100	楕円形	N-90°	54×36	46		古代
37	Ci-Cj-103-104	楕円形	N-33°-W	50×40	38	土師器、須恵器	古代
38	Ci-Cj-103-104	楕円形	N-26°-W	70×50	42		古代
39	Cj-Ck-102-103	楕円形	N-68°-E	46×38	34		古代
40	Ci-Cj-100-101	楕円形	N-28°-W	34×30	10		古代
41	Ci-Cj-100-101	楕円形	N-59°-E	24×20	7		古代
42	Cj-Ck-102-103	楕円形	N-51°-W	28×28	10		古代
43	Ci-Cj-100-101	楕円形小	N-2°-E	42×(26)	22	土師器	古代
44	Cj-Ck-99-100	ほぼ円形	-	52×48	32		古代
45	Cj-Ck-103-104	隅丸方形小	N-19°-W	38×(20)	35		古代
46	Cj-Ck-103-104	不定形	N-23°-W	46×40	42		古代
47	Cj-Ck-101-102	楕円形	N-69°-E	40×24	26		古代
48	Cj-Ck-82-83	楕円形	N-82°-W	44×30	18	土師器、須恵器	近世以降
49	Cj-Ck-82-83	楕円形	N-67°-W	42×30	20	土師器	近世以降
50	Cj-Ci-85-86	楕円形	N-83°-W	28×26	15	土師器	近世以降
51	Cj-Ck-85-86	楕円形	N-27°-W	30×27	15		近世以降
52	Cj-Ck-85-86	楕円形	N-78°-W	36×34	30	土師器、須恵器	中世
53	Cj-Ck-85-86	楕円形	N-36°-E	40×32	37	土師器、須恵器	近世以降
54	Cj-Ck-85-86	楕円形	N-90°	35×31	15		中世
55	Cj-Ck-85-86	楕円形	N-70°-W	20×15	20		近世以降
56	Cj-Ck-85-86	楕円形	N-90°	32×26	26		近世以降
57	Cj-Ck-85-86	楕円形	N-43°-W	28×24	18	土師器	中世
58	Ck-Ci-85-86	楕円形	N-76°-E	38×30	22		中世
59	Cj-Ck-86-87	楕円形	N-83°-E	38×28	24	須恵器	近世以降
60	Cj-Ck-86-87	円形	-	42×42	15		中世
61	Cj-Ck-86-87	楕円形	N-47°-E	46×42	20		近世以降
62	Cj-Ci-87-88	楕円形	N-10°-W	44×42	40		近世以降
63	Cj-Ck-88-89	楕円形	N-39°-W	40×38	22		近世以降
64	Cj-Ck-90-91	楕円形	N-7°-W	45×32	32	須恵器	近世以降
65	Cj-Ck-90-91	楕円形	N-24°-E	46×42	26	土師器、須恵器	近世以降
67	Cj-Ck-102-103	楕円形	N-3°-W	50×(25)	45	土師器、須恵器	古代
68	Cj-Ck-101-102	円形	N-37°-W	48×43	52		古代
69	Cj-Ck-102-103	円形	N-85°-E	37×35	37		古代

第4表 塚田村東IV遺跡溝跡計測表

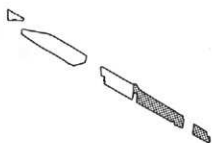
番号	位置	断面形状	方位	幅 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
1	Cl~Ck-105~106	レンズ状	N-88°-E	(上)16~25 (F)8~16	9	土師器、須恵器	中世
2	Cl~Ck-103~104	皿状	N-85°-E	(上)10~28 (F)6~16	4	土師器、須恵器、灰軸 陶器	中世
3	Cl~Ck-108~112	浅い混台形状	N-15°-E	(上)20~62 (F)10~38	16	土師器、須恵器、瓦	中世
4	Cl~Cj-107~109	皿状	N-18°-W	(上)16~23 (F)10~16	6	砥石	古代
5	Cl~Cl-92~93	皿状	N-83°-E	(上)18~20 (F)6~12	6		中世
6	Cl~Cl-96~98	皿状	N-73°-E	(上)336~284 (F)18~48	66	土師器、須恵器、瓦、 鉄片、石製品	古代

第5表 塚田村東IV遺跡畠跡計測表

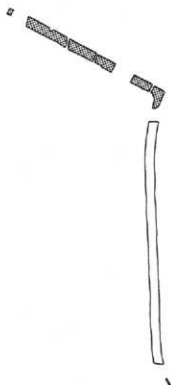
番号	位置	長軸方位	サク溝幅 (cm)	サク間 (cm)	深埋 (cm)	出土遺物	備考
1	Cl~Cj-106~110	N-5°-E	40~64	80~132	3~6	土師器、須恵器、瓦	中世
2	Cl~Cj-105~108	N-85°-E	18~40	18~84	2~6	須恵器	中世
3	Cl~Cj-103~106	N-3°-W	40~82	84~140	6~8	土師器、須恵器	中世
4	Cl~Cj-102~103	N-80°-E	70	70	2~3	土師器、須恵器、銅製 品	中世
5	Cl~Cj-100~104	N-4°-W	32~54	68~110	4~8	土師器、須恵器、瓦	中世
6	Cl~Cj-101~102	N-84°-E	38	-	6	土師器、須恵器	中世
7	Cj~Ck-82~84	N-2°-E	20~36	55~64	6~20	土師器、須恵器	中世
8	Cj~Ck-82~84	N-2°-E	9~12	102~104	4~8	土師器、須恵器、灰軸 陶器	中世
9	Cj~Ck-83~84	N-90°	20~30	38~50	4~6	土師器、須恵器	近世
10	Cj~Ck-83~85	N-90°	28~32	76	6~7	土師器、須恵器	中世
11	Cj~Ck-83~85	N-90°	27~34	68	6~8	土師器、須恵器	中世
12	Cj~Ck-85~87	N-82°-E	20~40	60	6~20	土師器、須恵器	中世
13	Cj~Ck-87~88	N-71°-E	26~38	32~70	8~20	土師器、須恵器	中世
14	Cj~Ck-91~92	N-83°-E	32~46	66~70	7~10	土師器、須恵器	中世
15	Cj~Cl-92~97	N-2°-W	20~32	22~140	4~20	土師器、須恵器、鉄製 品	近世以降
16	Cj~Ck-92~94	N-4°-E	32~86	60~120	2~4	土師器、須恵器	中世
17	Cj~Ck-96~98	N-83°-E	22~40	56~86	3~18	土師器、須恵器、瓦、 石製品	As-B直下
18	Cj~Ck-82~86	N-7°-W	40~94	102~114	22~40		Hr-FA直下

第3章 塚田中原遺跡0区の調査





塚田中原遺跡0区



第94図 塚田中原遺跡0区位置図

P105の写真

塚田中原遺跡0-2区の発掘調査風景

1. 塚田中原遺跡0区の概要

県道足門前橋線沿いの調査区であったため、上面は削平を受けている箇所もあり、塚田村東Ⅳ遺跡のような複数にわたる面調査は行えなかった。ただし、調査区の一部においては、As-B混土層が残存している箇所もあり、その直下で確認できた遺構もある。

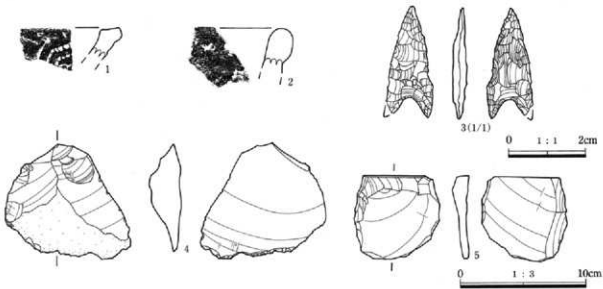
ここでも奈良・平安時代が主体であり、住居跡19軒などを検出した。時期は8世紀前葉から10世紀に至り、幅広い。最も多いのは9世紀後半から10世紀前半にかけての時期である。また、奈良三彩など重要な遺物の出土も見られた。

2. 塚田中原遺跡の遺構と遺物

(1) 縄文時代の遺物 (第95図、遺物PL.38)

中期から後期初頭の土器片や、石鏃、剥片石器などが出土した。これらは、遺構確認面や遺構覆土中

から出土したが、縄文時代の遺構は確認できていない。



第95図 縄文時代出土遺物

縄文時代 遺物観察表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
			口 底	厚	長さ			
第95図1 PL. 38	縄文土器 深鉢	1区確認面 口破片	口 底	- 1.5		胎 粗砂粒多 焼 酸化偏 良好 色 帯	隣区による口縁部区画、区画内は複列の結節状織を帯縁とする	阿玉台Ⅱ式
第95図2 PL. 38	縄文土器 深鉢	40住覆土 口破片	口 底	- 2.0		胎 粗砂粒やや多 焼 酸化偏 良好 色 明水色	肥厚する口縁部、口縁下に凹溝が施される	加曾利E3式
検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			石材	特徴	
第95図3 PL. 38	石器 石鏃	16溝覆土 基部欠損	長さ	幅	厚さ		黒曜石	巴基無茎の石鏃、左側の基部は欠損している
第95図4 PL. 38	石器 剥片石器	16溝覆土 欠損あり	(6.7)	(5.8)	1.8	球質頁岩	スクレイパー、側縁部に加工を施している	
第95図5 PL. 38	石器 剥片石器	26住覆土 ほぼ完	4.5	4.4	0.9	黒色頁岩	加工痕のある剥片、全体的に磨耗が激しい	

(2) 竪穴住居

25号住居跡 (第96・97図、遺構PL.29、遺物PL.38)

位置：Cm-Co-76-78

長軸方位：N-12°-W

規模・形状：本住居跡は調査区域外にまで広がるため、全容を明らかにすることはできなかった。検出部で3.05m×0.96m、形状は隅丸方形を呈すると考えられる。検出した床面積は4.15㎡で、壁の高さは0.25mである。

カマド：東壁に構築されていた。燃焼部の幅は0.8mで、張り出しは壁から0.47mであった。

内部施設：壁溝は、東壁下のカマドより北から北壁下で検出した。また、部分的にしか検出していない

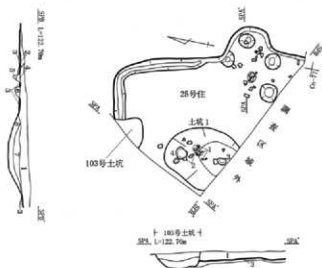
が、土坑が1基あり、規模1.08m×0.98mで、深度0.23mであった。

床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：土師器坏 (No 1、2)、須恵器坏 (No 3)、須恵器整 (No 4) は土坑1から出土した。

重複遺構：本住居跡は、北壁付近で103号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他：出土している土師器・須恵器坏より、本住居跡の時期は9世紀前葉と判断される。



カマド

1. 暗褐色土 焼土粒多含
2. 暗褐色土 焼土粒多、灰やや多含
3. 暗褐色土 焼土粒少含
4. 暗褐色土 焼土粒やや多、As-C少含、締まりやや強・粘性弱
5. 暗褐色土 焼土粒やや多、ローム粒少含
6. 暗褐色土 焼土粒・灰やや多含
7. 暗褐色土 焼土粒・灰やや多含、締まり弱
8. 暗褐色土 灰多、焼土粒少含
9. 暗褐色土 灰多、焼土粒やや多含
10. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒少含
11. 暗褐色土 灰やや多、ロームブロック少含

25号住居跡

1. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少含
2. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒少含
3. 暗褐色土 ロームブロック少含、床土、締まり強
4. 暗褐色土 焼土粒多含、粘性弱
5. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
6. 暗褐色土 ロームブロック多含
7. 暗褐色土 炭化物少含
8. 暗褐色土 ロームブロックやや多含



第96図 25号住居跡



第97図 25号住居跡出土遺物

25号住居跡 遺物観察表

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状況	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第97図1 PL.38	土師器 坏	土坑1 ほぼ完	口 13.0 底 8.4 高 3.8	胎 砂粒少 白色・黒色雑物 焼 酸化焙 良好 色 明褐	外面：口縁部横ヘラナデ。底部ヘラ削り 内面：体部放射状ミガキ。底部螺旋状ミガキ	
第97図2 PL.38	土師器 坏	土坑1 口～底1/4	口 (13.8) 底 - 高 4.0	胎 砂粒少 白色・黒色雑物 焼 酸化焙 良好 色 明赤褐	外面：口縁部横ヘラナデ。体部～底部ヘラ削り 内面：横ナデ	
第97図3 PL.38	須恵器 坏	土坑1 口～底3/4	口 11.7 底 7.0 高 3.1	胎 細砂粒少 白色雑物 焼 還元焙 良好 色 黒褐	輪縁整形（右回転） 底部：回転糸切り	
第97図4 PL.38	須恵器 壁	土坑1 底部には完 高台2・3	口 - 底 14.2 高 (2.8)	胎 φ5mm小礫 粗砂粒少 白色・黒色雑物 焼 還元焙 良好 色 橙	輪縁整形（右回転） 底部：回転ヘラ削り、付け高台	

26号住居跡（第98～101図、遺構PL.29、遺物PL.38～40）

位置：Cs～Ct-72～73

長軸方位：N-15°-W

規模・形状：本住居跡の北東部は、調査区域外であるため、明らかにできなかった点もある。また、重複遺構により、形状が一部不明瞭である。3.75m×3.35mの隅丸正方形に近いが、西壁の一部が突き出るなど、不定型なところもある。床面積は検出部で9.5㎡で、壁の高さは0.46mである。

カマド：東壁の南よりに検出された。焼成部の幅は0.8m、壁からの張り出しは0.92mであった。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出していない。本住居跡中央部から南寄りに、床面から掘り込みがある土坑を3基検出した。

床面：平坦で固く締まっていた。

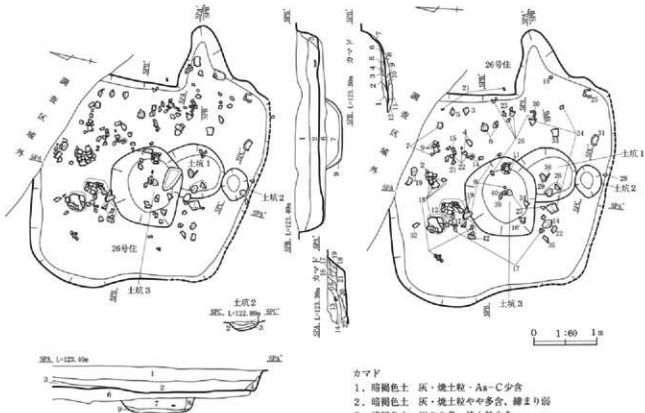
出土遺物：出土した遺物の量は、本遺跡の中では極めて多い。しかし、時期に幅があり、覆土からの出

土が多いことから、住居廃絶後に投棄等があった可能性が高い。土師器甕（No25）は掘り方土からの出土であった。土坑1からは土師器甕（No26）、須恵器甕（No29）が、土坑3からは鍾などの鉄製品（No39・40）が出土した。特徴的な遺物として、土師器甕（No26）は、県外からの搬入品と考えられ、須恵器甕（No33～35）には漆が付着していた。また、鉄製の鍾（No39）は、比較的類例の少ない資料であろう。

重複遺構：本住居跡は、南壁付近で29号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。

その他：出土した土師器は8世紀前葉から中葉にかけての資料である。本住居跡は8世紀前葉に機能を終え、中葉に廃棄等を受けた可能性が考えられるが、断定できない。そのため、本住居跡の時期は8世紀前葉から中葉と考えたい。

第3章 塚田中原遺跡0区の調査



26号住居跡

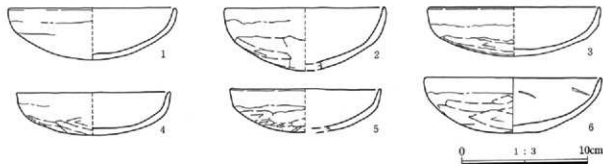
1. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含
2. 暗褐色土 As-C・焼土粒・ローム粒少含
3. 暗褐色土 灰やや多、As-C・炭化物・焼土粒少含、
締まり弱
4. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含
5. 暗褐色土 黒褐ブロック・ロームブロック少含
6. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含、
床土、締まり強
7. 暗褐色土 炭化物・焼土粒・ロームブロック少含
8. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒少含、締まり弱
9. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、締まり弱

土坑2

1. 暗褐色土 焼土粒・ローム粒少含、締まり弱
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
3. 暗褐色土 ロームブロック多含

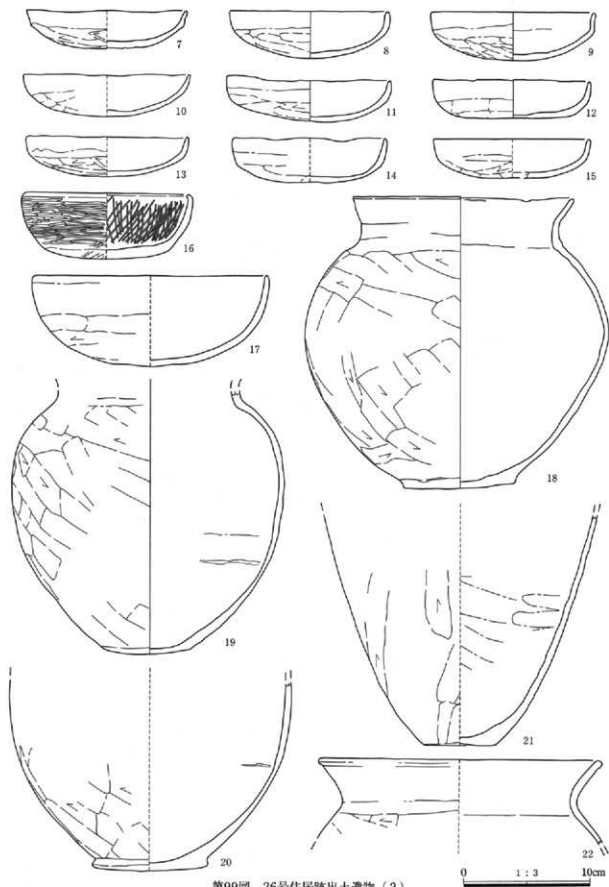
カマド

1. 暗褐色土 灰・焼土粒・As-C少含
2. 暗褐色土 灰・焼土粒やや多含、締まり弱
3. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒少含
4. 暗褐色土 灰・焼土粒少、白濁粘質土ブロックやや多含
5. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒少含、締まり弱
6. 暗褐色土 灰・焼土粒炭化物少含
7. 暗褐色土 灰・焼土粒少含
8. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒少含
9. 暗褐色土 灰多、焼土粒少含
10. 暗褐色土 ロームブロックやや多、灰・焼土粒少含
11. 暗褐色土 灰・焼土粒・ロームブロックやや多含
12. 暗褐色土 ロームブロックやや多、灰少含
13. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含
14. 暗褐色土 As-C・灰少含
15. 暗褐色土 焼土粒やや多、As-C少含
16. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含
17. 暗褐色土 焼土粒多含、粘性弱
18. 暗褐色土 焼土粒少含
19. 暗褐色土 焼土粒・灰少含
20. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒少含
21. 暗褐色土 焼土粒多、灰少含、粘性弱
22. 暗褐色土 焼土粒やや多含

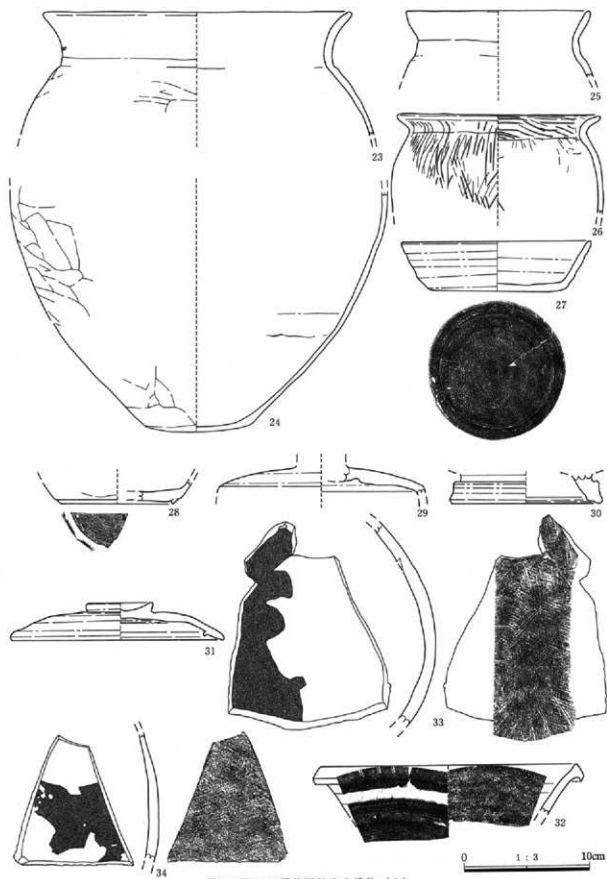


第98図 26号住居跡、出土遺物(1)

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物

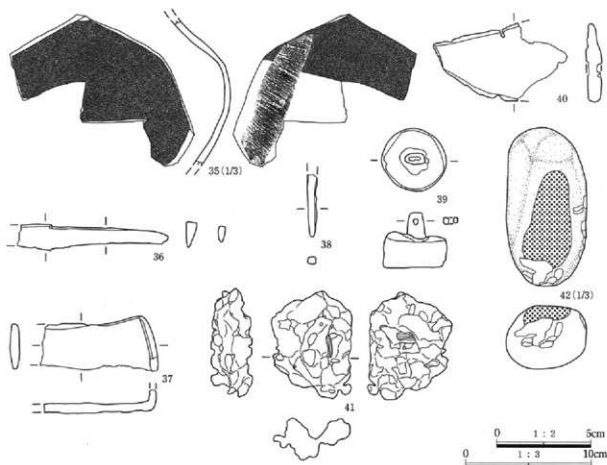


第99図 26号住居跡出土遺物(2)



第100図 26号住居跡出土遺物(3)

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物



第101図 26号住居跡出土遺物(4)

26号住居跡 遺物観察表

探検番号 図取番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第98図1 PL.38	土師器 坏	覆土 口~底2/5	口 (13.3) 底 - 高 4.1	胎 砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 澄	外面：口縁部横ナデ、体部~ 底部へラ削り 内面：ナデ	外面残存不良
第98図2 PL.38	土師器 坏	覆土 口~底1/5	口 (12.6) 底 - 高 (4.9)	胎 φ3mm小礫 砂粒やや多 黒色・白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 澄	口唇部やや内湾 外面：口縁 部横ナデ、体部~底部へラ削り 内面：横ナデ	
第98図3 PL.38	土師器 坏	覆土 口~底1/3	口 (13.6) 底 - 高 3.9	胎 φ3mm小礫 面砂粒少 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 明赤褐色	口縁部は高く直立する 外面： 口縁部横ナデ、体部~底部 へラ削り 内面：横ナデ	
第98図4 PL.38	土師器 坏	覆土 口~底1/6	口 (12.2) 底 - 高 3.4	胎 砂粒やや多 黒色・白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 澄	口縁部は高く直立する 外面： 口縁部横ナデ、体部~底部 へラ削り 内面：横ナデ	
第98図5 PL.38	土師器 坏	覆土 口~底1/3	口 (11.8) 底 - 高 (3.4)	胎 砂粒少 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 澄	口縁部は高く直立する 外面： 口縁部横ナデ、体部~底部 へラ削り 内面：横ナデ	
第98図6 PL.38	土師器 坏	覆土 口~底1/4	口 13.9 底 - 高 4.4	胎 砂粒少 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 澄	外面：口縁部横ナデ、体部~ 底部へラ削り 内面：ヘラナ デ	
第99図7 PL.38	土師器 坏	覆土 口~底2/5	口 (13.2) 底 - 高 3.1	胎 砂粒やや多 黒色・白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 澄	口縁部は外傾する 外面：口 縁部横ナデ、体部~底部へラ 削り 内面：ナデ	
第99図8 PL.38	土師器 坏	土坑3 ほぼ完	口 12.6 底 - 高 3.7	胎 砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 澄	口縁部直立 外面：口縁部横 ナデ、体部~底部へラ削り 内面：ナデ	
第99図9 PL.38	土師器 坏	覆土 口~底1/4	口 12.9 底 - 高 3.8	胎 砂粒少 黒色・白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 澄	口縁部は直立し、わずかに外反 外面：口縁部横ナデ、体部~底 部へラ削り 内面：横ナデ	

第3章 塚田中原遺跡0区の調査

第99010 Pl. 38	土師器 坏	覆土 口～底1/2	口 底 高	131 - 3.3	胎 焼 色	砂粒やや多 酸化焰 良好 にぶい黄褐色	外面：口縁部横ナデ、体部～ 底部へラ削り 内面：ナデ	
第99011 Pl. 38	土師器 坏	覆土 口～底3/4	口 底 高	130 - 3.6	胎 焼 色	砂粒少 酸化焰 良好 にぶい橙	口縁部は直立 外面：口縁部 横ナデ、体部～底部へラ削り 内面：ナデ	
第99012 Pl. 38	土師器 坏	覆土 ほぼ完	口 底 高	124 - 3.1	胎 焼 色	砂粒やや多 酸化焰 良好 橙	外面：口縁部横ナデ、体部～ 底部へラ削り 内面：横ナデ	
第99013 Pl. 38	土師器 坏	覆土 口～底1/4	口 底 高	(130) - 3.2	胎 焼 色	φ3mm小礫 砂粒やや多 酸化焰 良好 橙	口縁部は高く直立 外面：口 縁部横ナデ、体部～底部へラ 削り 内面：横ナデ	
第99014 Pl. 38	土師器 坏	覆土 口～底1/3	口 底 高	(120) - 3.5	胎 焼 色	砂粒やや多 酸化焰 良好 にぶい橙	口縁部は高く直立する 外 面：口縁部横ナデ、体部～底 部へラ削り 内面：ナデ	
第99015 Pl. 38	土師器 坏	覆土 口～底1/4	口 底 高	(123) - (3.0)	胎 焼 色	砂粒やや多 酸化焰 良好 にぶい橙	口縁部直立 外面：口縁部横 ナデ、体部～底部へラ削り 内面：横ナデ	
第99016 Pl. 38	土師器 坏	覆土 口～底1/2	口 底 高	134 - 5.2	胎 焼 色	φ3mm小礫 砂粒少 酸化焰 良好 橙	口唇部内溝 外面：口唇部横ナデ、 体部～底部ミガキ 内面：体部裾 子状ミガキ 底部螺旋状ミガキ	
第99017 Pl. 38	土師器 坏	覆土 口～底1/2	口 底 高	(188) - 7.2	胎 焼 色	砂粒やや多 酸化焰 良好 にぶい橙	口縁部は深く内溝 外面：口 縁部横ナデ、体部～底部へラ 削り 内面：横ナデ	
第99018 Pl. 39	土師器 羹	覆土 口～底5/6	口 底 高	172 (8.6) 22.9	胎 焼 色	粗砂粒やや多 酸化焰 良好 灰黄	外面：口縁部横ナデ、体部へ ラ削り 内面：口縁部横ナデ、 体部ナデ	
第99019 Pl. 39	土師器 羹	覆土 口～底5/6	口 底 高	- 7.0 (20.7)	胎 焼 色	φ4mm小礫 粗砂粒やや多 酸化焰 良好 橙	外面：頸部横ナデ、体部へラ 削り 内面：横ヘラナデ	
第99020 Pl. 38	土師器 羹	覆土 体～底2/5	口 底 高	- 9.1 (14.9)	胎 焼 色	砂粒やや多 酸化焰 良好 明赤褐色	外面：体部へラ削り 内面： 横ナデ	
第99021 Pl. 39	土師器 羹	覆土 体～底1/4	口 底 高	- (5.6) (18.2)	胎 焼 色	粗砂粒多 酸化焰 良好 にぶい黄褐色	外面：体部へラ削り 内面： 横ナデ	
第99022 Pl. 39	土師器 羹	覆土 口～体1/2	口 底 高	(22.2) - (6.6)	胎 焼 色	砂粒やや多 酸化焰 良好 橙	外面：口縁部横ナデ、体部へ ラ削り 内面：口縁部横ナデ	
第100023 Pl. 39	土師器 羹	覆土 口～体1/5	口 底 高	(24.3) - (9.7)	胎 焼 色	粗砂粒やや多 酸化焰 良好 橙	外面：口縁部横ナデ、へラ痕 残る 体部へラ削り 内面： ナデ	
第100024 Pl. 39	土師器 羹	覆土 体～底1/4	口 底 高	- 8.4 14.9	胎 焼 色	砂粒やや多 酸化焰 良好 橙	外面：体部へラ削り 内面： 横ナデ	
第100025 Pl. 39	土師器 羹	掘り方 口～体1.3/5	口 底 高	144 - (5.2)	胎 焼 色	砂粒やや多 酸化焰 良好 明赤褐色	外面：口縁部横ナデ、体部へ ラ削り 内面：横ヘラナデ	
第100026 Pl. 39	土師器 羹	土坑1 口～体1/4	口 底 高	(16.0) - (7.0)	胎 焼 色	φ3mm小礫 砂粒少 酸化焰 良好 灰白	外面：口唇部横ナデ、体部粗 い条痕 内面：口縁部横方向 の条痕、体部縦線条痕	他地域からの 贈入品か
第100027 Pl. 39	須恵器 坏	土坑1・3 ほぼ完	口 底 高	149 10.7 3.9	胎 焼 色	φ3mm小礫 砂粒少 還元焰 良好 灰	罐體整形(右回転) 底部： 回転へラ切り後、回転ナデ調 整	
第100028 Pl. 39	須恵器 高台付坏	覆土 口～底1/8	口 底 高	- (8.8) (1.9)	胎 焼 色	φ4mm小礫 砂粒少 還元焰 良好 灰	罐體成形(右回転) 底部： 回転へラ切り後、付け高台	
第100029 Pl. 39	須恵器 長頸甕	覆土 体1/5	口 底 高	- - (2.2)	胎 焼 色	細砂粒やや多 還元焰 良好 灰	罐體整形 外面：自然釉	
第100030 Pl. 39	須恵器 長頸甕	覆土 高台1/2	口 底 高	- (12.0) (2.3)	胎 焼 色	φ4mm小礫 粗砂粒やや多 還元焰 良好 灰白	罐體整形 有段の高台	
第100031 Pl. 39	須恵器 蓋	覆土 横～口1/2	口 横 高	168 5.3 2.9	胎 焼 色	細砂粒やや多 還元焰 良好 灰オリーブ	罐體整形(右回転) 外面： 天井部上半回転へラ切り	
第100032 Pl. 39	須恵器 羹	覆土 口1/6	口 底 高	(20.0) - (4.0)	胎 焼 色	φ2mmの小礫 還元焰 良好 灰	罐體整形 口縁部折り返し 内面：自然釉	

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物

第100B33 PL.40	須恵器 壺	覆土 体破片	口 底 高	- - -	胎 焼 遺元焰	小礫 良好	白色磁物	外面：平行叩き目 内面：ナ デ	内面に漆付着	
第100B34 PL.40	須恵器 壺	覆土 体破片	口 底 高	- - -	胎 焼 遺元焰	小礫 良好	白色磁物	外面：平行叩き目 内面：ナ デ	内面に漆付着	
第101B35 PL.40	須恵器 壺	覆土 体破片	口 底 高	- - -	胎 焼 遺元焰	小礫 良好	白色磁物	外面：平行叩き目 内面：ナ デ	内外面に漆付着	
押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			特徴				
			長さ	幅	厚さ	重量 (g)				
第101B36 PL.40	鉄製品 刀子	覆土 刃部欠損	(8.0)	1.4	0.6	6	刀子の柄。刃部はほぼ欠損			
第101B37 PL.40	鉄製品 鎌	覆土 欠損あり	(6.2)	(2.9)	0.5	16	基部を折り曲げる鎌			
第101B38 PL.40	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	(3.3)	0.5	0.4	1	頭部の折り曲げなどは見られないが、角釘状の棒状品			
第101B39 PL.40	鉄製品 棒	土坑3 完形	3.3	3.4	2.9(高)	73	短い円柱形の本体の上に、経過しが付く。底部は平直で、上部は経過し取り付けのため凹凸がある			
第101B40 PL.40	鉄製品 板状品	土坑3 欠損あり	(7.1)	(4.1)	0.8	28	扁平で厚みのある板状品			
第101B41 PL.40	鉄器 陶製鉄滓	覆土 完形	5.6	4.3	1.7	56	陶製鉄滓(細小) 鍛錬跡消滅、磁着度3・メタル度(△)			
押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			石材	特徴			
			長さ	幅	厚さ					
第101B42 PL.40	石製品 磨盤石か	覆土 ほぼ完	12.5	6.3	5.0		粗粒輝石安山岩 先端部・側縁部に嵌り痕、平面面は磨られている			

27号住居跡 (第102・103図、遺構PL.29、遺物PL.40)

位置：Cr-Cs-72-73

南壁方位：N-23°E

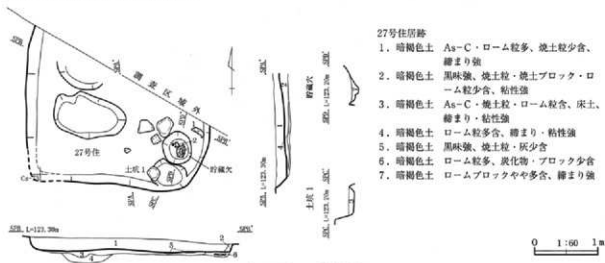
規模・形状：本住居跡は、調査区域外にまで広がるため、全容は明らかでない。検出部で東西2.95m×南北2.47mで、隅丸形状となるであろう。壁の高さは0.25mである。

カマド：検出されていない。しかし、東部より礫が出土し、貯蔵穴と考えられる土坑が存在することから東壁に構築された可能性がある。

内部施設：壁溝は検出できなかった。貯蔵穴と考えられる土坑が、南東部東壁よりに検出された。規模は0.52m×0.46m、深度0.17mを測る。

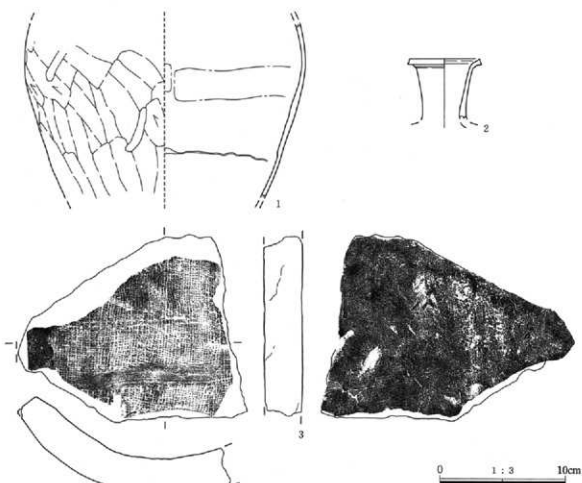
床面：検出部では、平坦で固く締まっていた。

出土遺物：床面直上より土師器壺(No1)が出土し、貯蔵穴からは、須恵器長頸壺(No2)が出土した。その他：出土した土師器壺から、本住居跡の時期は9世紀中葉と判断される。



第102図 27号住居跡

第3章 塚田中原遺跡0区の調査



第103図 27号住居跡出土遺物

27号住居跡 遺物観察表

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
第103図1 PL.40	土師器 類	床直上	口 - 底 - 高 (13.8)	胎 砂較やや多 焼 燻化焼 色 白色・黒色臍物 良好 色 におい濁	外面：体部へう削り 内面： 横ナデ、輪積痕残る				
第103図2 PL.40	須恵器 長頸壺	貯蔵穴 口～頸はば 完	口 (4.5) 底 - 高 (4.8)	胎 砂粒少 焼 還元焼 色 白色臍物 良好 オリーブ灰	輪轆整形				
検出番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・輪痕・ 一枚作り可能性	粘土板(測 取表・裏・ 接合)	布目痕(合目 ・擦消)・瓦 能陸時圧痕	轆轤使用・ 叩き技法・ 型式名称	側部 面取	備考
第103図3 PL.40	平瓦	覆土 破片	胎 並 焼 密 色 色 におい濁	製 輪 なし 法 輪 なし 一 あり	表 × 裏 × 接 粘土帯	合 × 部分 × 乾 ×	側 × 叩 × 型 タナ推	2	吉井原 8世紀後半～9 世紀前半

28号住居跡 (第104・105図、遺構PL.29-30、遺物PL.40・41)

位置：Da～Db-71～73

長軸方位：N-4°-W

規模・形状：本住居跡は中心部を調査することができなかつたため、東部と西端部のみしか検出できていない。規模は4.18m×3.32m、面積推定9.72㎡で、

隅丸長方形を呈すると考えられる。上面はかなり削平を受けており、壁の高さは0.17mである。

カマド：東壁の南よりで検出された。燃燒部の幅は0.82mで、張り出しは壁から0.57mであった。内部施設：壁溝やピットは検出できなかった。南東

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物

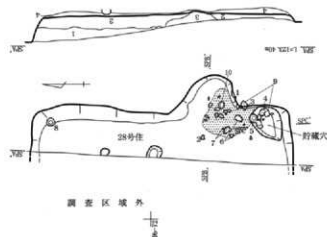
角に0.62m×0.44m、深度0.13mの貯蔵穴があった。
床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：カマドや貯蔵穴からの出土が多い。床面直上からは、土師器甕 (No2) が出土した。カマドからは土師器甕 (No1)、須恵器坏 (No3)、須恵器碗 (No6、7) が出土し、貯蔵穴からは須恵器坏 (No

4)、須恵器碗 (No5、9) が出土した。

重複遺構：本住居跡のカマド南部で、122号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。

その他：出土した土師器甕や須恵器から9世紀中葉と判断される。



貯蔵穴

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、締まり強
2. 暗褐色土 ロームブロック少含



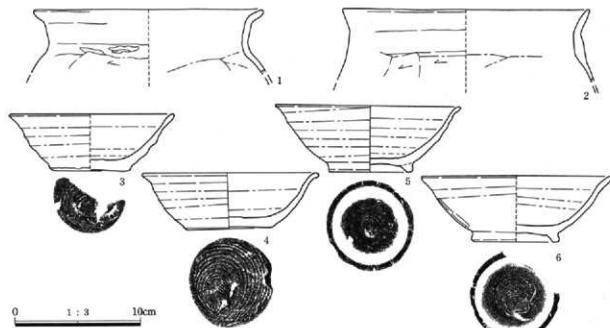
カマド

1. 暗褐色土 ローム粒少、As-C含、締まり強
2. 暗褐色土 焼土粒・炭化物含、締まり弱
3. 暗灰褐色土 砂質性あり、締まり弱 (積風)
4. 暗褐色土 砂質土、As-C極少含
5. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、床層、締まり強
6. 暗褐色土 灰・焼土粒少含、締まり弱
7. 暗褐色土 焼土粒・灰やや多含
8. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒少含、締まり・粘性弱
9. 暗褐色土 灰多含、締まり・粘性弱

28号住居跡

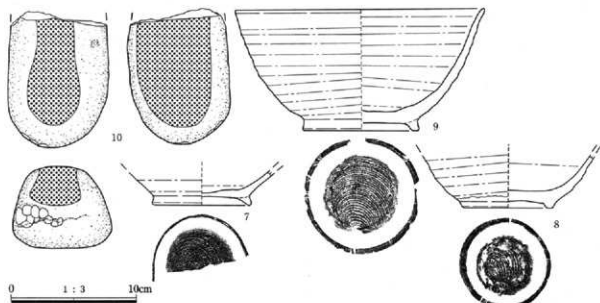
1. 暗褐色土 As-C多、ローム粒少含、締まり強
2. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含
3. 暗灰褐色土 ローム粒少含、締まり強
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、床土、締まり強

0 1:60 1m



第104図 28号住居跡、出土遺物 (1)

第3章 塚田中原遺跡0区の調査



第105図 28号住居跡出土遺物(2)

28号住居跡 遺物観察表

探検番号 区画番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)			胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
			長さ	幅	高さ			
第104図1 PL.40	土器 甕	カマド	口 (18.2)	胎 細砂粒少	胎 白色・黒色臍物 焼 酸化塩 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、ヘラ肌 残る 体部ヘラ割り 内面： 横ヘラナデ		
		底	底 6.0					
第104図2 PL.40	土器 甕	床直上	口 (19.4)	胎 細砂やや多	胎 黒色・白色臍物 焼 酸化塩 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘ ラ割り 内面：横ナデ		
		底	底 5.6					
第104図3 PL.40	須恵器 環	カマド	口 13.0	胎 砂粒少	胎 黒色・白色臍物 焼 還元焰 やや軟 色 灰白	輪轆整形（右回転） 口縁部 弱く外反 底部：回転糸切り		
		底	底 4.6					
第104図4 PL.40	須恵器 環	貯蔵穴	口 14.0	胎 砂粒少	胎 黒色・白色臍物 焼 還元焰 やや軟 色 灰白	輪轆整形（右回転） 口縁部 弱く外反 底部：回転糸切り		
		口～底	底 6.7					
第104図5 PL.40	須恵器 環	貯蔵穴	口 14.6	胎 φ3mm小礫	胎 細砂粒少	胎 白色・黒色臍物 焼 還元焰 やや軟 色 灰黄褐	輪轆整形（右回転） 口縁部 外反 底部：回転糸切り後、 付け高台	
		底	底 6.8					
第104図6 PL.40	須恵器 環	カマド	口 (14.8)	胎 細砂粒やや多	胎 黒色・白色臍物 焼 酸化塩 良好 色 にぶい黄褐	輪轆整形（右回転） 口縁部外反 底部：回転糸切り後、付け高台 外面：体部の一部ヘラ割り		
		底	底 6.9					
第105図7 PL.40	須恵器 環	カマド	口 -	胎 細砂粒やや多	胎 黒色・白色臍物 焼 還元焰 やや軟 色 にぶい橙	輪轆整形（右回転） 底部： 回転糸切り後、付け高台		
		底	底 (7.8)					
第105図8 PL.40	須恵器 環	覆土	口 -	胎 φ6mm小礫	胎 砂粒やや多	胎 白色・黒色臍物 焼 還元焰 良好 色 灰白	輪轆整形（右回転） 底部： 回転糸切り後、付け高台	
		底	底 (7.2)					
第105図9 PL.41	須恵器 環	貯蔵穴	口 (19.7)	胎 細砂粒やや多	胎 白色・黒色臍物 焼 還元焰 良好 色 灰白	輪轆整形（右回転） 口縁部 弱く外反 底部：回転糸切り 後、付け高台		
		口～底	底 9.1					
第105図10 PL.41	石製品 磨盤石か	カマド	口 (10.8)	胎 長さ	胎 幅	胎 厚さ	石材	特徴
		底	底 矢張りあり					

29号住居跡 (第106図、遺構PL.29、遺物PL.41)

位置：Cs-Ct-72-73

南壁方位：N-81°-W

規模・形状：本住居跡は重複により、不明なところ

が多い。検出した規模は東西3.2m×南北1.22mで、隅丸方形を呈する可能性がある。床面積は不明で、壁の高さは0.4mである。

カマド：検出されていない。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。
南西部の床下に土坑が検出された。検出した規模は
1.32m×0.9m、深度0.6mであった。

床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：ほとんど出土していない。薦藁石 (No1)

は土坑1からの出土である。

重複遺構：本住居跡は南壁付近を除くほとんどが26号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。その他：重複関係より、本住居跡の時期は8世紀前葉以前であろう。



第106図 29号住居跡、出土遺物

29号住居跡 遺物観察表

検出番号 図面番号	種別 器種	出土位置 残存状況	計測値 (cm)			石材	特徴
			長さ	幅	厚さ		
第106図1 PL.41	石製品 薦藁石か	土坑1 欠損あり	166	7.0	2.6	雲母石英片岩	側縁部に敲打痕、平坦面は拂られている

31号住居跡 (第107~110図、遺構PL.30、遺物PL.41・42)

位置：Ei-Ej-53-54

長軸方位：N-86°-E

規模・形状：本住居跡は重複が激しく、不明瞭などところもある。規模は4.78m×4.3mと考えられ、形状は西壁が短い隅丸台形であろう。面積は14.91㎡検出し、壁の高さは0.64mである。

カマド：東壁中央よりやや南に構築されていた。燃焼部の幅は0.68m、張り出しは壁から0.97mであった。崩落した軸が一部残されているが、礎や瓦は、カマドから出土していない。しかしカマドから離れたところで瓦が出土しているので、構築材として使われていた可能性はある。

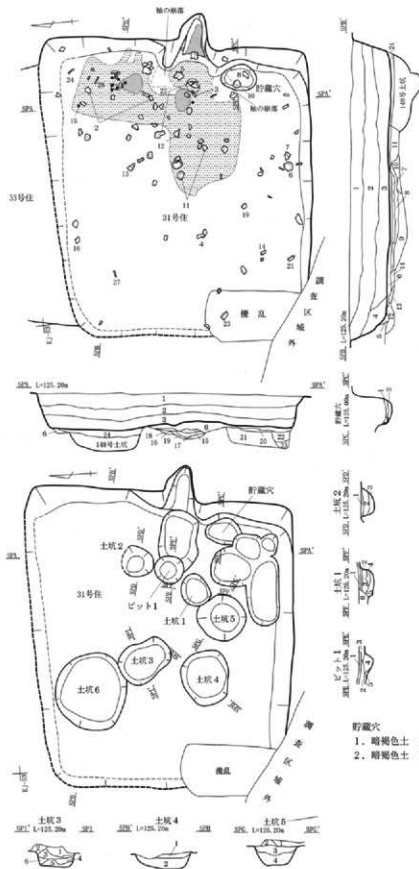
内部施設：壁溝やピットは検出できなかった。貯蔵穴がカマド南壁近くで検出されたほか、床下からは多数の土坑状の落ち込みが検出された。本住居跡の土坑として扱うが、重複しているほかの住居跡に帰属する可能性もある。

床面：比較的平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：須恵器杯 (No6)、須恵器甕 (No22) は床面直上から出土した。土師器杯 (No1)、土師器甕 (No4)、須恵器杯 (No7)、須恵器甕 (No13)、瓦 (No23) は掘り方土から出土した。カマドからは土師器甕 (No3、5) が出土し、貯蔵穴からは須恵器杯 (No8)、須恵器甕 (No10) が出土した。

重複遺構：本住居跡は南東部以外の大半で重複があ

第3章 塚田中原遺跡0区の調査



31号住居跡

1. 暗褐色土 As-C多、焼土粒やや多含
2. 暗褐色土 As-C・焼土粒多、黄褐土粒・炭化物やや含
3. 暗褐色土 As-C・焼土粒・焼土・黄褐ブロック・炭化物少含
4. 暗褐色土 As-C・焼土粒極少含
5. 暗褐色土 As-C・黄褐土ブロック少含、締まり強
6. 暗褐色土 黒味強、As-C・黄褐粒少含、床土、締まり強
7. 黒褐色土 As-C少、黄褐ブロック極少含、締まり強
8. 暗褐色土 黄褐ブロック多、As-C少含
9. 暗褐色土 黄褐ブロック少、As-C・ローム粒極少含
10. 暗褐色土 黒味強、As-C少、黄褐ブロック極少含
11. 暗褐色土 黄褐ブロック多、As-C・焼土粒やや多含、締まり強
12. 暗褐色土 焼土粒・黄褐ブロック・暗褐ブロックやや多含
13. 暗褐色土 黒味強、As-C・黄褐ブロックやや多含
14. 暗褐色土 暗褐ブロックやや多含、締まり・粘性強
15. 暗褐色土 灰多、ローム粒・焼土粒やや多含
16. 灰層
17. 暗褐色土 焼土粒多、黄褐ブロック・灰少含、締まり強
18. 暗褐色土 黄味強、ローム粒少含、締まり・粘性強
19. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少含
20. 暗褐色土 ローム粒・黒褐粘質土ブロック少含
21. 暗褐色土 焼土粒少、ローム粒極少含
22. 暗褐色土 焼土粒・ローム粒少含、締まり強
23. 暗褐色土 黄褐粘質土ブロックやや多含、締まり強
24. 暗褐色土 黒味強、粘質土・ローム粒少含、締まり強

貯蔵穴

1. 暗褐色土 ローム粒少含
2. 暗褐色土 ローム粒少含、締まり強

第107図 31号住居跡

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物

る。33・34・35・44号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡がもっとも新しいと判断される。

その他：出土した土師器甕や須臾器の様相から、本住居跡の時期は9世紀中葉と判断する。

ビット1

1. 暗褐色土 黒味強、As-C・ローム粒やや多含
2. 暗褐色土 焼土粒多、炭化物やや多含
3. 暗褐色土 As-C・黄褐色ブロック・焼土粒少含
4. 暗褐色土 灰・ローム粒やや多含
5. 暗褐色土 黄褐色ブロック少含、締まり強

土坑1

1. 暗褐色土 黒味強、As-C・ローム粒やや多含
2. 暗褐色土 灰非常に多、焼土粒少含、締まり弱
3. 暗褐色土 黄褐色粘質土ブロック多、焼土粒やや多含
4. 暗褐色土 焼土粒多、灰やや多含、締まり弱
5. 暗褐色土 粘質土・焼土粒多含、締まり・粘性強
6. 暗褐色土 焼土粒多、炭化物やや多含、締まり弱

土坑2

1. 灰層
2. 暗褐色土 焼土粒多、灰やや多含、締まり弱
3. 暗褐色土 黄褐色粘質土ブロック多、灰やや多含、粘性強

土坑3

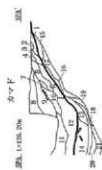
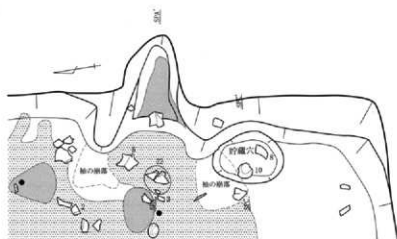
1. 暗褐色土 ロームブロック多、焼土粒少含、締まり強
2. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含、締まり強
3. 暗褐色土 ロームブロック少含、締まり弱
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
5. 暗褐色土 ロームブロック多含
6. 暗褐色土 ロームブロック少含

土坑4

1. 暗褐色土 焼土粒少含、締まり弱
2. 暗褐色土 ローム粒・黄褐色粘質土ブロック少含、締まり弱・粘性強

土坑5

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、締まり強
2. 暗褐色土 ロームブロック多、焼土粒・灰少含
3. 暗褐色土 ロームブロック多含、締まり弱
4. 暗褐色土 ロームブロック多含

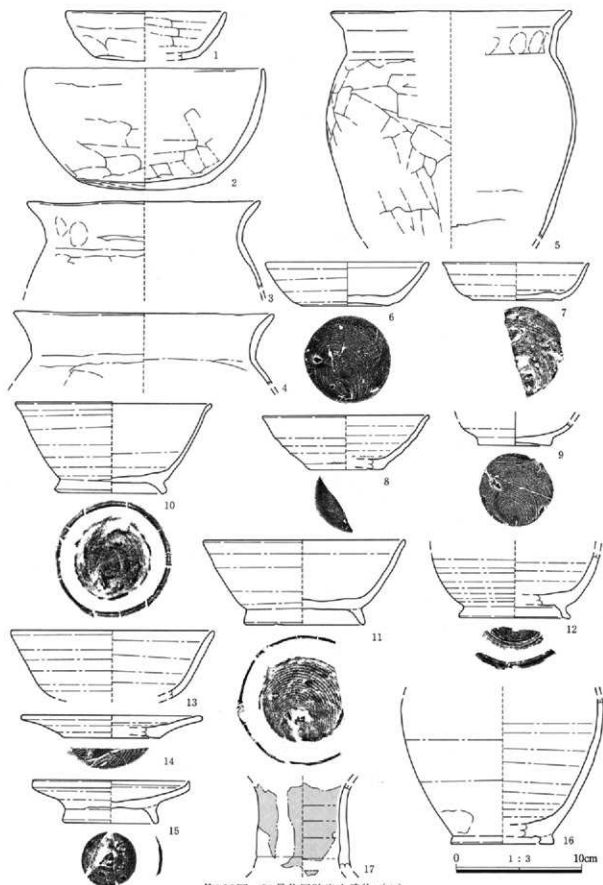


カマド

1. 黒褐色土 As-C多含
2. 暗褐色土 As-C多含
3. 暗褐色土 焼土粒多、焼土ブロック・As-C少含
4. 暗褐色土 As-C多、焼土粒少含
5. 暗褐色土 焼土ブロック・焼土粒多含、締まり・粘性弱
6. 暗褐色土 5層より黒味強、焼土粒多、灰やや多含
7. 暗褐色土 粘質土・焼土粒・As-C少含、締まり・粘性強
8. 暗褐色土 As-C多、焼土粒やや多含、締まり・粘性強
9. 暗褐色土 As-C・焼土粒多、炭化物少含
10. 暗褐色土 9層より黒味強、As-C少、焼土ブロック・灰塵少含
11. 暗褐色土 焼土粒・As-C少含
12. 暗褐色土 焼土ブロック・ローム粒多含
13. 暗褐色土 焼土粒・黄褐色ブロック・炭化物やや多含
14. 暗褐色土 焼土粒多、灰・ローム粒やや多含、粘性強
15. 暗褐色土 As-C少含、砂質性强、粘性なし
16. 暗褐色土 焼土ブロック多含
17. 暗褐色土 ローム粒極少含
18. 暗褐色土 灰非常に多、ローム粒・焼土粒やや多含
19. 暗褐色土 黄褐色粘質土多含、粘性強
20. 暗褐色土 焼土粒多、黄褐色ブロック・灰少含
21. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少含、締まり・粘性強

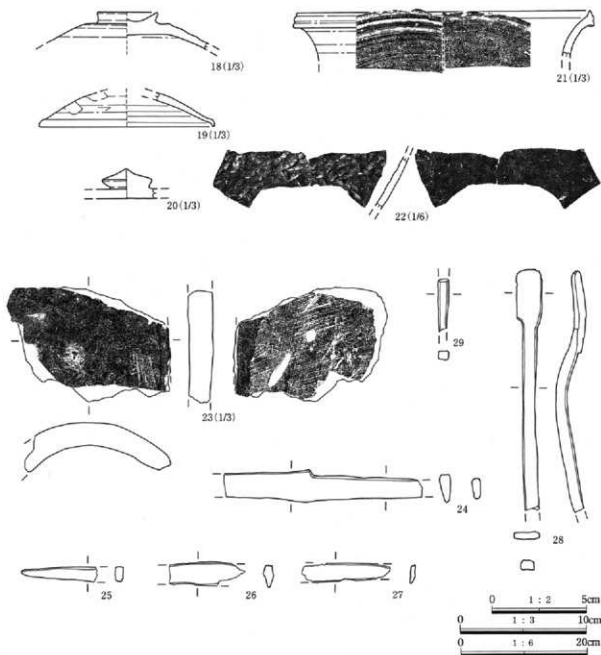
0 1:30 1m

第108図 31号住居跡カマド



第109図 31号住居跡出土遺物(1)

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物



第110図 31号住居跡出土遺物(2)

31号住居跡 遺物観察表

図号番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第109図1 PL.41	土師器 環	掘り方 □～底1/4	口 (128) 底 (8.0) 高 (3.9)	胎 砂粒やや多 黒色・白色灰物 焼 酸化塩 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部～ 底部ヘラ削り 内面：横ナデ	
第109図2 PL.41	土師器 鉢	覆土 □～底1/6	口 (188) 底 (10.6) 高 9.6	胎 細砂粒やや多 黒色・白色灰物 焼 酸化塩 良好 色 におい赤褐	口縁部やや内湾 外面：口縁 部横ナデ、体部～底ヘラ削り 内面：ナデ	
第109図3 PL.41	土師器 甕	カマド □～体上半1/6	口 (186) 底 - 高 (5.8)	胎 細砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 酸化塩 良好 色 黒	外面：口縁部横ナデ、頸部指 頭庄痕・ヘラ痕、体部ヘラ削り 内面：横ナデ	
第109図4 PL.41	土師器 甕	掘り方 □～体上1/8	口 (20.6) 底 - 高 (5.9)	胎 砂粒やや多 白色・赤色・黒色灰物 焼 酸化塩 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘ ラ削り 内面：横ナデ	

第3章 塚田中原遺跡0区の調査

第109005	土師器 罌	コマド	口 底 高	(19.0) - (17.9)	胎 焼 色	砂粒やや多 酸化焰 よい	黒色・白色磁物	外面：口縁部横ナデ、腰部へ う割り 内面：胴部指頭状圧 直、体部ナデ、輪積残存				
PL_41		口～体1/4										
第109006	須恵器 坏	床直上	口 底 高	12.9 6.8 3.5	胎 焼 色	砂粒やや多 還元焰 やや軟	白色・黒色磁物	轆轤整形（右回転） 底部： 回転糸切り				
PL_41		口～底3/4										
第109007	須恵器 坏	掘り方	口 底 高	(11.6) (7.0) 3.0	胎 焼 色	細砂粒少 還元焰 良好	白色・黒色磁物	轆轤整形（右回転） 口縁部 高く外反 底部：回転糸切り				
PL_41		口～底1/3										
第109008	須恵器 坏	貯蔵穴	口 底 高	(13.2) (7.0) 4.3	胎 焼 色	φ5mm小礫 還元焰 良好	細砂粒やや多 白色・黒色磁物	轆轤整形（右回転） 底部：回 転糸切り 内外の底部と腰部 の間に輪積痕跡のヒビが入る				
PL_41		口～底1/3										
第109009	須恵器 坏	覆土	口 底 高	- 5.8 (1.9)	胎 焼 色	細砂粒少 還元焰 良好	白色・黒色磁物	轆轤整形（右回転） 底部： 回転糸切り 外面：底部付近 は持ちが入り、高台状になる				
PL_41		体～底ほぼ底										
第109010	須恵器 埴	貯蔵穴	口 底 高	(15.5) 8.6 7.1	胎 焼 色	φ5mm小礫 還元焰 やや軟	細砂粒やや多 黒色・白色磁物	轆轤整形（右回転） 底部： 回転糸切り後、付け高台				
PL_41		口～底1/2										
第109011	須恵器 埴	覆土	口 底 高	(16.0) 9.4 6.8	胎 焼 色	φ4mm小礫 還元焰 良好	砂粒少 黒色・白色磁物	轆轤整形（右回転） 底部： 回転糸切り後、付け高台：高 台に梯状の圧痕				
PL_41		口～底 底 3/4 他1/6										
第109012	須恵器 埴	覆土	口 底 高	- (8.6) (5.3)	胎 焼 色	細砂粒やや多 還元焰 良好	白色・黒色磁物	轆轤整形（右回転） 底部： 切り離し技法不明、付け高台				
PL_41		体～底1/4										
第109013	須恵器 埴	掘り方	口 底 高	(16.0) - (5.3)	胎 焼 色	粗砂粒少 還元焰 良好	白色磁物	轆轤整形				
PL_41		口～体1/4										
第109014	須恵器 罌	覆土	口 底 高	(14.3) (7.6) 1.8	胎 焼 色	砂粒少 還元焰 良好	白色・黒色磁物	轆轤整形（右回転） 底部： 回転糸切り				
PL_41		口～底1/4										
第109015	須恵器 罌	覆土	口 底 高	(12.4) (7.6) (3.4)	胎 焼 色	砂粒やや多 還元焰 やや軟	白色・黒色・赤色磁物	轆轤整形（右回転）口唇部は直 立し、断面三角形 底部：回 転へつ切り後、付け高台				
PL_41		口～底1/4										
第109016	須恵器 長頸壺	覆土	口 底 高	- (8.1) (11.5)	胎 焼 色	粗砂粒少 還元焰 良好	白色・黒色磁物	轆轤整形（右回転） 底部： 回転糸切り後、付け高台 外 面：体部下半へつ割り				
PL_41		体～底1/3										
第109017	灰輪陶器 長頸壺	覆土	口 底 高	- - (6.7)	胎 焼 色	細砂粒少 還元焰 良好	白色磁物	轆轤整形 内外面に輪積	袋投窟か			
PL_41		胴1/3										
第110018	須恵器 壺	覆土	口 底 高	- (4.7) (1.5)	胎 焼 色	砂粒少 還元焰 良好	白色・黒色磁物	轆轤整形（右回転） 外面： 天井部上半回転へつ割り				
PL_41		口～天井1/6										
第110019	須恵器 壺	覆土	口 底 高	(13.8) - (2.9)	胎 焼 色	砂粒少 還元焰 良好	白色・黒色磁物	轆轤整形（右回転） 外面： 天井部上半へつ割り				
PL_41		天井～口1/6										
第110020	須恵器 壺	覆土	口 底 高	- 3.9 (2.3)	胎 焼 色	細砂粒少 還元焰 良好	白色・黒色磁物	轆轤整形 外面：残存部全体 に自然輪				
PL_41		口のみ完										
第110021	須恵器 罌	覆土	口 底 高	(23.2) - (3.7)	胎 焼 色	粗砂粒やや多 還元焰 良好	白色・黒色磁物	轆轤整形 口唇部折り返し				
PL_42		口1/6										
第110022	須恵器 罌	床直上	口 底 高	- - -	胎 焼 色	φ4mm小礫 還元焰 良好	細砂粒少 白色・黒色磁物	内外面ナデ				
PL_42		体破片										
押戻番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成 色調	製作法・修復・ 一枚作り可能性	粘土板（河 取表・裏・ 接合）	布目痕（合目 ・捺消）瓦 乾進時圧痕	轆轤使用・ 叩き技法・ 型式名称	胴部 面取	備考			
第110023	瓦丸	掘り方 破片	胎 焼 色	製 輪 一	2枚 なし	表 裏 接	× ○ ×	合 捺 乾	△ × -	轆 叩 型	3	笠懸窯・赤陶土質 8世 紀後半～9世紀前半
PL_42												
押戻番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)				特徴					
第110024	鉄製品 刀子	覆土 欠損あり	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	やや幅広い柄の刀子					
PL_42			(10.5)	(1.2)	0.5	15						
第110025	鉄製品 刀子か	覆土 欠損あり	(4.0)	(0.8)	0.45	2	刀子の柄の先端部付近か、先が細くなっている					
PL_42												
第110026	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	(4.0)	1.3	0.5	4	刀子の柄か、やや扁平の棒状品					
PL_42												

第110図27 PL.42	鉄製品 板状品	覆土 欠損あり	(48)	0.9	0.3	3	細くてやや薄い板状品
第110図28 PL.42	鉄製品 ヘラ状品	覆土 納屋欠損	(127)	1.3	0.5	14	工具か、先端部はやや広がる
第110図29 PL.42	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	(28)	0.6	0.5	2	断面四角形の棒状品

32号住居跡 (第111~116図、遺構PL.30、遺物PL.42~45)

位置：Eh-Ei-53~55

長軸方位：N-87°-E

規模・形状：本住居跡は、規模3.65m×2.6mで、やや小型の隅丸長方形を呈する。床面積は7.0㎡、壁の高さは0.39mである。

カマド：東壁の南に構築されていた。礫や瓦が出土しており、構築材として使われていたことがわかる。また、位置は動いているが、カマドで使われたと考えられる石製品 (No27) も出土している。燃焼部の幅は0.75m、張り出しは壁から0.8mであった。

内部施設：壁溝やピットは検出できなかった。貯蔵穴の可能性のある土坑が北東角にあり、規模は0.93m×0.87m、深度0.36mであった。

また、その他にも床面から確認できる土坑が1基 (土坑1)、床下に1基 (土坑2) を検出した。

床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：須恵器坏 (No2)、須恵器耳皿 (No4、5)、灰釉陶器碗 (No6、7)、瓦 (No17、20) が床面直上から出土した。須恵器羽釜 (No9、11、13)、瓦 (No18、19)、石製品 (No27) はカマドから、須恵器羽釜 (No10) はカマドから床にかけて、須恵器羽釜 (No14) と須恵器短頸壺 (No15) はカマドと土坑2で出土した。また、鉄滓 (No24) の出土があった。

重複遺構：本住居跡の南壁付近で145号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。

その他：出土した須恵器羽釜から、本住居跡の時期は、10世紀後葉と判断される。



32号住居跡

1. 暗褐色土 As-C多、炭化物・ローム粒少、焼土粒・黄褐色土塊少量
2. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物少含、締まりやや強
3. 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック非常に多、As-C少含、締まりやや強
4. 暗褐色土 ローム粒極少含、粘性強
5. 暗褐色土 ロームブロック少含、締まり強
6. 黄褐色土 暗褐色粘土ブロック含、床土、締まり・粘性強
7. 暗褐色土 ローム粒少含、締まり弱、粘性強
8. 暗褐色土 暗褐色粘土ブロックやや多含、締まりやや強・粘性強



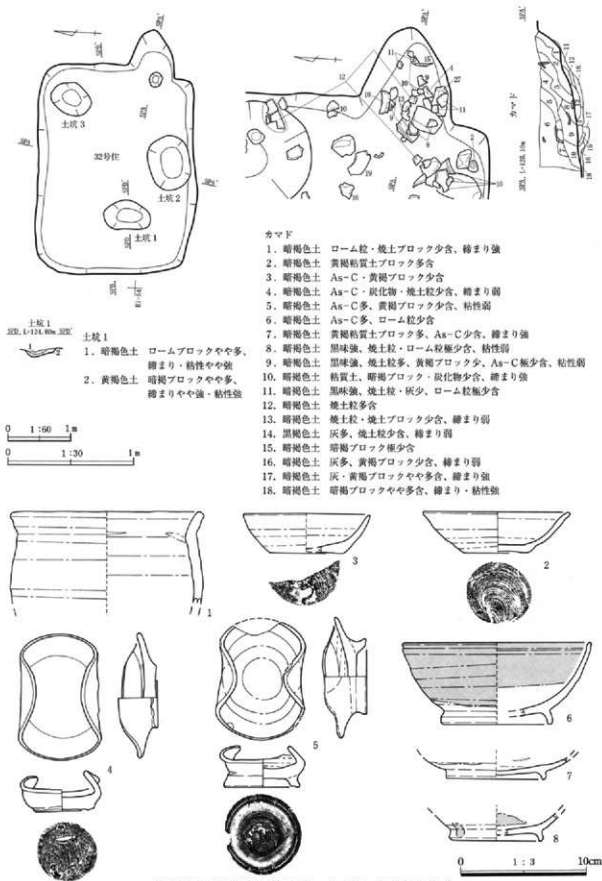
土坑3

1. 暗褐色土 ローム粒少、焼土粒極少含
2. 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックやや多含

0 1:60 1m

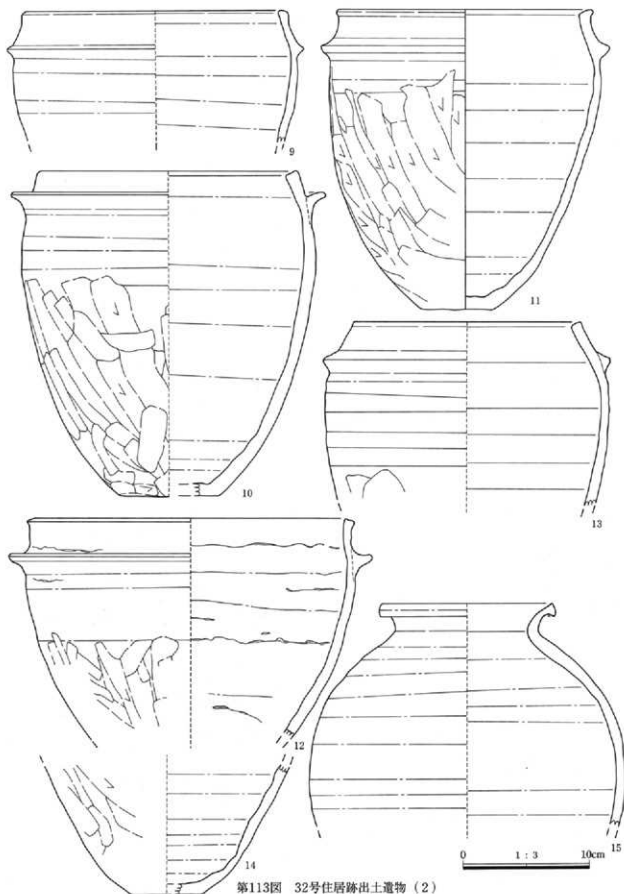
第111図 32号住居跡

第3章 塚田中原遺跡0区の調査

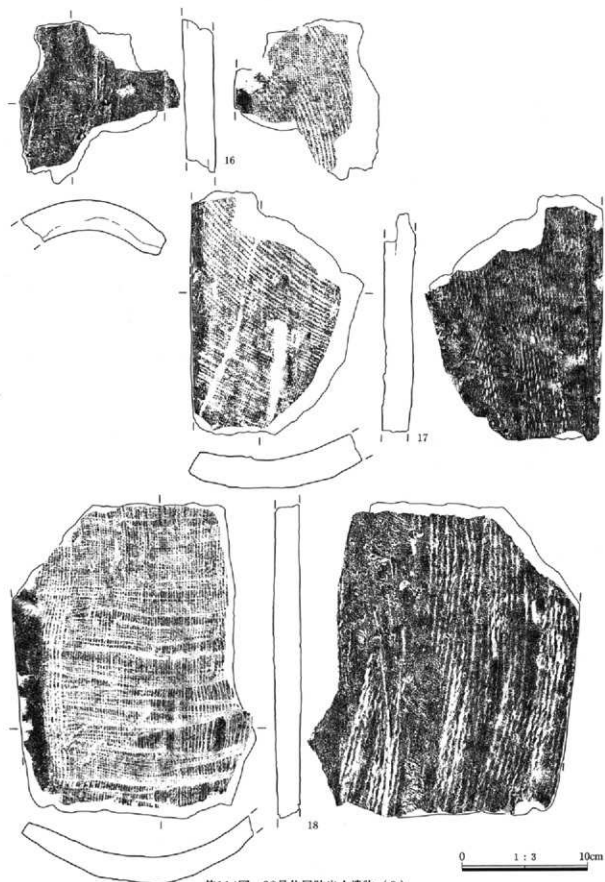


第112図 32号住居跡掘り方、カマド、出土遺物(1)

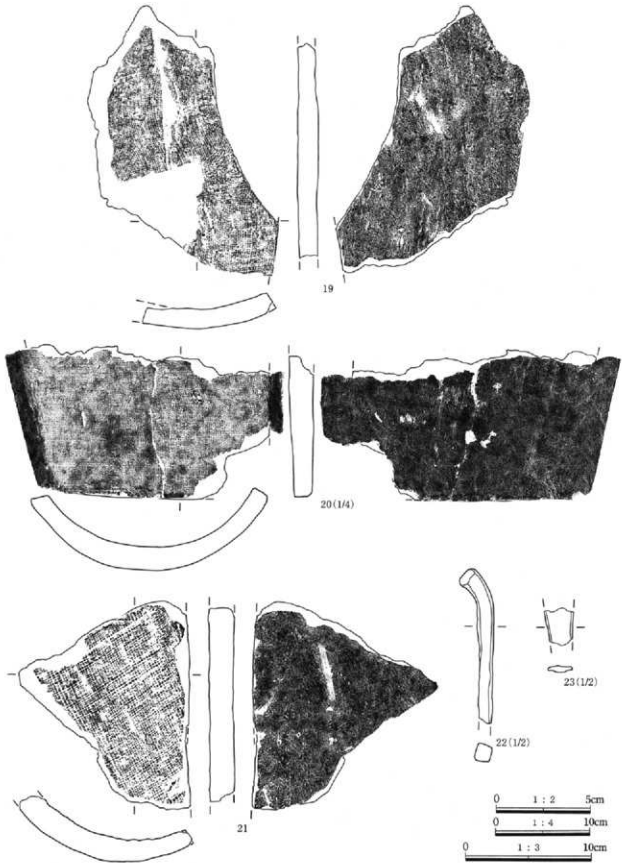
2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物



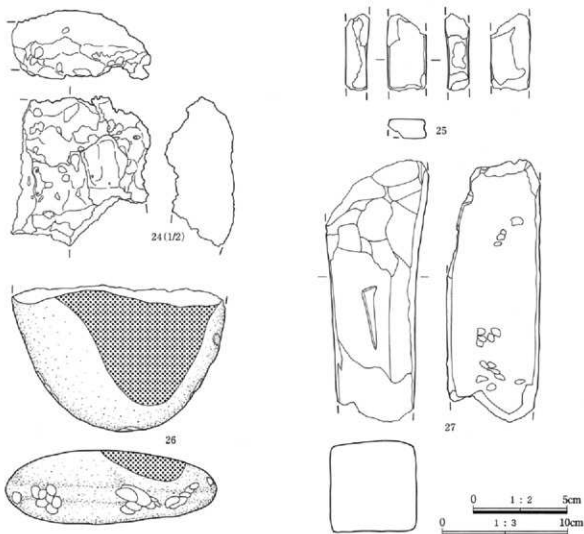
第113図 32号住居跡出土遺物(2)



第114図 32号住居跡出土遺物(3)



第115図 32号住居跡出土遺物(4)



第116図 32号住居跡出土遺物(5)

32号住居跡 遺物観察表

検出番号	種別	出土位置	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第112図1	土師器	覆土	口 (15.3)	胎 ϕ 6mm小礫 粗砂粒少 白・黒・赤色鉱物	内外面横方向のナデ	
PL_42	器種	残存状態	底 -	焼 酸化焰 良好		
第112図2	須恵器	床直上	口 11.6	胎 ϕ 3mm小礫 粗砂粒やや多 白・黒・赤色鉱物	轆轤整形(右回転) 口縁部	
PL_42	環	ほぼ完	底 5.0	焼 酸化焰 良好	弱く外反 底部:回転承切り	
第112図3	須恵器	覆土	口 (10.0)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色・赤色鉱物	轆轤整形(右回転) 底部:	
PL_42	環	口~底1/3	底 (5.8)	焼 酸化焰 良好	回転承切り・紐状の粘土が付着	
第112図4	須恵器	床直上	口 10.0	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色鉱物	轆轤整形(右回転) 底部:	
PL_42	耳皿	完形	底 4.8	焼 還元 良好	回転承切り 外形:底部付近は挟りが入り高台状となる	
第112図5	須恵器	床直上	口 (9.6)	胎 ϕ 4mm小礫 砂粒少 白色鉱物	轆轤整形(右回転) 底部:	
PL_42	耳皿	ほぼ完形	底 6.0	焼 還元 良好	回転承切り後、付け高台、高台端部に1条の沈線が通る	
第112図6	灰胎陶器	床直上	口 (14.9)	胎 緻密	轆轤整形(右回転) 底部:	
PL_42	埴	口~底1/3	底 (8.6)	焼 還元 良好	回転ヘラナゲ調整 内外面体部下半まで施釉、刷毛塗り	虎沢山1号窯式期
第112図7	灰胎陶器	床直上	口 -	胎 緻密	轆轤整形(右回転) 底部:	
PL_42	埴	体~底1/2	底 8.0	焼 還元 良好	回転ヘラナゲ調整 内外面体部下半まで施釉、漬け掛け	大原2号窯式期
PL_42	埴	底ほぼ完	高 (2.0)	色 灰白		

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物

第1126E 8 PL 42	灰輪陶器 埴	覆土 体~底1/2	口 底高 7.2 (2.2)	胎 焼 遺元 良好 色 灰	胎 細砂少 白色・黒色灰物 焼 遺元 良好 色 灰	輪縁整形 (右回転) 底部: 回転ヘラナゲ調整 内部: 体部下半まで輪削	光ヶ丘1号室 式期		
第1126E 9 PL 42	須恵器 羽釜	カマド 口~体1/3	口 (21.0) 底高 - (10.1)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 遺元 良好 色 灰	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 遺元 良好 色 灰	輪縁整形			
第1126E 10 PL 42	須恵器 羽釜	カマド・床 直上 口~底1/2	口 (20.4) 底高 (7.8) 高 25.6	胎 φ6mm小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 におい貴焼	胎 φ6mm小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 におい貴焼	輪縁整形 外面: 体部下半へラ削り			
第1126E 11 PL 43	須恵器 羽釜	カマド 口~底5/6	口 20.2 底高 5.5 高 23.5	胎 粗砂粒少 白色・黒色・赤色灰物 焼 酸化焰 良好 色 灰黄	胎 粗砂粒少 白色・黒色・赤色灰物 焼 酸化焰 良好 色 灰黄	輪縁整形 外面: 体部へ削り			
第1126E 12 PL 43	須恵器 羽釜	カマド・覆土 口~体1/4	口 (25.7) 底高 - 高 16.9	胎 φ4mm小礫 粗砂粒やや多 白・黒・赤色灰物 焼 酸化焰 良好 色 におい貴焼	胎 φ4mm小礫 粗砂粒やや多 白・黒・赤色灰物 焼 酸化焰 良好 色 におい貴焼	輪縁整形 外面: 体部へ削り 内部: 横ナゲ			
第1126E 13 PL 43	須恵器 羽釜	カマド 口~体1/4	口 (18.0) 底高 - 高 (15.1)	胎 φ7mm小礫 粗砂粒少 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 灰黄	胎 φ7mm小礫 粗砂粒少 白色・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 灰黄	輪縁整形 外面: 体部下半へラ削り 内部: 横ナゲ			
第1126E 14 PL 42	須恵器 羽釜	土坑2 体~底1/2	口 - 底高 (5.4) 高 (10.3)	胎 φ6mm小礫 粗砂粒少 白・赤・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 暗焼	胎 φ6mm小礫 粗砂粒少 白・赤・黒色灰物 焼 酸化焰 良好 色 暗焼	輪縁整形 外面: 体部へ削り			
第1126E 15 PL 43	須恵器 短頸壺	土坑2 口~体1/2	口 (13.2) 底高 - 高 (17.5)	胎 砂粒少 白色・黒色灰物 焼 遺元 良好 色 灰黄	胎 砂粒少 白色・黒色灰物 焼 遺元 良好 色 灰黄	輪縁整形 口唇部折り返し			
押出番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・輪痕・ 一枚作り可能性	粘土板 (割 取り・黄・ 接合)	春日直 (合目 ・捺消)・瓦 乾燥時圧痕	輪縁使用・ 叩き技法・ 型式分類	個体 図取	備考
第114E 16 PL 43	丸瓦	覆土 破片	胎 硬 焼 差 色 黄灰	製 2枚 輪 輪 一 なし	表 × 裏 ○ 接 ×	合 × 捺 × 乾 △	輪 × 叩 型 タテ削	3	芝懸窯か吉井窯 8世紀 後半~9世紀前半
第114E 17 PL 43	平瓦	床直上 破片	胎 差 焼 差 色 灰黄	製 輪 一 なし	表 ○ 裏 × 接 ×	合 ○ 捺 なし 乾 ×	輪 ○ 叩 型 縄跡消	3	吉井窯か藤岡窯 8世紀 後半
第114E 18 PL 43	平瓦	カマド 破片	胎 差 焼 差 色 灰白	製 輪 一 なし あり	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	輪 × 叩 型 縄跡	2	芝懸窯 8世紀後半~9 世紀初頭
第115E 19 PL 43	平瓦	カマド 破片	胎 硬 焼 色 におい貴焼	製 輪 一 不明	表 ○ 裏 × 接 ○	合 × 捺 部分 乾 ×	輪 × 叩 型 縄跡全消	2	吉井窯 8世紀後半~9 世紀前半
第115E 20 PL 43	平瓦	床直上 破片	胎 差 焼 差 色 におい貴焼	製 輪 一 あり あり	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	輪 × 叩 型 浅木目	1	芝懸窯・湯陶土質 9世 紀前半
第115E 21 PL 44	平瓦	覆土 破片	胎 硬 焼 差 色 黒	製 輪 一 あり なし	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	輪 × 叩 型 タテ削	2	吉井窯 9世紀前半
押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			特徴			
第115E 22 PL 44	鉄製品 釘	覆土 先端部欠損	長さ (8.1)	幅 1.1	厚さ 1.0	重量 (g) 20	頭部折り曲げの角釘		
第115E 23 PL 44	鉄製品 板状品	覆土 欠損あり	(2.0)	1.5	0.3	1	扁平で薄い板状品		
第116E 24 PL 44	鉄洋 腕型釧巻	覆土 欠損あり	(8.0)	(7.3)	3.5	263	腕型鉄洋 (中) 精緻鍛冶洋・底着度3・メタル度 (△)		
押出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			石材	特徴		
第116E 25 PL 44	石製品 礎石	覆土 欠損あり	(6.1)	3.1	1.8	礎石	手持ち礎石か、欠損部を除く、ほぼ全面が使用面		
第116E 26 PL 45	石製品 磨盤石か	土坑3 欠損あり	(11.5)	(13.9)	(6.0)	石美閃緑岩	側縁部に敲打痕、平坦面は磨かれている		
第116E 27 PL 44	石製品 柱状品	カマド 欠損あり	(20.4)	8.0	7.2	粗粒輝石安山岩	断面四角形の柱状に整形された石製品。桶状の抉りが入る。被熱している		

33号住居跡 (第117回、遺構PL.30、遺物PL.45)

位置: E1-Ej-52-54

北壁方位: N-82°-W

規模・形状: 本住居跡は、北部を除いた大半が重複

遺構によって切られているため、不明点が多い。

検出部で東西4.1m×南北1.52mの隅丸形状となる可能性が考えられる。床面積は不明で、壁の高さ

第3章 塚田中原遺跡0区の調査

は0.7mである。

カマド：検出されていない。

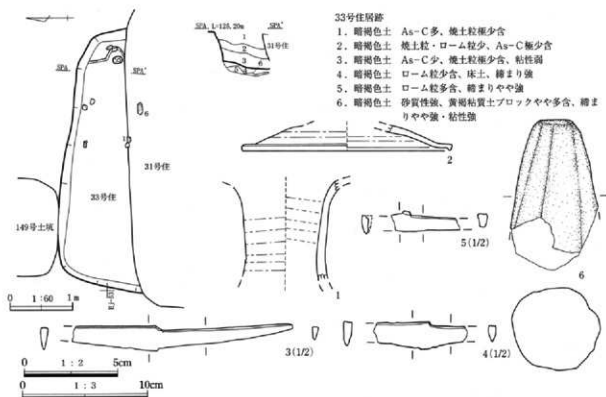
内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：残存部の床は平坦で、やや固く締まっていた。

出土遺物：本住居跡に明確に帰属させることのできる遺物は少ない。カマドの支脚のような形態の石製品(No 6)は、残存部端にある床面直上からの出土である。

重複遺構：本住居跡中央より南で31号住居跡と、北西部で149号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、本住居跡より古い44号住居跡が、下に存在している。

その他：重複遺構が多く、時期の特定は困難であるが、重複関係と出土遺物より、本住居跡の時期は9世紀前半と判断される。



第117図 33号住居跡、出土遺物

33号住居跡 遺物観察表

棟号番号	種別	出土位置	計測値(cm)				胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第117図1	須臾器 器種	残存状態	口 底 高	- - (7.8)	胎 焼 色	砂粒少 還元焰 灰	白色・黒色灰物 良好	罐體整形	
PL_45	須臾器 長頸壺	頸1/3							
第117図2	須臾器 蓋	覆土	口 高	(16.6) (2.0)	胎 焼 色	砂粒少 還元焰 灰オリブ	白色・黒色灰物 良好	罐體整形(右回転) 外面: 天井部上半回転ヘラ削り	
PL_45	蓋	天井-11/8							
棟号番号	種別	出土位置	計測値(cm)				特徴		
第117図3	鉄製品 刀子	残存状態	長さ	幅	厚さ	重量(g)	やや長めの柄を持つ細い刀子		
PL_45	刀子	刃部欠損	(11.0)	0.8	0.4	5			
第117図4	鉄製品 刀子	残土	(4.9)	(1.4)	0.5	5	刃部と柄部が共に欠損している		
PL_45	刀子	欠損あり							
第117図5	鉄製品 刀子	残土	(4.6)	(1.1)	0.5	3	刃部と柄部が共に欠損している		
PL_45	刀子	欠損あり							
棟号番号	種別	出土位置	計測値(cm)				石材	特徴	
第117図6	石製品 支脚か	床直上 欠損あり	長さ	幅	厚さ				
PL_45	支脚か		(11.8)	(6.9)	(6.4)	安山岩質凝灰岩	角重状に整形されている。被熱したような形跡もあり、カマドの支脚か		

34号住居跡 (第118・119図、遺構PL.30、遺物PL.45)

位置: Ei-Ek-52-54

西壁方位: N-12°-W

規模・形状: 本住居跡は、重複遺構により全容は明らかにできなかった。検出部で南北3.44m×東西3.4mの隅丸正方形に近い形状を呈すると考えられる。

床面積は不明で、壁の高さは0.49mである。

カマド: 検出されていない。

内部施設: 壁溝が北西角付近から、西壁下にかけて検出された。貯蔵穴、ピットは検出できなかった。

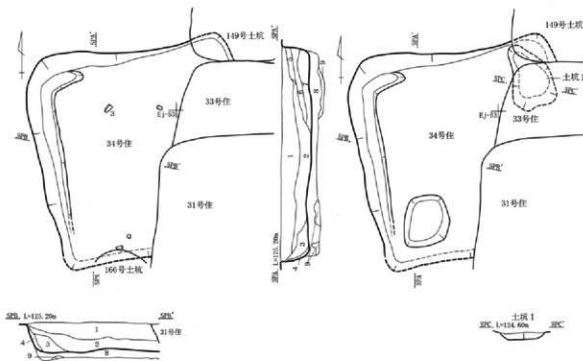
また、重複により規模は明らかでないが、北東角の床下から、土坑状の落ち込みが検出されている。

床面: ほほ平坦で、固く締まっていた。

出土遺物: 床面直上からの出土はなかった。

重複遺構: 本住居跡の東側で31・33号住居跡、149号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、南部で35号住居跡と重複し、本住居跡が新しいと判断される。

その他: 重複が激しく、遺物が少ないため、時期判断は困難である。しかし、重複関係から本住居跡の時期は33号住居跡より古い9世紀前半と考えたい。



34号住居跡

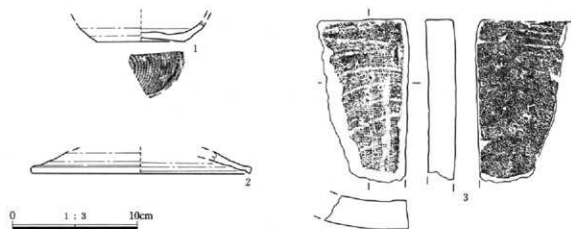
1. 暗褐色土 As-C多、ローム粒やや多含
2. 暗褐色土 ローム粒多含
3. 暗褐色土 黄褐色土多、黄褐色砂質土ブロック極少含
4. 暗褐色土 黒味強、粘質土・ローム粒極少含、締まり弱・粘性強
5. 暗褐色土 ローム粒極少含、締まりやや強
6. 暗褐色土 ローム粒多含
7. 暗褐色土 6層より黒味強、ローム粒多含
8. 暗褐色土 ロームブロック少含、As-C極少含、床土、締まり強
9. 暗褐色土 黄褐色粘質土ブロック多含、締まりやや強

土坑1

1. 暗褐色土 白黄褐色粘質土ブロック多、As-C少含

0 1:60 1m

第118図 34号住居跡



第119図 34号住居跡出土遺物

34号住居跡 遺物観察表

神国番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)		胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考		
第119図1 PL.45	須恵器 坏	覆土 作~底1/6	口 底 高	- (7.0) (1.7)	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 燒 還元焰 良好 色 灰	轆轤成形 (右回転) 底部: 回転未切り			
第119図2 PL.45	須恵器 甗	覆土 天井~口1/3	口 横 高	(17.6) - (21)	胎 細砂粒少 白色・黒色鉱物 燒 還元焰 良好 色 灰	轆轤成形 (右回転) 外面: 天井部上半回転へつ傾り			
神国番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・楕圓・ 一枚作り可能性	粘土板 (割 取表・裏・ 接合)	布目痕 (合目 ・擦消)・瓦 乾燥時瓦痕	轆轤使用・ 叩き技法・瓦 型式名称	側部 図取	備考
第119図3 PL.45	平瓦	覆土 破片	胎 暗 燒 香 色 暗灰	製 不 法 明 一 不明	表 裏 裏 裏 接 接	合 × 擦 × 乾 ×	轆 × 叩 × 型 素文	1	吉井宮・赤陶土質 8世 紀後葉~9世紀前葉

35号住居跡 (第120図、遺構PL.30)

位置: Ej~Ek-53~54

南壁方位: N-81°-W

規模・形状: 本住居跡は、ほとんどが重複遺構により失われているため、不明なことが多い。検出部での計測で、東西1.45m×南北1.13mあり、形状や床面積は不明である。壁の高さは0.56mである。

カマド: 検出されていない。

内部施設: 壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面: 残存しているところでは、固く締まっていた。

出土遺物: 図示可能な遺物は出土していない。

重複遺構: 本住居跡の東部では31号住居跡と攪乱が、北部には34号住居跡があり、さらに残存部中央には166号土坑が存在する。新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他: 重複関係より、本住居跡の時期は9世紀前半以前と判断される。



第120図 35号住居跡

35号住居跡

1. 暗褐色土 黒味強、黄褐色土や多含、締まり強。
2. 暗褐色土 黒味強、ローム粒多含
3. 暗褐色土 粘質土・黄褐ブロック少含、締まりやや強・粘性強
4. 暗褐色土 As-C少含、床土、締まり強
5. 暗褐色土 黄褐粘質土ブロック主体、締まり・粘性強

36号住居跡 (第121・122図、遺構PL.30、遺物PL.45)

位置: E_j-E_l-52-54

北壁方位: N-87°-W

規模・形状: 本住居跡は調査区域外にまで広がるため、全容は明らかでない。検出部で東西3.02m×南北2.95mあり、隅丸長方形を呈すると考えられる。床面積は不明で、壁の高さは0.33mである。

カマド: 部分的に検出した。燃焼部の幅は不明で、張り出しは壁から0.44m検出した。袖の構築材には糠と瓦が使われていた。

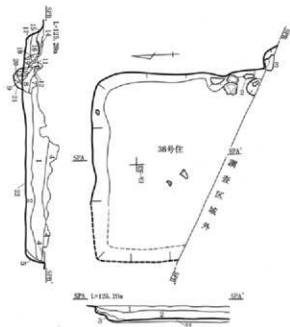
内部施設: 壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面: 平坦で、固く締まっていた。

出土遺物: 遺物の量は少なかった。瓦 (No 2、3) はカマドの袖部より出土した。また、覆土からであるが、鉄滓 (No 6) が出土した。

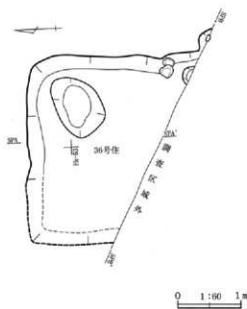
重複遺構: 本住居跡の西部で37号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。

その他: 出土した遺物は少ないが、図示できなかった遺物に羽釜の小破片があり、本住居跡の時期は9世紀後半から10世紀前半と判断される。

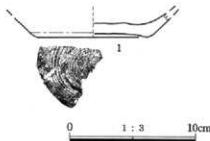


36号住居跡

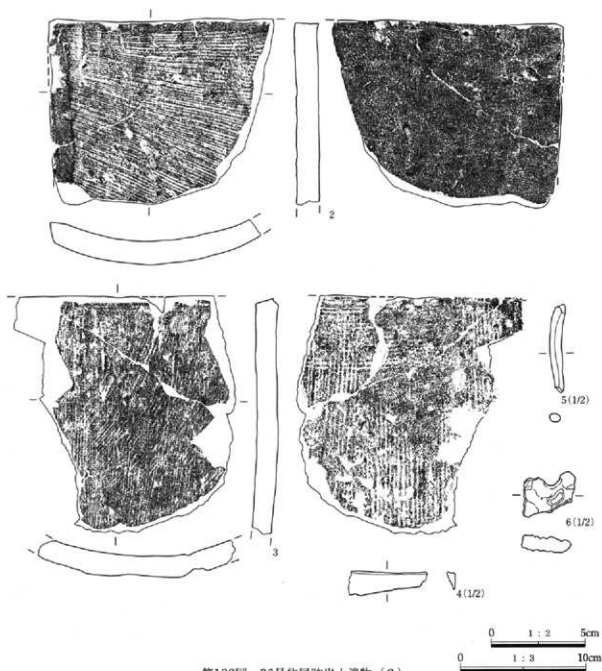
1. 暗褐色土 ロームブロック・炭化物少含
2. 暗褐色土 ロームブロック・暗褐色粘質土ブロック少含
3. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロック多含
4. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少含
5. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含
6. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロック少含
7. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含
8. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含
9. 暗褐色土 焼土粒多含
10. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒・ロームブロック少含、締まり・粘性弱
11. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・灰少含
12. 暗褐色土 灰多含、締まり・粘性弱
13. 暗褐色土 灰・ロームブロックやや多含、締まり弱
14. 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少含
15. 暗褐色土 焼土粒やや多、ロームブロック少含
16. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒少含、締まり強、粘性弱
17. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒やや多含



18. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・灰少含
19. 暗褐色土 ロームブロック・灰少含
20. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含
21. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒・灰少含
22. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、床土、締まり強



第121図 36号住居跡、出土遺物 (1)



第122図 36号住居跡出土遺物(2)

36号住居跡 遺物観察表

母国番号 図版番号	種別 器種	出土位置		計測値(cm)	胎土・焼成・色調			器形・技法等の特徴			備考
		残存状態	残存状態		胎土	焼成	色調	胎土板(剥 取表・裏・ 接合)	布目痕(合目 ・擦消)・瓦 乾燥時圧痕	轆轤使用・ 叩き技法・ 型式名称	
第121図1 PL.45	須恵器 坏	覆土	体下~底1/6	口 底 高 (9.0) (1.9)	胎 色 灰白	粗砂粒少 焼 還元焙 良好	白色・黒色紅物	轆轤整形(右回転) 底部: 回転未切り			
母国番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・轆轤・ 一枚作り可能性	胎土板(剥 取表・裏・ 接合)	布目痕(合目 ・擦消)・瓦 乾燥時圧痕	轆轤使用・ 叩き技法・ 型式名称	側面 面取	備考		
第122図2 PL.45	カマド 破片	カマド 破片	胎 色 灰	製 法 あり	表 裏 接 ○ × ×	合 擦 乾 × × ×	轆 叩 型 ?	2	笠懸唐	8世紀後半~9 世紀初	
第122図3 PL.45	カマド 破片	カマド 破片	胎 色 灰白	製 法 不明	表 裏 接 ○ × ×	合 擦 乾 × × ×	轆 叩 型 繩結T	-	伏間唐	9世紀前半	

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)				特徴
			長さ	幅	厚さ	重量 (g)	
第122図4 PL.45	鉄製品 板状品	覆土 欠損あり	(4.1)	(1.3)	0.4	2	刀子の刃部か
第122図5	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	(4.6)	0.6	0.6	3	断面形楕円形の棒状品
第122図6	鉄洋 鍛冶洋	覆土 欠損あり	(2.7)	(2.4)	0.7	3	鍛錬鋼冶洋、磁着度3・メタル度(△)

37号住居跡 (第123図、遺構PL.30、遺物PL.45)

位置: Ek-E1-52~54

北壁方位: N-82°-W

規模・形状: 本住居跡は調査区域外にまで広がることと、重複遺構により、不明な点が多い。検出部で東西3.6m×南北2.6mあり、隅丸長方形を呈すると考えられる。床面積は不明であり、壁の高さは0.3mである。

カマド: 検出されていない。

内部施設: 壁溝や貯蔵穴は検出できなかった。ピット

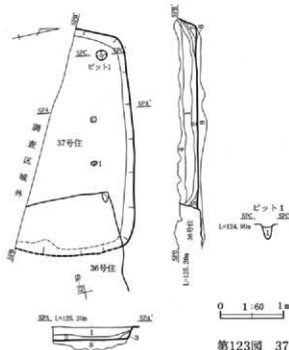
トラしきものを1基、北西角で検出した。径0.18mで、深度0.27mを測る。

床面: 平坦で、固く締まっていた。

出土遺物: 出土遺物は少ない。須恵器塊 (No1) は床面直上からの出土である。

重複遺構: 本住居跡の東側で36号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他: 重複遺構と出土遺物より、本住居跡の時期は9世紀前半と考える。

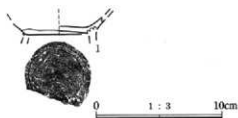


37号住居跡

1. 暗褐色土 ロームブロック・As-C・暗褐色粘質土ブロック少含
2. 暗褐色土 ロームブロック・暗褐色粘質土ブロック少含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
4. 暗褐色土 ロームブロック・As-C・焼土粒・炭化物少含
5. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロックやや多、ロームブロック少含
6. 暗褐色土 ロームブロック・暗褐色粘質土ブロック・As-C少含
7. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロックやや多含
8. 暗褐色土 ロームブロック少含、床土、締まり強

ピット1

1. 暗褐色土 ロームブロック多含、粘性强



第123図 37号住居跡、出土遺物

37号住居跡 遺物観察表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)	粘土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第123図1 PL.45	須恵器 塊	床直上 体下~底2/3 高台欠損	口 - 底 - 高 (1.5)	粘 焼 色 砂粒やや多 還元焰 良好 褐色	甕罐形 (右回転) 底部: 回転糸切り後、付け高台	

38号住居跡 (第124~126図、遺構PL.30-31、遺物PL.45-46)

位置: Ej-E1-51~52

南壁方位: N-85°-W

規模・形状：本住居跡は、調査区域外にまで広がることと、重複遺構により、全容は明らかでない。検出部で東西3.2m×南北1.45mであった。形状は隅丸方形形状であろう。壁の高さは0.35mである。

カマド：一部検出した。焼部部の幅は不明で、壁からの張り出しは、検出部で0.53mであった。

内部施設：壁溝やピットは検出されなかった。貯蔵穴は南東角にあり、規模は0.7m×0.52mで、深度0.28mであった。他に、床面で土坑が2基、床下から土坑が2基検出された。

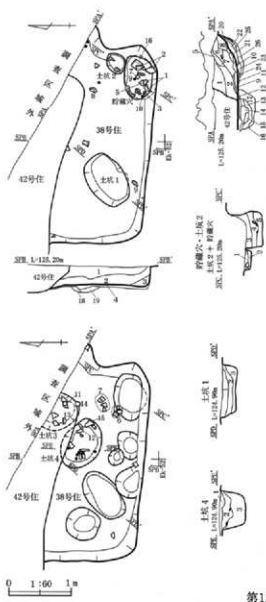
床面：平坦で、やや固く締まっていた。

出土遺物：掘り方土からの出土では、須恵器埴 (No

6)があった。貯蔵穴からは、土師器甕 (No1、2)、須恵器埴 (No3、5)、須恵器羽釜 (No10)があった。また、須恵器埴 (No7)は貯蔵穴と掘り方土からの出土であった。須恵器甕 (No11)は土坑3からの出土である。

重複遺構：本住居跡の中央から北西部にかけて42号住居跡と重複し新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、東壁で43号住居跡と重複するが、本住居跡が新しい。

その他：貯蔵穴出土遺物より、本住居跡の時期は10世紀前葉と判断される。



38号住居跡

1. 暗褐色土 As-Cやや多、ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C・焼土粒・炭化物少含
3. 暗褐色土 ロームブロック多含
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、床土、締まり・粘性強
5. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・炭化物・焼土粒少含
6. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C・炭化物・焼土粒少含
7. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・暗褐色質土ブロック・炭化物少含
8. 暗褐色土 焼土粒やや多、炭化物・ロームブロック少含
9. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
10. 暗褐色土 ロームブロック多、焼土粒・炭化物少含
11. 暗褐色土 焼土粒・ロームブロックやや多、炭化物少含、粘性弱
12. 暗褐色土 炭化物多含
13. 暗褐色土 灰多含、締まり強・粘性弱
14. 暗褐色土 灰・ロームブロックやや多、焼土粒少含、粘性弱
15. 暗褐色土 灰・ロームブロック・焼土粒少含、粘性弱
16. 暗褐色土 ロームブロック・灰やや多、焼土粒少含、粘性弱
17. 暗褐色土 ロームブロックやや多、灰・焼土粒少含、締まり弱
18. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒・ロームブロック少含、粘性弱
19. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含、締まり・粘性弱
20. 暗褐色土 灰・ロームブロックやや多、焼土粒少含、締まり弱
21. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・灰少含
22. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒・ロームブロック少含、粘性弱
23. 暗褐色土 灰多、ロームブロック少含、粘性弱
24. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒・ローム粒少含、粘性弱
25. 暗褐色土 ロームブロックやや多、炭化物・焼土粒少含、粘性弱
26. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・灰少含

貯蔵穴・土坑2

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多、炭化物少含
2. 暗褐色土 ロームブロック多、炭化物少含
3. 暗褐色土 ロームブロック多、焼土粒・炭化物少含
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多、灰・炭化物・焼土粒少含
5. 暗褐色土 ロームブロック多含、締まり弱

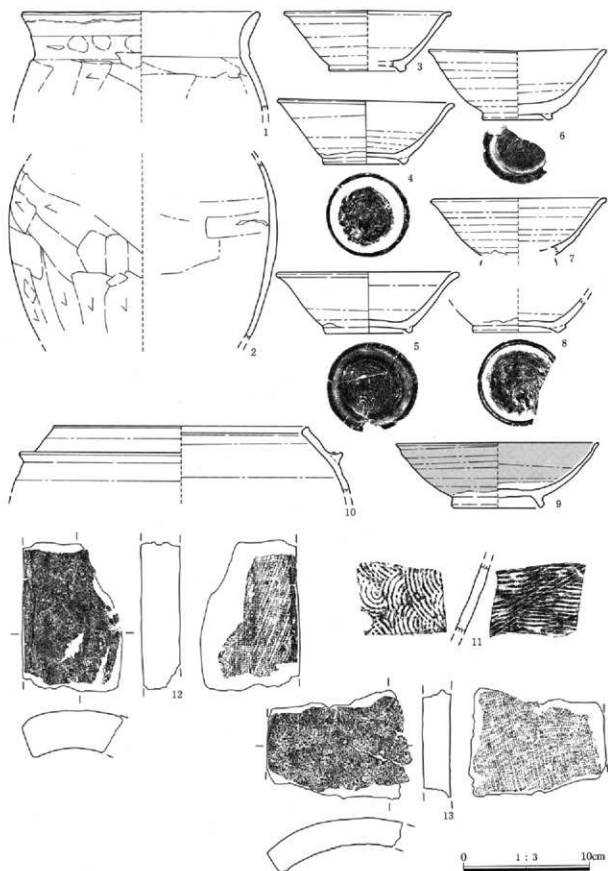
土坑1

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C・焼土粒少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
3. 暗褐色土 ロームブロック・炭化物少含

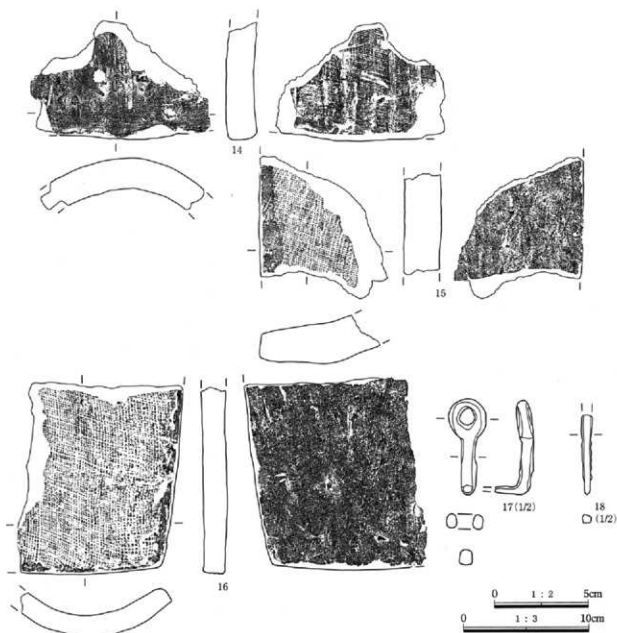
土坑4

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多、締まり強
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含、締まり・粘性弱
3. 暗褐色土 ロームブロック多含

第124図 38号住居跡



第125図 38号住居跡出土遺物(1)



第126図 38号住居出土遺物(2)

38号住居跡 遺物観察表

検出番号	種別	出土位置	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第125図1 PL.45	土師器 甕	貯蔵穴 残存状態 口~体上2/5	口 (18.8) 底 - 高 (7.8)	胎 砂粒やや多 白色・黒色・赤色臙物 焼 酸化焰 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り 内面：横ヘラナデ	
第125図2 PL.45	土師器 甕	貯蔵穴 体1/3	口 - 底 - 高 (13.9)	胎 φ3mm小礫 砂粒やや多 白・黒・赤色臙物 焼 酸化焰 良好 色 赤白	外面：体部ヘラ削り 内面：ヘラナデ	
第125図3 PL.45	須恵器 埴	貯蔵穴 口~底1/3	口 (13.2) 底 (6.0) 高 4.8	胎 砂粒やや多 黒色・白色臙物 焼 還元焰 良好 色 灰白	罐腫整形(右回転) 口唇部外反 底部：切り離し技法不明、付け高台	
第125図4 PL.45	須恵器 埴	覆土 口~底3/4	口 14.0 底 6.6 高 5.0	胎 粗砂粒やや多 黒色・白色臙物 焼 還元焰 良好 色 灰白	罐腫整形(右回転) 底部：回転糸切り後、付け高台	
第125図5 PL.45	須恵器 埴	貯蔵穴 口~底7/8	口 14.5 底 7.0 高 4.9	胎 φ3mm小礫 砂粒少 白色・黒色臙物 焼 還元焰 良好 色 灰白	罐腫整形(右回転) 口縁部外反 底部：回転糸切り後、付け高台	

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物

第125図6 PL. 45	須恵器 埴	掘り方 口～底1/3	口 底 (14.0) 高 (5.6)	胎 燒 砂粒やや多 還元焰 やや軟 色 黒色・白色灰物 黄灰	輪 轆 轆轤整形 (右回転) 口縁部 弱く外反 底部: 回転糸切り 後、付け高台				
第125図7 PL. 46	須恵器 埴	貯蔵穴・掘り 方 口～底1/3	口 底 (13.8) 高 (4.5)	胎 燒 φ2mm小礫 砂粒やや多 還元焰 やや軟 色 白色 灰	輪 轆 轆轤整形 (右回転) 口縁部 弱く外反				
第125図8 PL. 46	須恵器 埴	覆土 体～底3/5	口 底 6.7 高 (2.7)	胎 燒 粗砂粒やや多 白色・黒色灰物 (身部) 還元焰 良好 色 灰白	輪 轆 轆轤整形 (右回転) 底部: 回転糸切り後、付け高台	身部と高台部 で胎土異なる			
第125図9 PL. 46	灰輪陶器 埴	覆土 口～底1/3	口 底 (16.0) 底 7.4 高 5.4	胎 燒 砂粒少 白色灰物 還元焰 良好 色 灰白	輪 轆 轆轤整形 外面: 体部まで施 釉 内面: 体部・底部付近ま で施釉 刷毛塗り	光ヶ丘1号室 式期			
第125図10 PL. 46	須恵器 羽茶	貯蔵穴 口～体上1/6	口 (20.2) 底 - 高 (5.2)	胎 燒 φ5mm小礫 粗砂粒やや多 白・黒色灰物 還元焰 良好 色 灰白	輪 轆 轆轤整形				
第125図11 PL. 46	須恵器 壺	土坑3 体破片	口 - 底 - 高 -	胎 燒 粗砂少 白色・黒色灰物 還元焰 良好 色 灰	外面: 平行印き目 内面: 青 海文				
採回番号 図版番号	無残	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・補痕・ 一枚作り可能性	粘土板 (洞 取表・裏・ 接合)	布目痕 (合目 ・捺消)・瓦 乾燥時痺り	輪轆使用・ 印き技法・ 型式名称	部面 面取	備考
第125図12 PL. 46	丸瓦	土坑4 破片	胎 燒 並 色 並 黄灰	製 補 不明 一 不明	表 裏 × ○ 接 ×	合 捺 × × 乾 ×	輪 印 × 型 素文	3	空室室 8世紀後半～9 世紀初
第125図13 PL. 46	丸瓦	土坑3 破片	胎 燒 細 色 密 オリーブ黒	製 補 不明 一 不明	表 裏 × ○ 接 ×	合 捺 × × 乾 ×	輪 印 × 型 素文	2	空室室 8世紀後半～9 世紀前半
第125図14 PL. 46	丸瓦	土坑3 破片	胎 燒 並 色 並 浅黄橙	製 補 2枚 一 なし	表 裏 × ○ 接 ×	合 捺 × ○ 乾 ×	輪 印 ○ 型 模撫	×	秋間室 8世紀後半～9 世紀前半
第125図15 PL. 46	平瓦	土坑3 破片	胎 燒 硬 色 並 明赤褐	製 補 不明 一 不明	表 裏 × × 接 ×	合 捺 × 乾 ×	輪 印 × 型 素文	3	空室室 8世紀後半～9 世紀前半
第125図16 PL. 46	平瓦	貯蔵穴 破片	胎 燒 硬 色 並 灰	製 補 不明 一 あり	表 裏 × ○ 接 ×	合 捺 × 乾 ×	輪 印 × 型 素文	2	吉井室 9世紀中葉
採回番号 図版番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			特徴			
第126図17 PL. 46	鉄製品 壺金	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	頭部を環状に整形している、先端は折り曲げられている	
第126図18 PL. 46	鉄製品 棒状品	カマド覆土 先端部欠損		5.0	1.8	0.8	13	断面四角形の棒状品、釘か	
		覆土 欠損あり		(4.2)	0.4	0.4	2		

39号住居跡 (第127～129図、遺構PL.31、遺物PL.46, 47)

位置: Ek-E_m-50～52

南壁軸方位: N-83°-E

規模・形状: 本住居跡は調査区域外にまで広がるため、不明瞭な点もある。検出部で東西3.3m×南北2.7mあり、隅丸方形形状を呈すると考えられる。検出した床面積は3.7㎡、壁の高さは0.3mである。

カマド: 貯蔵穴と考えられる土坑の位置や東壁際に焼土粒を検出したことより、東壁に構築されていたと考えられる。瓦が出土しており、構築材に使用されていた可能性がある。

内部施設: 壁溝やピットは検出できなかった。貯蔵穴は南東角にあり、0.38m×0.3m、深度0.12mで

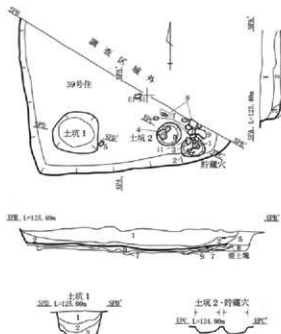
あった。また、床下より土坑を2基検出した。

床面: 平坦で、固く締まっていた。

出土遺物: 須恵器埴 (No 5)、瓦 (No 9) は床面直上からの出土である。瓦 (No 8) は掘り方土からの出土であった。瓦 (No 7) は床面から掘り方にかけての出土であった。土師器壺 (No 1)、須恵器埴 (No 2)、須恵器埴 (No 3)、瓦 (No 11) は貯蔵穴からの出土であった。土坑1からは灰輪陶器小瓶 (No 6)、土坑2からは須恵器埴 (No 4) が出土した。

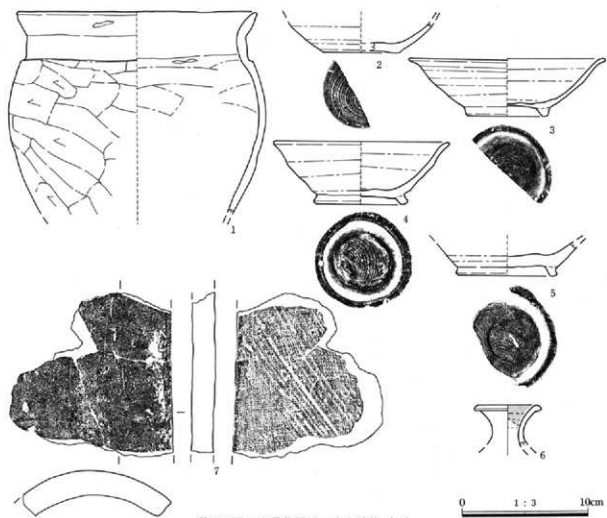
その他: 貯蔵穴出土の土師器壺などより、本住居跡の時期は10世紀前半と判断する。

第3章 塚田中原遺跡0区の調査

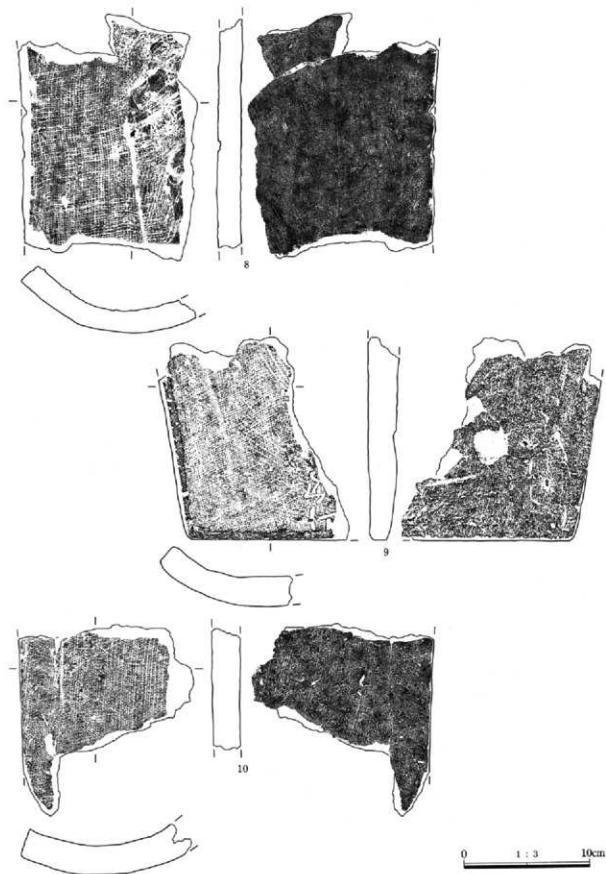


- 39号住居跡
1. 暗褐色土 As-C多、炭化物・焼土粒・ロームブロック少、締まり強
 2. 暗褐色土 ロームブロック多、ローム粒・炭化物やや多、As-C少含、締まり強
 3. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含、締まり強
 4. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、締まり強
 5. 暗褐色土 ロームブロック・暗褐色粘質土ブロックやや多、As-C少含、締まり強
 6. 暗褐色土 ロームブロック・灰少、As-C極少含、床土、締まり強
 7. 暗褐色土 粘質土、黄褐色粘質土ブロック多含、締まり・粘性強
 8. 暗褐色土 黄褐色粘質土ブロック非常に多、炭化物少含、締まり・粘性強
 9. 暗褐色土 灰多、焼土粒極少含、締まり弱

- 土坑1
1. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含、締まりやや強
 2. 暗褐色土 ロームブロック少含、締まり弱
 3. 暗褐色土 ロームブロック少含

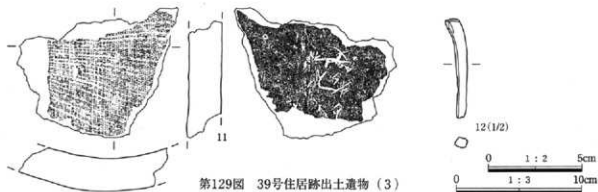


第127図 39号住居跡、出土遺物(1)



第128図 39号住居跡出土遺物(2)

第3章 塚田中原遺跡0区の調査



第129図 39号住居跡出土遺物(3)

39号住居跡 遺物観察表

探図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
第127図1 PL.47	土師器 甕	貯蔵穴 口一体1/4	口 (18.8) 底 - 高 (16.0)	胎 粗砂粒やや多 焼 酸化焰 良好 色 赤褐色	外面：口縁部横ナデ、体部へう張り 内面：横へラナデ、輪襷痕				
第127図2 PL.46	須恵器 坏	貯蔵穴 体一底1/3	口 - 底 (6.0) 高 (2.5)	胎 粗砂粒やや多 焼 酸化焰 良好 色 にぶい黄褐色	輪襷整形(右回転) 底部： 回転へう切り後ナデ調整				
第127図3 PL.46	須恵器 埴	貯蔵穴 口一底1/3	口 (15.4) 底 (6.4) 高 4.6	胎 φ4mm小礫 砂粒少 焼 還元焰 やや軟 色 灰白	輪襷整形(右回転) 口縁部 外反 底部：回転余切り後、 付け高台				
第127図4 PL.46	須恵器 埴	土境2 口一底 底 完 他1/4	口 (14.0) 底 7.4 高 5.0	胎 φ3mm小礫 粗砂粒少 焼 還元焰 良好 色 暗灰黄	輪襷整形(右回転) 口縁部 外反 底部：回転余切り後、 付け高台				
第127図5 PL.46	須恵器 埴	床直上 体下一底1/3	口 - 底 (8.0) 高 (2.7)	胎 砂粒やや多 焼 還元焰 良好 色 灰白	輪襷整形(右回転) 底部： 回転余切り後、付け高台				
第127図6 PL.46	灰釉陶器 小瓶	土境1 口一頸 底 ぼ完	口 5.3 底 (3.3)	胎 緻密 焼 還元焰 良好 色 灰白	輪襷整形 内面上部施釉				
探図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・補修・ 一枚作り可能性	粘土板(溝 取表・裏・ 接合)	布目痕(合目 ・捺消)・瓦 乾燥時圧痕	輪襷使用・ 叩き技法・ 型式名称	個部 面取	備考
第127図7 PL.47	丸瓦	床直上・ 掘り方 破片	胎 花 焼 並 色 灰オリーブ	製 2枚 備 あり 一 なし	表 × 裏 ○ 接 ×	合 × 捺 × 乾 なし	輪 叩 型 タテ推	3	笠懸窯 8世紀後半～9 世紀初
第128図8 PL.47	平瓦	掘り方 破片	胎 花 焼 並 色 にぶい黄褐色	製 備 一 不明	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 捺 ○ 乾 なし	輪 叩 型 素文	1	笠懸窯 8世紀後半～9 世紀初
第128図9 PL.47	平瓦	床直上 破片	胎 硬 焼 並 色 オリーブ黒	製 備 一 あり 一 なし	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 なし	輪 叩 型 タテ推	3	吉井窯 9世紀前半 へラ文字「山」
第128図10 PL.47	平瓦	覆土 破片	胎 硬 焼 並 色 オリーブ黒	製 備 一 なし 一 あり	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 なし	輪 叩 型 タテ推	3	吉井窯 9世紀前半
第128図11 PL.47	平瓦	貯蔵穴 破片	胎 硬 焼 並 色 オリーブ黒	製 備 一 なし 一 あり	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 なし	輪 叩 型 タテ推	-	吉井窯 9世紀前半 へラ文字「長(○)物文」
探図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	特徴					
第129図12 PL.47	鉄製品 釘	覆土 先端部欠損	長さ (5.3) 幅 0.5 厚さ 0.5 重量 (g) 5	頭部折り曲げの角釘					

40号住居跡 (第130～133図、遺構PL.31、遺物PL.47～49)

位置：E1～En-50～52

北壁方位：N-3°-E

規模・形状：一部は重複遺構や掘乱により失われている。規模は4.3m×3.56mで、面積12.62㎡である。

壁の高さは0.5mである。

カマド：東壁中央より南側で検出した。燃焼部の幅は0.55m、壁からの張り出しは1.4mであった。直接カマドに伴わないが、瓦が出土していることから、

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物

袖の構築材として使われた可能性がある。

内部施設：壁溝は北東角からカマドにかけての東壁下、一部の南壁下、北西角を含む一部の西壁下で検出した。貯蔵穴は南東角にあり、1.04m×0.72m、深度0.14mであった。ピットは検出できなかった。また、土坑を4基検出した。

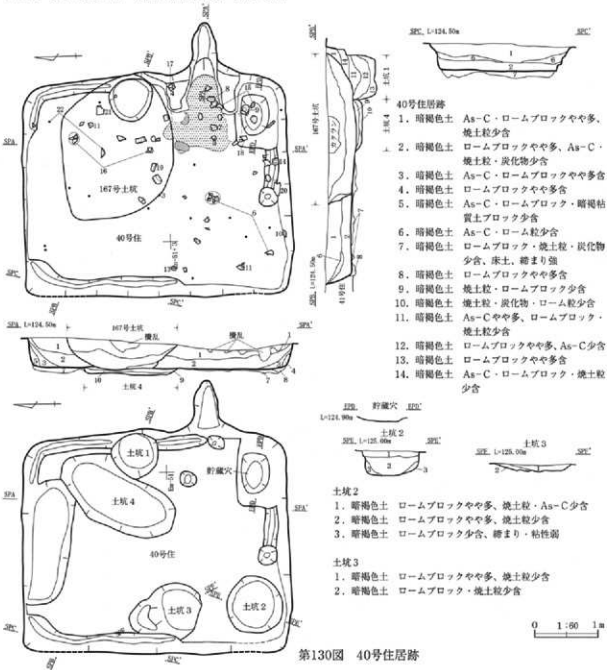
床面：平坦で、固く締まっていた。

出土遺物：須恵器埴 (No6) は床面直上より出土した。カマドからは、須恵器坏 (No4、5)、須恵器埴 (No7、8)、須恵器甕 (No17)、貯蔵穴からは、須恵

器埴 (No9)、瓦 (No18) が出土した。緑釉陶器埴 (No14) や瓦 (No20) は壁溝から出土した。

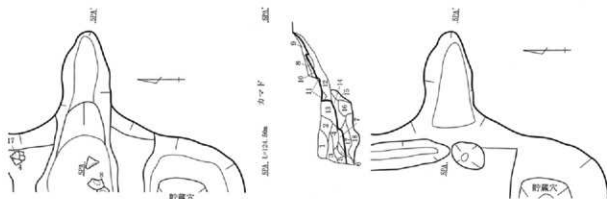
重複遺構：北東部に167号土坑と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。また、西壁で41号住居跡と重複するが、本住居跡が新しい。

その他：古めの様相をもつ遺物も出土しているが、カマドや貯蔵穴から出土した遺物の様相より、本住居跡の時期は10世紀前葉と判断される。



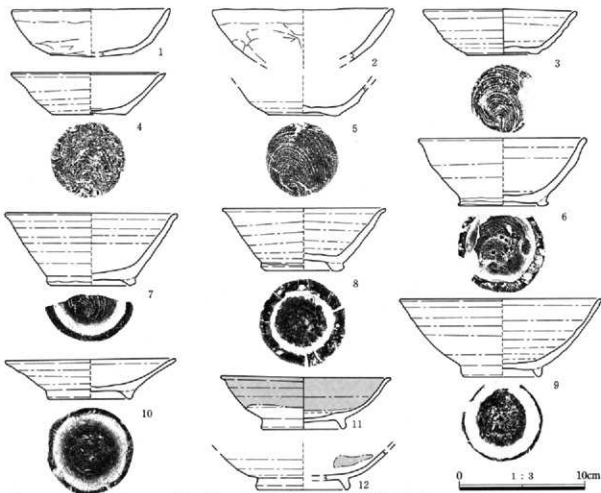
第130図 40号住居跡

第3章 塚田中原遺跡0区の調査



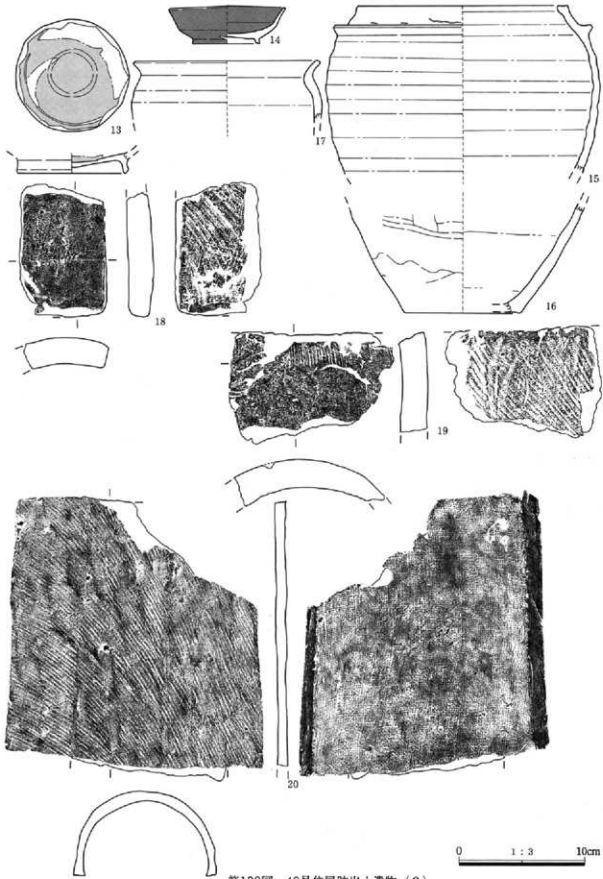
カマド

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|---------------------------|
| 1. 暗褐色土 | ロームブロックやや多、As-C・焼土粒少含 | 11. 暗褐色土 | As-C・ロームブロック・焼土粒少含 |
| 2. 暗褐色土 | As-Cやや多、ロームブロック・焼土粒少含 | 12. 暗褐色土 | ロームブロックやや多、焼土粒・As-C少含 |
| 3. 暗褐色土 | ロームブロック・焼土粒・As-C少含 | 13. 暗褐色土 | ロームブロックやや多、As-C・焼土粒・炭化物少含 |
| 4. 暗褐色土 | ロームブロック多、As-C・焼土粒少含 | 14. 暗褐色土 | ロームブロックやや多、焼土粒少含 |
| 5. 暗褐色土 | 焼土粒やや多、ロームブロック少含、粘性弱 | 15. 暗褐色土 | ロームブロック多含 |
| 6. 暗褐色土 | 焼土粒・ロームブロック少含 | 16. 暗褐色土 | ロームブロック・炭化物少含 |
| 7. 暗褐色土 | 焼土粒やや多、灰少含、粘性弱 | 17. 暗褐色土 | ロームブロック・ロームブロック少含、粘性弱 |
| 8. 暗褐色土 | 焼土粒・As-C少含 | 18. 暗褐色土 | 灰やや多、ロームブロック少含、粘性弱 |
| 9. 暗褐色土 | 焼土粒やや多、As-C・ロームブロック少含 | | |
| 10. 暗褐色土 | ロームブロックやや多、As-C・焼土粒少含 | | |



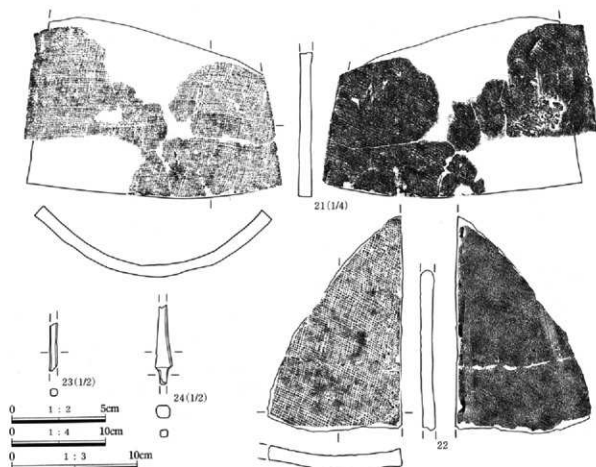
第131図 40号住居跡カマド、出土遺物(1)

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物



第132図 40号住居跡出土遺物(2)

第3章 塚田中原遺跡0区の調査



第133図 40号住居跡出土遺物(3)

40号住居跡 遺物観察表

神田番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第131図1 PL.47	土師器 坏	覆土 口~底1/4	口 (12.5) 底 - 高 3.7	胎 砂粒やや多 白色・黒色・赤色臍物 焼 酸化焰 良好 色 明赤褐色	外面：口縁部横ナデ、体部へ 底部へテリ内面：横ナデ、 黒色化	
第131図2 PL.47	土師器 坏	覆土 口~体1/3	口 (14.2) 底 - 高 (4.7)	胎 砂粒やや多 白色・黒色臍物 焼 酸化焰 良好 色 明赤褐色	外面：口縁部横ナデ、体部へ 底部へテリ内面：横ナデ	
第131図3 PL.47	須恵器 坏	覆土 口~底4/5	口 12.0 底 5.7 高 3.7	胎 φ4mm小礫 砂粒少 白色・黒色臍物 焼 還元焰 良好 色 灰白	輪縁整形(右回転) 口縁部 弱く外反 底部：回転糸切り	
第131図4 PL.47	須恵器 坏	カマド 口~底底 完 他1/2	口 12.2 底 5.7 高 3.3	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色臍物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪縁整形(右回転) 底部： 回転糸切り 内面：口唇部に 1条の比線が通る	
第131図5 PL.47	須恵器 坏	カマド 体~底底 完 他1/4	口 - 底 5.6 高 (2.5)	胎 粗砂粒やや多 白色・黒色臍物 焼 還元焰 やや軟 色 黄灰	輪縁整形(右回転) 口縁部 弱く外反 底部：回転糸切り	
第131図6 PL.47	須恵器 坏	床直土 口~底1/2	口 13.2 底 7.1 高 5.3	胎 細砂粒やや多 白色・黒色臍物 焼 還元焰 やや軟 色 灰白	輪縁整形(右回転) 口縁部 弱く外反 底部：回転糸切り 後、付け高台	
第131図7 PL.47	須恵器 坏	カマド 口~底1/4	口 (13.4) 底 (8.0) 高 5.7	胎 φ3mm小礫 粗砂粒少 白色・黒色臍物 焼 還元焰 良好 色 黄灰	輪縁整形(右回転) 口縁部 弱く外反 底部：回転糸切り 後、付け高台	
第131図8 PL.48	須恵器 坏	カマド 口~底底 完 他2/5	口 (12.8) 底 6.5 高 4.9	胎 φ4mm小礫 粗砂粒やや多 白色・黒色臍物 焼 酸化焰 良好 色 にぶい黄褐色	輪縁整形(右回転) 口縁部 外反 底部：回転糸切り後、 付け高台	
第131図9 PL.48	須恵器 坏	貯蔵穴 口~底底 完 他1/6	口 (15.8) 底 6.8 高 6.2	胎 砂粒やや多 白色・黒色・赤色臍 焼 酸化焰 良好 色 橙	輪縁整形(右回転) 底部： 切り離し技法不明、付け高台	

第131810 PL. 48	須恵器 甕	覆土 口～底 底 完 他1/3	口 (13.5) 底 6.5 高 3.2	胎 砂 焼 灰白 変化偏 良好	胎 砂 焼 灰白 変化偏 良好	白色・黒色鉱物	罐轆整形 (右回転) 底部: 回転者切り後、付け高台			
第131811 PL. 48	灰釉陶器 埴 城	カマド・土 城2 (14) 完	口 13.4 底 4.2 高 4.3	胎 細砂粒少 焼 還元 良好 色 灰白	胎 細砂粒少 焼 還元 良好 色 灰白	白色鉱物	罐轆整形 内外面体部まで施 刷毛毛塗り 内面: 焼成時付 着した高台痕あり	光ヶ丘1号室 時期		
第131812 PL. 48	灰釉陶器 埴 城	覆土 体～底1/3	口 - 底 (7.2) 高 (3.4)	胎 砂粒少 焼 還元 良好 色 灰白	胎 砂粒少 焼 還元 良好 色 灰白	白色鉱物	罐轆整形 内面: 体部輪軸 刷毛塗り	大原2号室式 期		
第132813 PL. 48	灰釉陶器 埴 城	掘り方 底完	口 - 底 8.8 高 (1.6)	胎 砂粒少 焼 還元 良好 色 灰白	胎 砂粒少 焼 還元 良好 色 灰白	白色鉱物	罐轆整形 内面: 底部付近 まで輪軸 刷毛塗り、焼成時 付着した高台痕あり	光ヶ丘1号室 式期		
第132814 PL. 48	緑釉陶器 埴 城	壁溝 口～底 底 完 他1/2	口 9.2 底 5.2 高 3.0	胎 砂粒少 焼 還元 良好 色 暗オリーブ	胎 砂粒少 焼 還元 良好 色 暗オリーブ	白色鉱物	罐轆整形 内外面全面輪軸 高台端部1朱の流線が通る	近江産、口唇 部油煎付着		
第132815 PL. 48	須恵器 羽釜	カマド・貯 蔵穴 口～体1/4	口 (16.6) 底 - 高 (12.8)	胎 粗砂粒や多 焼 還元偏 良好 色 黒・赤色	胎 粗砂粒や多 焼 還元偏 良好 色 黒・赤色	白色・黒色・赤色鉱物	罐轆整形			
第132816 PL. 48	須恵器 羽釜	土坑4 体下～底1/2	口 - 底 (9.1) 高 (8.7)	胎 粗砂粒や多 焼 還元偏 良好 色 橙	胎 粗砂粒や多 焼 還元偏 良好 色 橙	白色・赤色・黒色鉱物	罐轆整形か 外面: 横ナデ後、 ヘラ削り 内面: 横ナデ			
第132817 PL. 48	須恵器 小型壺	カマド 口～体1/4	口 (14.7) 底 - 高 (4.9)	胎 φ3mm小顆 焼 還元偏 良好 色 灰	胎 φ3mm小顆 焼 還元偏 良好 色 灰	粗砂粒少 白色鉱物	罐轆整形			
種目番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成 色調	製作法・種別 一枚作り可能性	粘土板 (測 取表・裏・ 接合)	布目痕 (合目 ・横消)・瓦 乾燥時圧痕	罐轆使用・ 叩き技法・ 型式名称	側面 面取	備考	
第132818 PL. 48	丸瓦 小破片	貯蔵穴 色	胎 並 焼 並 色 におい橙	製 2枚 焼 あり 一 なし	表 × 裏 ○ 接 ×	合 × 掃 ○ 乾 なし	罐 × 叩 × 型 横撫	3	笠懸部 8世紀後葉9世 紀初	
第132819 PL. 48	丸瓦 破片	土坑4 破片	胎 並 焼 並 色 黒濁	製 2枚か 焼 種 一 不明	表 ○ 裏 ○ 接 ×	合 × 掃 ○ 乾 なし	罐 × 叩 × 型 素文	-	笠懸部 8世紀後葉9世 紀初	
第132820 PL. 48	丸瓦 破片	壁溝 破片	胎 並 焼 並 色 橙	製 なし 焼 種 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 掃 × 乾 ○瓦か?	罐 × 叩 浅平全 型 面	1	赤陶土質 9世紀中葉、 薄作	
第133821 PL. 49	平瓦 破片	土坑4 破片	胎 並 焼 並 色 灰白	製 なし 焼 種 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 掃 × 乾 なし	罐 × 叩 × 型 木目	1	藤岡産 赤陶土質 9世 紀中葉、薄作	
第133822 PL. 48	平瓦 破片	覆土 破片	胎 並 焼 並 色 におい黄橙	製 なし 焼 種 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 掃 × 乾 ×	罐 × 叩 × 型 素文	1	赤陶土質 9世紀、薄作	
種目番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			特徴				
第133823 PL. 48	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	長さ (2.5)	幅 0.4	厚さ 0.4	重量 (g) 2	断面正方形の棒状品			
第133824 PL. 48	鉄製品 鉄鋸か	覆土 欠損あり	長さ (4.2)	幅 0.9	厚さ 0.7	重量 (g) 3	工具の可能性もある。先端部は欠損しているが、四角 棒状			

41号住居跡 (第134図、遺構PL.31、遺物PL.48-49)

位置: Em~En-50~52

北壁方位: N-86°-E

規模・形状: 重複により、一部分しか残存していない。形状は隅丸方形形状となる可能性がある。検出部で南北4.4m×東西1.09m、面積は不明で、壁の高さは0.3mである。

カマド: 残存部東端で、灰層や袖の残痕を検出したことから、東壁に構築されたと考えられる。

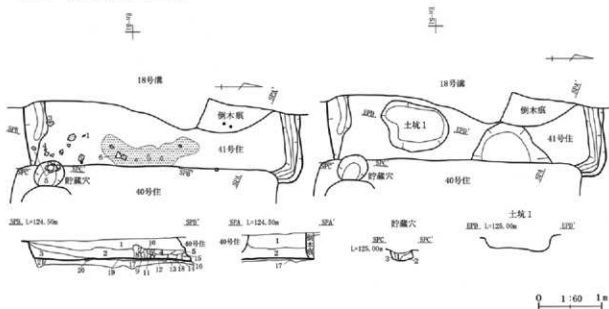
内部施設: 壁溝は、北東角と北壁下、南壁下の一部で検出した。貯蔵穴は南東角に0.5m×0.44m、深度

0.18mの規模で検出した。ピットは検出できなかった。また、床下から土坑1を検出した。

床面: 平坦で、固く締まっていた。

出土遺物: 土師器杯 (No.1)、須恵器杯 (No.3、4) は床面直上から出土した。カマドから須恵器蓋 (No.6)、貯蔵穴から須恵器埴 (No.5) が出土した。重複遺構: 東壁付近で40号住居跡と、中央より西側で18号溝跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と堀土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。その他: 出土遺物の様相より、本住居跡の時期は8世紀後葉と判断される。

第3章 塚田中原遺跡0区の調査



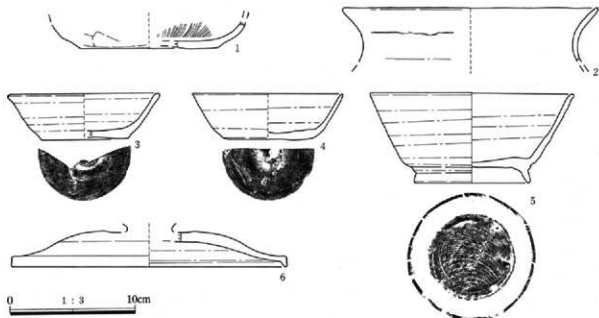
41号住居跡

1. 暗褐色土 As-C・ローム粒やや多、焼土粒少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・As-C少含
3. 暗褐色土 ロームブロック・As-C少含
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒・As-C少含
5. 暗褐色土 As-C・ローム粒・焼土粒少含
6. 暗褐色土 As-C・ローム粒少、焼土粒極少含
7. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含
8. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C・焼土粒・灰少含
9. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含

貯蔵穴

1. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
3. 暗褐色土 ロームブロック少含

10. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒やや多、灰・As-C少含、
締まり弱
11. 暗褐色土 As-C少含、粘性弱
12. 暗褐色土 As-C・焼土粒・ローム粒少含
13. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒やや多、As-C・灰少含
14. 暗褐色土 As-C・焼土粒・ローム粒・灰少含
15. 暗褐色土 ロームブロック多、灰少含
16. 暗褐色土 焼土粒やや多、ロームブロック・As-C少含
17. 暗褐色土 ロームブロック多含、床土、締まり強
18. 暗褐色土 灰・ロームブロックやや多含、締まり強
19. 暗褐色土 灰多、焼土粒少含、床土、締まり強
20. 暗褐色土 灰やや多、焼土粒少含、締まり強
21. 暗褐色土 ロームブロックやや多含



第134図 41号住居跡、出土遺物

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物

41号住居跡 遺物観察表

探図番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第134図1 PL.48	土師器 環	床直上 体~底1/5	口 — 底 (10.8) 高 (2.3)	胎 砂粒やや多 焼 微化焙 色 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、体部~ 底部へラ削り 内面：体部放射 状ミダキ	
第134図2 PL.48	土師器 甕	掘り方 口1/8	口 (20.0) 底 — 高 (4.2)	胎 砂粒やや多 焼 微化焙 色 良好 色 明赤褐色	外面：口縁部横ナデ、頸部輪 横痕、体部へラ削り 内面： 横ナデ	
第134図3 PL.49	須恵器 環	床直上 口~底1/2	口 (11.9) 底 (6.9) 高 3.6	胎 細砂粒少 焼 還元焙 色 良好 色 灰	輪轆整形（右回転） 底部： 回転へラ切り後、ナデ調整	
第134図4 PL.49	須恵器 環	床直上 口~底2/5	口 (11.8) 底 (6.8) 高 3.6	胎 細砂粒少 焼 還元焙 色 良好 色 灰	輪轆整形（右回転） 底部： 回転へラ切り	
第134図5 PL.49	須恵器 埴	貯蔵穴 口~底3/4	口 16.0 底 9.0 高 7.1	胎 砂粒やや多 焼 還元焙 色 良好 色 灰黄	輪轆整形（右回転） 底部： 回転へラ切り後、付け高台	
第134図6 PL.49	須恵器 蓋	カマド 天井~口1/6	口 (21.7) 横 — 高 (2.7)	胎 砂粒やや多 焼 還元焙 色 良好 色 灰	輪轆整形（右回転） 外面： 天井部上半回転へラ削り	

42号住居跡 (第135図、遺構PL.30・31、遺物PL.48・49)

位置：Ej~E1-51~52

南壁方位：N-77°-W

規模・形状：本住居跡は大半が調査区域外にまで広がるため、不明瞭なところが多い。規模は東西3.18m×1.25mで、壁の高さは0.43mである。残存している面積は1.89㎡で、隅丸方形を呈するであろう。カマド：検出されていない。

内部施設：壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面：残存部では、平坦でやや固く締まっていた。

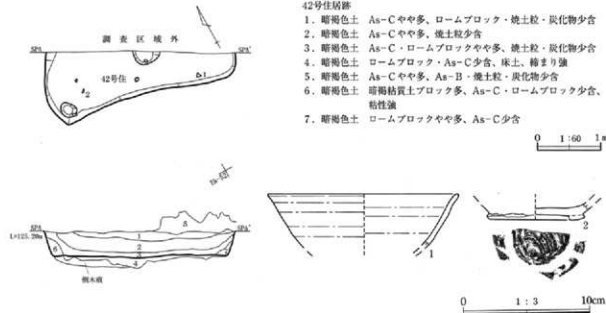
出土遺物：須恵器埴（No1）は床面直上より出土した。

重複遺構：南部の大半で38号住居跡と、南東端で43号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が新しいと判断される。

その他：出土遺物は少なく、時期判断は困難である。重複遺構や出土した須恵器埴から考えると、本住居跡の時期は10世紀前半以降と判断される。

42号住居跡

1. 暗褐色土 As-Cやや多、ロームブロック・焼土粒・炭化物少含
2. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒少含
3. 暗褐色土 As-C・ロームブロックやや多、焼土粒・炭化物少含
4. 暗褐色土 ロームブロック・As-C少含、床土、粘まり強
5. 暗褐色土 As-Cやや多、As-B・焼土粒・炭化物少含
6. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロック多、As-C・ロームブロック少含、粘性強
7. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C少含



第135図 42号住居跡、出土遺物

第3章 塚田中原遺跡0区の調査

42号住居跡 遺物観察表

種別	種類	出土位置	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第135図1	須恵器 埴	床直上	口 (15.0) 底 - 高 (4.3)	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰	轆轤整形	
PL 49		口~体1/8				
第135図2	須恵器 埴	覆土	口 - 底 (7.6) 高 (2.0)	胎 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焰 やや軟 色 浅黄	轆轤整形(右回転) 底部: 回転糸切り後、付け高台	
PL 49		底1/3				

43号住居跡 (第136図、遺構PL.30・31、遺物PL.49)

位置: Ej~Ek-51~52

東壁方位: N-0°

規模・形状: 本住居跡はほとんど残存していない。

規模などは不明で、壁の高さは0.08mである。

カマド: 検出されていない。

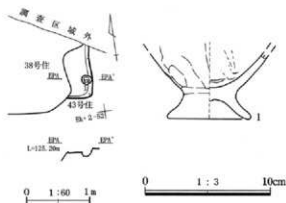
内部施設: 壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面: わずかしかかないが、やや固く締まっていた。

出土遺物: 土師器台付き甕 (No1) は床面直上から出土した。

重複遺構: 東端以外は38・42号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本住居跡が古いと判断される。

その他: わずかな遺物で、時期判断は困難であるが、出土した土師器台付き甕より、本住居跡の時期は9世紀代と判断される。



第136図 43号住居跡、出土遺物

43号住居跡 遺物観察表

種別	種類	出土位置	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第136図1	土師器 台付き甕	床直上	口 - 底 (6.6) 高 (5.3)	胎 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 還元焰 良好 色 灰	外面: 体部~底ヘラ削り、脚部横ナデ 内面: ヘラナデ、ヘラ直残る	
PL 49		体下~底1/2				

44号住居跡 (第137図、遺構PL.30)

位置: E1~Ej-52~54

北壁方位: N-82°-W

規模・形状: 本住居跡は、他の住居跡の下にあり、わずかな残痕をとどめているに過ぎない。規模や形状、面積は不明で、壁の高さは0.22m残っていた。

カマド: 検出されていない。

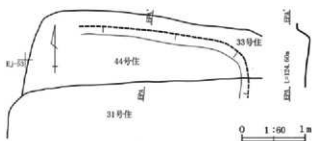
内部施設: 壁溝や貯蔵穴などは検出できなかった。

床面: 不明

出土遺物: 出土していない。

重複遺構: 本住居跡より新しい31・33号住居跡が上面にある。

その他: 遺物の出土が無く、時期は判断できない。埋土と重複関係から、9世紀前半以前の奈良・平安時代に属すると考える。



第137図 44号住居跡

(3) 竪穴状遺構

2号竪穴状遺構 (第138・139図、遺物PL.49)

位置: Ed~Ee-56~57

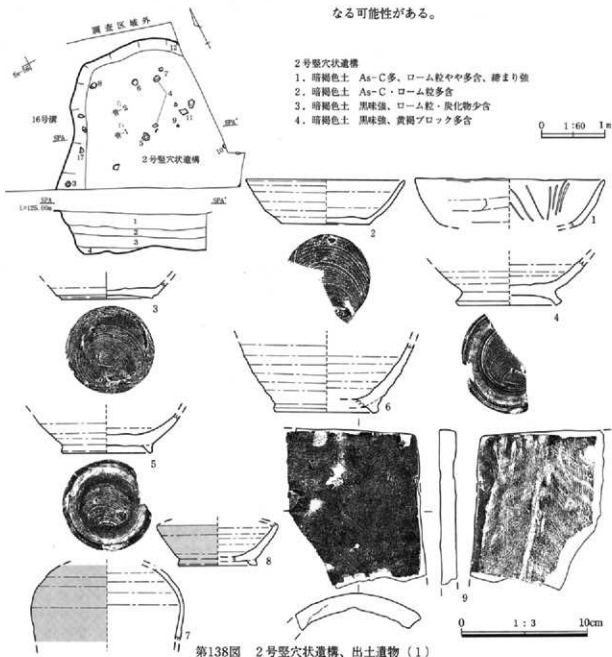
長軸方位: 不明

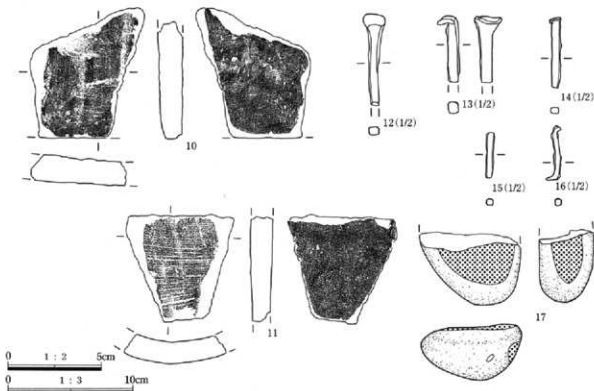
概要: 調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。検出部で東西2.84m×南北2.4mあり、形状はやや不定形に感じられるが、隅丸形状となる可能性がある。掘り込みはしっかりしており、深度0.68mを測る。遺物は、覆土中からやや多く出

土している。

重複遺構: 本遺構の西部で16号溝跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本遺構が新しいと判断される。

その他: 出土した遺物は9世紀前半に属するものが多い。しかし、覆土からの遺物ばかりであり、16号溝跡との重複関係を踏まえると、より新しい時期となる可能性がある。





第139図 2号竪穴状遺構出土遺物(2)

2号型穴状遺構 遺物観察表

検出番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
第13880 1 PL. 49	土師器 坏	覆土 口~底1/6	口 (15.0) 底 (11.0) 高 (3.7)	胎 砂粒少 白色・黒色疵物 焼 酸化焰 良好 色 明赤褐	外面：口縁部拱ナデ、体部~ 底部へフ開リ 内面：体部狭 射状ミガキ				
第13880 2 PL. 49	須恵器 坏	覆土 口~底1/2	口 12.6 底 6.8 高 3.5	胎 粗砂粒少 白色・黒色疵物 焼 還元焰 良好 色 灰	甕罐整形(右回転) 底部： 回転糸切り				
第13880 3 PL. 49	須恵器 坏	覆土 底空	口 - 底 7.1 高 (1.5)	胎 砂粒少 白色・黒色疵物 焼 還元焰 良好 色 灰	甕罐整形(右回転) 底部： 回転糸切り				
第13880 4 PL. 49	須恵器 坏	覆土 体~底1/2	口 - 底 (8.4) 高 3.7	胎 砂粒少 白色疵物 焼 還元焰 良好 色 灰	甕罐整形(右回転) 底部： 回転糸切り後、付け高台				
第13880 5 PL. 49	須恵器 坏	覆土 体~底 底 11.5 変 替1/3	口 - 底 7.2 高 (3.2)	胎 細砂粒少 白色・黒色疵物 焼 還元焰 良好 色 褐灰	甕罐整形(右回転) 底部： 回転糸切り後、付け高台				
第13880 6 PL. 49	須恵器 坏	覆土 体~底1/4	口 - 底 (8.4) 高 (5.7)	胎 φ5mm小礫 粗砂粒少 白色疵物 焼 還元焰 良好 色 灰褐	甕罐整形 底部：切り難し技 法不明、付け高台				
第13880 7 PL. 49	灰釉陶器 長頸壺	覆土 口~底 体1/5	口 - 底 - 高 (5.9)	胎 細砂粒少 白色疵物 焼 還元焰 良好 色 灰白	甕罐整形 外面：上部自然釉	井ヶ谷78号室 時期			
第13880 8 PL. 49	灰釉陶器 平瓶	覆土 体~底1/4	口 - 底 (6.2) 高 (3.4)	胎 細砂粒少 白色疵物 焼 還元焰 良好 色 灰オリーブ	甕罐整形(右回転) 外面： 全体自然釉	井ヶ谷78号室 時期			
検出番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・補痕・ 一枚作り可能性	粘土板(河 取表・裏・ 接合)	布目痕(合目 ・捺溝)・瓦 乾燥時瓦痕	甕罐使用・ 叩き技法・ 型式名称	製部 面取	備考
第13880 9 PL. 49	瓦丸	覆土 破片	胎 並 焼 密 色 浅黄	製 2枚 補 なし	表 × 裏 ○ 接 ×	合 ○ 捺 なし 乾 ×	甕 叩 型 ○ 製	3	吉井宮小幡岡遺 8世紀 後葉~9世紀前半
第13880 10 PL. 49	平瓦 小破片	覆土 小破片	胎 並 焼 並 色 灰白	製 補 あり 一 なし	表 × 裏 × 接 ×	合 × 捺 部分 乾 ×	甕 叩 型 ○ 製	-	笠懸塚・赤陶土質 8世 紀後葉

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物

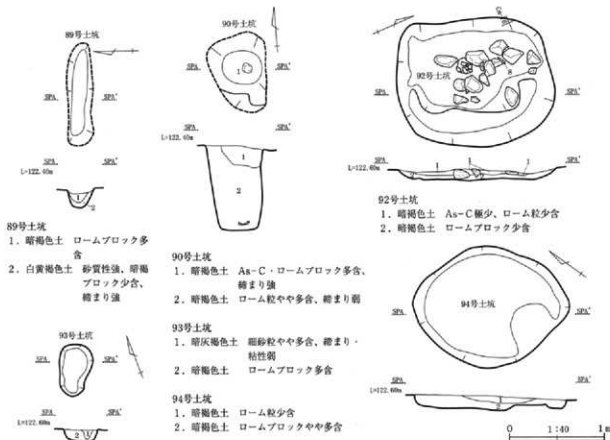
第130図11 PL.49	平瓦 小破片	覆土 胎色	並 密 焼 灰	製 桶 一	2枚 あり なし	表 裏 接 ×	× ○ ×	合 拂 乾 ×	× × ×	鑿 印 型	○ 横溝	-	笠置窯 8世紀後葉~9 世紀初
種別	種別	出土位置	計測値 (cm)				特徴						
図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号
第130図12 PL.49	鉄製品 釘	覆土 先端部欠損	(4.8)	(1.2)	0.4	4	頭部折り曲げの角釘						
第130図13 PL.49	鉄製品 釘	覆土 先端部欠損	(3.5)	0.7	0.65	3	頭部折り曲げの角釘						
第130図14 PL.49	鉄製品 釘	覆土 先端部欠損	(2.7)	0.5	0.3	2	頭部折り曲げの角釘						
第130図15 PL.49	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	(1.4)	0.4	0.3	1	断面正方形の棒状品						
第130図16 PL.49	鉄製品 棒状品	覆土 欠損あり	(2.9)	0.4	0.4	1	断面長方形の棒状品。両端はそれぞれ異なる方向に曲げられている						
種別	種別	出土位置	計測値 (cm)				特徴						
図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号	図版番号
第130図17 PL.49	石製品 磨礪石か	覆土 欠損あり	(5.7)	(8.0)	4.4	変質安山岩	平坦面は擦られている						

(4) 土坑

本遺跡では、0-5区の一部を除いて、同一面で複数の時代の遺構調査を行っているため、どの時期に属するか不明なものが多い。土坑の規模や形状、覆土は様々であった。出土遺物には、奈良・平安時代の土師器・須恵器が多いが、流れ込みのような覆

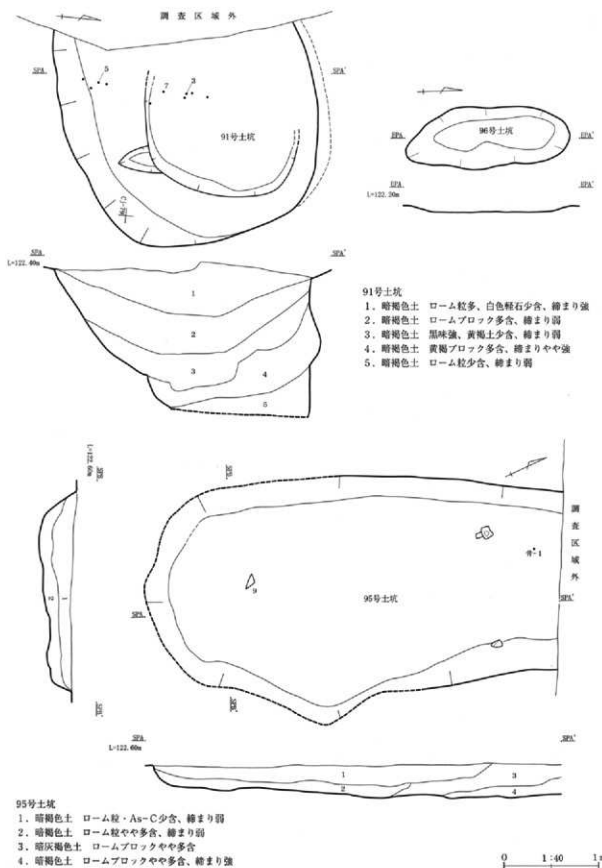
土中の遺物が多いため、一部明瞭なものを除いて、時期判断は控えている。

土坑の中で、遺物の出土が多いなど、特徴のある101・104・143・145号土坑については記述する。その他の土坑についての詳細は、計測表を参照されたい。



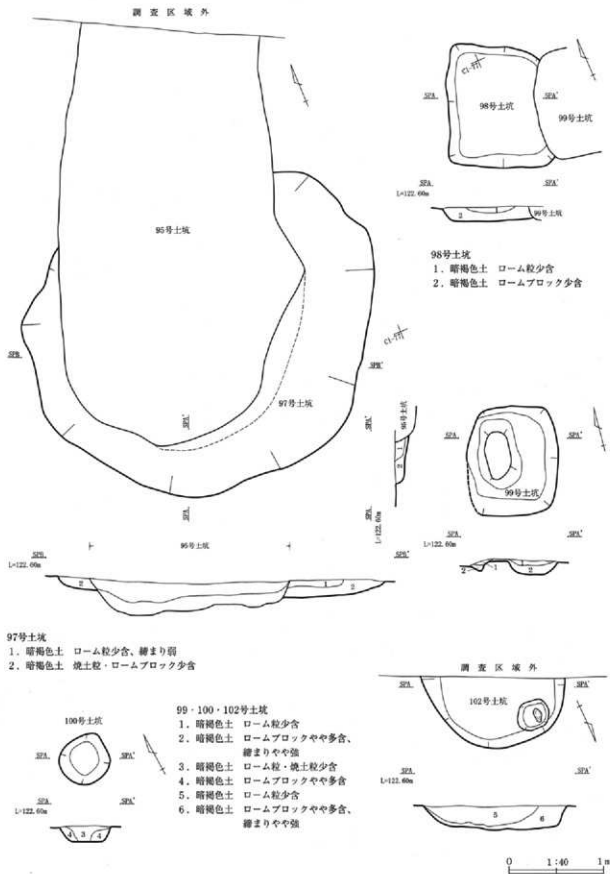
第140図 89・90・92～94号土坑

第3章 塚田中原通路0区の調査



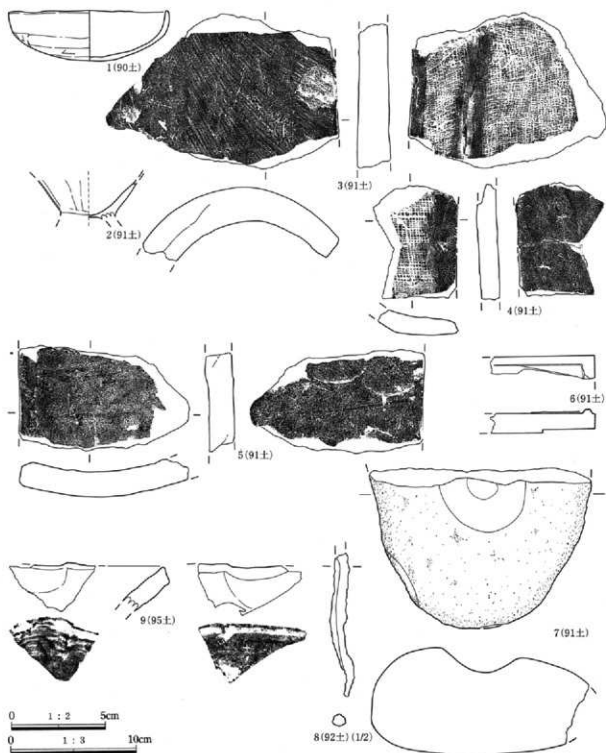
第141図 91・95・96号土坑

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物



第142図 97～100・102号土坑

第3章 塚田中原遺跡0区の調査



第143図 90~92・95号土坑出土遺物

90~95号土坑 遺物観察表

検出番号 図取番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第143図1 PL.50	土師器 坏	90土坑底面 空形	口 12.7 底 - 高 4.0	胎 砂粒やや多 焼 酸化焙 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ。体部～ 底部へラ削り 内面：ナデ	
第143図2 PL.50	土師器 台付き甕	91土坑覆土 体下1/4	口 - 底 - 高 (3.2)	胎 砂粒やや多 焼 酸化焙 良好 色 にぶい赤褐色	外面：体部へラ削り 内面： ナデ	

第143図9 PL.50	軟質陶器 片口鉢	95土坑底面 口破片	口底 高	胎 色	珍粒やや多 焼 還元 軟質 色 灰	白色・黒色磁物	内外面横ナデ						
押図番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・桶痕・ 一枚作り可能性	粘土板(洞 取表・裏・ 接合)	布目痕(合目 ・擦消)・瓦 乾燥時任せ	甕籠使用・ 叩き技法・ 型式名称	断面 面取	備考				
第143図3 PL.50	丸瓦	91土坑 覆土 破片	胎 焼 色	並 並 色	製 桶 一	2枚 なし	表 裏 接	× △ ○	合 部 分	○ 浅平行叩 型	2	吉井雲か藤岡窯 8世紀 後葉～9世紀前半	
第143図4 PL.50	平瓦	91土坑 覆土 小破片	胎 焼 色	並 並 灰白	製 桶 一	寄木 不明	表 裏 接	× × ×	合 × ×	× × ×	× × ×	2	吉井雲か藤岡窯 8世紀 後葉～9世紀前半
第143図5 PL.50	平瓦	91土坑 覆土 破片	胎 焼 色	並 並 にふい貴	製 桶 一	なし あり	表 裏 接	× × ×	合 × ×	○ ○ ○	× × ×	3	笠懸窯・井陶土質 9世 紀前半
押図番号	種類	出土位置	計測値 (cm)				特徴						
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	残存状態不良の棒状品						
第143図8 PL.50	鉄製品 棒状品	92土坑覆土 欠損あり	(7.6)	0.9	0.6	4							
押図番号	種類	出土位置	計測値 (cm)				特徴						
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ	石材	除の層部がわずかに残る						
第143図6 PL.50	石製品 硯	91土坑覆土 欠損あり	(1.9)	(8.3)	(1.8)	頁岩							
第143図7 PL.50	石製品 西石状	91土坑覆土 欠損あり	(12.7)	(17.8)	(8.4)	粗粒輝石安山岩	中央部が窪む						

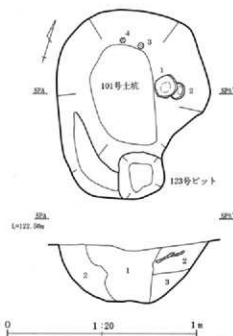
101号土坑 (第144図、遺構PL.32、遺物PL.50)

位置: Ck~Cl-77~78

概要: 本土坑の上面は、削平を受けている可能性がある。平面で確認した形状はやや不定型であるが、掘り込みはしっかりとしていた。北東部にかわらけが2点、北部底面からは銭貨が2枚出土した。

人骨は出土していないものの、遺物から考えると、墓坑の可能性が考えられる。

その他: 出土した銭貨は11世紀代の渡来銭であるが、かわらけの皿より、本土坑の時期は15世紀後半と判断する。



101号土坑

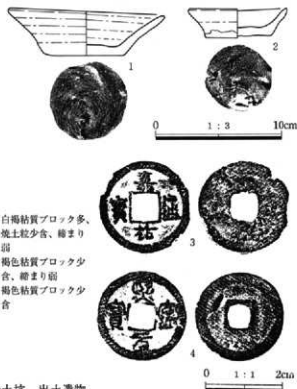
1. 暗褐色土

白褐粘質ブロック多、
焼土粒少含、締まり弱

2. 暗褐色土

褐色粘質ブロック少
含、締まり弱

3. 暗褐色土

褐色粘質ブロック少
含

第144図 101号土坑、出土遺物

第3章 塚田中原遺跡0区の調査

101号土坑 遺物観察表

検出番号	種類	出土位置	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
図版番号	器種	残存状態							
第144図1	かわらけ	覆土	口 12.4 底 6.4 高 3.5	胎 砂粒やや多 焼 酸化焰 色 浅黄橙	輪鑄型形(左回転) 底部: 回転糸切り				
PL.50	ほぼ完								
第144図2	かわらけ	覆土	口 7.6 底 5.3 高 2.3	胎 砂粒やや多 焼 酸化焰 色 浅黄橙	輪鑄型形(右回転) 底部: 回転糸切り				
PL.50	ほぼ完								
検出番号	出土位置	種類	発行年	備考	検出番号	出土位置	種類	発行年	備考
図版番号	残存状態				図版番号	残存状態			
第144図3	底面 一部欠損	嘉祐通寶 (裏)	1056		第144図4	底面 完形	熙寧元寶 (裏)	1068	
PL.50					PL.50				

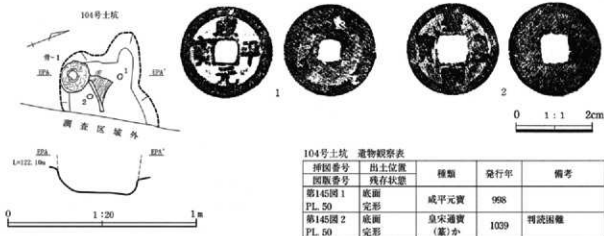
104号土坑 (第145図、遺構PL.32、遺物PL.50)

位置: Co~Cp-74~75

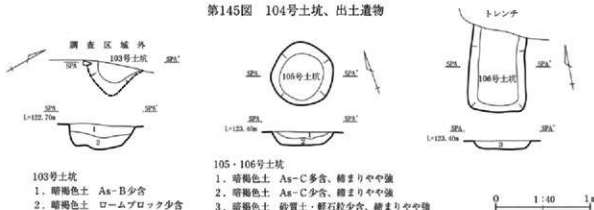
概要: 本土坑の上面は、10号溝跡により、削平を受けている。また、調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。底面に近い部分しか残存していないものと考えられる。本土坑からは人骨と銭が出土したことから、墓坑である事が判明した。しかし、陶磁器などの出土はなかった。

重複遺構: 本土坑上面には、それよりも新しい10号溝跡が存在する。

その他: 10~11世紀代の渡来銭が出土したのみであり、時期の判定は困難である。10号溝跡は、As-B混土層を覆土とする中世の溝跡と考えられる。本土坑も11世紀以降で中世に属すると考えられる。

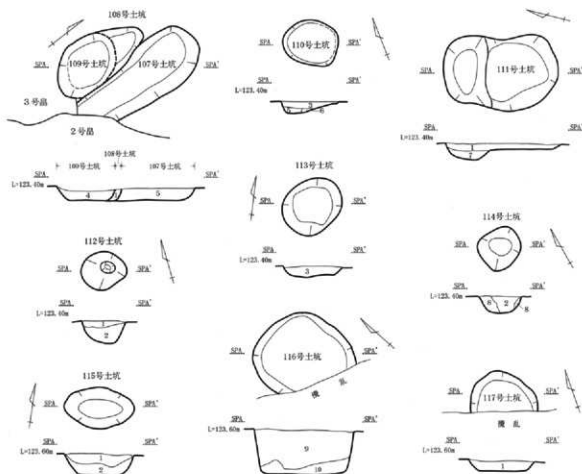


第145図 104号土坑、出土遺物



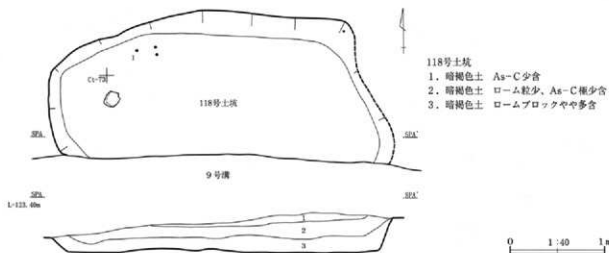
第146図 103・105・106号土坑

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物



107～117号土坑

1. 暗褐色土 As-C多含、粘まりやや強
2. 暗褐色土 As-C少含、粘まりやや強
3. 暗灰褐色土 As-C少含、粘まりやや強
4. 暗褐色土 黒味強、As-C多含、粘まりやや強
5. 暗褐色土 黒味強、As-C極少含、粘まりやや強
6. 暗褐色土 黒味強、粘まりやや強
7. 暗褐色土 As-Cやや多含、粘まりやや強
8. 暗褐色土 粘質土・As-Cやや多含、粘まりやや強
9. 暗灰褐色土 砂質土、ロームブロック・炭化物やや多含、粘まり弱・粘性なし
10. 暗褐色土 砂質土、黄褐色粘質土ブロック多含、粘まり強



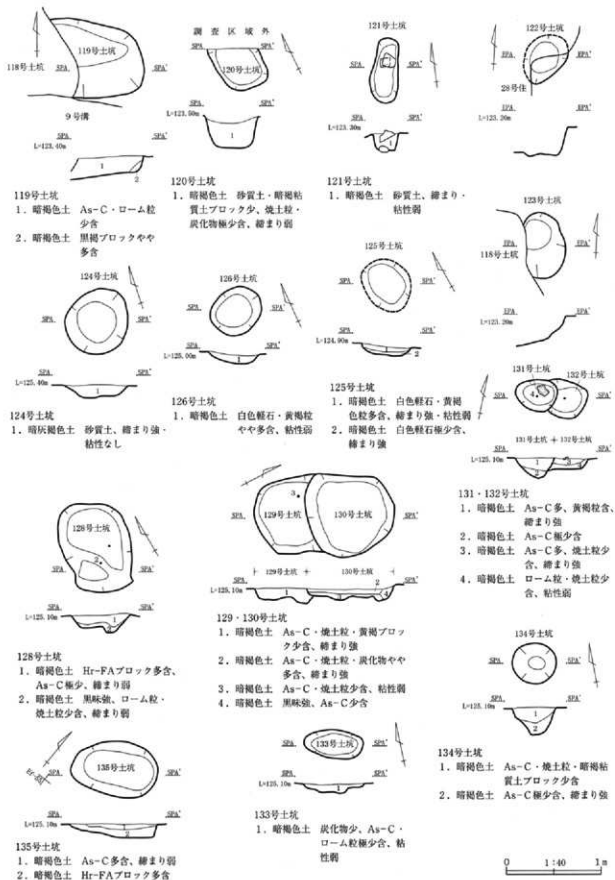
118号土坑

1. 暗褐色土 As-C少含
2. 暗褐色土 ローム粒少、As-C極少含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多含

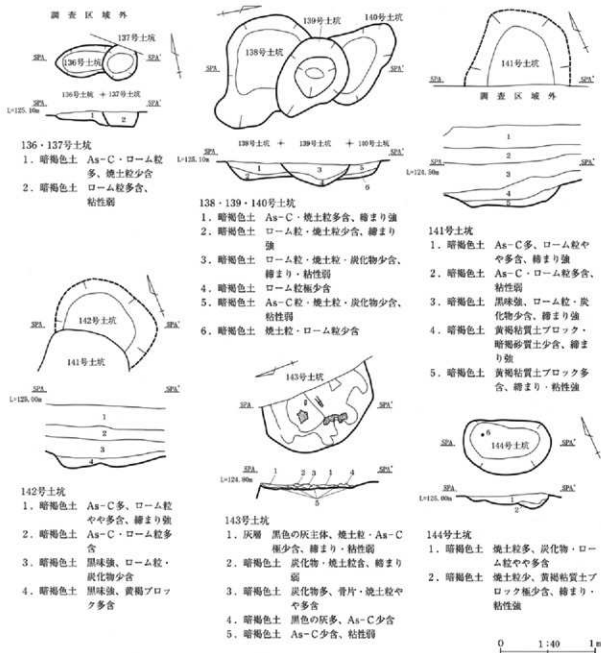
第147図 107～118号土坑

0 1:40 1m

第3章 塚田中原遺跡0区の調査



第148図 119~126・128~135号土坑



第149図 136～144号土坑

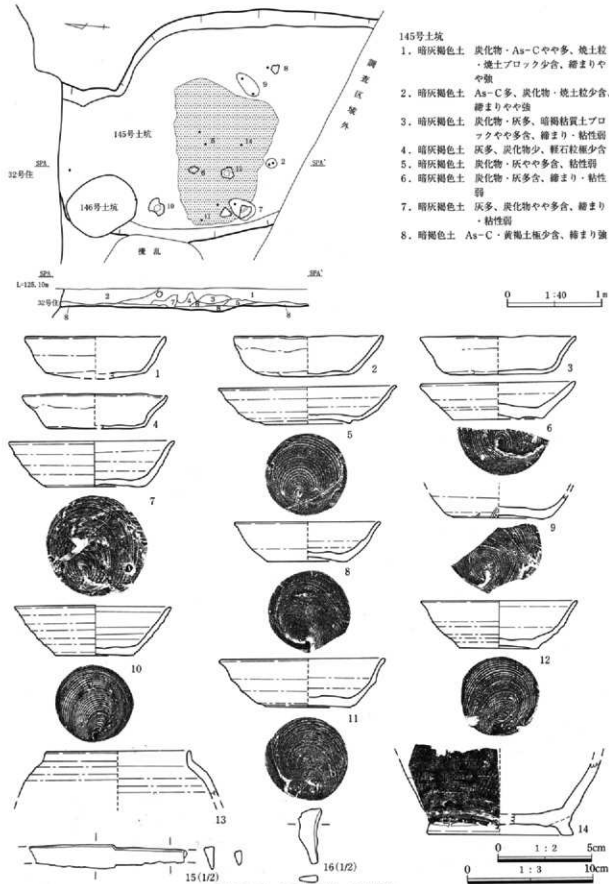
143・145号土坑 (第149-150図、遺構PL.33、遺物PL.50-51)

概要：143号土坑は、16号溝跡の上に位置している。炭化物や人の焼骨が出土していることから、火葬跡と考えられる。しかし、土器類は小破片が出土したのみで、時期は平安時代に属するとしかたない。

145号土坑は調査区域外にまで広がるため、全容は明らかにできなかった。やや崩れているが、隅丸長方形か長円形に近い形状を呈すると考えられる。

掘り込みは浅いが、中央には灰層が広がっている。遺物は土師器や須恵器の坏が多く、土師器坏の4点(No1～4)や須恵器坏の3点(No10～12)は共通性が強い。これらの遺物は意図的な廃棄が考えられる。出土した土師器・須恵器坏より、本土坑の時期は9世紀第4回半期と判断される。

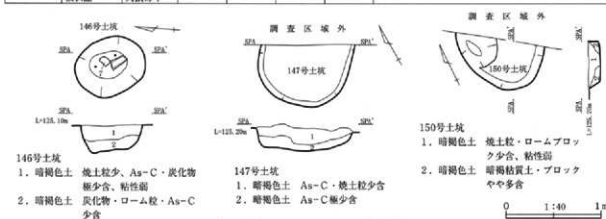
第3章 塚田中原遺跡0区の調査



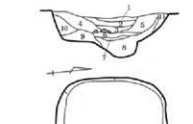
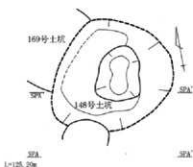
第150図 145号土坑、出土遺物

145号土坑 遺物観察表

神宮番号 図版番号	種別 砂椀	出土位置 残存状態	計測値(cm)				胎土・焼成・色調		胎形・技法等の特徴	備考
			口	底	底	高	胎	焼		
第150図1 PL_50	土師器 坏	覆土 口~底1/4	口 (112) 底 (80) 高 (33)	胎 砂粒少 焼 酸化焰 色 赤褐	胎 白色・黒色鉱物 焼 良好	胎 白色・黒色鉱物 焼 良好	胎 白色・黒色鉱物 焼 良好	外面：口縁部横ナデ、底部へツ割り 内面：横ナデ		
第150図2 PL_50	土師器 坏	覆土 口~底2/5	口 (127) 底 7.0 高 3.3	胎 砂粒やや多 焼 酸化焰 色 橙	胎 砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 良好	胎 砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 良好	胎 砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 良好	外面：口縁部横ナデ、底部へツ割り 内面：横ナデ		
第150図3 PL_50	土師器 坏	覆土 口~底1/6	口 (124) 底 (7.0) 高 3.0	胎 砂粒少 焼 酸化焰 色 明赤褐	胎 砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 良好	胎 砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 良好	胎 砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 良好	外面：口縁部横ナデ、底部へツ割り 内面：横ナデ		
第150図4 PL_50	土師器 坏	覆土 口~底1/4	口 (116) 底 7.8 高 3.0	胎 砂粒少 焼 酸化焰 色 橙	胎 砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 良好	胎 砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 良好	胎 砂粒少 黒色・白色鉱物 焼 良好	外面：口縁部横ナデ、底部へツ割り 内面：横ナデ		
第150図5 PL_50	須恵器 坏	覆土 口~底 底完 他1/4	口 (140) 底 6.8 高 2.9	胎 細砂粒やや多 焼 還元焰 色 灰白	胎 細砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 良好	胎 細砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 良好	胎 細砂粒やや多 黒色・白色鉱物 焼 良好	横罐整形 (右回転) 底部：回転未切り		
第150図6 PL_50	須恵器 坏	底面 口~底1/2	口 (122) 底 (7.1) 高 2.9	胎 粗砂粒少 焼 還元焰 色 灰	胎 粗砂粒少 白色鉱物 焼 良好	胎 粗砂粒少 白色鉱物 焼 良好	胎 粗砂粒少 白色鉱物 焼 良好	横罐整形 (右回転) 底部：回転未切り		
第150図7 PL_50	須恵器 坏	底面 口~底2/3	口 132 底 8.0 高 3.7	胎 φ4mm小礫 焼 還元焰 色 灰白	胎 φ4mm小礫 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 良好	胎 φ4mm小礫 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 良好	胎 φ4mm小礫 砂粒やや多 白色・黒色鉱物 焼 良好	横罐整形 (右回転) 底部：回転未切り		
第150図8 PL_50	須恵器 坏	覆土 口~底 底完 他1/2	口 (116) 底 6.2 高 3.2	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 灰	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 良好	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 良好	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 良好	横罐整形 (右回転) 底部：回転未切り		
第150図9 PL_50	須恵器 坏	底面 口~底1/4	口 - 底 (7.0) 高 (1.9)	胎 粗砂粒少 焼 還元焰 色 灰	胎 粗砂粒少 白色鉱物 焼 良好	胎 粗砂粒少 白色鉱物 焼 良好	胎 粗砂粒少 白色鉱物 焼 良好	横罐整形 (右回転) 底部：回転未切り 外面：底部付近に切り離しの糸痕が残る		
第150図10 PL_51	須恵器 坏	覆土 口~底 底完 他1/2	口 124 底 6.0 高 4.0	胎 φ2mm小礫 焼 酸化焰 色 灰褐	胎 φ2mm小礫 砂粒少 白色鉱物 焼 良好	胎 φ2mm小礫 砂粒少 白色鉱物 焼 良好	胎 φ2mm小礫 砂粒少 白色鉱物 焼 良好	横罐整形 (左回転) 底部：回転未切り		
第150図11 PL_51	須恵器 坏	底面 口~底 底完 他1/2	口 131 底 6.8 高 3.9	胎 φ5mm小礫 焼 還元焰 色 褐	胎 φ5mm小礫 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 良好	胎 φ5mm小礫 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 良好	胎 φ5mm小礫 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 良好	横罐整形 (右回転) 底部：回転未切り		
第150図12 PL_51	須恵器 坏	底面 口~底3/4	口 (124) 底 6.0 高 3.8	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 灰褐	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 良好	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 良好	胎 砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 良好	横罐整形 (左回転) 底部：回転未切り		
第150図13 PL_51	須恵器 短頸壺	覆土 口~底1/4	口 (116) 底 - 高 (4.0)	胎 粗砂粒少 焼 還元焰 色 灰白	胎 粗砂粒少 白色鉱物 焼 良好	胎 粗砂粒少 白色鉱物 焼 良好	胎 粗砂粒少 白色鉱物 焼 良好	横罐整形		
第150図14 PL_51	須恵器 造形小	覆土 口~底1/4	口 - 底 (116) 高 (6.0)	胎 φ4mm小礫 焼 還元焰 色 灰	胎 φ4mm小礫 粗砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 良好	胎 φ4mm小礫 粗砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 良好	胎 φ4mm小礫 粗砂粒少 白色・黒色鉱物 焼 良好	横罐整形 外面：叩き目が部分的に見られる		



第151図 146・147・150号土坑



149号土坑

1. 暗褐色土 砂質土、As-C・ローム粒少含、締まり・粘性弱
2. 暗灰褐色土 砂質土、暗褐粘質土ブロック・ローム粒少含、粘性弱

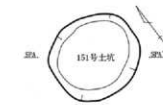


155・156号土坑

1. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
3. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロックやや多含
4. 暗褐色土 ロームブロック少含
5. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含
6. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロック・焼土粒少含
7. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロック少含

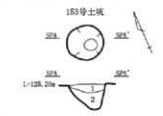
148号土坑

1. 暗褐色土 粘質土、暗褐粘質土ブロック含、締まり・粘性弱
2. 暗褐色土 黒味強、ローム粒やや多含、締まり弱
3. 暗褐色土 粘質土、黒味強、ローム粒極少含、締まりやや強
4. 暗褐色土 ローム粒多、焼土粒少含
5. 暗褐色土 ローム粒・黄褐粘質土ブロック・灰やや多含
6. 暗褐色土 粘質土、黒味強、ローム粒多、灰やや多含、締まりやや強・粘性強
7. 暗褐色土 灰多、焼土ブロック・焼土粒少含、締まり・粘性弱
8. 暗褐色土 焼土粒・ローム粒やや多含
9. 暗褐色土 焼土粒・黄褐粘質土ブロック少含、締まり強
10. 暗褐色土 粘質土、ローム粒多含、締まり・粘性強
11. 暗褐色土 焼土粒極少含、締まり・粘性強



151号土坑

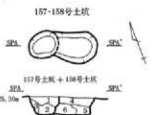
1. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒少含、粘性弱
2. 暗褐色土 炭化物少含



153号土坑

153号土坑

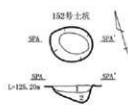
1. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含、粘性弱
2. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロック・ロームブロック少含



157-158号土坑

157・158号土坑

1. 暗褐色土 焼土粒・As-C・炭化物少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
3. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロック多、炭化物少含
4. 暗褐色土 炭化物少含
5. 暗褐色土 ロームブロック少含
6. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロックやや多、焼土粒少含



152号土坑

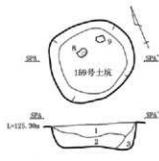
1. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含
2. 暗褐色土 炭化物・暗褐粘質土ブロック少含



154号土坑

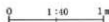
154号土坑

1. 暗褐色土 As-C・ローム粒少含、粘性弱
2. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロック・ローム粒少含



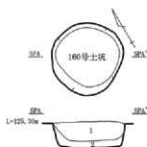
159号土坑

1. 暗褐色土 As-C・ロームブロック・焼土粒少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C・焼土粒少含
3. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロックやや多、ロームブロック少含

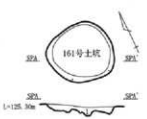


第152図 148・149・151～159号土坑

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物



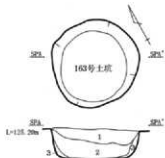
- 160号土坑
1. 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒少含、締まり・粘性弱
 2. 暗褐色土 ロームブロック少含、締まり・粘性弱



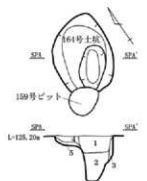
- 161号土坑
1. 暗灰褐色土 砂質土、ロームブロック少含、締まり・粘性弱



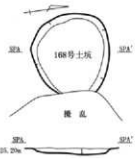
- 162号土坑
1. 暗褐色土 砂質土、灰化物少含、締まり・粘性弱
 2. 暗褐色土 砂質土、ロームブロック少含、締まり・粘性弱
 3. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含
 4. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
 5. 暗褐色土 ロームブロック少含



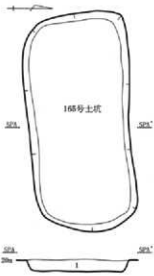
- 163号土坑
1. 暗褐色土 ロームブロックやや多、焼土粒少含
 2. 暗褐色土 ロームブロックやや多、As-C・焼土粒少含
 3. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロック・ロームブロック少含



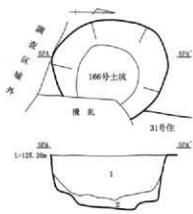
- 164号土坑
1. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含
 2. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
 3. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロックやや多含
 4. 暗褐色土 As-Cやや多、ロームブロック・焼土粒少含
 5. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロックやや多、ロームブロック少含



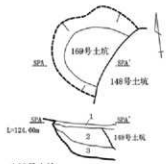
- 168号土坑
1. 暗褐色土 As-Cやや多、焼土粒・灰化物少含



- 165号土坑
1. 暗褐色土 砂質土、ローム粒少含、締まり・粘性弱

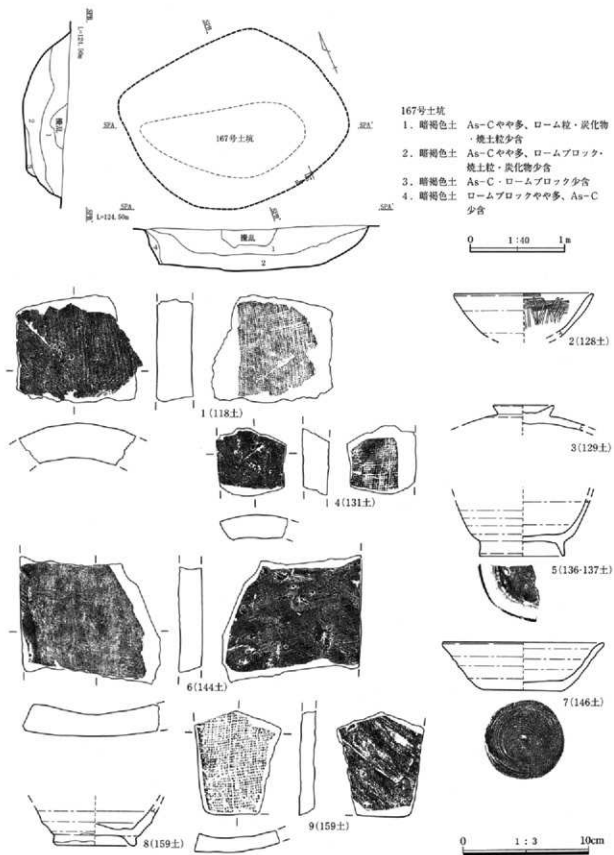


- 166号土坑
1. 暗灰褐色土 砂質土、暗褐ブロック・ロームブロック少含
 2. 暗褐色土 黄褐粘質土ブロック・暗灰褐色ブロック少含、締まり・粘性強



- 169号土坑
1. 暗褐色土 黒味強、ローム粒多、As-C少含
 2. 暗褐色土 黒味強、ロームブロック多、ローム粒・焼土粒少含、締まり・粘性強
- 0 1:40 1m

第153図 160~166・168・169号土坑



第154図 167号土坑、118～159号土坑出土遺物

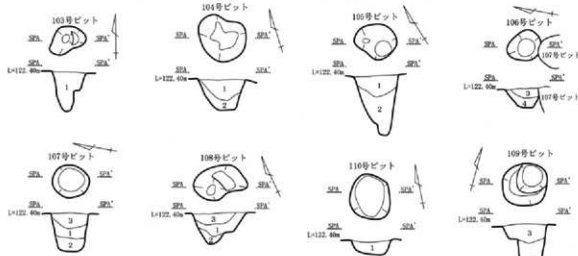
118～159号土坑 遺物観察表

採掘番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
第154図2 PL. 51	須恵器 埴	128土坑覆土 口～底1/3	口 (11.0) 底 - 高 (3.5)	胎 砂粒少 白色・赤色灰物 焼 酸化焰 良好 色 濃い橙	輪軸整形 内面：黒色 横ミ ガキの後、縦ミガキ	内黒埴			
第154図3 PL. 51	須恵器 蓋	129土坑覆土 柄～天井1/4	口 - 柄 (4.8) 高 (2.0)	胎 φ3mm小礫 砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形 (右回転)				
第154図5 PL. 51	須恵器 埴	136・137土 坑覆土 底～底1/4	口 - 底 (6.8) 高 (4.6)	胎 粗砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪軸整形 (右回転) 底部： 回転糸切り後、付け高台				
第154図7 PL. 51	須恵器 埴	146土坑覆土 口～底 底～底1/4	口 (12.8) 底 6.4 高 3.8	胎 φ6mm小礫 粗砂粒少 白色灰物 焼 酸化焰 良好 色 黒灰	輪軸整形 (右回転) 底部： 回転糸切り				
第154図8 PL. 51	須恵器 埴	159土坑覆土 底～底 底～底1/3	口 - 底 6.6 高 (3.3)	胎 φ12mm小礫 砂粒やや多 白・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰白	輪軸整形 (右回転) 底部： 回転糸切り後、付け高台				
採掘番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・橋穴・ 一枚作り可能性	粘土膜(潤 取表・裏・ 接合)	布目痕(合目・ 捺消)・瓦 乾燥時変色	輪軸使用・ 叩き技法・ 型式名称	側面 面取	備考
第154図1 PL. 51	丸瓦 小破片	118土底面	胎 硬 焼 密 色 灰	製 2枚 橋 一 一 なし	表 × 裏 × 接 △	合 × 捺 × 乾 ×	輪 〇 叩 横溝	-	吉井窯 8世紀後半～9 世紀前半
第154図4 PL. 51	丸瓦 小破片	131土覆土	胎 並 焼 密 色 灰白	製 2枚 橋 一 一 なし	表 × 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	輪 ? 叩 タテ溝	2	秋岡窯 8世紀後半～9 世紀前半?
第154図6 PL. 51	平瓦 小破片	144土底面	胎 硬 焼 並 色 褐灰	製 橋 橋 寄木 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 ×	輪 × 叩 太平行	3	笠懸窯 9世紀前半、 「□氏(イ)万」文字
第154図9 PL. 51	平瓦 小破片	159土覆土	胎 並 焼 並 色 濃い橙	製 橋 橋 一 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 捺 × 乾 なし	輪 × 叩 木目	-	赤陶土質 9世紀、薄作

(5) ビット (第155～158図、遺構PL.34～35、遺物PL.51)

本遺跡では、59基のビット状の遺構を検出した。
一部列上に列ぶ可能性も見受けられたが、掘立柱建

物や柱列と断定することはできなかった。詳細は計
測表を参照されたい。

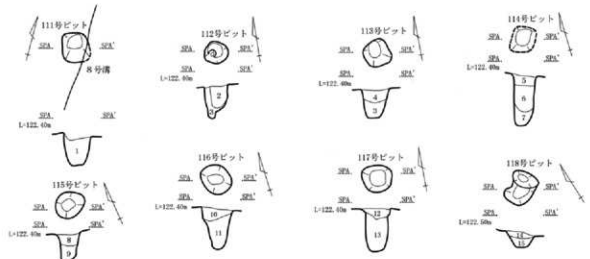


103～110号ビット

1. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、締まり・粘性弱
2. 暗褐色土 ローム粒多含、締まり弱
3. 暗褐色土 ロームブロック多含、締まりやや強
4. 白黄褐色土 砂質性强、暗褐ブロック少含、締まり・粘性弱

第155図 103～110号ビット

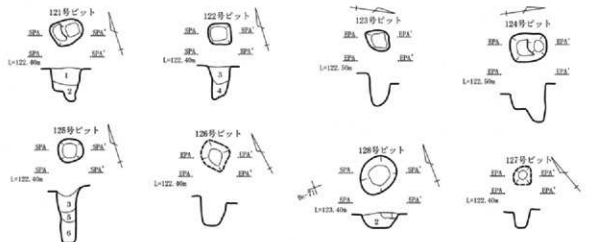
第3章 塚田中原遺跡0区の調査



111～120号ビット

1. 暗褐色土 ロームブロック少量、締まり・粘性弱
2. 黄褐色土 暗褐ブロック・ローム粒やや多含、締まり強
3. 暗褐色土 ローム粒やや多含、締まり強
4. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、焼土粒極少含、締まり強
5. 暗褐色土 ロームブロック少量、締まり弱
6. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、締まり弱
7. 暗褐色土 ロームブロック少量
8. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
9. 暗褐色土 白黄褐砂質土ブロック多含、粘性弱
10. 暗褐色土 炭化物・ローム粒少量
11. 暗褐色土 ローム粒少量
12. 暗褐色土 ロームブロック少量
13. 暗褐色土 白黄褐砂質土ブロックやや多含、粘性弱
14. 暗褐色土 ロームブロック少量、締まり弱
15. 暗褐色土 ロームブロックやや多含

16. 暗褐色土 ローム粒少量、締まり弱
17. 暗黄褐色土 ロームブロック主体、締まり強
18. 暗褐色土 ローム粒少量、粘性弱
19. 暗褐色土 ロームブロックやや多含、粘性弱
20. 暗褐色土 ロームブロック少量、粘性弱
21. 白黄褐色土 白黄褐砂質土ブロック多含、粘性弱



121・122・125号ビット

1. 暗褐色土 ロームブロック少量
2. 暗褐色土 ロームブロック多含
3. 暗褐色土 ロームブロックやや多含
4. 暗褐色土 ロームブロック少量
5. 暗褐色土 ロームブロック少量、締まり強
6. 暗黄褐色土 白黄褐砂質土ブロック多含、締まり強・粘性弱

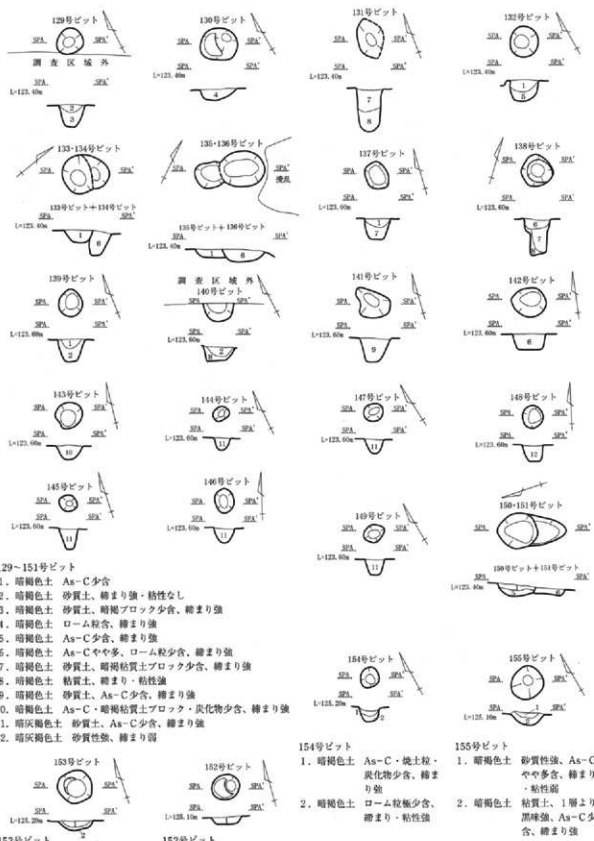
128号ビット

1. 暗褐色土 As-C多含、締まり強
2. 暗褐色土 As-Cやや多含

0 1:40 1m

第156図 111～128号ビット

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物



129～151号ビット

1. 暗褐色土 As-C少含
2. 暗褐色土 砂質土、締まり強・粘性なし
3. 暗褐色土 砂質土、明視ブロック少含、締まり強
4. 暗褐色土 ローム粒含、締まり強
5. 暗褐色土 As-C少含、締まり強
6. 暗褐色土 As-Cやや多、ローム粒少含、締まり強
7. 暗褐色土 砂質土、明視粘質土ブロック少含、締まり強
8. 暗褐色土 粘質土、締まり・粘性強
9. 暗褐色土 砂質土、As-C少含、締まり強
10. 暗褐色土 As-C・暗視粘質土ブロック・炭化物少含、締まり強
11. 暗灰褐色土 砂質土、As-C少含、締まり強
12. 暗灰褐色土 砂質性強、締まり弱

154号ビット

1. 暗褐色土 As-C・焼土粒・炭化物少含、締まり強
2. 暗褐色土 ローム粒極少含、締まり・粘性強

155号ビット

1. 暗褐色土 砂質性強、As-Cやや多含、締まり・粘性弱
2. 暗褐色土 粘質土、1層より黒味強、As-C少含、締まり強

153号ビット

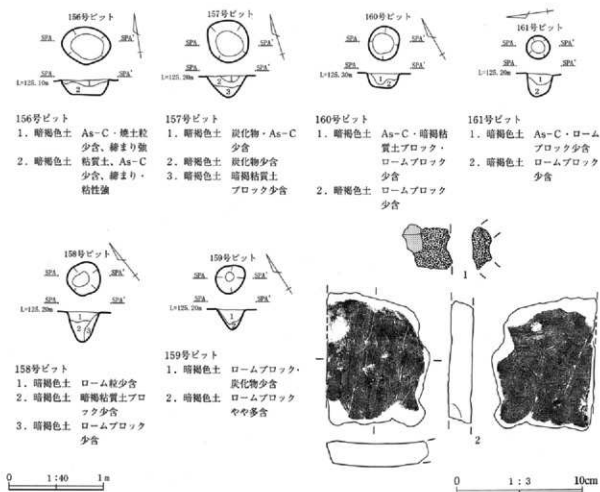
1. 暗褐色土 As-C多含、粘性弱
2. 暗褐色土 1層より黒味強、As-C少含

152号ビット

1. 暗褐色土 焼土粒少、As-C極少含、粘性弱

第157図 129～155号ビット

第3章 塚田中原遺跡0区の調査



156号ピット

1. 暗褐色土 As-C・焼土粒少含、締まり強
2. 暗褐色土 粘質土、As-C少含、締まり・粘性強

157号ピット

1. 暗褐色土 炭化物・As-C少含
2. 暗褐色土 炭化物少含
3. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロック少含

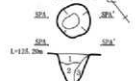
160号ピット

1. 暗褐色土 As-C・暗褐色粘質土ブロック・ロームブロック少含
2. 暗褐色土 ロームブロック少含

161号ピット

1. 暗褐色土 As-C・ロームブロック少含
2. 暗褐色土 ロームブロック少含

158号ピット



158号ピット

1. 暗褐色土 ローム粒少含
2. 暗褐色土 暗褐色粘質土ブロック少含
3. 暗褐色土 ロームブロック少含

159号ピット



159号ピット

1. 暗褐色土 ロームブロック・炭化物少含
2. 暗褐色土 ロームブロックやや多含

第158図 156～161号ピット、ピット出土遺物

ピット 遺物観察表

検出番号	種類	出土位置	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
第158図1	羽口	155ピット 覆土 先頭片	長 (3.7) 外径 - 内径 -	胎 粗砂粒やや多 焼 酸化焰 良好 色 褐	外面：ナデカ	先端部の一部は 薄化・還元化している			
PL.51									
検出番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・備具・一收作り可能性	粘土板(副取表・裏・接合)	布目痕(合目・捺消)・瓦乾進時瓦痕	轆轤使用・叩き技法・型式名称	断面図取	備考
第158図2	平瓦	124ピット 覆土 小破片	胎 並 焼 密 色 橙	製 無 備 なし 一 不明	表 × 裏 × 接 ×	合 × 捺 ○ 乾 ×	轆 ○ 叩 × 型 横撫	-	吉井宮小森岡宮 8世紀 中葉
PL.51									

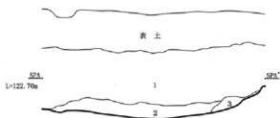
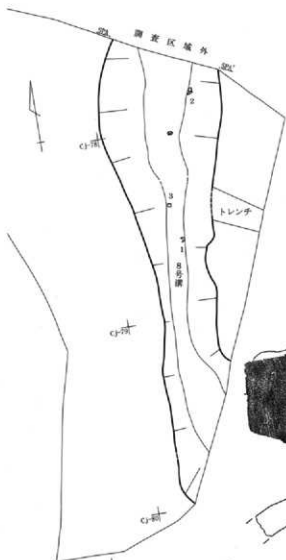
(6) 溝跡

本遺跡では、11条の溝跡を検出した。調査区の幅が狭いため、部分的にしか検出できなかったものが多い。

覆土や遺物から、9・10・11・12・15・18号溝跡は中世に属すると判断できる。しかし、これらの溝

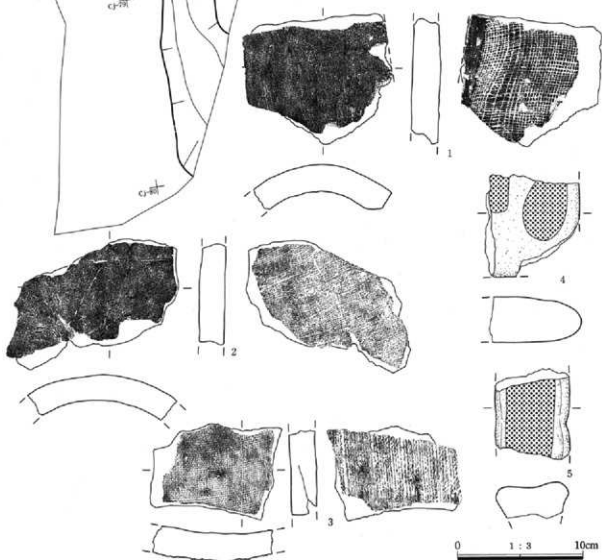
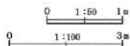
跡でも掘削は奈良・平安時代にまで遡る可能性もあろう。また、遺物や覆土から8・13・14・16号溝跡の掘削が行われた時期や埋没した時期は奈良・平安時代に属するであろう。詳細は計測表を参照されたい。

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物



8号溝跡

1. 暗灰褐色土 砂質性强、As-C・小礫少量、粘性弱
2. 暗褐色土 砂質性强、ロームブロック多量、締まり・粘性高
3. 暗褐色土 As-C・ロームブロックやや多量、締まり強



第159図 8号溝跡、出土遺物

第3章 塚田中原遺跡0区の調査

8号溝跡 遺物観察表

検出番号	種類	出土位置	計測値 (cm)		石材	特徴			
図版番号	瓦種	残存状態	長さ	幅	厚さ				
第159図1 PL.51	丸瓦	覆土 破片	胎土・焼成・色調 胎地 並 色 黄灰	製作法・編織・一枚作り可能性 製輪 不明	粘土板(湖取灰・裏・接合) 表裏 × × ×	布目痕(合目・捺消)・瓦乾燥時圧痕 合 × × × × ×	轆轤使用・叩き技法・型式名称 轆 ? 叩 型 素文	2	笠懸窯 8世紀後半～9世紀初
第159図2 PL.51	丸瓦	底面 破片	胎土・焼成・色調 胎地 硬 並 色 灰	製作法・編織・一枚作り可能性 製輪 不明	粘土板(湖取灰・裏・接合) 表裏 × × × ○	布目痕(合目・捺消)・瓦乾燥時圧痕 合 × × × × ×	轆轤使用・叩き技法・型式名称 轆 ? 叩 型 素文	-	笠懸窯 8世紀後半～9世紀初
第159図3 PL.51	平瓦	底面 破片	胎土・焼成・色調 胎地 締 密 色 黄灰	製作法・編織・一枚作り可能性 製輪 なし あり	粘土板(湖取灰・裏・接合) 表裏 × × × ×	布目痕(合目・捺消)・瓦乾燥時圧痕 合 × × × × ×	轆轤使用・叩き技法・型式名称 轆 × 叩 型 細縄絡	-	観音山窯 8世紀後半～9世紀前半
第159図4 PL.51	石製品 磨盤石か	覆土 欠損あり	(8.1)	(4.2)	(3.6)	ひん岩	平坦面は磨られている		
第159図5 PL.51	石製品 磨盤石か	覆土 欠損あり	(7.1)	(5.9)	(2.8)	滑結凝灰岩	平坦面は磨られている		

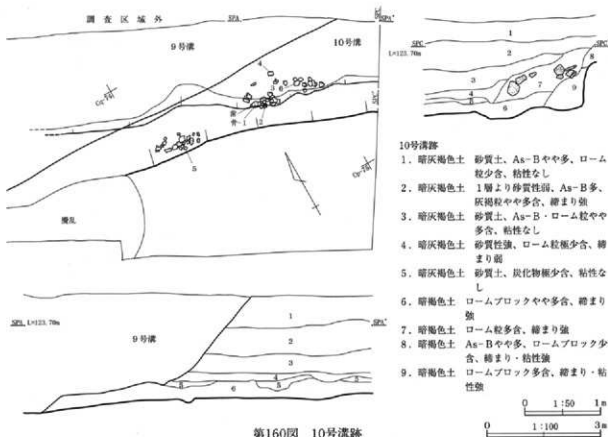
9・10号溝跡 (第160～163図、遺構PL.36、遺物PL.51・52)

位置：Co-Ct-73～75

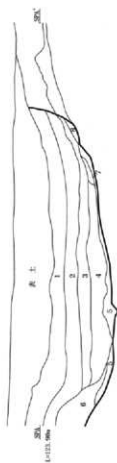
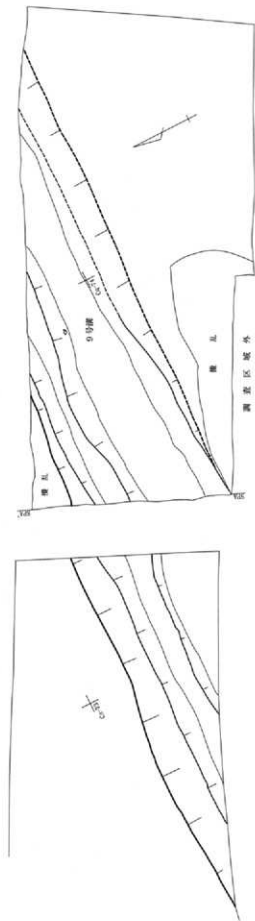
概要：東西に流れる大溝である。9・10号溝跡は、走向はやや異なるが、規模や覆土は似かよっており、何らかの関連が伺える。10号溝跡の南壁に人骨や鏝などがまぎって出土した地点がある。近くには、中世の墓坑である104号土坑があることから、遺構

としては確認できなかったが、10号溝跡に切られた墓坑が存在した可能性が考えられる。

覆土の状況から9号溝跡が、10号溝跡よりも新しいが、各溝跡とも出土した遺物は少なく、時期の特定は困難である。奈良・平安時代の土師器・須恵器の破片や瓦などが出土しているほか、軟質陶器の破



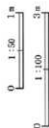
2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物



9号溝跡

1. 暗褐色土 砂質土、As-B少含、粘まり強
2. 暗褐色土 砂質土、ローム粒、炭化物少含、粘性なし
3. 暗褐色土 砂質土、As-B、炭化物少含、粘まり弱、粘性なし
4. 暗褐色土 砂質土、ローム粒、炭化物少含、粘まりやや強、粘性なし

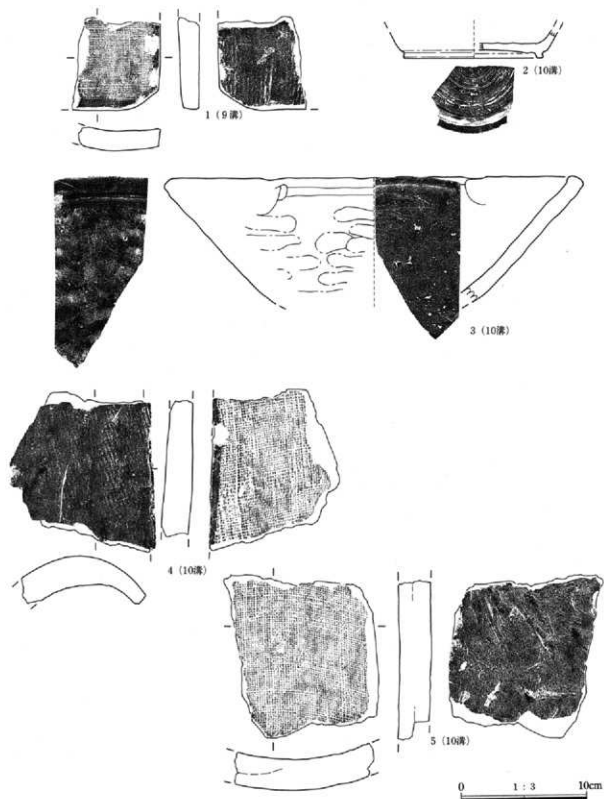
5. 暗褐色土 暗褐色ロツク、白黄褐色粘質土プロツク含、粘まり・粘性強
6. 暗褐色土 砂質土、ロームプロツクやや多含、粘まりやや強、粘性なし
7. 暗褐色土 細砂粒からなる砂質土、炭化物少含、粘性なし
8. 暗褐色土 砂質土、ローム粒少含、粘性なし



第161図 9号溝跡

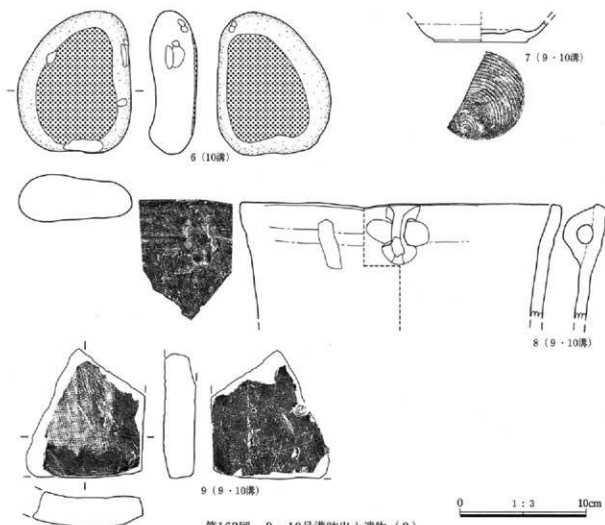
第3章 塚田中原遺跡0区の調査

片も少量出土している。また、覆土にはAs-Bが含まれている。このことから9・10号溝跡は中世に埋没したと考えられる。



第162図 9・10号溝跡出土遺物(1)

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物



第163図 9・10号溝跡出土遺物(2)

9・10号溝跡 遺物観察表

採回番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考			
第162図2 PL. 51	須恵器 塊	10溝覆土 体下~底1/6	口 底 (11.6) 高 (2.3)	胎 砂粒少 白色・黒色臍物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪轆整形(右回転) 底部: 回転ヘラ切り				
第162図3 PL. 52	軟質陶器 片口鉢	10溝覆土 口~体1/6	口 (33.0) 底 - 高 (9.9)	胎 粗砂粒やや多 白色・赤色・黒色臍物 焼 酸化焰 やや軟 色 におい艶	内外面横ナデ				
第163図7 PL. 52	須恵器 環	9・10溝覆土 体下~底1/2	口 - 底 (7.2) 高 (1.7)	胎 粗砂粒少 黒色・白色臍物 焼 還元焰 良好 色 灰	輪轆整形(右回転) 底部: 回転糸切り				
第163図8 PL. 52	軟質陶器 内耳鍋	9・0溝覆土 口~体1/6	口 (25.4) 底 - 高 (9.1)	胎 砂粒少 白色・黒色臍物 焼 酸化焰 やや軟 色 灰褐色	内外面横ナデ				
採回番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・ 色調	製作法・桶裏・ 一枚作り可能性	粘土板(溝 取表・裏・ 接合)	布目破(合目・ 漏指)・瓦 乾燥時圧痕	輪轆使用・ 叩き技法・ 型式名称	備部 面取	備考
第162図1 PL. 51	平瓦	9溝覆土 小破片	胎 並 焼 並 色 灰	製 桶 桶 雷木 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 榑 × 榑 ×	輪 × 叩 × 縄絡消	2	秋間窯 9世紀前半
第162図4 PL. 52	九瓦	10溝覆土 破片	胎 並 焼 並 色 黄灰	製 桶 桶 一 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 榑 × 榑 ×	輪 ○ 叩 × 素文	2	笠懸窯 9世紀前半~中 葉
第162図5 PL. 52	平瓦	10溝底面 破片	胎 並 焼 並 色 灰	製 桶 桶 なし 一 あり	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 榑 × 榑 ×	輪 ○ 叩 × 素文	-	笠懸窯 8世紀後半~9 世紀初

第3章 塚田中原道跡0区の調査

第163図 PL.52	平瓦 土	9・10溝覆 破片	胎 色	並 並 灰	製 植 一	あり なし	表 裏 接	× × ×	合 推 乾	× 部分 ○瓦割	機 印 型	○ 素文	2	笠懸室 8世紀中葉
種別	種類	出土位置	計測値 (cm)			石材			特徴					
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	厚さ									
第163図6 PL.52	石製品 磨幅石か	10溝覆土 ほぼ完	11.3	8.9	3.8	粒粒輝石安山岩			鋪路部に散打痕、平地面は掘られている					

11号溝跡 (第164図、遺構PL.36)

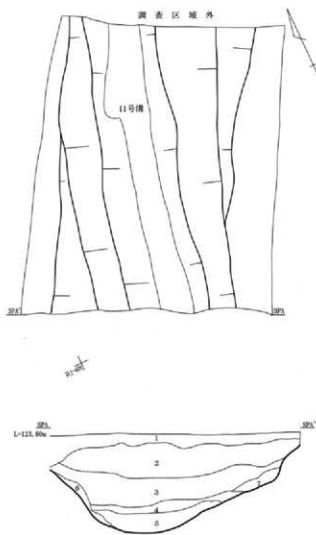
位置: Di~Dj-66~69

方位: N-50°-E

概要: 調査区が狭かったため、上端まで確認することができなかった。調査区域内では、溝幅2.5mまで確認したが、実際は3mを超える可能性が高い。深度も1.44m検出したが、上面は削平されていること

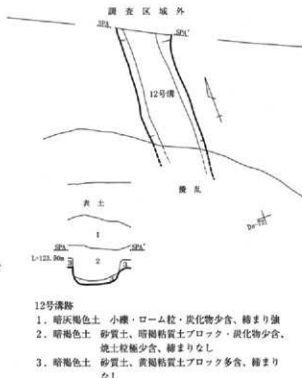
も含めて考えると、より深かったであろう。断面形態は、緩やかなU字形であった。

遺物が出土していないため、時期の特定は困難である。覆土にはAs-Bが含まれるので、埋没は中世に属すると考える。



11号溝跡

1. 暗褐色土 擾乱層
2. 暗褐色土 炭化物極少含
3. 暗褐色土 ロームブロック・細砂粒少含、粘性弱
4. 暗褐色土 細砂粒からなる砂質土、締まり弱・粘性なし
5. 暗褐色土 細砂粒やや多、ロームブロック少含
6. 暗褐色土 ローム粒・As-C少含
7. 暗褐色土 ロームブロックやや多含

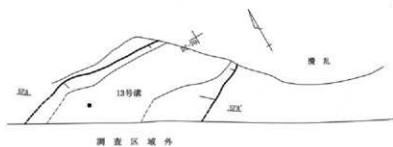


12号溝跡

1. 暗灰褐色土 小礫・ローム粒・炭化物少含、締まり強
2. 暗褐色土 砂質土、暗褐粘質土ブロック・炭化物少含、焼土粒極少含、締まりなし
3. 暗褐色土 砂質土、黄褐粘質土ブロック多含、締まりなし

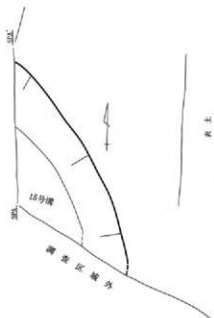
第164図 11・12号溝跡

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物



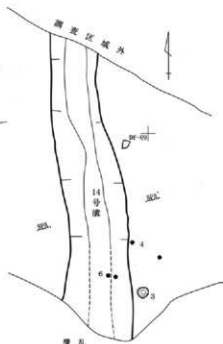
13号溝跡

1. 暗褐色土 ロームブロック多含、粘性弱
2. 暗褐色土 As-Cやや多、ローム粒少含、締まり強
3. 暗褐色土 As-C・黄褐粘質土ブロック少含、締まり強



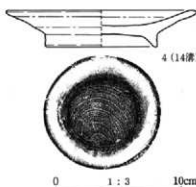
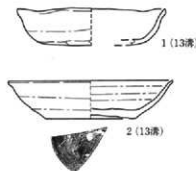
15号溝跡

1. 暗灰褐色土 砂質土、As-Bやや多含
2. 暗褐色土 As-B多含、締まり弱
3. 暗灰褐色土 As-B多含、暗褐砂質土ブロックやや多含、締まり弱・粘性なし
4. 暗褐色土 暗褐粘質土ブロックやや多、締まり強



14号溝跡

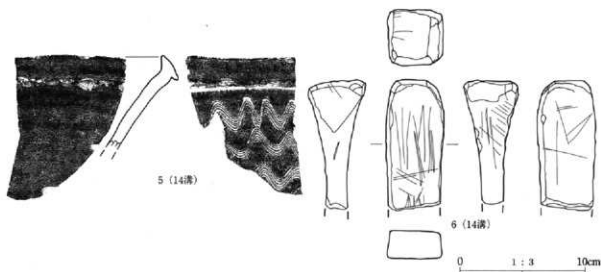
1. 暗褐色土 As-C・炭化物やや多含、粘性弱
2. 暗褐色土 As-C・炭化物・焼土粒少含
3. 暗褐色土 黄褐粘質土ブロック少含、締まり・粘性強



0 1:50 1m

0 1:3 10cm

第165図 13～15号溝跡、13・14号溝跡出土遺物(1)



第166図 13・14号溝跡出土遺物(2)

13・14号溝跡 遺物観察表

探因番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値 (cm)			胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
			長さ	幅	高さ			
第165図1 PL 52	土師器 坏	13溝覆土 口~底1/4	口	(11.8)		胎 砂粒やや多 黒色・白色配物 焼 酸化塩 良好 色 橙	外面：口縁部横ナデ、底部へラ削り 内面：横へラナデ	
			底	(8.6)				
第165図2 PL 52	須恵器 坏	13溝覆土 口~底1/8	口	(13.0)		胎 細砂粒少 白色・黒色配物 焼 還元塩 やや軟 色 灰白	轆轤整形(右回転) 底部：回転糸切り	
			底	(7.0)				
第165図3 PL 52	須恵器 坏	14溝覆土 ほぼ完成	口	12.7		胎 砂粒やや多 白色・黒色配物 焼 還元塩 良好 色 灰	轆轤整形(右回転) 底部：回転糸切り	内外面口唇部・内面一部に油塗付着
			底	7.6				
第165図4 PL 52	須恵器 罎	14溝覆土 口~底 底完 他1/8	口	(15.0)		胎 細砂粒やや多 白色・黒色配物 焼 還元塩 良好 色 灰白	轆轤整形(右回転) 底部：回転糸切り後、付け高台	内面スレ、転用痕か
			底	8.8				
第166図5 PL 52	須恵器 罎	14溝覆土 口破片	口	-		胎 砂粒やや多 白色・黒色配物 焼 還元塩 良好 色 灰	内外横ナデ 外面：波状文	
			底	-				
探因番号	種別	出土位置	計測値 (cm)			石材	特徴	
図版番号	器種	残存状態	長さ	幅	高さ			
第166図6 PL 52	石製品 砥石	14溝覆土 欠損あり	(10.2)	4.6	4.5	砥石	すべての面が使用されている。線状の切り込みが入る	

16号溝跡 (第167図、遺構PL.36、遺物PL.52・53)

位置：Ed~Ef-55~57

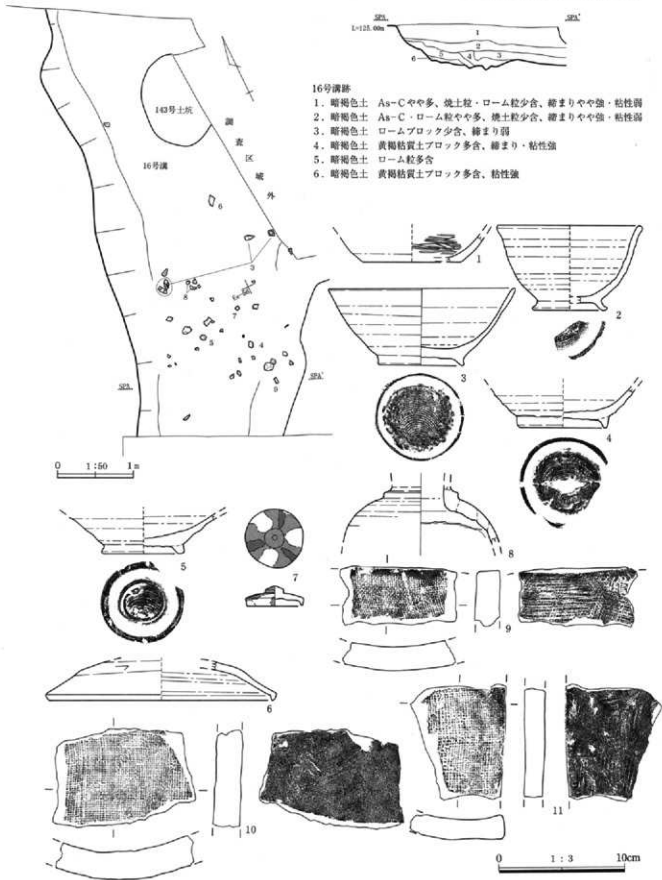
方位：N-16°-E

概要：調査区域外にまで広がるため、全容は明らかでない。また、本溝跡は、平面確認時の形状が溝状であったため、溝跡として取り扱うが、凹凸が多く、掘り込みはしっかりとしていない。本溝跡の検出部南よりでは、遺物が集まっているが、底面からではなく、覆土上層からの出土が多い。そのため、遺物は流れ込みが多いであろう。本溝跡出土の遺物で、もっとも注目されるのは、奈良三彩の蓋(No.7)であろう。やはり覆土上層からの出土であり、流れ込

みによると考えられる。

重複関係：北東部で143号土坑と、南東部で2号竪穴状遺構と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本溝跡が古いと判断される。その他：遺物の分布は、2号竪穴状遺構と何らかの関連がある可能性も否定できない。遺物の時期をみると、奈良三彩蓋(No.7)は、8世紀後半に属すると考えられるが、他の遺物は、9~10世紀代が多い。2号竪穴状遺構とはほぼ同じ時期である可能性が考えられ、10世紀代には埋没しただろう。

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物

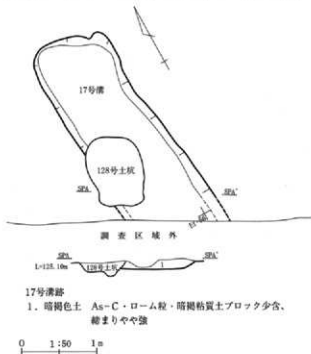


第167図 16号溝跡、出土遺物

第3章 塚田中原遺跡0区の調査

16号溝跡 遺物観察表

探函番号 図版番号	種類 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)		胎土・焼成・色調		器形・技法等の特徴		備考
			口	底	胎	焼	胎土	技法	
第167図1 PL.52	須恵器 坏	覆土 体~底1/6	口 - 底 (7.8)	胎 砂粒少 焼 褐色 色 明褐色	胎 砂粒少 焼 褐色 色 明褐色	胎 白色・赤色 焼 良好	胎 白色・赤色 焼 良好	輪轆整形 内面：黒色 横ミガキ	内黒坑
第167図2 PL.52	須恵器 坏	覆土 口~底1/2	口 (11.4) 底 (5.9)	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 灰	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 灰	胎 白色・黒色 焼 良好	胎 白色・黒色 焼 良好	輪轆整形(右回転) 底部：回転糸切り後、付け高台	
第167図3 PL.52	須恵器 坏	覆土 口~底7/8	口 14.8 底 6.8	胎 砂粒やや多 焼 還元焰 色 灰白	胎 砂粒やや多 焼 還元焰 色 灰白	胎 白色・黒色 焼 良好	胎 白色・黒色 焼 良好	輪轆整形(右回転) 底部：回転糸切り後、付け高台	
第167図4 PL.52	須恵器 坏	覆土 体~底2/3	口 - 底 7.0	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 灰白	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 灰白	胎 白色・黒色 焼 良好	胎 白色・黒色 焼 良好	輪轆整形(右回転) 底部：回転糸切り後、付け高台	
第167図5 PL.52	須恵器 坏	覆土 体~底 底 ほぼ完 底1/4	口 - 底 6.6	胎 砂粒やや多 焼 還元焰 色 灰白	胎 砂粒やや多 焼 還元焰 色 灰白	胎 白色・黒色 焼 良好	胎 白色・黒色 焼 良好	輪轆整形(右回転) 底部：回転糸切り後、付け高台	
第167図6 PL.52	須恵器 蓋	覆土 天井~口1/4	口 (17.8) 高 (3.1)	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 黄灰	胎 砂粒少 焼 還元焰 色 黄灰	胎 黒色・白色 焼 良好	胎 黒色・白色 焼 良好	輪轆整形(左回転) 外面：天井部上半回転ヘラ削り	
第167図7 PL.52	奈良三彩 蓋	覆土 口~底 口 1/2 底完	口 4.4 口 1.4 口 1.6	胎 粗砂粒少 焼 還元焰 色 白	胎 粗砂粒少 焼 還元焰 色 白	胎 赤色・黒色 焼 良好	胎 赤色・黒色 焼 良好	輪轆整形(右回転) 外面：天井部回転ヘラ削り 内外全体施釉、内面は透明釉(白)	
第167図8 PL.52	須恵器 壺	覆土 体上3/4	口 - 底 - 高 (4.6)	胎 粗砂粒少 焼 還元焰 色 橙	胎 粗砂粒少 焼 還元焰 色 橙	胎 白色 焼 良好	胎 白色 焼 良好	輪轆整形(右回転) 外面：回転ヘラ削り 内面：指面圧痕	搬入品か
探函番号 図版番号	瓦種	出土位置 残存状態	胎土・焼成・色調	製作法・焼成・一枚作り可能性	粘土板(洞取表・裏・接合)	布目瓦(合目・捺消)・瓦乾燥時圧痕	輪轆使用・叩き技法・型式名称	側面 両取	備考
第167図9 PL.52	平瓦	覆土 小破片	胎 硬 焼 密 色 黄灰	製 輪 法 一 一 なし 枚 あり	表 裏 裏 接	合 ○ 捺 × 接 ×	輪 × 叩 × 型 平行	-	観音山宮 8世紀後半~9世紀前半 文字判読困難
第167図10 PL.52	平瓦	覆土 破片	胎 並 焼 密 色 にぶい褐	製 輪 法 一 一 なし 枚 あり	表 裏 裏 接	合 × 捺 × 接 ×	輪 × 叩 × 型 本日叩	-	吉井遺小幡宮遺 9世紀前半
第167図11 PL.53	平瓦	底面 小破片	胎 硬 焼 並 色 灰	製 輪 法 一 一 なし 枚 あり	表 裏 裏 接	合 × 捺 × 接 ×	輪 × 叩 × 型 書文	1	秋岡宮 9世紀中葉



第168図 17号溝跡

18号溝跡 (第169図、遺構PL.37、遺物PL.53)

位置：Em~Eo-49~52

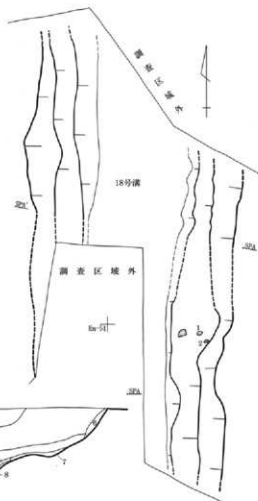
方位：N-0°

概要：本溝跡は、塚田中原遺跡0区と引間松葉遺跡Ⅲ区の境目に存在する。走向は南北を向いており、計画的に掘られたと考えられる。現在でも、地割りはすぐ側を境にして、大字塚田と大字引間に分かれるが、その区割りは、少なくともこの溝跡が掘られたときにまで遡る可能性が確認できた。

重複関係：南東部で41号住居跡と重複し、新旧関係は遺構の平面確認時と埋土断面の状況から、本溝跡が新しいと判断される。

その他：図示した遺物は8世紀代のものであるが、これは、本溝跡が掘られたときに破壊された41号住居跡の遺物の可能性がある。本溝跡の底面から出土

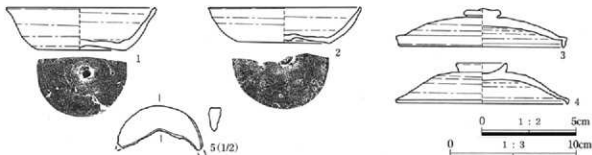
しているが、直接本溝跡に伴うとは断定できない。
したがって、どの時期から掘り込まれたのかは明らかでない。出土遺物には、土師器や須恵器の他、陶器も含まれており、覆土の様相を合わせて考えると、埋没は中世に属する可能性が高いだろう。



18号溝跡

1. 暗灰褐色土 砂質土、ローム粒・As-B極少含、粘性なし
2. 暗灰褐色土 細砂粒からなる砂質土、ローム粒極少含、粘性なし
3. 暗灰褐色土 細砂粒から成る砂質土、ローム粒少含、粘性なし
4. 暗灰褐色土 砂質土、黒濁土粒極少含、粘性なし
5. 暗灰褐色土 粘質土、暗灰褐色砂質土ブロック少含、ローム粒極少、締まり・粘性強
6. 暗灰褐色土 黒濁ブロック少含、締まりやや強
7. 暗灰褐色土 粘質土、ローム粒少含、締まりやや強
8. 暗灰褐色土 粘質土、黄濁ブロック多含、締まり・粘性強
9. 黒褐色土 暗灰褐色砂質土ブロック・As-Cやや多含、粘性弱

SEA' 1:120 90m



第169図 18号溝跡、出土遺物

18号溝跡 遺物検取表

検取番号 図版番号	種別 器種	出土位置 残存状態	計測値(cm)	胎土・焼成・色調	器形・技法等の特徴	備考
第169図1 PL. 53	須恵器 杯	底面 口~底1/2	口 11.8 底 7.0 高 3.4	胎 羅砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	轆轤整形(右回転) 底面: 回転ヘラ割り	
第169図2 PL. 53	須恵器 杯	底面 口~底1/2	口 12.1 底 7.2 高 2.8	胎 砂粒少 白色・赤色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰	轆轤整形(右回転) 底面: 回転ヘラ割り 外面: 体部~ 底面に自然物	
第169図3 PL. 53	須恵器 蓋	覆土 横-口1/3	口 (12.8) 横 2.9 高 3.0	胎 砂粒少 白色灰物 焼 還元焰 良好 色 オリーブ灰	轆轤整形(左回転) 外面: 天井部上半回転ヘラ割り	
第169図4 PL. 53	須恵器 蓋	覆土 横-口 横 完 他1/4	口 (13.6) 横 4.0 高 3.5	胎 φ2mm小粒 砂粒少 白色・黒色灰物 焼 還元焰 良好 色 灰白	轆轤整形(左回転) 外面: 天井部上半回転ヘラ割り	

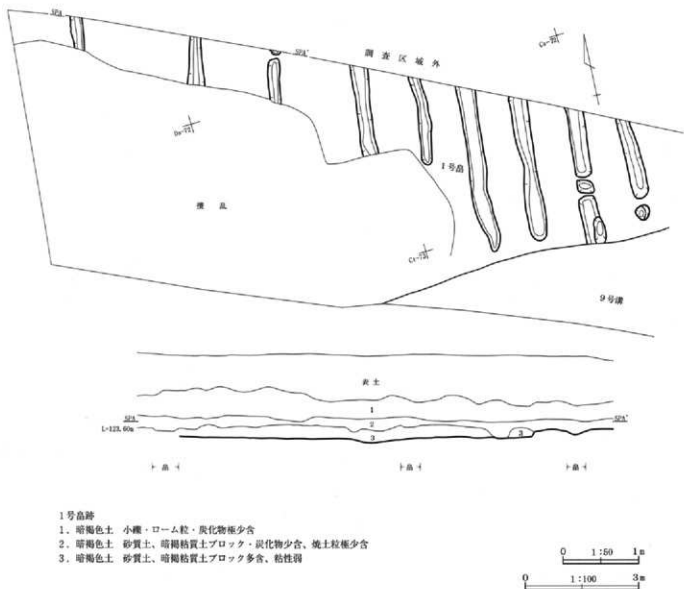
第3章 塚田中原遺跡0区の調査

検出番号	種類	出土位置	計測値 (cm)				特徴
			長さ	幅	厚さ	重量 (g)	
第160回 5	鉄製品	覆土	(4.4)	(1.3)	0.6	15	鎌の刃部か。三日月状で、上辺は厚く、下辺は薄く作られている
—	鎌か	欠損あり					

(7) 畚跡 (第170~172図、通稱PL.37)

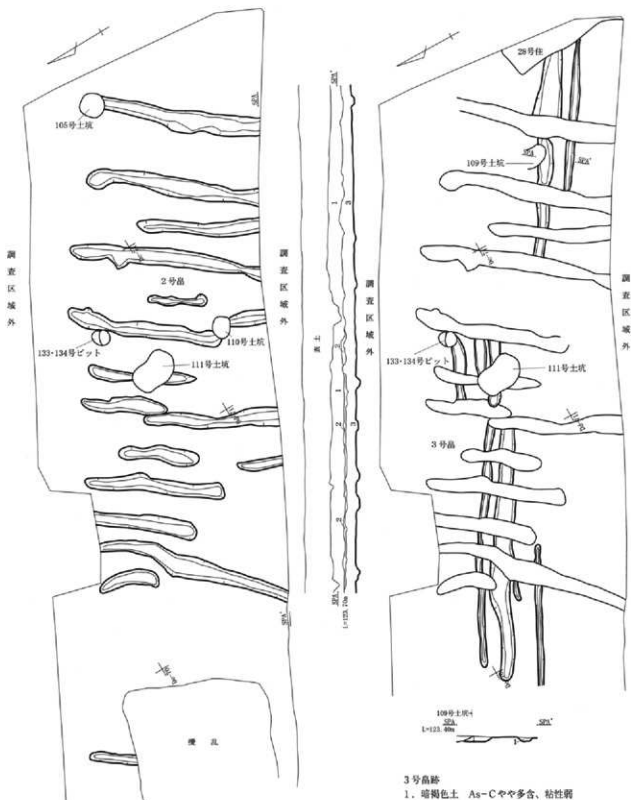
本遺跡からは、6枚の畚跡を検出した。1・4号畚跡は、覆土にAs-Bが多く含まれている。純層ではないため、中世に属するであろう。2・3号畚跡は、直交するように交わっている。平面確認時や覆土の様相より、2号畚跡が新しいと判断されるが、

時期は明らかにできなかった。As-Bは含まれず、奈良・平安時代に属する可能性もあろう。5・6号畚跡は、覆土にHr-FAが入ることから、古墳時代の畚跡である。詳細は計測表を参照されたたい。



第170図 1号畚跡

2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物

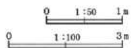


2号竈跡

1. 暗灰褐色土 砂質土、As-B少、ローム粒極少含、粘性なし
2. 暗褐色土 砂質土、As-B極少含、粘性なし
3. 暗褐色土 ロームブロック・As-C極少含

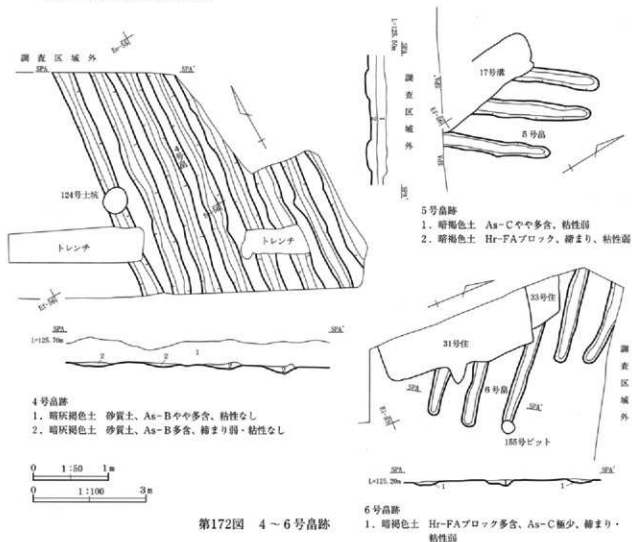
3号竈跡

1. 暗褐色土 As-Cやや多含、粘性弱



第171図 2・3号竈跡

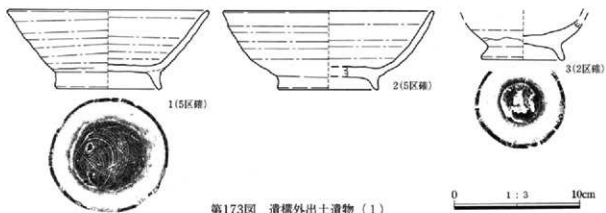
第3章 塚田中原遺跡0区の調査



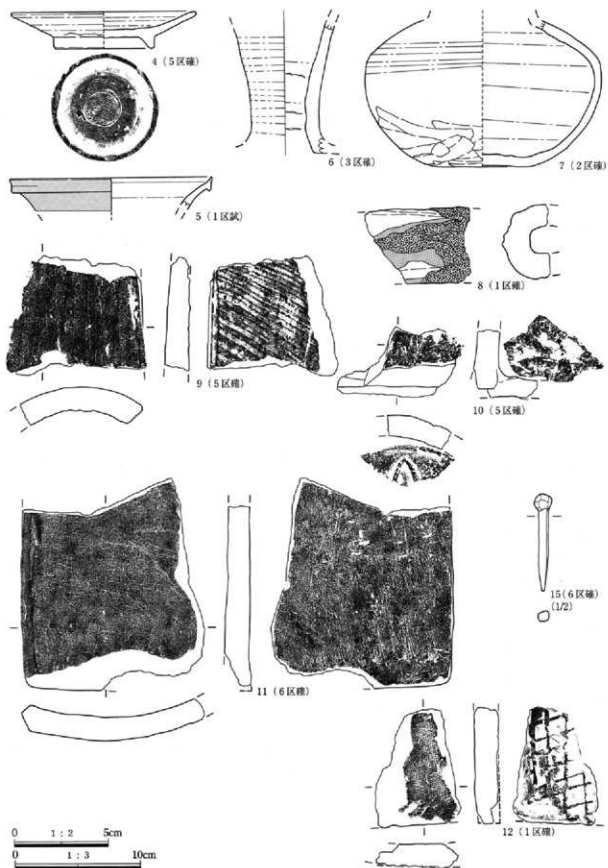
(8) 遺構外出土遺物 (第173～175図、遺物PL.53)

本遺跡の試掘や遺構確認作業中に出土し、遺構との関係を明らかにすることができなかった遺物を掲載した。土師器、須恵器をはじめとして、灰軸陶器

や瓦など、本遺跡の住居跡などでも多く出土している遺物が見られる。

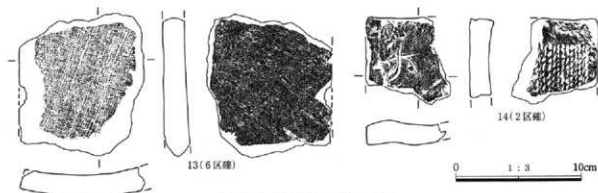


2. 塚田中原遺跡0区の遺構と遺物



第174図 遺構外出土遺物(2)

第3章 塚田中原遺跡0区の調査



第175図 遺構外出土遺物（3）

遺構外 遺物観察表

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置		計測値(cm)		胎土・焼成・色調		器形・技法等の特徴		備考					
		残存状態													
第167図1 PL. 52	須恵器 埴	5区確認面 口~底 底 完 他1/4	口 (16.0) 底 8.4 高 6.3	胎 砂粒やや多 焼 還元焰 良好 色 灰白	胎 砂粒やや多 焼 還元焰 良好 色 灰	輪轆製形 (右回転) 底部: 回転未切り後、付け高台									
第167図2 PL. 52	須恵器 埴	5区確認面 口~底1/4	口 (16.7) 底 (8.0) 高 6.2	胎 砂粒少 焼 還元焰 良好 色 灰	胎 砂粒少 焼 還元焰 良好 色 灰	輪轆製形 (右回転) 底部: 回転未切り後、付け高台									
第167図3 PL. 52	須恵器 埴	2区確認面 体~底 底 ほぼ完 他1/4	口 - 底 6.6 高 (3.3)	胎 細砂粒やや多 焼 還元焰 良好 色 橙	胎 還元焰 良好 色 橙	輪轆製形 (右回転) 底部: 回転未切り後、付け高台									
第167図4 PL. 52	須恵器 皿	5区確認面 口~底 底 ほぼ完 他1/8	口 (14.6) 底 8.0 高 2.9	胎 細砂粒少 焼 還元焰 良好 色 灰	胎 還元焰 良好 色 灰	輪轆製形 (右回転) 底部: 回転未切り後、付け高台									
第167図5 PL. 52	灰釉陶器 長頸壺	1区試掘 口 底 高	口 (16.0) 底 - 高 (2.6)	胎 細砂粒少 焼 還元焰 良好 色 灰白	胎 還元焰 良好 色 灰白	輪轆製形 内外面施釉									
第167図6 PL. 52	須恵器 長頸壺	3区確認面 口 底 高	口 - 底 - 高 (9.5)	胎 細砂粒やや多 焼 還元焰 良好 色 灰白	胎 還元焰 良好 色 灰白	輪轆製形									
第167図7 PL. 52	須恵器 壺	2区確認面 口 底 体~底2/5	口 - 底 7.0 高 (11.5)	胎 細砂粒少 焼 還元焰 良好 色 黄灰	胎 還元焰 良好 色 黄灰	輪轆製形 外面:体部下平ヘ ラ削り									
第167図8 PL. 52	羽口	1区確認面 長 外径 内径	長 (8.4) 外径 (5.8) 内径 (2.2)	胎 粗砂粒やや多 焼 還元焰 良好 色 赤色・白色・黒色	胎 還元焰 良好 色 赤色・白色・黒色	外面:ヘラナデ				外面の一部は 酸化・還元化 している					
検出番号 図版番号	瓦種	出土位置		胎土・焼成・色調		製作法・編織・一枚作り可能性		粘土板(割取表・裏・接合)		布目痕(合目・擦消)・瓦乾輪時圧痕		輪轆使用・叩き技法・型式名称		備考	
		残存状態													
第174図9 PL. 53	丸瓦	5区確認面 破片	胎 並 焼 並 色 灰	製 2枚 輪 一	表 × 裏 ○ 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	輪 ? 型 タテ削	3	笠型壺	8世紀後半~ 9世紀初					
第174図10 PL. 53	鴉瓦 瓦当	5区確認面 破片	胎 並 焼 並 色 灰黄	製 輪 一	表 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	輪 型	-	吉井壺 龍つぎ	9世紀前半	印 籠つぎ				
第174図11 PL. 53	平瓦	6区確認面 破片	胎 並 焼 並 色 灰	製 輪 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 ○ 乾 なし	輪 型 素文	2	笠型壺	8世紀前半					
第174図12 PL. 53	平瓦	1区確認面 破片	胎 軟 焼 青 色 におい黄褐	製 輪 一 あり	表 ○ 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 ×	輪 型 金格子	-	笠型壺	8世紀後半~ 9世紀初					
第175図13 PL. 53	平瓦	6区確認面 破片	胎 並 焼 並 色 におい黄褐	製 輪 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 × 乾 なし	輪 型 木目	-	笠型壺	8世紀前半~ 9世紀初					
第175図14 PL. 53	平瓦	2区確認面 破片	胎 並 焼 還元元 色 オリーブ	製 輪 一 あり	表 × 裏 × 接 ×	合 × 擦 ○ 乾 なし	輪 型 縄結	3	炊間壺	8世紀前半後半 ~9世紀初	ヘラ文字 「大」				
検出番号 図版番号	種別	出土位置		計測値 (cm)				特徴							
図版番号	器種	残存状態		長さ	幅	厚さ	重量 (g)								
第174図15 PL. 53	鉄製品 釘	5区確認面 ほぼ完		(5.1)	0.9	0.5	6	銅部折り曲げの角釘							

3. 塚田中原遺跡0区のみとめ

塚田中原遺跡0区では、塚田村東Ⅳ遺跡のように上面の残存状態が良好でなかったため、複数の面を捉えるような調査はほとんどできなかった。しかし、一部では、As-B（混土）やHr-FAが検出され、その下から遺構が見つかった箇所もある。また、遺物も含めると、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世といった、幅広い資料を得ることができた。

縄文時代は遺物が出土したのみであった。中期の土器片や石鏃、剥片石器が出土しているが、数量は少ない。

古墳時代では、Hr-FAを覆土とする畠跡が2枚検出できた。塚田村東Ⅳ遺跡の北端で検出した畠跡と同様のものである。本遺跡では、遺構や遺物でこの時期に属する資料は他になく、集落からはやや離れているようである。

奈良・平安時代は、やはり遺構や遺物が多い。住居跡は8世紀前葉から10世紀代にまでみられ、遺物も豊富であった。26号住居跡は8世紀前半に位置付けたが、8世紀前葉から中葉にいたる遺物が出土していることから、住居廃絶後の廃棄を想定した。これらの物の中には、鉄製鍬や鉄滓、漆付着土器などやや特殊な遺物が出土したことが特徴である。これらがすべてこの住居跡に伴うとは考えられないが、付近に工房的性格を持った遺構の存在が想定される。8世紀後半以降の住居跡としては、31号住居跡と重複している住居跡群や25号住居跡、41号住居跡が考えられる。しかし、33・34・35・44号住居跡は重複よりこの時期に属するとしたが、遺物が少なく詳細は不明である。建て替えが続けられた結果であろう。それらとは別に41号住居跡は、10世紀の40号住居跡に切られているが、8世紀後葉の住居跡であり、また、住居跡との重複のない25号住居跡は9世紀前葉に属する。これからのことから本遺跡では、8世紀後半から9世紀前半で同時期に建っていた住居跡は1、2軒であった。

9世紀後半以降は住居跡が多い。特徴的な住居跡

としては、耳皿が2枚出土した32号住居跡や緑釉陶器が出土した40号住居跡が挙げられる。灰釉陶器や瓦などと合わせて、国分僧寺との関連を思わせる遺物である。また、10世紀に属する32・36号住居跡では、鉄滓が出土している。鉄滓の量は少なく、鉄生産との関連があったとしてもかなり小規模であっただろう。8世紀前半の塚田村東Ⅳ遺跡における鉄生産とは違った様相である。

住居跡以外で、重要な遺構としては、16号溝跡が挙げられる。溝としては、規模や形態がはっきりとしていないが、遺物の中にある奈良三彩は重要な遺物である。奈良三彩の時期は8世紀後半と考えられ、国分僧寺で伝世したものが持ち込まれ、他の遺物と共に廃棄されたのだろう。16号溝跡の周囲には、同じように遺物の多い2号堅穴状遺構や、性格が不明であるが焼骨や炭化物がままとまっている143号土坑が存在するなど、特異な様相が感じられる。

本遺跡の中世では、土坑墓と溝跡が主な遺構である。土坑墓では、101・104号土坑と、10号溝跡が挙げられる。10号溝跡の南壁下の一部は、土坑として調査をすることができなかったが、人骨の出土などを考えると、10号溝跡に切られた土坑が存在していたものと考えられる。これら3基の土坑の中で、時期が特定できたのは、15世紀後半のかわらけが出土した101号土坑だけである。しかし、他の土坑墓も中世に属すると考えられるだろう。9～11・18号溝跡は規模も大きく、区画にも関わる存在であった可能性も考えられる。本遺跡の調査では、ごく一部しか検出できていないため、範囲や性格などは明らかにしていない。周辺の調査による検出も合わせた確認が必要である。

第3章 塚田中原遺跡0区の調査

第6表 塚田中原遺跡0区土坑計測表

番号	位置	形状	長軸方位	長さ×短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
89	Cl-Cj-78-79	隅丸長方形	N-90°	110×23	19		
90	Cl-Cj-78-79	隅丸長方形	N-12°-W	85×35	90	土師器、須恵器	
91	Cl-Ck-78-80	隅丸方形小	N-20°-W	280×(210)	155	土師器、須恵器、瓦、石製品	
92	Cl-Ch-75-77	隅丸長方形	N-20°-E	165×130	12	須恵器、陶磁器、鉄製品	
93	Cl-Cm-76-77	隅丸長方形	N-30°-W	55×25	15	須恵器	
94	Cl-Cm-76-77	楕円形	N-36°-E	116×128	18		
95	Cl-Cm-76-78	隅丸長方形小	N-23°-E	(440)×178	35	土師器、須恵器、陶器	
96	Cl-Ci-76-78	楕円形	N-4°-W	175×60	7		
97	Cl-Cm-76-78	楕円形小	N-17°-E	495×190	40		
98	Cl-Cm-76-78	方形小	N-21°-E	127×(92)	13		
99	Cl-Ci-77-78	隅丸長方形	N-15°-E	115×95	15		
100	Cl-Ci-77-78	楕円形	N-61°-W	52×48	15		
101	Cl-Ci-76-78	不定形	N-13°-E	200×100	60	かわらけ、古銭	
102	Cl-Ci-77-78	楕円形小	N-66°-W	154×(75)	26		
103	Cl-Co-76-77	不明	N-29°-E	70×23	24		
104	Cl-Cp-74-75	不定形	N-20°-E	(46)×(32)	13	人骨・古銭	
105	Db-Dc-71-72	ほぼ楕円形	-	67×65	14		
106	Db-Dc-71-72	隅丸長方形	N-14°-E	87×60	9		
107	Db-Dc-71-72	隅丸長方形	N-0°	(135)×43	13		
108	Db-Dc-71-72	楕円形小	N-9°-E	(60)×45	13		
109	Db-Dc-71-72	楕円形	N-16°-W	76×32	15		
110	De-Dd-71-72	楕円形	N-68°-W	60×48	13	須恵器	
111	De-Dd-70-71	楕円形	N-14°-E	122×74	18	須恵器	
112	Dd-De-70-71	楕円形	N-73°-W	50×40	24	土師器、須恵器	
113	Dd-De-70-71	楕円形	N-50°-E	65×55	13		
114	Dd-De-70-71	隅丸長方形	N-84°-E	45×39	19		
115	Df-Df-69-70	楕円形	N-82°-E	75×44	24	須恵器	
116	Df-Dg-69-70	楕円形小	N-4°-W	82×82	50		
117	Df-Df-69-70	楕円形小	-	71×(42)	12		
118	Cs-Cu-72-74	隅丸長方形小	N-90°	360×(152)	38	瓦	
119	Cs-Ct-74-74	隅丸長方形小	N-90°	90×80	25		
120	Ct-Da-71-72	隅丸長方形小	N-7°-W	50×45	35		
121	Cs-Ct-73-74	隅丸長方形	N-12°-E	69×22	18		
122	Da-Db-76-77	楕円形	N-33°-E	57×47	30	須恵器	
123	Cs-Ct-72-74	楕円形小	N-7°-W	70×36	31		
124	Ee-Ef-55-56	楕円形	N-42°-E	72×67	14		
125	Ee-Ef-55-56	楕円形	N-18°-W	56×47	15	須恵器	
126	Ee-Ef-55-56	楕円形	N-76°-E	56×47	12	須恵器	
128	Ef-Eg-55-56	隅丸長方形	N-14°-E	96×60	19	土師器、須恵器、瓦	
129	Ef-Eg-55-56	楕円形小	N-71°-W	80×55	15		
130	Ef-Eg-55-56	楕円形	N-27°-E	90×85	17	土師器	
131	Ef-Eg-55-56	楕円形	N-79°-E	50×35	22	土師器、須恵器	
132	Ef-Eg-55-56	楕円形小	N-79°-E	40×40	22	土師器	
133	Ef-Eg-55-56	楕円形	N-78°-W	62×30	10		
134	Ef-Eg-55-56	楕円形	N-79°-W	46×42	28	土師器	古墳時代後期小
135	Ee-Ef-54-55	楕円形	N-50°-E	93×60	14		
136	Ee-Ef-54-55	楕円形小	N-79°-W	(50)×29	10	須恵器	
137	Ee-Ef-54-55	円形小	-	37×(36)	15	須恵器	
138	Ef-Eg-54-55	不定形	N-54°-W	130×56	20	土師器	
139	Ef-Eg-54-55	楕円形	N-46°-W	93×52	25		
140	Ef-Eg-54-55	楕円形小	N-30°-W	(100)×65	21		
141	Ed-Ef-56-57	隅丸長方形小	N-64°-W	110×80	14		
142	Ed-Ee-56-57	楕円形小	N-20°-W	105×55	15		
143	Ed-Ef-55-56	楕円形小	N-0°	120×(60)	8	土師器	
144	Eh-Ei-52-53	楕円形	N-65°-W	92×57	13	土師器、須恵器、瓦	
145	Eh-Ei-53-54	不定形	N-15°-W	(330)×150	25	土師器、須恵器、鉄製品	
146	Eh-Ei-53-54	楕円形	N-30°-W	75×59	29	須恵器	
147	Eh-Ei-52-53	楕円形小	N-60°-W	100×65	25	須恵器	

3. 塚田中原遺跡0区のみとめ

番号	位置	形状	長軸方位	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	備考
148	Ei-Ej-53-54	楕円形	N-0°	130×120	50	土師器、須恵器	
149	Ei-Ej-52-53	隅丸長方形	N-88°-W	157×116	20	土師器、須恵器、灰輪陶器	
150	Ei-Ej-52-53	楕円形小	-	95×(50)	14	土師器、須恵器	
151	Ej-Ek-52-53	楕円形	N-53°-W	97×88	13	土師器、須恵器、瓦	
152	Ej-Ek-52-53	楕円形	N-73°-W	45×36	17		
153	Ek-Ei-52-53	ほぼ円形	-	38×35	35		
154	Ek-Ei-52-53	楕円形	N-18°-E	40×33	10		
155	Ek-Ei-51-52	楕円形	N-35°-W	36×33	30		
156	Ek-Ei-51-52	隅丸長方形	N-62°-E	65×54	21	須恵器、瓦	
157	Ek-Ei-51-52	楕円形	N-86°-W	32×28	19	土師器、須恵器	
158	Ek-Ei-51-52	楕円形	N-62°-W	40×30	18		
159	Ek-Ei-51-52	楕円形	N-66°-W	90×82	29	土師器、須恵器、瓦	
160	Ek-Em-52-53	楕円形	N-64°-E	75×72	25	土師器、須恵器	
161	Ek-Em-52-53	楕円形	N-64°-W	75×64	12	須恵器	
162	Ek-Em-52-53	隅丸長方形小	-	115×(105)	43	土師器、須恵器	
163	Ek-Ei-52-53	楕円形	N-54°-E	95×91	41	土師器、須恵器	
164	Ej-Ek-52-53	楕円形	N-14°-E	80×62	48	土師器、須恵器	
165	Ej-Ek-52-53	隅丸長方形	N-85°-E	230×105	12	土師器、須恵器	
166	Ej-Ek-53-54	楕円形	N-4°-W	132×102	55	土師器、須恵器	
167	E l - E n - 52-53	楕円形	N-88°-E	213×175	50		
168	E j - E k - 51-53	楕円形	N-8°-E	83×(82)	6		
169	Ei-Ej-53-54	楕円形	N-35°-W	90×70	43	土師器、須恵器	

第7表 塚田中原遺跡0区ピット計測表

番号	位置	形状	長軸方位	長径×短径 (cm)	深さ (cm)	出土遺物	備考
103	Cj-Ck-77-78	楕円形	N-65°-E	40×25	42		
104	Cj-Ck-77-78	楕円形	N-38°-W	54×39	24		
105	Cj-Ck-77-78	楕円形	N-31°-W	42×33	62		
106	Cj-Ck-77-78	楕円形	N-43°-W	38×30	20		
107	Cj-Ck-77-78	楕円形	N-18°-W	39×35	40		
108	Cj-Ck-77-78	楕円形	N-64°-W	55×30	32		
109	Cj-Ck-78-79	楕円形	N-78°-E	46×45	55		
110	Cj-Ck-78-79	楕円形	N-23°-W	52×45	15		
111	Cl-Cj-79-80	隅丸長方形	N-28°-W	32×27	36		
112	Cj-Ck-79-80	楕円形	N-80°-W	25×22	34		
113	Cj-Ck-79-80	隅丸長方形	N-15°-W	28×26	30		
114	Cl-Cm-77-78	隅丸長方形	N-31°-E	26×24	55		
115	Ck-Cl-77-78	楕円形	N-87°-E	32×27	28		
116	Ck-Cl-77-78	楕円形	N-20°-W	33×28	45	須恵器	
117	Ck-Cl-77-78	隅丸長方形	N-81°-W	32×29	45		
118	Cj-Ck-77-78	隅丸長方形	N-57°-E	36×23	18		
119	Cj-Ck-77-78	隅丸長方形	N-26°-E	28×20	40		
120	Ck-Cl-77-78	楕円形	N-22°-E	37×30	50		
121	Ck-Cl-77-78	楕円形	N-87°-E	35×27	34		
122	Ck-Cl-77-78	隅丸長方形	N-73°-W	24×24	36		
123	Ck-Cl-77-78	隅丸長方形	N-8°-W	24×21	35		
124	Ck-Cl-76-77	隅丸長方形	N-9°-E	38×29	40	瓦	
125	Ck-Cl-77-78	楕円形	N-72°-W	25×25	55		
126	Cl-Cm-76-77	隅丸長方形	N-40°-W	30×25	31		
127	Cl-Cm-76-77	隅丸長方形	N-50°-W	19×18	16		
128	Db-Dc-71-72	楕円形	N-51°-E	42×36	14		
129	Dc-Dd-69-70	楕円形	N-63°-W	30×27	23		
130	Dc-Dd-71-72	楕円形	N-60°-W	39×34	12		
131	Dc-Dd-71-72	楕円形	N-22°-E	45×29	45		
132	Dc-Dd-71-72	ほぼ円形	-	33×29	21		
133	Dc-Dd-70-71	楕円形	N-60°-W	40×30	12		
134	Dc-Dd-70-71	楕円形小	N-50°-W	32×(20)	23		
135	Dd-De-70-71	隅丸長方形小	N-55°-E	26×25	10		
136	Dd-De-70-71	楕円形	N-55°-E	48×37	13		
137	Dd-De-70-71	隅丸長方形	N-8°-W	30×22	22		

第3章 塚田中原遺跡0区の調査

番号	位置	形状	長軸方位	長径×短径 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
138	De~Df-69~70	楕円形	N-72°-E	33×33	40		
139	De~Df-69~70	楕円形	N-60°-W	26×25	22		
140	De~Df-69~70	楕円形か	-	53×20	16		
141	Df~Dg-68~70	不定形	N-50°-W	41×28	25		
142	Df~Dg-68~69	楕円形	N-82°-W	36×32	17		
143	Df~Dg-68~69	楕円形	N-34°-E	30×25	15		
144	Df~Dg-68~69	楕円形	N-65°-W	18×15	13		
145	Df~Dg-68~69	楕円形	N-72°-W	20×17	22		
146	Df~Dg-68~69	楕円形	N-12°-E	26×21	17		
147	Df~Dg-68~69	楕円形	N-57°-W	22×19	16		
148	Df~Dg-68~69	ほぼ円形	-	24×20	17		
149	Df~Dg-69~70	楕円形	N-81°-W	23×17	16		
150	Dd~De-69~70	楕円形	N-19°-E	20×20	11		
151	Dd~De-69~70	楕円形	N-19°-E	25×15	8		
152	Ef~Eg-55~56	楕円形	N-74°-W	30×27	8		
153	Ei~Ej-52~53	楕円形	N-71°-W	37×35	8		
154	Ei~Ej-52~53	楕円形	N-71°-E	22×20	15	土師器、須恵器	
155	Eh~Ei-52~53	楕円形	N-65°-E	26×21	12	土師器、須恵器	
156	Ei~Ej-52~53	楕円形	N-64°-W	52×38	16	土師器	
157	Ei~Ej-52~53	楕円形	N-7°-E	54×53	22		
158	Ek~El-52~53	ほぼ円形	N-52°-W	35×33	32	土師器	
159	Ej~Ek-52~53	楕円形	N-82°-E	32×30	20		
160	Em~En-51~52	楕円形	N-55°-E	35×33	14		
161	Ek~El-52~53	ほぼ円形	-	25×23	25		

第8表 塚田中原遺跡0区溝跡計測表

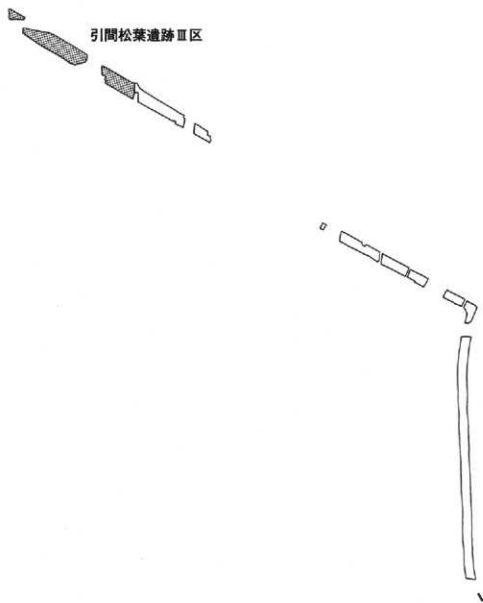
番号	位置	断面形状	方位	幅 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
8	Ci~Cj-77~80	皿状	N-0°	(L)140~320 (F)45~148	13~44	土師器、須恵器、瓦、石製品	
9	Co~Ct-73~75	逆台形状	N-87°-W	(L)320~422 (F)94~146	40~120	土師器、須恵器、瓦、陶磁器	中世
10	Co~Cs-74~75	浅い逆台形状	N-17°-E	(L)245~ (F)146~	132	土師器、須恵器、瓦、陶磁器、石製品	中世
11	Di~Dj-66~69	レンズ状	N-50°-E	(L)(218)~(250) (F)35~56	144		中世
12	Da~Db-71~72	逆台形状	N-4°-W	(L)62~67 (F)36~48	23		中世
13	De~Dg-66~71	皿状	N-80°-E	(L)110~200 (F)60~71	34	土師器、須恵器	
14	De~Dg-68~70	U字状	N-50°-W	(L)60~90 (F)13~32	48	土師器、須恵器、石製品	
15	Ef~Eg-55~56	皿状か	N-21°-W	(L)95~ (F)67~	23	土師器、須恵器	中世
16	Ed~Ef-55~57	皿状	N-16°-E	(L)299~ (F)120~	58	土師器、須恵器、瓦、灰輪陶	古代
17	Ee~Eg-55~57	皿状	N-0°	(L)100~107 (F)79~98	12	器、奈良三彩 土師器、須恵器	古代
18	Em~Eo-49~52	レンズ状	N-0°	(L)336~284 (F)118~126	110	土師器、須恵器、瓦、陶器、鉄製品	中世

第9表 塚田中原遺跡0区高跡計測表

番号	位置	長軸方位	サク溝幅 (cm)	サク間 (cm)	深度 (cm)	出土遺物	備考
1	Cr~Db-71~74	N-6°-E	20~32	120~225	3~11	土師器、須恵器	中世
2	Db~Df-69~72	N-39°-E	8~46	60~210	10~30		
3	Db~Df-70~72	N-60°-W	6~48	22~100	50~90		
4	Ed~Ef-55~57	N-60°-E	22~38	75~85	6~9	土師器、須恵器、瓦、灰輪陶器	中世
5	Ee~Ef-55~56	N-37°-W	12~28	85~110	5~6		Hr-FA直下
6	Eh~Ej-52~54	N-51°-W	12~26	70~110	5~8		Hr-FA直下

第4章 引間松葉遺跡Ⅲ区の調査





第176図 引間松葉遺跡Ⅲ区位置図

P193の写真

引間松葉遺跡Ⅲ-2区の発掘調査風景